

Y a m e
八女市内遺跡群 9

福岡県八女市酒井田所在 二反田遺跡発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第113集

2016

八女市教育委員会

八女市内遺跡群 9

福岡県八女市酒井田所在 二反田遺跡発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第113集

2016

八女市教育委員会

序

八女市の西南部において昭和50年代後半から始まった八女南部圃場整備事業を発端として、福岡県教育委員会・八女市教育委員会で実施した発掘調査では、弥生時代から中世にかけての多くの集落跡等の発掘調査が実施され、多くの埋蔵文化財が発見されています。

今回の報告は、その八女南部第2圃場整備事業に伴い、平成3年度に行われた発掘調査のうち、八女市酒井田所在の二反田遺跡発掘調査に関し、調査で得られた成果を公表することを目的としています。

二反田遺跡発掘調査では、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての集落跡や、弥生時代中期の甕棺墓等が発見されました。また、山陰地方に特徴的な形の土器も確認され、八女地方では珍しい形の土器も出土するなど、弥生時代の八女地方と他地域の交流等を考える上で重要な発見です。

その他、八女南部圃場整備事業では多くの遺跡の発掘調査がなされており、今後も順次、成果を発掘調査報告書として刊行する予定です。このたび発掘調査報告書を刊行するにあたり、本書が学術資料として活用されるのはもちろんのこと、文化財の保護や理解普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査や報告書作成にあたり、ご協力いただきました地元の方々、並びにご指導・ご助言いただきました方々に心より感謝の意を申し上げます。

併せて、今後も八女市の埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成28年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

- ・本書は八女市が国・県に補助を受けて実施した、八女市南部地区県営園場整備事業に伴う発掘調査の報告書である。本報告ではそのうち、平成2年度に実施した、八女市酒井田所在の二反田遺跡発掘調査について報告する。
- ・本報告の発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
- ・本書の遺構実測図で使用する方位は、磁北を基準とする。
- ・本書で使用した遺構実測図は、発掘調査実施時に現場担当者の指揮のもと、発掘調査参加者で作成している。なお、本報告書の一部の図面で、平成27年度本報告時に理解補助のため破線等を加筆追加した箇所がある。
- ・本書掲載の遺物実測図は、岩戸山歴史資料館において平成9～10年度に作成したものを、平成27年度の本報告作成時に再検討し、必要な個所に加筆等修正を加えて作成した。また、一部の未実測であった遺物も、遺跡の理解のために必要と思われるものについては、追加で実測図作成を行い掲載した。
- ・本書の編集は、檀が行なった。なお、二反田遺跡の現地調査時の所見は、過去に概報等の刊行もないことから、調査当時の現地説明会資料等を参考としつつ、一部不明な点について調査担当者よりご教示を得て執筆した。
- ・発掘調査時の現場図面・写真等の記録類および出土品等は八女市教育委員会で保管している。有効な活用を望む。

目 次

本文目次

1 調査の経過

A 調査に至る経緯

B 調査体制

2 調査地の位置と環境

3 調査の成果

A 発掘調査の概要 5

B 二反田遺跡の発掘調査成果 5

C 出土遺構と出土遺物 7

① 竪穴建物跡 (S B) 7

② 掘立柱建物跡 (S B) 91

③ 溝状遺構 (S D) 92

④ 甕棺墓 (K) 95

⑤ 周溝状遺構・不明遺構 (S X) 100

⑥ 土坑 (S K) 105

4 二反田遺跡発掘調査の総括

挿図目次

- 第 1 図 二反田遺跡の位置
第 2 図 二反田遺跡周辺の遺跡 1
第 3 図 二反田遺跡周辺の遺跡 2
第 4 図 二反田遺跡調査区実測図 (S=1/500)
第 5 図 二反田遺跡 SB01 実測図 (S=1/80)
第 6 図 二反田遺跡 SB01 出土遺物 (S=1/4)
第 7 図 二反田遺跡 SB02・03 実測図 (S=1/80)
第 8 図 二反田遺跡 SB02 出土遺物 1 (S=1/4)
第 9 図 二反田遺跡 SB02 出土遺物 2 (S=1/4)
第 10 図 二反田遺跡 SB02 出土遺物 3 (S=1/4)
第 11 図 二反田遺跡 SB03 実測図 (S=1/80)
第 12 図 二反田遺跡 SB04 実測図 (S=1/80)
第 13 図 二反田遺跡 SB04 出土遺物 (S=1/4)
第 14 図 二反田遺跡 SB05～07 実測図 (S=1/80)
第 15 図 二反田遺跡 SB06 出土遺物 (S=1/4)
第 16 図 二反田遺跡 SB07 出土遺物 1 (S=1/4)
第 17 図 二反田遺跡 SB05 出土遺物 (S=1/4)
第 18 図 二反田遺跡 SB07 出土遺物 2 (S=1/4)
第 19 図 二反田遺跡 SB08 実測図 (S=1/80)
第 20 図 二反田遺跡 SB08 出土遺物 1 (S=1/4)
第 21 図 二反田遺跡 SB08 出土遺物 2 (S=1/4)
第 22 図 二反田遺跡 SB09 実測図 (S=1/80)
第 23 図 二反田遺跡 SB10 実測図 (S=1/80)
第 24 図 二反田遺跡 SB10 出土遺物 (S=1/4)
第 25 図 二反田遺跡 SB11 実測図 (S=1/80)
第 26 図 二反田遺跡 SB11 出土遺物 1 (S=1/4)
第 27 図 二反田遺跡 SB11 出土遺物 2 (S=1/4)
第 28 図 二反田遺跡 SB11 出土遺物 3 (S=1/4)
第 29 図 二反田遺跡 SB12・13 実測図 (S=1/80)
第 30 図 二反田遺跡 SB12 出土遺物 (S=1/4)
第 31 図 二反田遺跡 SB13 出土遺物 1 (S=1/4)
第 32 図 二反田遺跡 SB13 出土遺物 2 (S=1/4)
第 33 図 二反田遺跡 SB13 出土遺物 3 (S=1/4)
第 34 図 二反田遺跡 SB15 実測図 (S=1/80)
第 35 図 二反田遺跡 SB15 出土遺物 (S=1/4)
第 36 図 二反田遺跡 SB18 実測図 (S=1/80)
第 37 図 二反田遺跡 SB18 出土遺物 (S=1/4)
第 38 図 二反田遺跡 SB18・21 出土遺物 (S=1/4)
第 39 図 二反田遺跡 SB21 実測図 (S=1/80)
第 40 図 二反田遺跡 SB24・25 実測図 (S=1/80)
第 41 図 二反田遺跡 SB24 出土遺物 (S=1/4)
第 42 図 二反田遺跡 SB25 出土遺物 (S=1/4)
第 43 図 二反田遺跡 SB26 実測図 (S=1/80)
第 44 図 二反田遺跡 SB26 出土遺物 (S=1/4)
第 45 図 二反田遺跡 SB29 実測図 (S=1/80)
第 46 図 二反田遺跡 SB29 出土遺物 (S=1/4)
第 47 図 二反田遺跡 SB30 実測図 (S=1/80)
第 48 図 二反田遺跡 SB28・29・30 出土遺物 (S=1/4)
第 49 図 二反田遺跡 SB31 実測図 (S=1/80)
第 50 図 二反田遺跡 SB31 出土遺物 1 (S=1/4)
第 51 図 二反田遺跡 SB31 出土遺物 2 (S=1/4)
第 52 図 二反田遺跡 SB32 実測図 (S=1/80)
第 53 図 二反田遺跡 SB31 出土遺物 1 (S=1/4)
第 54 図 二反田遺跡 SB33 実測図 (S=1/80)
第 55 図 二反田遺跡 SB33 出土遺物 1 (S=1/4)
第 56 図 二反田遺跡 SB33 出土遺物 2 (S=1/4)
第 57 図 二反田遺跡 SB34 実測図 (S=1/80)
第 58 図 二反田遺跡 SB34 出土遺物 1 (S=1/4)
第 59 図 二反田遺跡 SB34 出土遺物 2 (S=1/4)
第 60 図 二反田遺跡 SB35 出土遺物 (S=1/4)
第 61 図 二反田遺跡 SB36 実測図 (S=1/80)
第 62 図 二反田遺跡 SB36 出土遺物 (S=1/4)
第 63 図 二反田遺跡 SB37・38・39 実測図 (S=1/80)
第 64 図 二反田遺跡 SB37 出土遺物 (S=1/4)
第 65 図 二反田遺跡 SB38 出土遺物 (S=1/4)
第 66 図 二反田遺跡 SB39 出土遺物 (S=1/4)
第 67 図 二反田遺跡 SB40 実測図 (S=1/80)
第 68 図 二反田遺跡 SB40 出土遺物 (S=1/4)
第 69 図 二反田遺跡 SB41 実測図 (S=1/80)
第 70 図 二反田遺跡 SB41 出土遺物 (S=1/4)
第 71 図 二反田遺跡 SB42・43 実測図 (S=1/80)
第 72 図 二反田遺跡 SB42 出土遺物 (S=1/4)
第 73 図 二反田遺跡 SB43 出土遺物 1 (S=1/4)
第 74 図 二反田遺跡 SB43 出土遺物 2 (S=1/4)

- 第75図 二反田遺跡SB44 実測図 (S=1/80)
- 第76図 二反田遺跡SB45 実測図 (S=1/80)
- 第77図 二反田遺跡SB44 出土遺物 (S=1/4)
- 第78図 二反田遺跡SB45 出土遺物 (S=1/4)
- 第79図 二反田遺跡SB46 実測図 (S=1/80)
- 第80図 二反田遺跡SB46 出土遺物 (S=1/4)
- 第81図 二反田遺跡SB47 実測図 (S=1/80)
- 第82図 二反田遺跡SB47 出土遺物 (S=1/4)
- 第83図 二反田遺跡SB48 実測図 (S=1/80)
- 第84図 二反田遺跡SB48・49 出土遺物 (S=1/4)
- 第85図 二反田遺跡SB49 実測図 (S=1/80)
- 第86図 二反田遺跡SB50 実測図 (S=1/80)
- 第87図 二反田遺跡SB51 実測図 (S=1/80)
- 第88図 二反田遺跡SB51 出土遺物 (S=1/4)
- 第89図 二反田遺跡SB52 実測図 (S=1/80)
- 第90図 二反田遺跡SB52 出土遺物 (S=1/4)
- 第91図 二反田遺跡SB53 実測図 (S=1/80)
- 第92図 二反田遺跡SB53 出土遺物 (S=1/4)
- 第93図 二反田遺跡SB54 実測図 (S=1/80)
- 第94図 二反田遺跡SB54 出土遺物 (S=1/4)
- 第95図 二反田遺跡SB55・56 実測図 (S=1/80)
- 第96図 二反田遺跡SB55 出土遺物 (S=1/4)
- 第97図 二反田遺跡SB56 出土遺物 (S=1/4)
- 第98図 二反田遺跡SB57 実測図 (S=1/80)
- 第99図 二反田遺跡SB57 出土遺物 (S=1/4)
- 第100図 二反田遺跡SB58 実測図 (S=1/80)
- 第101図 二反田遺跡SB58 出土遺物 (S=1/4)
- 第102図 二反田遺跡SB59 実測図 (S=1/80)
- 第103図 二反田遺跡SB59 出土遺物 (S=1/4)
- 第104図 二反田遺跡SB60 実測図 (S=1/80)
- 第105図 二反田遺跡SB60 出土遺物 (S=1/4)
- 第106図 二反田遺跡SB62 実測図 (S=1/80)
- 第107図 二反田遺跡SB62 出土遺物 (S=1/4)
- 第108図 二反田遺跡SB63 実測図 (S=1/80)
- 第109図 二反田遺跡SB63 出土遺物 1 (S=1/4)
- 第110図 二反田遺跡SB63 出土遺物 2 (S=1/4)
- 第111図 二反田遺跡SB64 出土遺物 (S=1/4)
- 第112図 二反田遺跡SB65 実測図 (S=1/80)
- 第113図 二反田遺跡SB67 出土遺物 (S=1/4)
- 第114図 二反田遺跡SB69・70 実測図 (S=1/80)
- 第115図 二反田遺跡SB69 出土遺物 (S=1/4)
- 第116図 二反田遺跡SB70 出土遺物 1 (S=1/4)
- 第117図 二反田遺跡SB70 出土遺物 2 (S=1/4)
- 第118図 二反田遺跡SB71・72・73 実測図 (S=1/80)
- 第119図 二反田遺跡SB71 出土遺物 1 (S=1/4)
- 第120図 二反田遺跡SB72・73 出土遺物 (S=1/4)
- 第121図 二反田遺跡SB73 出土遺物 (S=1/4)
- 第122図 二反田遺跡SB74・75 実測図 (S=1/80)
- 第123図 二反田遺跡SB74 出土遺物 1 (S=1/4)
- 第124図 二反田遺跡SB74 出土遺物 2 (S=1/4)
- 第125図 二反田遺跡SB75 出土遺物 1 (S=1/4)
- 第126図 二反田遺跡SB75 出土遺物 2 (S=1/4)
- 第127図 二反田遺跡SB75 出土遺物 3 (S=1/4)
- 第128図 二反田遺跡SB76・77 実測図 (S=1/80)
- 第129図 二反田遺跡SB76 出土遺物 1 (S=1/4)
- 第130図 二反田遺跡SB76・77 出土遺物 2 (S=1/4)
- 第131図 二反田遺跡SB78 実測図 (S=1/80)
- 第132図 二反田遺跡SB78 出土遺物 (S=1/4)
- 第133図 二反田遺跡SB79・80 実測図 (S=1/80)
- 第134図 二反田遺跡SB80 出土遺物 (S=1/4)
- 第135図 二反田遺跡SB81 実測図 (S=1/80)
- 第136図 二反田遺跡SB81 出土遺物 (S=1/4)
- 第137図 二反田遺跡SB82・83 実測図 (S=1/80)
- 第138図 二反田遺跡SB82 出土遺物 (S=1/4)
- 第139図 二反田遺跡SB83・84 出土遺物 (S=1/4)
- 第140図 二反田遺跡SB84 実測図 (S=1/80)
- 第141図 二反田遺跡SB85 実測図 (S=1/80)
- 第142図 二反田遺跡SB85 出土遺物 (S=1/4)
- 第143図 二反田遺跡SB86 実測図 (S=1/80)
- 第144図 二反田遺跡SB86 出土遺物 (S=1/4)
- 第145図 二反田遺跡SB87・88 実測図 (S=1/80)
- 第146図 二反田遺跡SB87 出土遺物 (S=1/4)
- 第147図 二反田遺跡SB88・89・90 出土遺物 (S=1/4)
- 第148図 二反田遺跡SB90・91・92 実測図 (S=1/80)
- 第149図 二反田遺跡SB92 出土遺物 (S=1/4)
- 第150図 二反田遺跡SB93 実測図 (S=1/80)
- 第151図 二反田遺跡SB93 出土遺物 1 (S=1/4)
- 第152図 二反田遺跡SB93 出土遺物 2 (S=1/4)
- 第153図 二反田遺跡SB93 出土遺物 3 (S=1/4)
- 第154図 二反田遺跡SB94・95・96 実測図 (S=1/80)
- 第155図 二反田遺跡SB94 出土遺物 (S=1/4)
- 第156図 二反田遺跡SB95 出土遺物 (S=1/4)
- 第157図 二反田遺跡SB96 出土遺物 (S=1/4)
- 第158図 二反田遺跡SB97 実測図 (S=1/80)
- 第159図 二反田遺跡SB97 出土遺物 (S=1/4)
- 第160図 二反田遺跡SB98 実測図 (S=1/80)
- 第161図 二反田遺跡SB99 実測図 (S=1/80)
- 第162図 二反田遺跡SB98・99 出土遺物 (S=1/4)

- 第 163 図 二反田遺跡 SB100 実測図 (S=1/80)
 第 164 図 二反田遺跡 SB100 出土遺物 (S=1/4)
 第 165 図 二反田遺跡 SB101 実測図 (S=1/80)
 第 166 図 二反田遺跡 SB102・103 実測図 (S=1/80)
 第 167 図 二反田遺跡 SB100 出土遺物 (S=1/4)
 第 168 図 二反田遺跡 SB102 出土遺物 (S=1/4)
 第 169 図 二反田遺跡 SB27 実測図 (S=1/80)
 第 170 図 二反田遺跡 SB61 実測図 (S=1/80)
 第 171 図 二反田遺跡 SB105 実測図 (S=1/80)
 第 172 図 二反田遺跡 SD01 実測図 (S=1/160)
 第 173 図 二反田遺跡 SD02 実測図 (S=1/160)
 第 174 図 二反田遺跡 SD03 実測図 (S=1/80)
 第 175 図 二反田遺跡 SD06 実測図 (S=1/160)
 第 176 図 二反田遺跡 SD07 実測図 (S=1/40)
 第 177 図 二反田遺跡 SD08 実測図 (S=1/80)
 第 178 図 二反田遺跡溝状遺構 (SD) 出土遺物 (S=1/4)
 第 179 図 二反田遺跡 K 1・K 2・K 3 実測図
 (遺構: S = 1/20 土器: S = 1/8)
 第 180 図 二反田遺跡 K 4・K 5・K 6 実測図
 (遺構: S = 1/20 土器: S = 1/8)
 第 181 図 二反田遺跡 K 7・K 8 実測図
 (遺構: S = 1/20 土器: S = 1/8)
 第 182 図 二反田遺跡 SX01 実測図 (S=1/80)

- 第 183 図 二反田遺跡 SX02 実測図 (S=1/80)
 第 184 図 二反田遺跡 SX03 実測図 (S=1/80)
 第 185 図 二反田遺跡 SX12 実測図 (S=1/80)
 第 186 図 二反田遺跡周溝遺構 (SX) 出土遺物 (S=1/4)
 第 187 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 1 (S=1/4)
 第 188 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 2 (S=1/4)
 第 189 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 3 (S=1/4)
 第 190 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 4 (S=1/4)
 第 191 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 5 (S=1/4)
 第 192 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 6 (S=1/4)
 第 193 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 7 (S=1/4)
 第 194 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 8 (S=1/4)
 第 195 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 9 (S=1/4)
 第 196 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 10 (S=1/4)
 第 197 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 11 (S=1/4)
 第 198 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 12 (S=1/4)
 第 199 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 13 (S=1/4)
 第 200 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 14 (S=1/4)
 第 201 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 15 (S=1/4)
 第 202 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 16 (S=1/4)
 第 203 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 17 (S=1/4)
 第 204 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 18 (S=1/4)
 第 205 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 19 (S=1/4)

図版目次

- 図版 1 二反田遺跡 1
 図版 2 二反田遺跡 2
 図版 3 二反田遺跡 3
 図版 4 二反田遺跡 4
 図版 5 二反田遺跡 5
 図版 6 二反田遺跡 6
 図版 7 二反田遺跡 7

- 図版 8 二反田遺跡 8
 図版 9 二反田遺跡 9
 図版 10 二反田遺跡 10
 図版 11 二反田遺跡 11
 図版 12 二反田遺跡 12
 図版 13 二反田遺跡 13
 図版 14 二反田遺跡 14

表目次

第 1 表 二反田遺跡出土土器観察表

第 2 表 二反田遺跡出土石器観察表

1 調査の経過

A 調査に至る経緯

昭和 57 年度を初年度として八女南部地区では農地約 209ha を対象に、毎年 20ha 程度の圃場整備事業が実施された（八女南部地区県営圃場整備事業）。平成元年度には国武・緒玉地区が事業地となり、事業地内の一部で埋蔵文化財の包蔵が推測された。これを受けて、八女市教育委員会と八女南部土地改良区で協議を行い、八女市教育委員会による事前調査により、遺跡の範囲は広大に及ぶことが判明した。

そこで、圃場整備により削平を免れる箇所については遺跡保護の観点から現状保存とし、圃場整備により削平を受ける箇所に関しては、遺跡の記録保存を目的に発掘調査が実施された。

なお、発掘調査は国庫補助事業として実施されている。

B 調査体制

【平成 2 年度】（現地調査時）

調査主体 八女市教育委員会

教 育 長	坂田 不二夫
社会教育課長	小野 勝輝
同 課長補佐	大月 重信
同 社会教育係長	下川 文比古
同 係員	梅野 満
同 係員	井手 勇一
同 係員	平嶋 芳子
同 係員	赤崎 敏男（調査担当）
同 嘱託	鹿田 昌宏

【平成 27 年度】（本報告刊行時）

調査主体 八女市教育委員会

教 育 長	西島 民生
教育 部長	室園 哲也
文化 課長	井上 秀樹
同 課長補佐	月足 稔
同 参事補佐	北島 一雄
同 歴史文化交流館係長	大塚 恵治 （別冊報告担当）
同 文化財保護係長	中川 寿賀子 （別冊報告担当）
同 係員	永田 寧 （別冊報告担当）
同 係員	檀 佳克 （本報告担当）
同 係員	渡部 真弓



第 1 図 二反田遺跡の位置

2 調査地の位置と環境 (第1・2・3図)

八女市は福岡県南部に位置し、平成18年に上陽町、平成22年度に黒木町・立花町・星野村・矢部村と合併し、福岡県下2位の面積を有し、南を熊本県、東を大分県と接する自治体となった。矢部川水系(星野川・矢部川ほか)に位置し、基幹産業は農業である。東の山間部では林業や茶の栽培、西側の平野部では稲作や果物・電照菊等が盛んに行われている。

本書で報告する二反田遺跡は、旧八女市の西南部、三河小学地区に位置しており、八女市北側端の八女丘陵から旧八女市南端の矢部川に向かって広がる平野部に位置している。平成27年度現在の状況で場所を示すと、酒井田集落と緒玉集落の間に立地し、深田遺跡公園および酒井田団地の南側の水田が調査地である。調査地周辺の現状と圃場整備前の調査地周辺の地形について、遺跡周辺図と本圃場整備事業により調査がなされた調査地を示す(第2図)。

以下に、周辺遺跡を含めた調査地周辺の状況を述べる。

八女南部補助整備事業地内では、当該地の北西2kmの地点に存在する大坪遺跡で、集石遺構と共に押型土器が大量に出土しており、縄文時代の初期から人々が生活をしてきた痕跡がみられる。

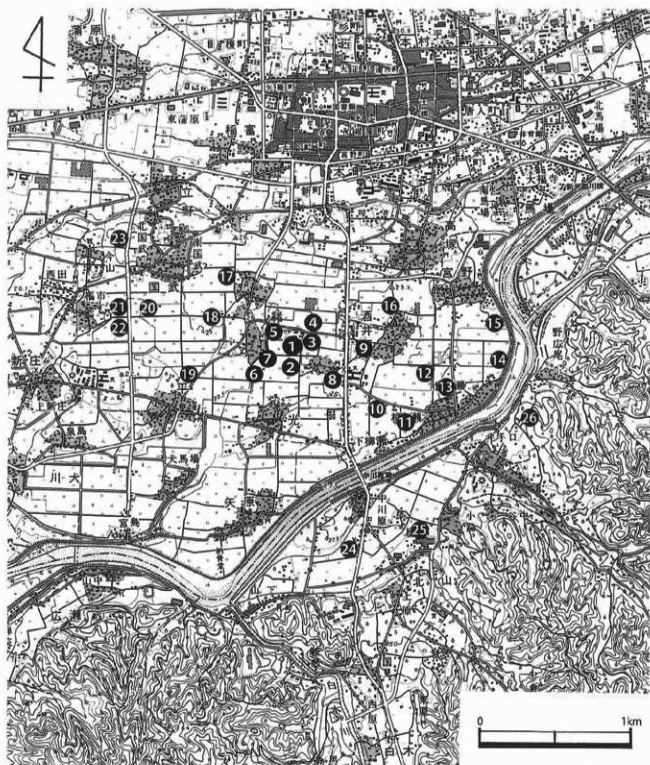
弥生時代前期では、二反田遺跡の南西約300mで調査された宿町遺跡(『八女市内遺跡群7』所収)で、弥生時代前期後半の集落跡が発見されており、今回報告する二反田遺跡に先行する23軒の竪穴建物跡をはじめとした集落跡が発見されている。その他、縄文時代後晩期では、当該地の南西約700mの地点に所在するアモメ遺跡で縄文時代集落が存在していることが判明している。

弥生時代中期では、本報告の二反田遺跡で後述するように弥生時代中期後半を中心とした集落域および墓地が発見されている。二反田遺跡のすぐ南側が宮ノ前遺跡調査地であり、二反田遺跡と同一の集落と考えられる(宮ノ前遺跡は来年度報告予定)。

二反田遺跡の北側約50mには京田遺跡・深田遺跡が所在し、同一微高地上に展開する集落跡と考えられる。京田遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期および、古代の集落跡が発見されている。今回報告する二反田遺跡では弥生時代中期を中心に弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物が多く発見されている。このことから、大きく見れば集落の中心域が弥生時代中期から後期にかけて北側に移動する状況とみとれる。また、二反田遺跡の北西に隣接して野田遺跡があり、弥生時代後期の甕棺墓が多く発見されているほか、鉛鋅の出土も知られている。また、矢部川に近い当該地の西側約2kmに所在する茶ノ木ノ本遺跡では甕棺墓より、方格規矩鏡・鉄戈・細型銅剣・ガラス玉等が出土している等、あまり甕棺墓から副葬品が出土することが少ない八女市域においても有数の出土品が知られており、弥生時代でも他地域と有力な地域のひとつである。以上のように、当該地周辺は弥生時代～古墳時代前期にかけて、八女市内でも有数の大規模集落が形成されている地域のひとつである。

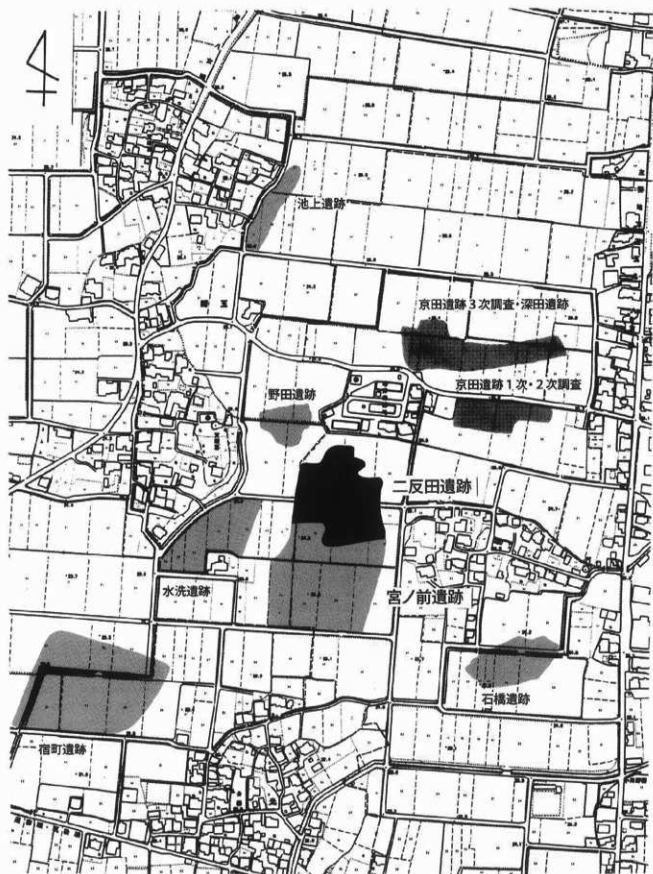
古代では、緒玉の袴田遺跡や、前述の京田遺跡や深田遺跡、池上遺跡などで竈を有する竪穴建物跡が発見されており、継続して人々が生活をしてきた痕跡が確認されている。

以上に述べたのは八女南部圃場整備事業に伴う発掘成果の一部にすぎないが、矢部川流域の広大な平野部という地理的環境を活かし、縄文時代からも人々が生活し、弥生時代や古墳時代前期においても大集落が形成されている状況が明らかとなってきた。このような環境の中で、八女市の北端部丘陵地帯に所在する八女古墳群や、矢部川を渡った八女市立花町に所在する古墳群や横穴墓が形成されてくるものと思われる。また、その後も古代(奈良時代以降)でも、条里の整備とともに広大な平野を利用した水田耕作が続けられてきたものと思われる。



- | | | | | |
|-------------|-----------|-------------|--------------|-------------|
| 1. 二反田遺跡 | 2. 宮ノ前遺跡 | 3. 京田遺跡 | 4. 深田遺跡 | 5. 野田遺跡 |
| 6. 宿町遺跡 | 7. 水洗遺跡 | 8. 石町遺跡 | 9. 三河小学校校庭遺跡 | 10. 国伏遺跡 |
| 11. アモメ遺跡 | 12. 松ノ本遺跡 | 13. 茶ノ木ノ本遺跡 | 14. 天上町遺跡 | 15. 掛町遺跡 |
| 16. 鳥居遺跡 | 17. 袴田遺跡 | 18. 打越遺跡 | 19. 新替遺跡 | 20. 大坪遺跡 |
| 21. 大坪・前田遺跡 | 22. 中里遺跡 | 23. 篠原遺跡 | 24. 北山今小路遺跡 | 25. 北山浄清田遺跡 |
| 26. 白木西原遺跡 | | | | |

第2図 二反田遺跡周辺の遺跡 1



※『八女市文化財調査報告書第71集』より転載(一部加筆改変)

第3図 二反田遺跡周辺の遺跡2

3 調査の成果

A 発掘調査の概要

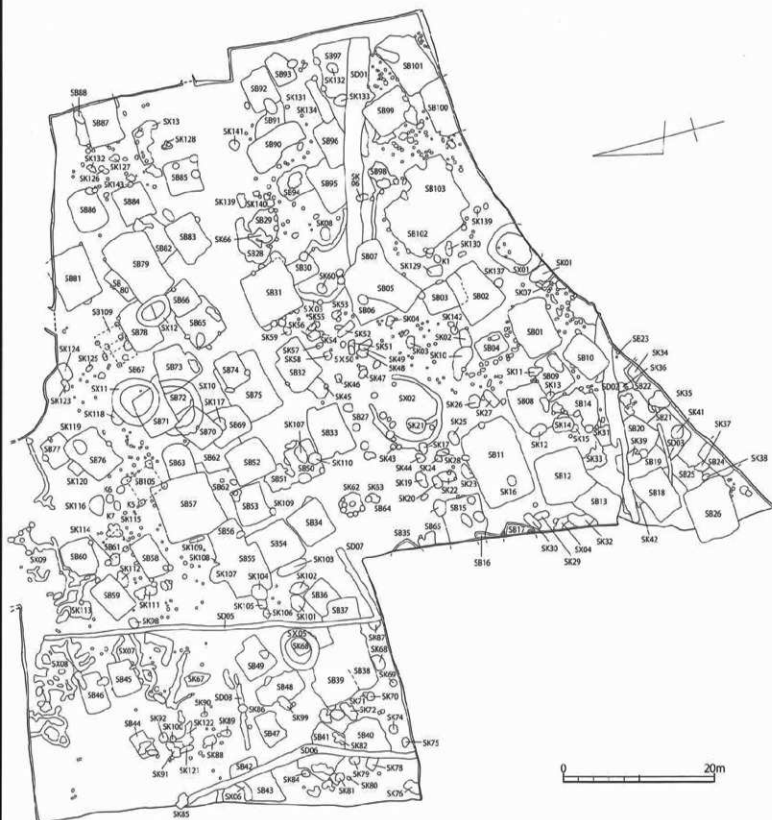
本書で報告する二反田遺跡は、過去に概報等の刊行も行われていない。報告者が発掘調査者と異なるため、当時に関しては不明な点もあるが、発掘調査者により作成された現地説明会資料（平成2年12月22日に八女市教育委員会実施）も含めた調査時の記録類をもとに遺跡の概要を記す。

今回報告する二反田遺跡は、八女市南西部の酒井田地区に位置し、小字名が遺跡名の由来である。発掘調査は八女市教育委員会により、平成2年8月中旬から12月末にかけて、同一事業の圃場整備事業関連発掘調査と共に実施された。

B 二反田調査の発掘調査成果（第4図）

発掘調査では、弥生時代中期、弥生時代後期、古墳時代前期、古代の遺構・遺物が多数発見されている。以下に、発掘調査で得られた遺構・遺物の詳細を記す。ただし、本報告では遺構・遺物数ともに膨大であり、遺構は時代毎ではなく調査時に付された番号に沿った記述をせざるを得なかった。また、出土遺物の詳細は観察表（第1表）を参照されたい。

また、出土品および図面は八女市教育委員会にて保管しているので、有効な活用を望む。



第4図 二反田遺跡調査区実測図 (S=1/500)

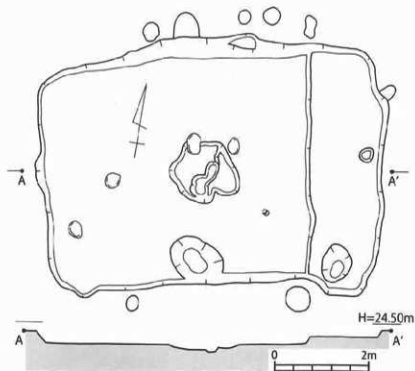
C. 出土遺構と出土遺物

① 竪穴建物 (SB)

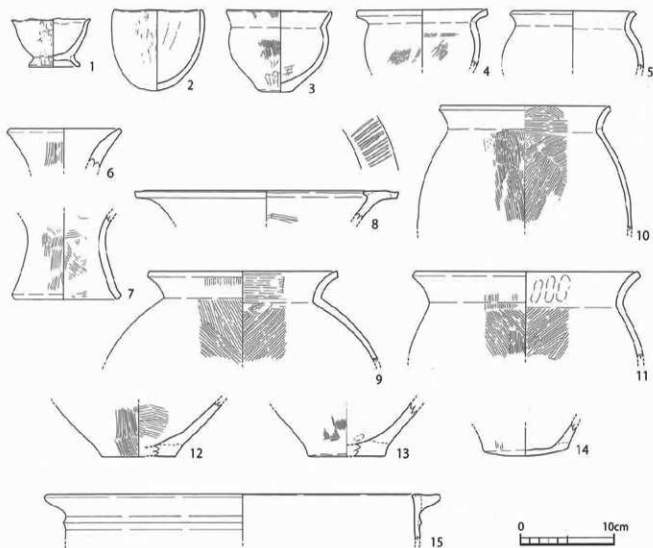
SB01 (第5・6図)

SB01は、調査区の南端部中央付近で発見された竪穴建物である。平面は長方形であり、1辺に沿ってベッド状遺構を有する。調査区中央に土坑を有するが、主柱穴は明確でない。

第6図に出土遺物を示す。1～5は鉢形土器、6・7は器台形土器、8は高環形土器、9～14は甕形土器である。遺物の時期は8の高環形土器と15の甕が弥生時代中期に属するが、残りの遺物は弥生時代後期に属する。このことから、SB01は



第5図 二反田遺跡 SB01 実測図 (S=1/80)



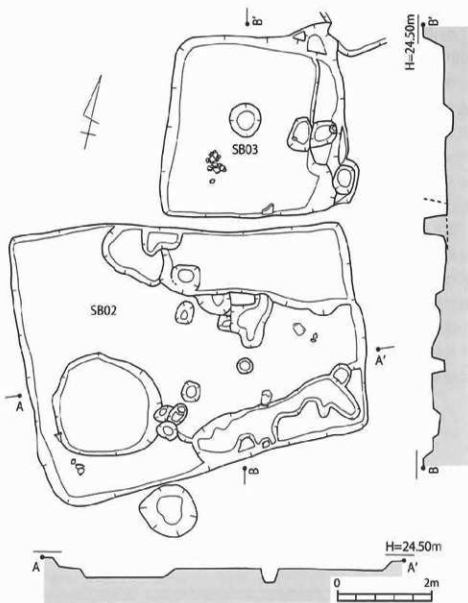
第6図 二反田遺跡 SB01 出土遺物 (S=1/4)

弥生時代後期に属する可能性が高いものと思われる。

SB02 (第7～10図)

SB02は、調査区の南端部、SB01の東側で発見された竪穴建物跡であり、発掘調査時の判断では一部がSB03に切られている。やや正方形に近い長方形の平面形をしており、主柱穴や炉跡等は不明瞭であるが、ベッド状遺構を有している。

第8～10図に出土遺物を示す。8図1～3は鉢形土器、8図4は蓋ない鉢形土器の底部、8図5・6・12・13は器台形土器、8図7～11は高環形土器、8図14～22は甕形土器、9図1～3は甕形土器であり、第9図2・3は甕棺破片の混入と思われる。10図1～5は、丹塗土器である。1・5は甕形土器、2は高環形土器、3・4は器台形土器である。いずれも丁寧なナデ調整後ミガキ調整が施されている。石器は、石包丁(第10図6)、磨製石斧(同7)、砥石(同8)が出土している。その他、中世に属する青磁(第10図9)が出土している。これら出土遺物の大半は弥生時代中期に属するものであり、SB02も弥生時代中期に属するものと思われる。

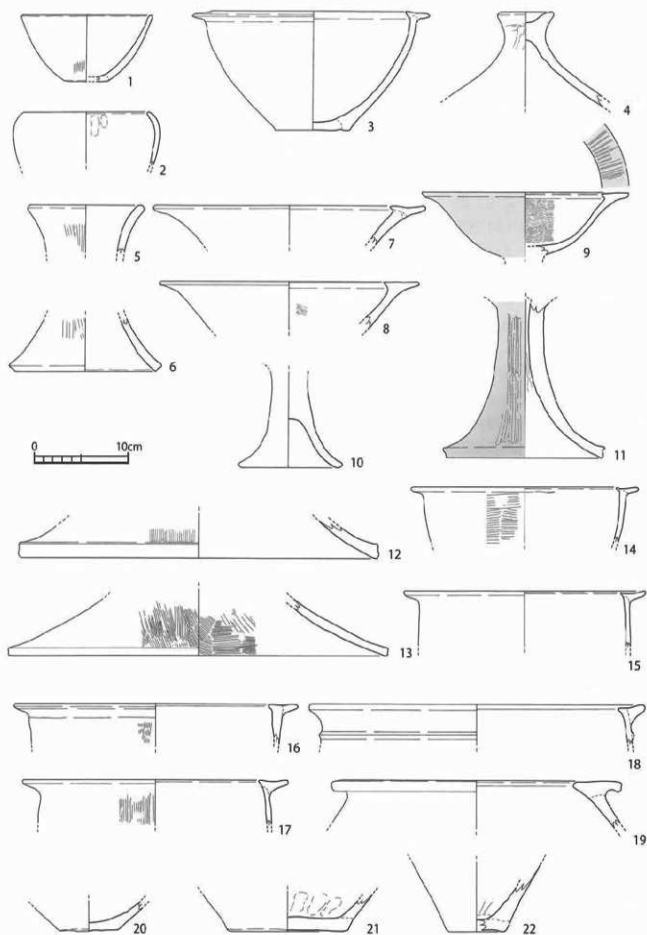


第7図 二反田遺跡 SB02・03 実測図 (S=1/80)

SB03 (第7・11図)

SB03は、SB02の隣で発見された竪穴建物である。平面形は正方形である。建物跡中央に土坑が1基検出されており、炉跡の可能性はあるが、主柱穴は発見されていない。遺物は建物跡南西隅でまとまりをもって発見されている。

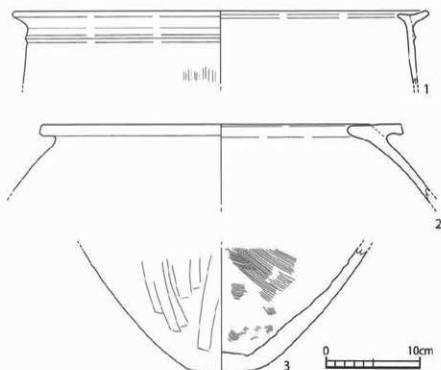
第11図に出土遺物を示す。1～5は鉢形土器であり、4は脚台を有している。いずれも弥生後期土器と比して小型化している特徴がみられる。6・7は高環形土器であり、6の外面には横方向のミガキ、7は脚台に4箇所穿孔がなされている。8～14は甕形土器である。8は口縁部がやや長く、布留式系土器群の影響がみられる。9～12は、口縁部の形態や全体的なプロポーション、右上がり方向のタタキ調



第8図 二反田遺跡 SB02 出土遺物 1 (S=1/4)

整が一部にみられる点や、底部が突出気味の平底を有する点などから、近畿地方の第Ⅴ様式変容系統の影響がある土器と思われる。

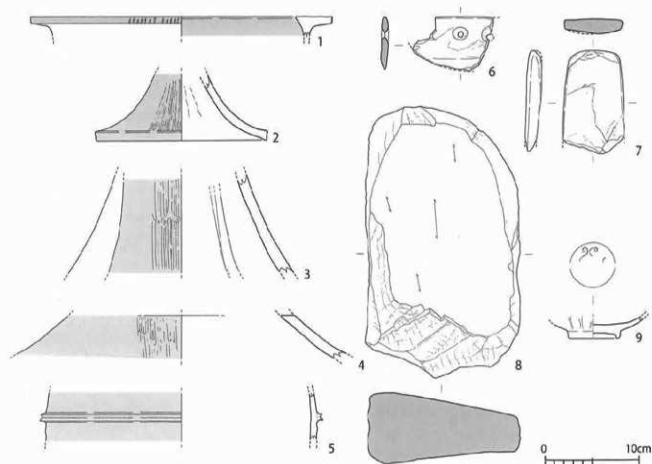
13は平底であり、上半部が不明であるが、弥生時代後期に属する土器の混入の可能性がある。14は壺形土器の底部と思われるが、上半部は不明である。以上の土器は、13以外は全て古式土師器であり、古墳時代前期に属することから、SB03も古墳時代前期に属する建物跡と考えられる。



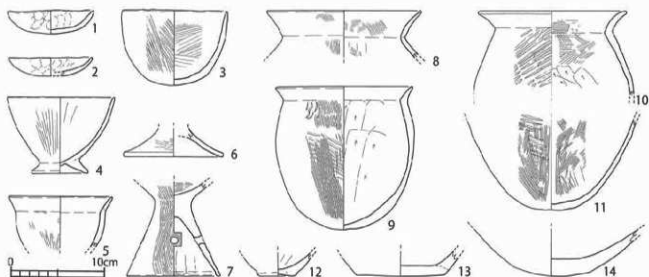
第9図 二反田遺跡 SB02 出土遺物 2 (S=1/4)

SB04 (第12・13図)

SB04は、調査区南側の、SB01の北側で発見された竪穴



第10図 二反田遺跡 SB02 出土遺物 3 (S=1/4)

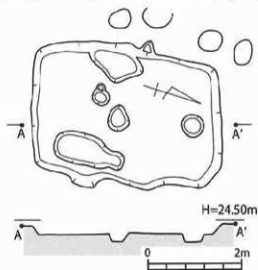


第11図 二反田遺跡 SB03 実測図 (S=1/80)

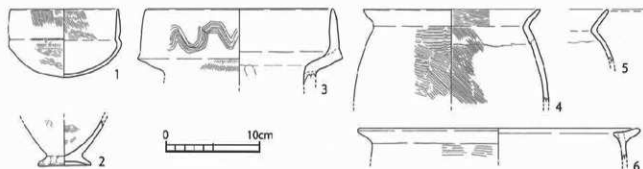
建物跡であり、やや小型の長方形の平面形である。建物跡中央に土坑があり、検出されているピットの位置関係から、主柱穴は2本である可能性が考えられる。

第13図に出土遺物を示す。1は鉢形の小型丸底土器、2は脚付の鉢形土器、3は二重口縁の壺形土器で、口縁部に波状文を有している。4・5は九州在来系の甕形土器であり、弥生時代後期～古墳時代初頭に位置付けられる。6は弥生時代中期に属する甕形土器であり、混入の可能性が高い。これらの土器の大半は古式土師器であり、4・5の甕形土器は弥生時代後期の可能性もあるが、土器群としてとらえた場合に古墳時代前期に位置付けることが妥当と思われる。

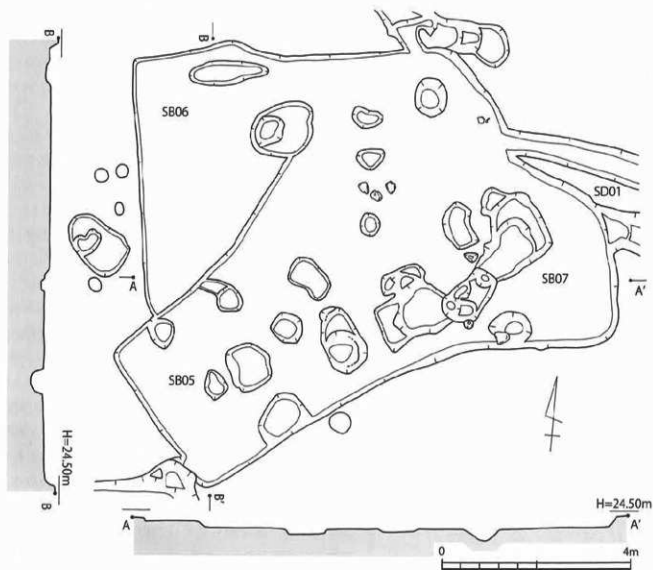
SB03 との比較では、SB04 の土器の方がやや大型である点などから、同時期もしくは SB04 のほうが SB03 よりやや古い時期と考えられる。



第12図 二反田遺跡 SB04 実測図 (S=1/80)



第13図 二反田遺跡 SB04 出土遺物 (S=1/4)



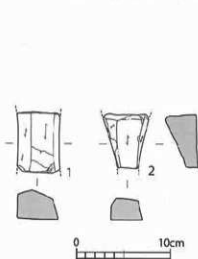
第14図 二反田遺跡 SB05～07 実測図 (S=1/80)

SB05～07 (第14～18図)

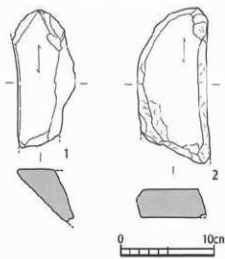
SB05～07は、調査区南部で発見された竪穴建物跡であり、調査時の記録からは切り合い関係や形状が不明な点も多いが、SB05がSB06を切っているようである。

第15～17図に出土遺物を示す。第15図はSB06から出土した石器であり、ともに石英長石斑岩製の砥石であり、かなり使いこまれて摩耗している。第16図はSB07で出土した石器であり、同じく石英長石斑岩製の砥石である。

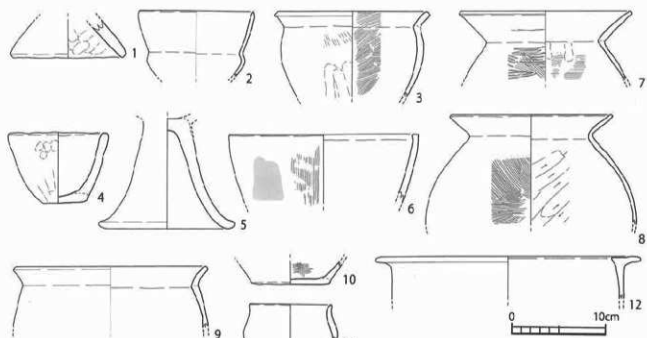
第17図はSB05より出土した土器である。1は脚部片、2



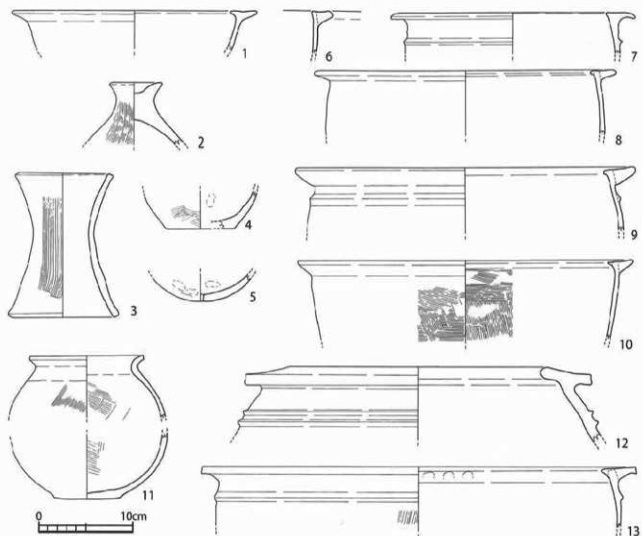
第15図 二反田遺跡 SB06
出土遺物 (S=1/4)



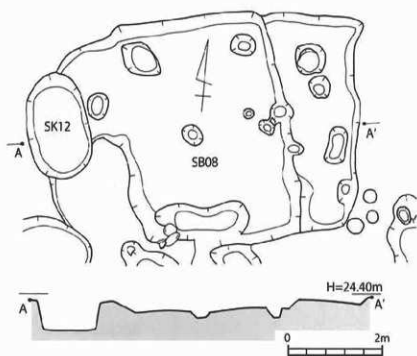
第16図 二反田遺跡 SB07
出土遺物 1 (S=1/4)



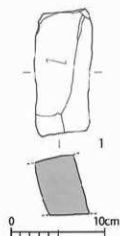
第 17 図 二反田遺跡 SB05 出土遺物 (S=1/4)



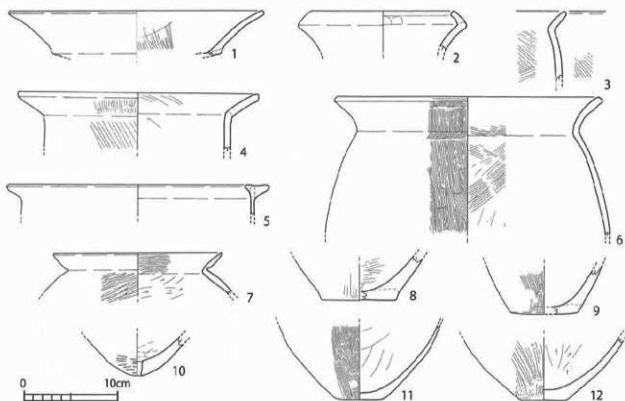
第 18 図 二反田遺跡 SB07 出土遺物 2 (S=1/4)



第19図 二反田遺跡 SB08 実測図 (S=1/80)



第20図 二反田遺跡 SB08
出土遺物 1 (S=1/4)



第21図 二反田遺跡 SB08 出土遺物 2 (S=1/4)

～4・6は鉢形土器、5は高坏型土器の脚部である。7は庄内式系土器群の影響を受けた甕形土器で胴部外面にやや細筋のタタキ調整が施されている。8は布留式系の甕形土器であり、かなり胴部の球形化が進んでいる。9は九州在来系の甕形土器であり、弥生時代後期～古墳時代前期の所産と思われる。10は底部片で弥生時代後期に属する可能性が高い。11は鉢形土器、12は甕形土器であるが、11・12ともに弥生時代中期に属する可能性が高い。

第18図はSB07より出土した土器である。1は高坏形土器で、鋤先口縁を有している。2は蓋もしくは

は甕形土器の脚部と思われるが、つまみ部（もしくは脚部）の調整は丁寧である。3は筒形の器台形土器、4・5は底部片であるが5の底部には焼成前穿孔がなされている。6～13は甕形土器片であり、ともに口縁部は鋤先口縁である。11・12は大型であり、甕棺の破片の混入の可能性がある。

SB05～07は、前後関係や住居跡の形状等については詳細不明な部分も残るが、出土遺物から前後関係を考慮してみたい。遺物はSB05から古墳時代前期後半の土器が多く出土しており、SB07からは弥生時代中期の土器が多く出土しているので、それぞれその時期に位置づけられるものと思われる。加えて、発掘調査時の判断を重視すれば、SB06はSB05に切られていることから、SB06は弥生時代中期～弥生時代後期に位置づけられるものと思われる。

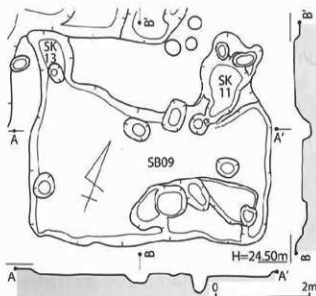
SB08（第19～21図）

SB08は、調査区南部で発見された竪穴建物跡である。正方形に近い長方形の平面形であり、東側にベッド状遺構を有する。

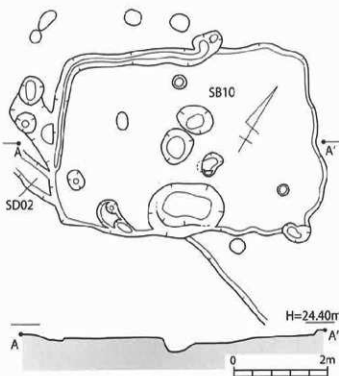
第20・21図に出土遺物を示す。20図1は、砥石であり欠損しているが1面が使用によりつるしている。21図1・2は壺形土器、21図3～12は甕形土器である。4と6は弥生時代後期・5は口縁部断面が鋤先状になっていることから弥生時代中期に位置づけられる。また、21図4～6、8・9・11・12は九州の在来系土器であり、21図7・10は近畿地方第V様式変容系統の土器の影響を受けた甕形土器であり、古墳時代前期に属する。

SB09（第22図）

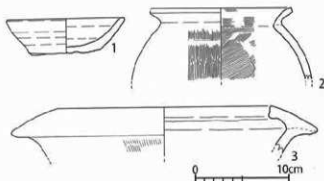
調査区南端部で発見された竪穴建物跡であり、北西～南東方向に長軸をとり、長方形の平面形をしている。住居跡中央部に炉跡の可能性のある土坑が確認されるが主柱穴は明確でない。出土遺物で図化できるものは確認できなかった。時期はやや不明であるが、長方形の平面形であることから



第22図 二反田遺跡 SB09 実測図 (S=1/80)



第23図 二反田遺跡 SB10 実測図 (S=1/80)



第24図 二反田遺跡 SB10 出土遺物 (S=1/4)

弥生時代後期に属するものと思われる。

SB10 (第 23・24 図)

調査区南端部、SB09 の南側に発見された竪穴建物跡であり、北西-南東方向時長軸をとる長方形の平面形をしている。住居跡中央部に炉跡の可能性のある土坑が確認されるが、主柱穴は明確でない。

第 24 図に出土遺物を示す。1 は土師器の坏である。古代に属するものであり、混入の可能性が高い。2 は甕形土器、3 は壺形土器であり、ともに弥生時代後期に属する。これらの出土遺物から、SB10 は弥生時代後期に属する可能性が高いものと思われる。

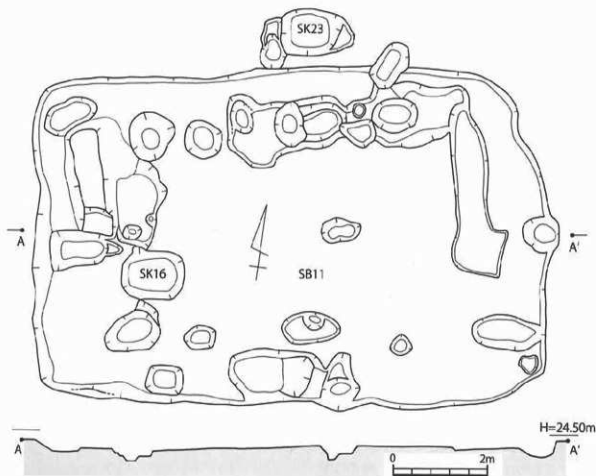
SB11 (第 25 ~ 28 図)

調査区南西部で発見された竪穴建物跡であり、南北方向に長軸をとる平面形長方形である。

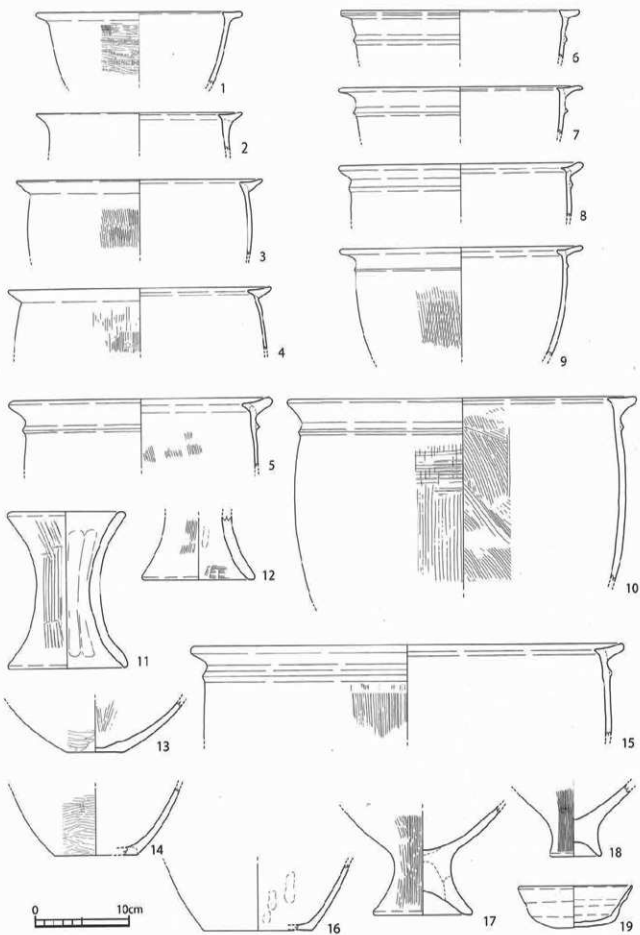
主柱穴・火処等は明確ではない。遺物は建物跡南側を中心に出土している。

第 25 ~ 28 図に出土遺物を示す。25 図 1 ~ 10・15 ~ 18 は甕形土器であるが、25 図 1 は鉢形土器の可能性もある。25 図 1 ~ 4 は頸部下位に突帯をもたない甕形土器である。いずれも口縁端部が觚先状になっていることから、弥生時代中期の土器である。25 図 5 ~ 10・15 は頸部下位に突帯を有する甕形土器で、口縁端部の形態から弥生時代中期の土器と判断される。25 図 11 ~ 12 は筒形器台、25 図 13・14 は壺形土器の底部片である。25 図 16 ~ 18 は甕形土器の底部であり、16 は平底、17・18 は脚台を有する。19 は坏である。

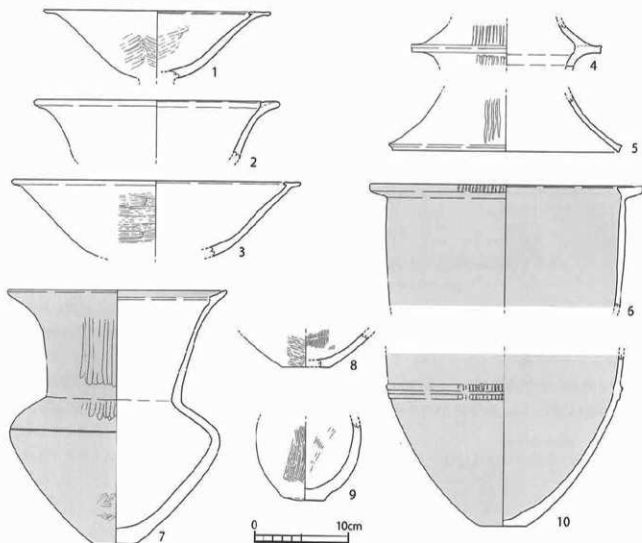
27 図 1 ~ 3 は、高坏の上半部、27 図 4・5 は器台の一部、27 図 6・10 は丹塗りの甕形土器、27 図 7



第 25 図 二反田遺跡 SB11 実測図 (S=1/80)



第 26 図 二反田遺跡 SB11 出土遺物 1 (S=1/4)



第27図 二反田遺跡SB11 出土遺物2 (S=1/4)

～9は壺形土器である。

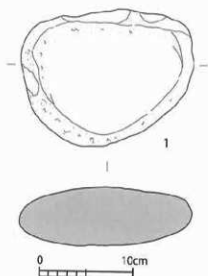
第28図1は石皿もしくは台石であり、表面は研磨によりつるつるしている。

以上の出土遺物の特徴から、SB11は弥生時代中期に位置付けられる可能性が高いものと思われる。

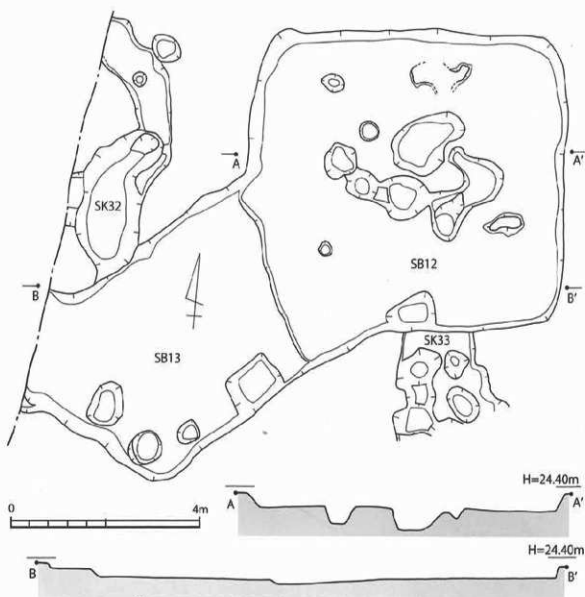
SB12・13 (第29～33図)

SB12・13は、SB11の南側で発見された竪穴建物跡である。切合い関係は調査図面では明確でないが、後述する出土土器の時期や建物跡の形態の特徴等を勘案すると、SB13がSB12を切っているものと思われる。

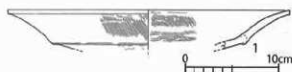
第30図にSB12出土遺物を示す。1は壺形土器ないし高坏であり、形態の特徴から弥生時代終末～古墳時代前期に位置付けられる。第31～33図はSB13の出土遺物である。第31図は器台の脚部である。第32図はSB13より出土した器台形土器であり、脚柱部に方形の透かし孔が穿孔されているが、破片のため形状およ



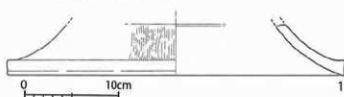
第28図 二反田遺跡SB11
出土遺物3 (S=1/4)



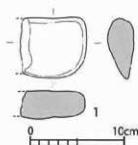
第29図 二反田遺跡 SB12・13 実測図 (S=1/80)



第30図 二反田遺跡 SB12 出土遺物 (S=1/4)



第32図 二反田遺跡 SB13 出土遺物2 (S=1/4)



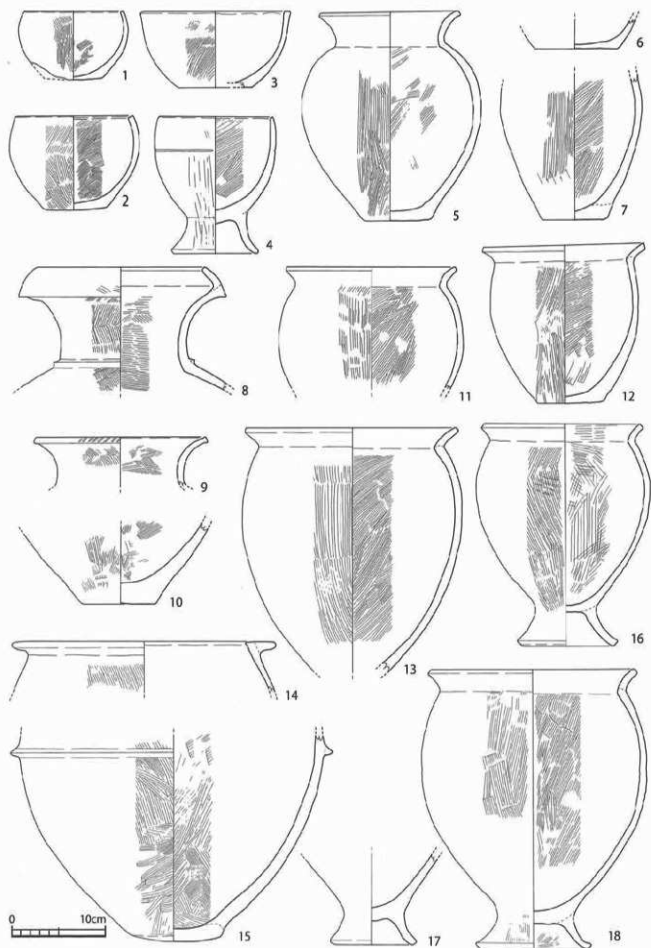
第31図 二反田遺跡 SB13
出土遺物1 (S=1/4)

び個数は不明である。

第33図はSB13より出土した土器である。33図1～4は鉢形土器であり、4は脚台を有し胴部外面に1条の沈線を有する。33図5～10は壺形土器である。5は広口の壺形土器、6は壺の底部片、7は下半部片である。

33図8は袋状口縁壺、9は口縁端部に板状工具による施文と思われる刻目文を有している。33図10～18は甕形土器である。

第32・33図に示した土器の大半は弥生時代後期に位置づけられる。このことから、SB13は弥生時代後期・SB12は弥生時代終末～古墳時



第 33 図 二反田遺跡 SB13 出土遺物 3 (S=1/4)

代前期に位置付けられる。

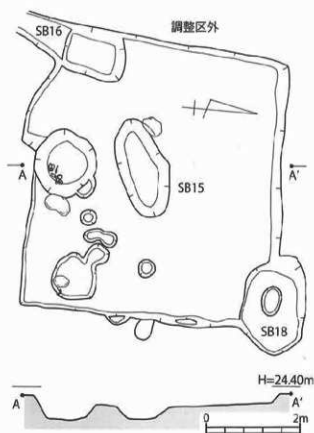
SB14 (第4図参照)

調査区南端やや西寄りで見出された。形は不整形であり、建物跡かどうかやや不明な点が残る。また、整理作業でも図化できる遺物もなく、詳細は不明とせざるを得なかった。

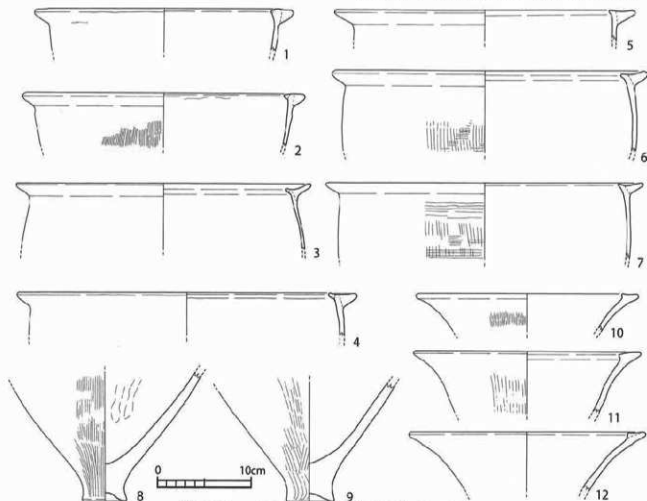
SB15 (第34・35図)

SB15は、調査区南西側で見出された竪穴建物跡であり、西端は調査区外にのびている。方形の平面形で2本主柱であると思われる。

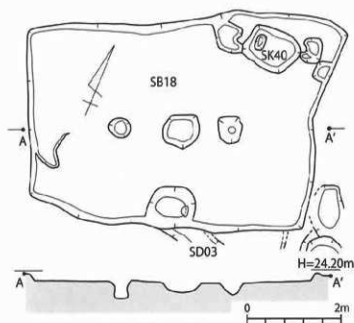
SB15出土土器を第35図に示す。35図1～9は甕形土器である。口縁部は鋤先状口縁であり、底部は突出気味の上げ底となっている。35図10～12は高環形土器の坏部であり、甕形土器と同様に内面に肥厚する形態となっている。これらの土器は弥生時代中期に位置付けられ、SB15の時期は弥生時代



第34図 二反田遺跡SB15実測図 (S=1/80)



第35図 二反田遺跡SB15出土遺物 (S=1/4)



第36図 二反田遺跡 SB18 実測図 (S=1/80)

中期と思われる。

SB18 (第36～38図)

SB18は、調査区南西端付近で発見された竪穴建物跡である。長軸を南西―北東方向にとる長方形の平面形であり、建物跡中央に炉跡の可能性のある土坑を有し、その東西に柱穴の可能性のあるピットがあり、2本主柱の住居であった可能性が高い。

第37・38図に出土遺物を示す。第37図1・2は砥石の破片である。ともに使い込まれていて摩耗している。38図1は甕形土器の底部、38図2は脚部片、38図3は須恵器の高坏脚部である。

SB21 (第38・39図)

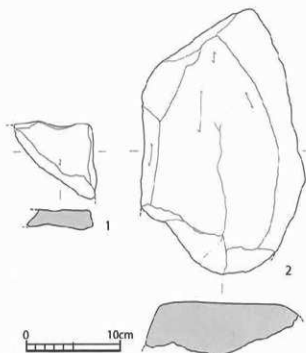
SB21は、調査区南西部で発見された竪穴建物跡である。

中央に炉跡の可能性のある土坑が存在するが、柱穴等は不明である。

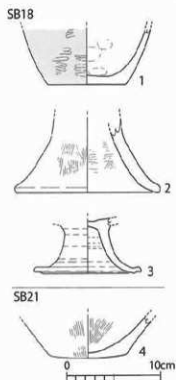
遺物は、甕形土器の底部が1点確認されており、弥生時代後期に属する(第38図4)。

SB22・23 (第4図参照)

調査区南端西寄りで検出した遺構である。遺構の大半が調査区外に延びるため、遺構の詳細は不明な部分が多く、建物跡である可能性はあるが確証はない。遺物も整理作業では図化できる遺物は確認されな



第37図 二反田遺跡 SB18 出土遺物 (S=1/4)



第38図 二反田遺跡 SB18・21 出土遺物 (S=1/4)

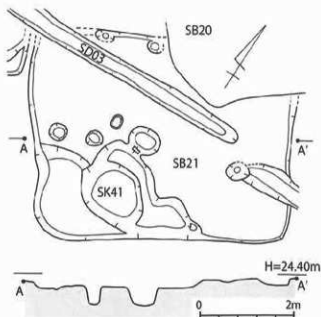
かったため、時期も不明と言わざるを得ない。

SB24・25 (第38・39・41・42図)

SB24・25は調査区南西端付近で検出された建物跡である。SB24は南側が調査区外に延びる遺構であるが、平面形長方形の竪穴建物跡であると思われる。特にSB25は不整形であり、建物跡ではない可能性も残る。

SB24出土遺物を第41図に示す。41図1～6は甕形土器である。41図1～3は口縁部片、41図4は脚付、41図5・6は平底である。41図7は高環の脚部、第41図8は器台の下半部である。41図9・10は土師器杯、41図11は青磁の碗である。第42図はSB25出土遺物であり、石匙である。

出土遺物等から、遺構の時期は、SB24が弥生時代中期に属する可能性が高いが、SB25については不明である。



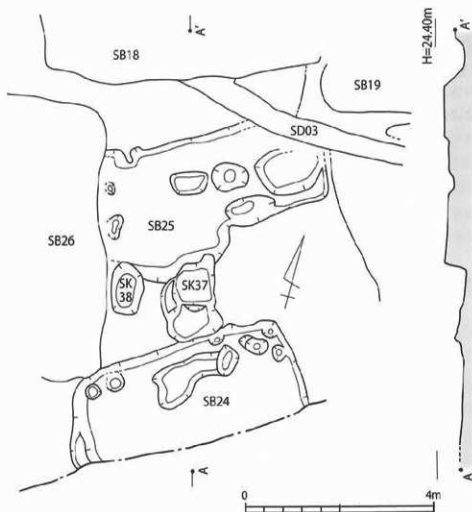
第39図 二反田遺跡 SB21 実測図 (S=1/80)

SB26 (第43・44図)

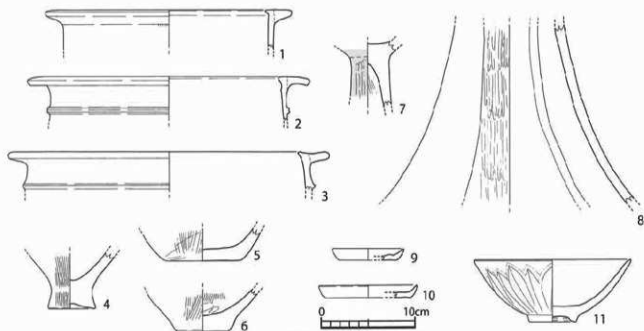
調査区南西端の、SB24・25の西側で検出された竪穴建物跡である。平面形は長方形であり、建物跡東壁に沿ってベッド状遺構が確認される。

遺物は建物跡南西部でまとまって出土している(第44図)に示す。1～3は甕形土器であり、1は袋状口縁の複合口縁壺、2は胴部片で突帯を4条有する破片である。3は広口壺で上半部に1条の沈線を有する。4は高環型土器の上半部、5は器台の下半部で四角形の透かし穴を有している。

6～12は甕形土器である。甕形土器の上半部は「く」字口縁であり、底部は平底のものが多くが底部が脚台のものも存在する。

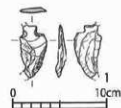


第40図 二反田遺跡 SB24・25 実測図 (S=1/80)



第41図 二反田遺跡 SB24 出土遺物 (S=1/4)

SB26 出土遺物は、一部は弥生時代中期と思われる遺物があるが、出土土器の大半は弥生時代後期に属する。また、建物跡の形状等からも、SB26 は弥生時代後期の建物跡である可能性が高いと思われる。



第42図 二反田遺跡 SB25 出土遺物 (S=1/4)

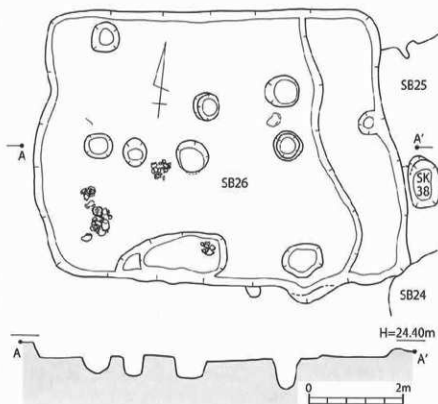
SB28・29 (第45・46・48図)

調査区中央やや東寄りで検出された遺構である。ともに形状はやや不整形であり、柱穴や火処等も不明であるため、建物跡かどうかやや確証に欠ける。遺物は砥石 (第46図1) のほか、四角形透かしを器台形土器 (第48図2)、甕形土器 (同3・4) が出土しており、出土遺物の時期は弥生時代中期に属するものと思われる。

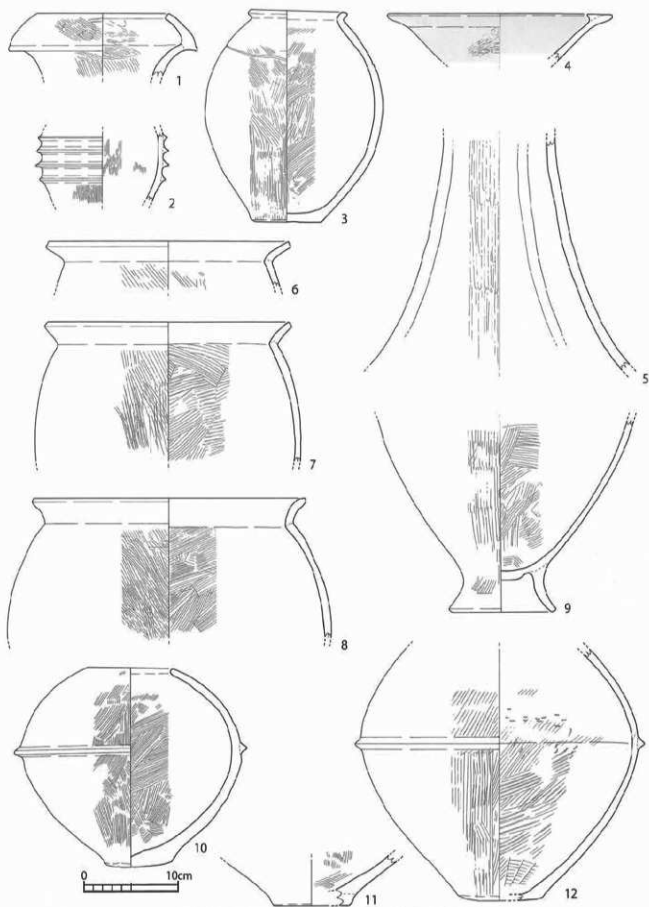
SB30 (第47・48図)

調査区中央やや東寄りで検出された、東西約 2.4 m × 南北約 3.4 m の小型の竪穴遺構であり、SB31 の南側に隣接している。小型であり、柱穴や火処も明確ではないので建物跡であるかどうか不明である。

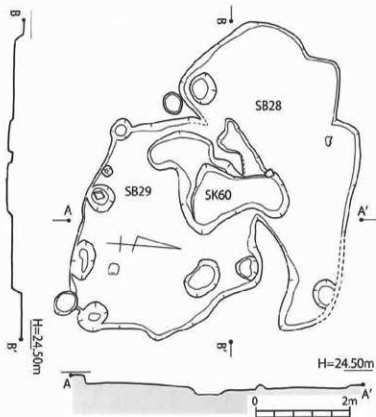
出土遺物は、甕形土器 (第48図5～9) があり、弥生時代中期に属する。



第43図 二反田遺跡 SB26 実測図 (S=1/80)



第 44 図 二反田遺跡 SB26 出土遺物 (S=1/4)



第45図 二反田遺跡 SB29 実測図 (S=1/80)

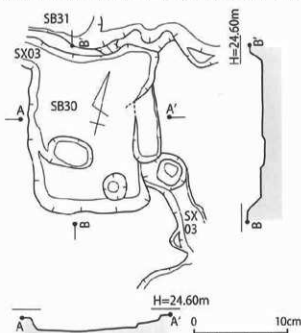


第46図 二反田遺跡 SB29
出土遺物 (S=1/4)

SB31 (第49～51図)

調査区中央やや東寄りで見出された、長辺約7.0m×短辺約6.4mのほぼ正方形の平面形であり、4面にベッド状遺構を有している。柱穴は明確ではないが、柱穴の可能性のあるビット位置より、4本主柱である可能性が高いと思われる。土器や石器が住居跡中央および南側、出土遺物を第50・51図に示す。

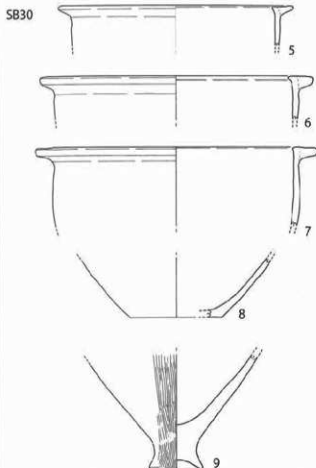
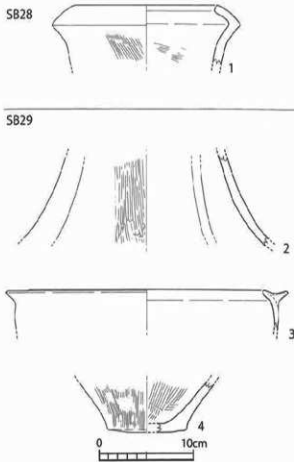
第50図1は石皿であり、粘板岩製である。土器は各器形のものが出土しており(第51図)、時期は古墳時代前期(第51図1～29、ただし、29は弥生時代後期の可能性あり)と、弥生時代中期(第51図30～34)、弥生時代後期(第51図35～38)のものがある。SB31は、正方形4本主柱で周囲にベッド状遺構を有するという建物跡の形態の特徴から、古墳時代前期に属する可能性が高いものと思われる。



第47図 二反田遺跡 SB30 実測図 (S=1/80)

SB32 (第52・53図)

調査区中央やや南寄りで見出された建物跡であり、長辺約6m、短辺約4mの長方形の平面形であり、検出された状況では、北東隅部がややくぼむ形状である。形状を考慮すると、北東隅部にベッド状遺構が存在する可能性や、2棟が重なっている可能性も考えられる。ただし、中央付近に炉跡



第 48 図 二反田遺跡 SB28・29・30 出土遺物 (S=1/4)

の可能性のある土坑も確認できること等から、1棟の建物跡と考えられる。

出土遺物は鉢形土器(第53図1・2)、高環形土器(同3・4)、甕形土器(同5・6)がある。大半は弥生時代中期と思われるが、6は弥生時代後期の可能性もある。出土遺物の時期から、SB32は弥生時代後期に属する可能性が高いと思われる。

SB33 (第54～56図)

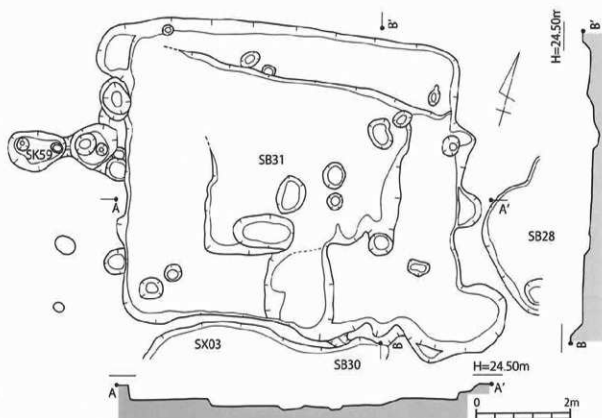
調査区中央やや南寄り、前述のSB31の西側で検出された。長辺約7m、短辺約5mの長方形の平面形であり、検出されたピット・土坑の位置関係から、2本主柱の可能性が高い。

出土遺物は、石英長石斑岩製の砥石(第55図1・2)と土器(第56図)がある。鉢形土器(56図1・2)、甕形土器(同3～7)の他、甕形の破片と思われるもの(同8・9)と須恵器の甕(同10)がある。遺構の平面形態と出土遺物とを勘案すると、SB33は弥生時代後期に属する可能性が高いものと思われる。

SB34 (第57～59図)

調査区のほぼ中央で検出された。一辺約5mのほぼ正方形の平面形であり、中央に炉跡の可能性のある土坑を有している。北側に一段高くなっている部分も確認されるが、やや細く、ベッド状遺構であるかは不明である。また、主柱穴は明確でなく、主柱穴数は不明である。

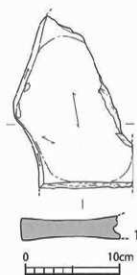
出土遺物は遺構の中央付近で出土しており、出土遺物を第58・59図に示す。58図1は小型器台の上半部で、胎土は精良な胎土が使われている。58図2は鉢形土器で小型化している。58図3～10および59図1は甕形土器である。58図3は、九州在来系の甕形土器であるが、やや小型化している。58図4



第49図 二反田遺跡 SB31 実測図 (S=1/80)

～8および59図1の甕形土器では、外面タタキ調整を縦方向のハケ調整で消し、肩部に横方向のハケ調整を施す個体も存在する等、布留式土器の製作技術の影響がみられる。また、口縁部は布留式系土器群の中ではやや長く、厚みを有する等の特徴がみられ、これらの特徴はやや新しい時期の特徴と合致している。58図9は底部片であるが、壺形土器の可能性もある。やや突出気味の平底であり、底部内面には簾状のハケ調整がなされる等、近畿第5様式変容系統との共通点が見出される。58図10は甕形土器の脚台であるが、小片のため他の出土遺物を考慮すると、建物跡埋没時の混入である可能性もある。

SB34は、出土遺物や遺構の形状等から、古墳時代前期後半の所産である可能性が高いと思われる。



第50図 二反田遺跡 SB31
出土遺物1 (S=1/4)

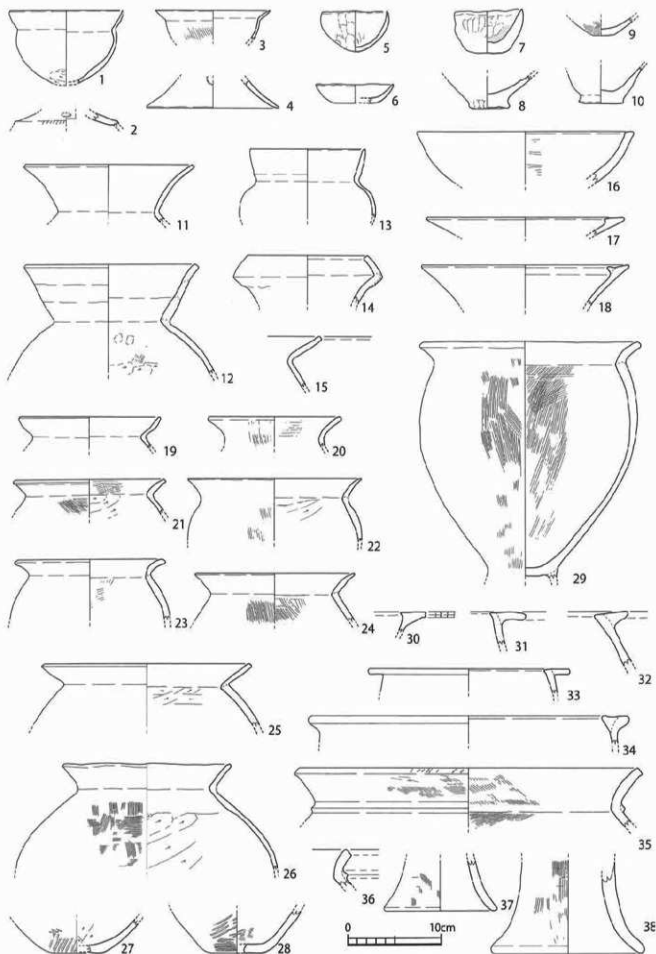
SB35 (第4・60図)

調査区西端で検出され、遺構の大半は調査区外のため未掘であり、規模や形状等は不明な部分も多い。

出土遺物は古代に属する土師器の杯のみである(第60図1)が、出土状況もやや明瞭ではなく、遺構と同時期であるかはやや不安が残る。

SB36 (第61・62図)

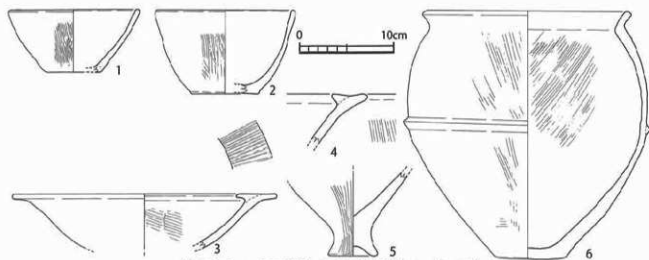
調査区中央やや西寄りで検出された建物跡であり、西側をSB37に切られている。一辺約4mのほぼ正方形の平面形であり、主柱穴等は不明である。



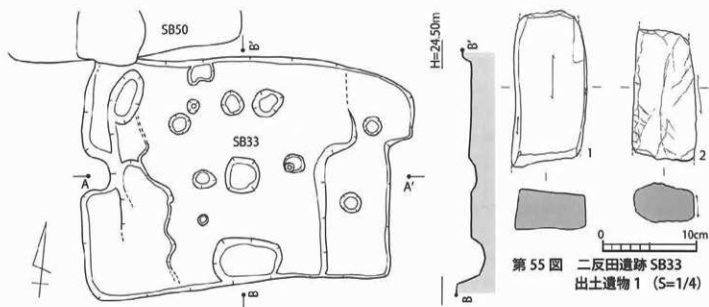
第 51 図 二反田遺跡 SB31 出土遺物 2 (S=1/4)



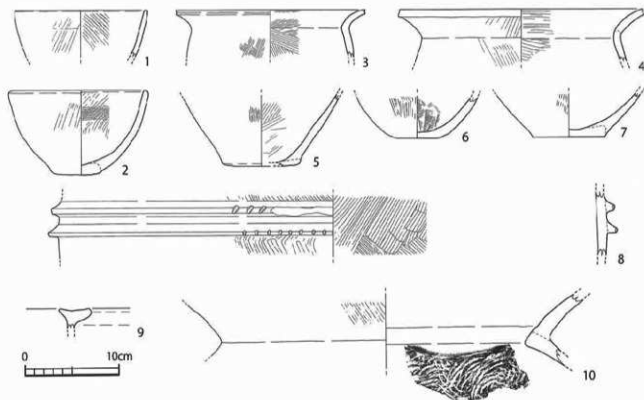
第 52 図 二反田遺跡 SB32 実測図 (S=1/80)



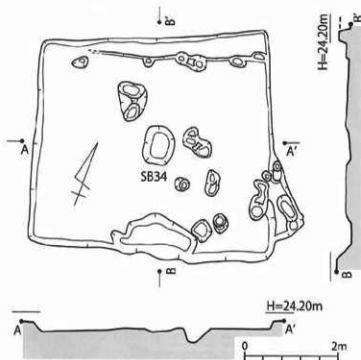
第 53 図 二反田遺跡 SB31 出土遺物 1 (S=1/4)



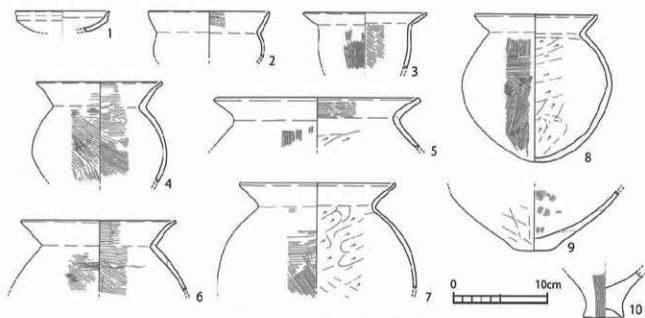
第54圖 二反田遺跡SB33実測図 (S=1/80)



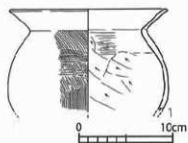
第56圖 二反田遺跡SB33 出土遺物2 (S=1/4)



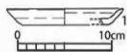
第 57 図 二反田遺跡 SB34 実測図 (S=1/80)



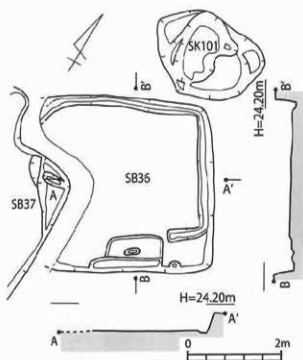
第 58 図 二反田遺跡 SB34 出土遺物 1 (S=1/4)



第 59 図 二反田遺跡 SB34
出土遺物 2 (S=1/4)



第 60 図 二反田遺跡
SB35 出土遺物 (S=1/4)



第 61 図 二反田遺跡 SB36 実測図 (S=1/80)

SB37・38・39 (第 63～66 図)

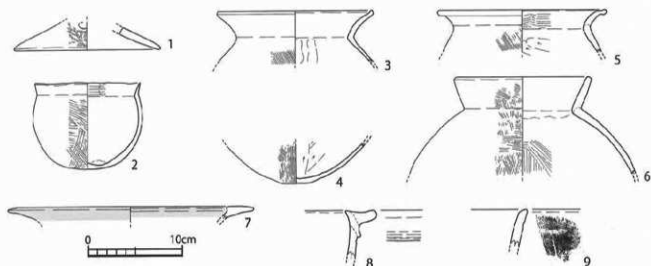
調査区西側で検出され、前述の SB36 も含めて、4 軒が切り合い関係となっている。

調査時図面によると、SB37 は SB36 を切っているが、土坑や溝跡等も多く重なる状況であるため、やや切り合い関係が不明な点もある。その為、形状や規模等も不明な点も残る。遺物は SB37 では SDO5 の西側付近、および SB38 と SB39 の境目付近で出土している状況が図面からうかがえる。

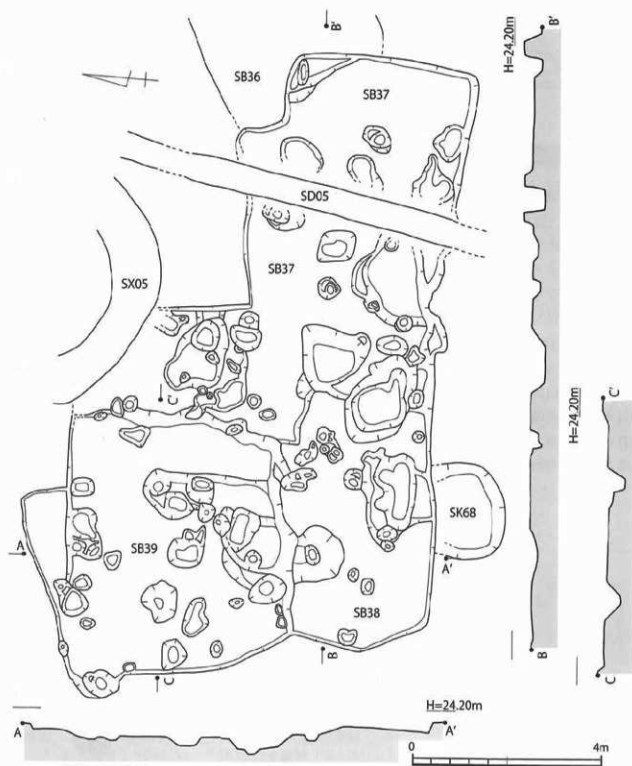
第 64 図は SB37 より出土した土器である。1～4 は、古墳時代前期に属する可能性が高い土器である。1 は鉢型の土器と思われるが、外面に指による横方向の押捺痕が明瞭に残り、やや手捏ね風の作りである。2・4 は布留式系の甕形土器、3 は近畿 V 様式変容系統の影響がみられる甕形土器であるが、口縁部形態は九州在来系の甕形土器に近い。5～7 は、口縁部が鋤先状になることから、弥生時代中期に属する可能性が高い土器である。5 は甕形土器の上半部、6 は口縁端部がやや荷重により押されたような跡がみられることから器台の下半部と判断しているが、壺形土器の口縁部になる可能性も残る。7 は二反田遺跡

出土遺物を第 62 図に示す。1 は高坏の脚部片、2 はやや小型の甕形土器、3～8 は甕形土器で、3～6 には古墳時代前期の布留式系の影響がみられる。6 は広口の壺形土器の可能性もある。7 は弥生時代中期の高坏形土器もしくは壺形土器の口縁部で内外面共に丹塗がなされている。8 は甕形土器の口縁部で弥生時代中期に属するものと思われる。9 は縄文式土器の小片であり、混入と思われるが、今回報告する二反田遺跡では縄文時代の遺物はほとんど確認されていないため、掲載した。

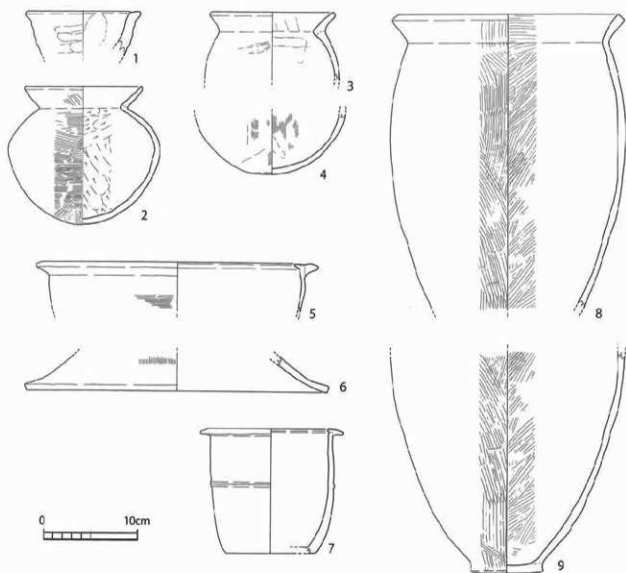
SB36 では古墳時代前期に属する遺物が多く出土しており、弥生時代・縄文時代の遺物は小片の出土であることや、住居跡の平面形から、SB36 は古墳時代前期に属する可能性が高いと思われる。



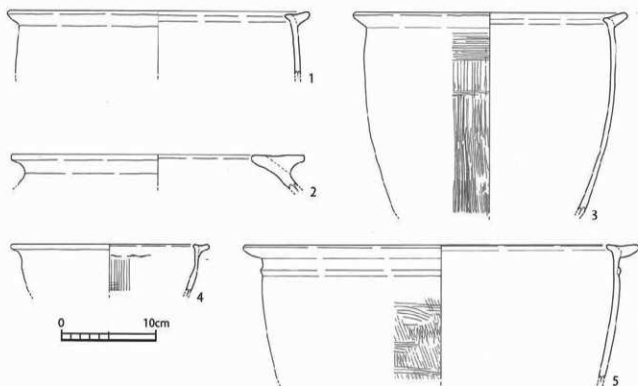
第 62 図 二反田遺跡 SB36 出土遺物 (S=1/4)



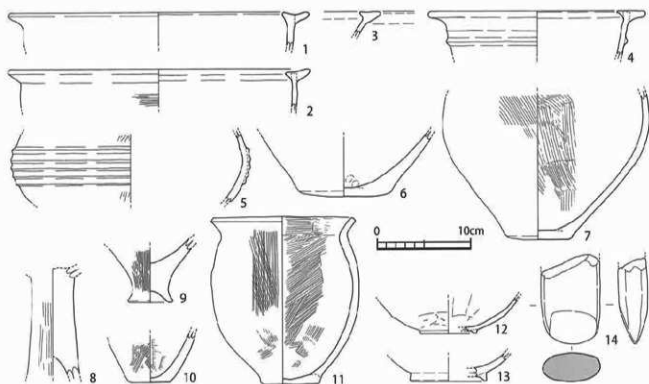
第 63 図 二反田遺跡 SB37・38・39 実測図 (S=1/80)



第 64 図 二反田遺跡 SB37 出土遺物 (S=1/4)



第 65 図 二反田遺跡 SB38 出土遺物 (S=1/4)



第 66 図 二反田遺跡 SB39 出土遺物 (S=1/4)

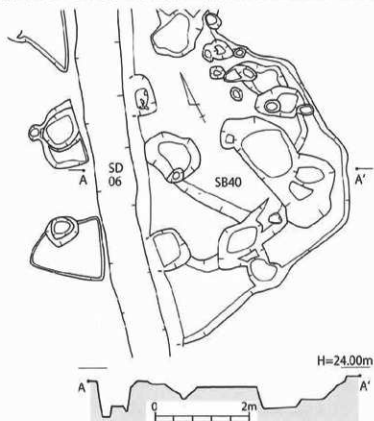
でも類例の少ない形であるが、甕形土器とした。8・9は弥生時代後期の甕形土器である。8と9は接合こそしないが、胎土や調整等から、同一個体である可能性が高いと思われる。

第 65 図は SB38 出土とされる土器である。全て甕形土器であり、口縁部は鉤先状口縁になることから、弥生時代中期に属するものと思われる。2は器壁が厚く、甕棺の破片の可能性が考えられる土器である。4は残存部から復元するとやや浅い器形にも思われることから、鉢形土器の可能性も考えられる。5は頸部下位に突帯を有している。

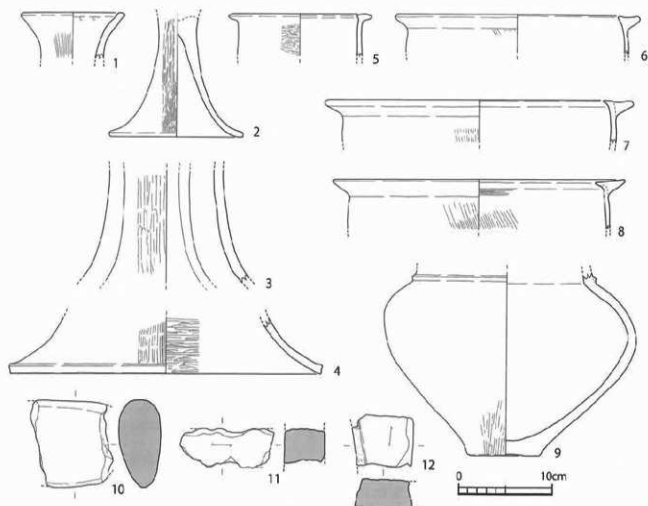
第 66 図は SB39 出土とされる遺物である。1～4は弥生時代中期に属すると思われる土器である。

1・2は甕形土器、3は高環形土器、4は甕形土器ないし鉢形土器である。5は弥生時代後期に属すると思われる鉢型土器ないし壺形土器で、胴部中央に4条の貼付突帯文を有している。6・7は甕形土器の底部および下半部片であり、弥生時代後期に属する可能性が高いと思われる。8は高環の脚柱部片であり、外面に赤彩がなされている。9・10は甕形土器の底部片で弥生時代中期か。11は弥生時代後期の甕形土器である。12・13は黒色土器である。14は、磨製石斧の破片である。

SB37～39の箇所では前述の通り、竪穴建物や溝跡、土坑やピット等が多く重なり



第 67 図 二反田遺跡 SB40 実測図 (S=1/80)

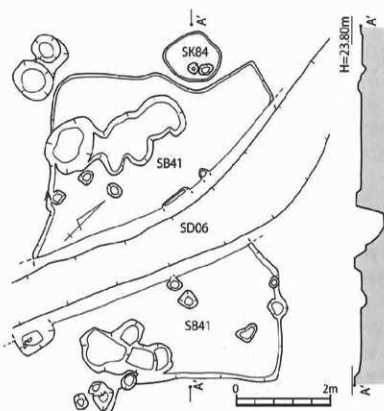


第 68 図 二反田遺跡 SB40 出土遺物 (S=1/4)

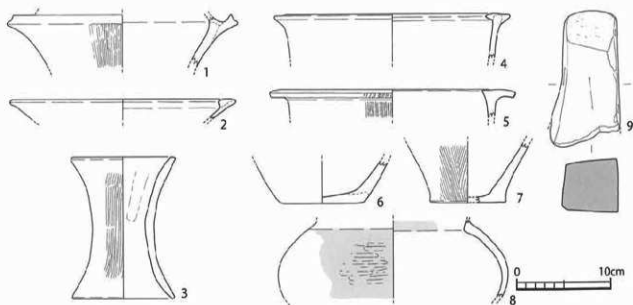
合っている状況があり、出土遺物は弥生時代中期・弥生時代後期・古墳時代前期および古代の各時期の遺物が出土している。遺構と遺物を特定することがやや困難な状況ではあるが、上記の各時期に、この箇所に建物跡等の遺構が形成された結果と言えるのではないと思われる。

SB40 (第 67・68 図)

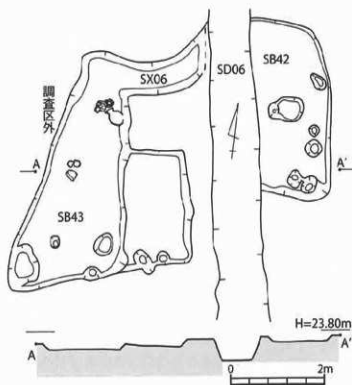
調査区西側で検出された竪穴であり、平面形はやや不整形ではっきりとしない部分もある。遺構は約 5 m 四方であるが、SD06 溝跡や土坑・ピット等も多く重なっており、調査時の図面・写真でも火処や主柱穴も明確ではないため、竪穴建物跡とするにはやや根拠が弱く、大型の浅い土坑の可能性も捨てきれない遺構である。



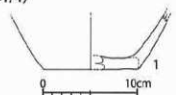
第 69 図 二反田遺跡 SB41 実測図 (S=1/80)



第70図 二反田遺跡SB41 出土遺物 (S=1/4)



第71図 二反田遺跡SB42・43 実測図 (S=1/80)



第72図 二反田遺跡SB42 出土遺物 (S=1/4)

出土遺物を第68図に示す。1は筒形器台の上半部、2は高坏の下半部、3・4は器台の下半部であり、3と4は接点がないため不確定ではあるが、胎土や調整等から同一個体と考えられる土器である。脚部に方形の透かし穴が穿孔されている状況が確認できるが、破片のため穿孔の大きさや数は不明である。胎土は精良な胎土が使用されており、胎土に混入する砂礫構成に矢部川流域の砂礫構成とはやや違和感があることから、他河川流域からの搬入の可能性もあると思われる。6～8は甕形土器の口縁部片である。9は壺形土器で

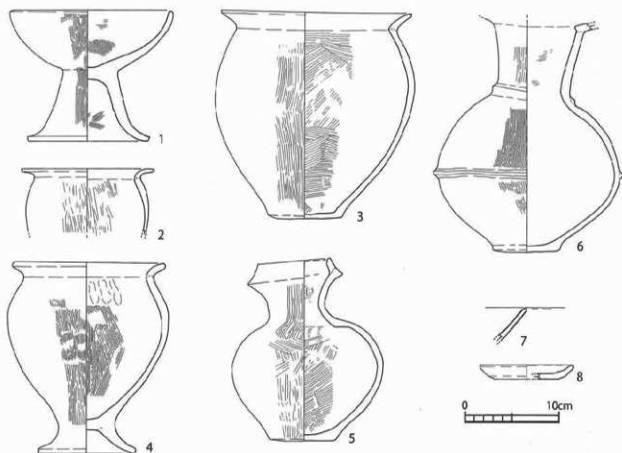
頸部に突帯を有する。10～12は石器の破片であり、10は磨石、11・12は砥石の破片である。

出土遺物の大半が弥生時代中期に属すると思われることから、SB40の時期も弥生時代中期に属するものと思われる。

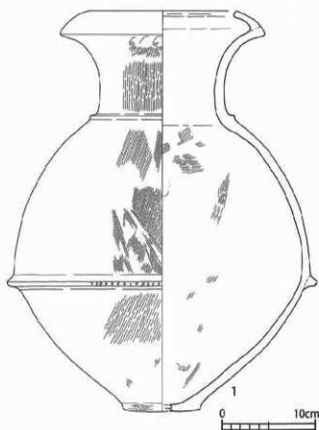
SB41 (第69・70図)

前述したSB40の北側で検出された遺構である。平面形は、長辺約6m、短辺約4mの長方形であり、遺構の中央をSD06により切られている。土坑等の他の遺構も重なっており、形状はやや不確定な個所もあるが、長辺約7m・短辺約5mの長方形の平面形と思われる。主柱穴や跡跡等は不明である。

出土遺物を第70図に示す。1は壺の口縁部～頸部片、2は高坏の坏部片、3は筒形器台である。4～



第73図 二反田遺跡 SB43 出土遺物 1 (S=1/4)



第74図 二反田遺跡 SB43 出土遺物 2 (S=1/4)

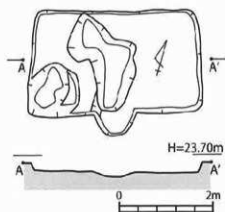
7は甕形土器で口縁部は断面鐮先状の形態で、底部は平底である。8は壺形土器の胴部片であり、外面は丁寧なミガキ調整により仕上げられている。9は石英長石斑岩製の砥石であり、かなり使い込まれて摩耗している。

SB41の出土遺物は、出土状況の詳細は不明であるが、時期がわかるものは弥生時代中期に位置づけられることから、SB41の時期は弥生時代中期である可能性が高いと思われる。

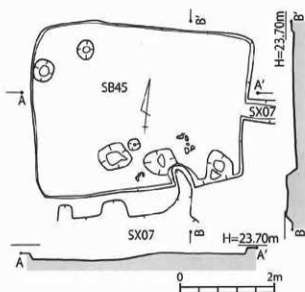
SB42・43 (第71～74図)

調査区西端やや北寄りで重なり合う形で検出された建物跡で、SB43の西側部分は調査区外に延びる。

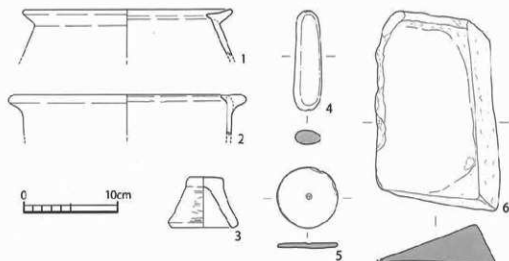
また、SD06溝跡や周溝SX06等も重なっており、切り合い関係等はやや不明な点も残る。SB42・SB43ともに平面形は方形であると思われるが、はっきりとしない箇所もある。支柱穴や、炉跡等の火処もはっきりとしない。



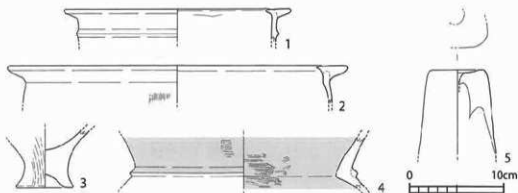
第75図 二反田遺跡 SB44
実測図 (S=1/80)



第76図 二反田遺跡 SB45 実測図 (S=1/80)



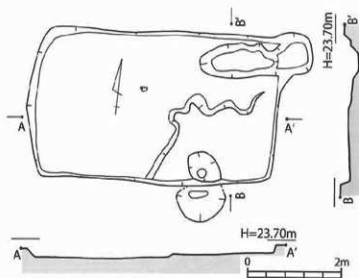
第77図 二反田遺跡 SB44 出土遺物 (S=1/4)



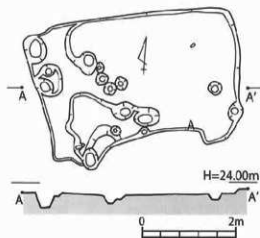
第78図 二反田遺跡 SB45 出土遺物 (S=1/4)

SB42 出土遺物は土器 1 点が図化可能であり、第 72 図 1 は甕形土器底部片である。この土器は弥生時代中期～後期に位置づけられるものと思われる。このことから、SB42 は弥生時代（後期か）に位置づけられるものと思われる。

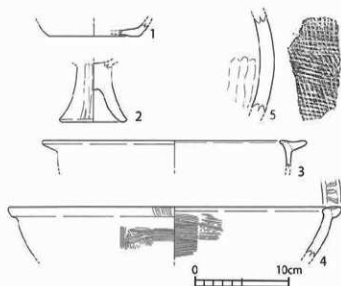
SB43 では建物跡北半部でまとまって土器の出土が確認されている（第 73・74 図）。73 図 1 は台付の



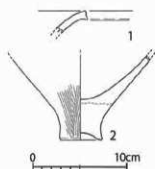
第79図 二反田遺跡 SB46 実測図 (S=1/80)



第81図 二反田遺跡 SB47 実測図 (S=1/80)



第82図 二反田遺跡 SB47 出土遺物 (S=1/4)



第80図 二反田遺跡 SB46
出土遺物 (S=1/4)

鉢形土器、73図2・3は平底の甕形土器、73図4は脚台付の甕形土器で、口縁部は「く」字に屈曲する。73図5・6および74図1は壺形土器で袋状口縁壺である。なお、73図7は青磁の小片、73図8は土師器の小皿片であり、古代・中世の所産である。

SB43は一部を除く大半の出土土器が弥生時代後期の土器であることから、弥生時代後期に位置づけられるものと思われる。

SB44・45 (第75～78図)

調査区北西端付近で検出した建物跡である。SB44は長辺約4m、短辺約2mのやや小型の長方形の平面形である。土坑等も重なっており、主柱穴や炉跡等の火処は不明確である。出土遺物を第77図に示す。77図1・2は甕形土器でともに口縁部は鋤先状口縁である。77図3は支脚である。77図4～6は石器であり、77図4は敲石と思われる、両先端に敲打痕が確認できる。77図5は紡錘車である。77図6は石皿の破片であり、かなり使い込まれていて中央部の両面がくぼんでいる。

SB45は長辺約5m×短辺約3mの長方形の平面形である。SB45も、主柱穴や炉跡等の火処は明確ではない。出土遺物を第78図に示す。78図1～3は甕形土器であり、口縁部は鋤先状口縁である。78図4は壺形土器の頸部付近であり、頸部に突帯を有する。内外面共にミガキ調整がなされ、赤彩がなされている。

78図5は支脚の上半部の破片であるが、上の

受部の形状(横断面)は円形ではなく角をもち、三角形もしくは四角形の形状をしているようである。

SB46 (第79・80図)

調査区北西端付近で検出された建物跡である。長辺約5m、短辺約3mの長方形の平面形であるが、炉跡等の火処や支柱穴は確認されていない。

遺物は器台と甕形土器の破片が出土している(第80図1・2)。SB46内には甕形土器片の底部は建物跡西側に土坑が1基存在することから、土器はその土坑に伴う甕棺墓である可能性もあるが、定かではない。

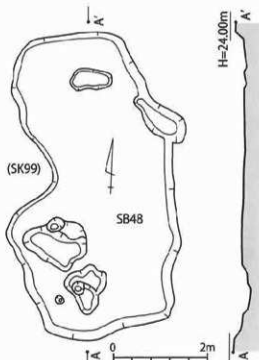
SB47 (第81・82図)

調査区北西端で検出された建物跡であり、前述のSB46の南側に位置している。5m×3mの長方形の平面形をしている。検出面から床面での深度は浅く、残存状況はやや不良である。炉跡等の火処や支柱穴等は不明な点も多いが、東側が若干一段高くなっている。

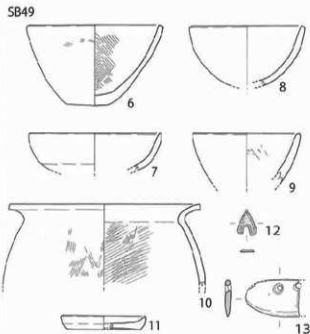
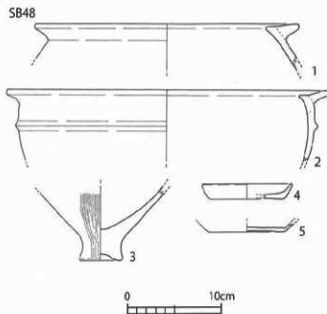
出土遺物を第82図に示す。坏(1)・高坏(2)・須恵器甕(同5)・鍋(同4)とともに弥生時代中期の甕形土器(同3)がある。出土遺物を考慮するとSB47の時期は古代となる可能性が高いが、前述の東側高まり部分を考慮すると、弥生時代中期と古代の遺構が切り合っている可能性がある。

SB48 (第83・84図)

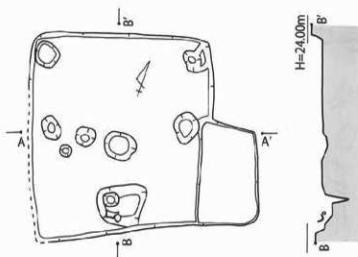
調査区北西部で検出された竪穴建物であり、前述のSB47の東側で検出されている。形状はやや不整形な長辺約7m、短辺約3mの長方形の平面形であり、炉跡等の火処や支柱穴は不明である。



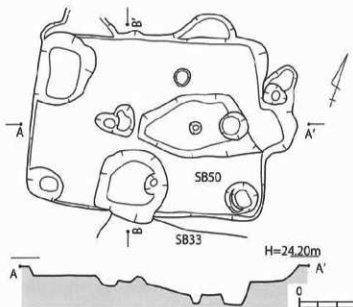
第83図 二反田遺跡SB48
実測図 (S=1/80)



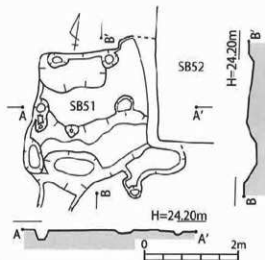
第84図 二反田遺跡SB48・49出土遺物 (S=1/4)



第85図 二反田遺跡 SB49 実測図 (S=1/80)



第86図 二反田遺跡 SB50 実測図 (S=1/80)



第87図 二反田遺跡 SB51 実測図 (S=1/80)

出土遺物を第84図左半に示す。84図1～3は甕形土器で弥生時代中期と思われる。84図4は土師器の坏、84図5は青磁で古代に属する。遺物も出土位置が明確ではなく、2時代の遺物が確認されるので、どちらかの時代の遺物がSB48内にある土坑に伴う可能性も考えられる。

SB49 (第84・85図)

調査区北西部で検出された竪穴建物跡であり、前述のSB48の東側で検出されている。一辺約4～5mの方形の平面形であるが、住居跡北東部がくぼみ形状をしているが、東側が段上がりにベッド状になっている点を考慮

すれば、ベッド状遺構部分が削平されている可能性も考えられる。中央に炉跡の可能性のある土坑が1基確認される。主柱穴は検出されたピットは複数あるが、柱穴数は明瞭でない。

出土遺物を第85図に示す。6～9は鉢形土器、10は甕形土器で6～10は弥生時代後期～終末期に位置付けられる。11は土師器の小皿で古代の土器である。12・13は石器で、12は石鏃、13は石包丁である。

SB50 (第86図)

調査区中央付近で検出された竪穴建物跡であり、南側にSB33と接しているが、切合い関係はやや不明である。長辺約5m、短辺約4mの長方形の平面形であり、多くの土坑と



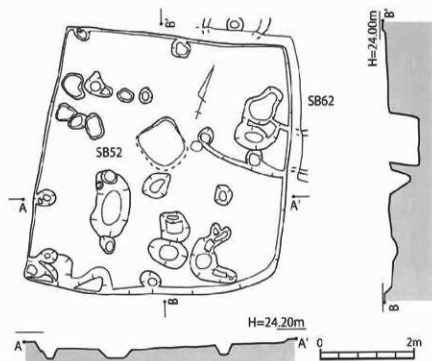
第88図 二反田遺跡 SB51 出土遺物 (S=1/4)

重なる形で発見されている。そのため、炉跡等の火処や主柱穴は不明瞭であるが、柱穴の位置から2本主柱であった可能性が高いと思われる。出土遺物は、今回確認できたものはなかった。

SB51 (第87・88図)

調査区中央付近で検出された竪穴建物跡であり、東側でSB52と接している。土坑などの多くの遺構が重なっていることもあり、形状や炉跡・主柱穴等は明確ではない。

出土遺物のうち図化できたものは、甕形土器の破片(第88図1)のみであり、弥生時代中期に属する。

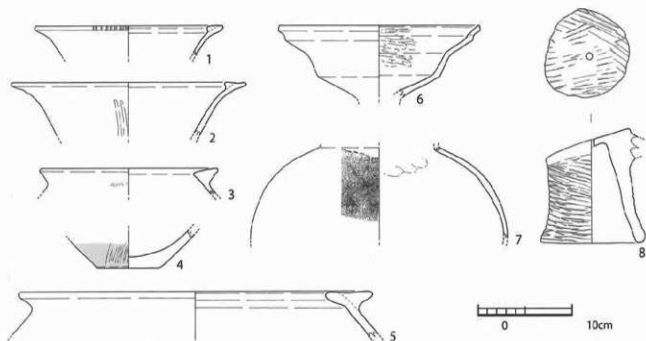


第89図 二反田遺跡SB52実測図 (S=1/80)

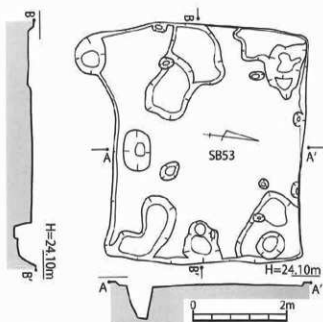
SB52 (第89・90図)

調査区中央の、前述のSB51の西側で検出された竪穴建物跡であり、一辺約5m四方の正方形に近い平面形である。主柱穴や炉跡等は明確ではない。

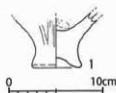
SB52出土遺物を第89図に示す。1・2は高坏形土器の坏部、3～5は甕形土器であり、5はその大ききから甕棺の可能性が高い。6は土師器の高坏型土器の坏部、7は土師器の壺形土器で頸部に沈線文と



第90図 二反田遺跡SB52出土遺物 (S=1/4)



第91図 二反田遺跡 SB53 実測図 (S=1/80)



第92図 二反田遺跡 SB53 出土遺物 (S=1/4)

波状文をもつ。8は器台でありタキ調整による成形がなされている。なお、1～5は、弥生時代中期、6～8は古墳時代前期に属するものと思われる。

SB53 (第91・92図)

調査区中央付近、前述のSB52の西隣で検出された竪穴建物跡である。長辺約5m、短辺約4mの長方形の平面形である。土坑が多く重なっていることもあり、主柱穴は明確でなく、炉跡等の火処は発見されていない。出土遺物は図化できたものは甕形土器の底部のみであった(第92図1)。やや根拠に弱いところもあるが、建物跡の形状と出土遺物より、SB53は弥生時代中期に即する可能性が高いものと思われる。

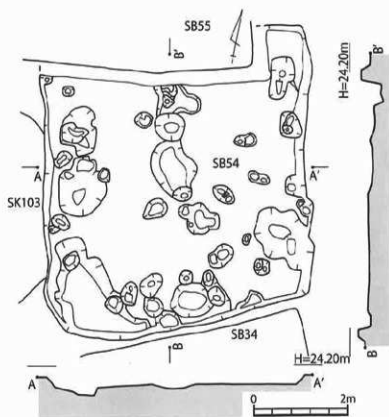
SB54 (第93・94図)

調査区中央やや西寄りで、SB55・56と切合い状態で検出された竪穴建物跡であり、調査時図面ではSB55に切られている。概ね、一辺約5mの正方形に近い平面形である。主柱穴は、検出されているピットからは4本主柱の可能性が考えられる。

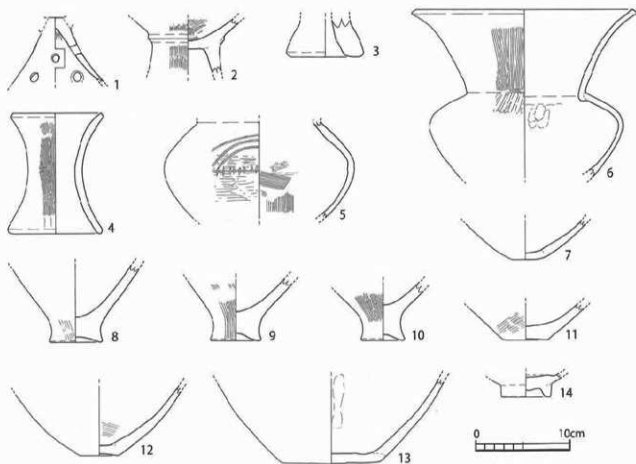
出土遺物はSB54内では集中せずに散在して出土している。1は古式土師器の小型器台の脚部、2は弥生式土器の高坏の脚部一坏部接合部、3は支脚の脚部片、4は筒形器台、5は甕形土器で胴部上半に沈線文で重弧文状の文様が施文されている。6は甕形土器、7～13は底部片、14は青磁である。出土遺物は弥生時代の土器が多いが、古式土師器や古代の青磁等も出土しており、SB54は複数時期の遺構が重なり合った結果である可能性もある。

SB55・56 (第95・97図)

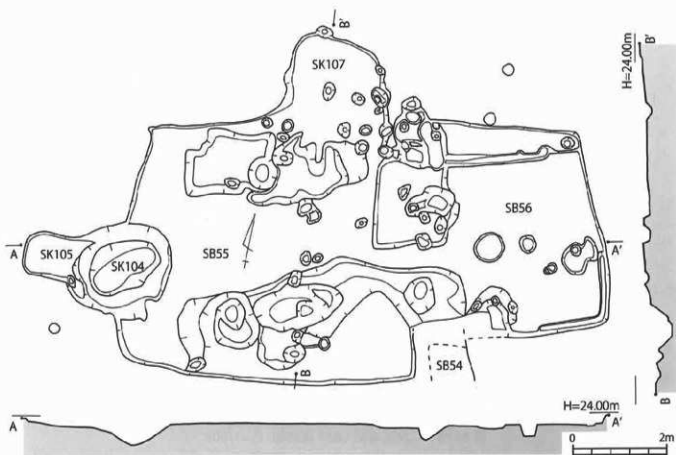
前述のSB54と切り合い状態で検出された竪穴建物跡であり、切り合い関係は現場作成の図面からもやや不明である。土坑やピット等も多く重なっており、不明瞭な箇所も多いが、SB55は一辺6m四方、SB56は一辺4m四方の正方形に近い平面形であると思われる。主柱穴や土坑は不明確であるが、SB56では建物跡中央に炉跡の可能性のある土坑がある。



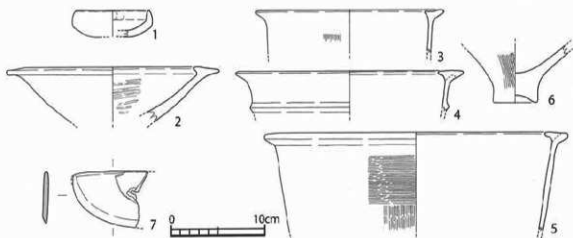
第 93 図 二反田遺跡 SB54 実測図 (S=1/80)



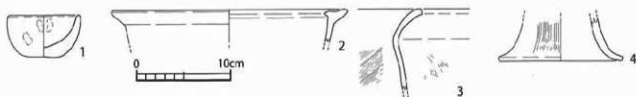
第 94 図 二反田遺跡 SB54 出土遺物 (S=1/4)



第 95 図 二反田遺跡 SB55・56 実測図 (S=1/80)



第 96 図 二反田遺跡 SB55 出土遺物 (S=1/4)



第 97 図 二反田遺跡 SB56 出土遺物 (S=1/4)

SK109

SB57

H=24.00m

H=24.00m

0 2m

第98図 二反田遺跡 SB57 実測図 (S=1/80)

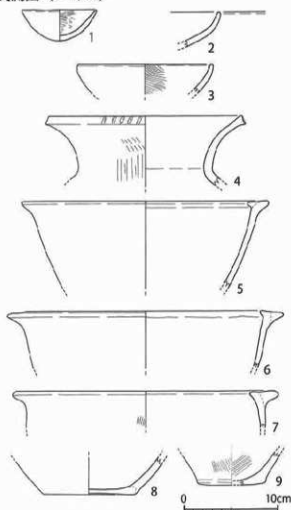
SB55 の出土遺物を第96図に示す。1は鉢形土器で、内面には指押さえ痕が明瞭に残り、手捏ね風の土器である。2は高坏形土器の坏部である。3～6は甕形土器で、口縁部は断面鋤先状になっており、底部は突出気味の平底で上げ底になっている。7は石包丁の破片である。これらの出土遺物は弥生時代中期に位置付けられる。

SB56 の出土遺物を第97図に示す。1は鉢形土器、2・3は甕形土器で、2は鋤先状口縁で弥生時代中期、3は「く」字口縁で弥生時代後期に属するものと思われる。4は脚部片で、脚付の鉢形土器の脚部の可能性が高いと思われる。

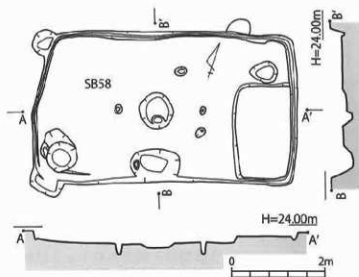
その他、SB55 では住居跡と重なって土坑等が存在しており、当該箇所に甕棺墓等が存在していた可能性も考えられることを指摘しておく。

SB57 (第98・99図)

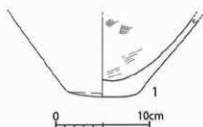
調査区中央やや北寄りで検出された竪穴建物跡であり、一辺約8mのほぼ正方形に近い平面形をした大型の建物跡である。炉跡等の火処ははっきりとしないが、検出されたピットの位置関係を考



第99図 二反田遺跡 SB57 出土遺物 (S=1/4)



第100図 二反田遺跡 SB58 実測図 (S=1/80)



第101図 二反田遺跡 SB58 出土遺物 (S=1/4)

慮すると4本主柱であった可能性が高いと思われる。

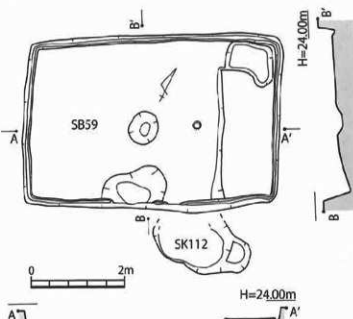
出土遺物を第99図に示すが、建物跡中央付近から出土している。1～3は鉢形土器であり、特に1は小型化していることから古式土師器と思われる。4は壺形土器で広口壺であり口縁部に刻目を有する。弥生時代後期～終末期に属するものと思われる。5～9は甕形土器であり、6・7の口縁部片は口縁部が鋤先状になっており、8・9の底部は平底である。5～9は弥生時代中期に属するものと思われる。

SB57の時期はやや決め手に欠けるが、正方形の4本主柱の建物跡である点と、1点ではあるが新しい時期の出土遺物に古墳時代前期の古式土師器が含まれていることから、古墳時代前期の建物跡である可能性が考えられる。

SB58 (第100・101図)

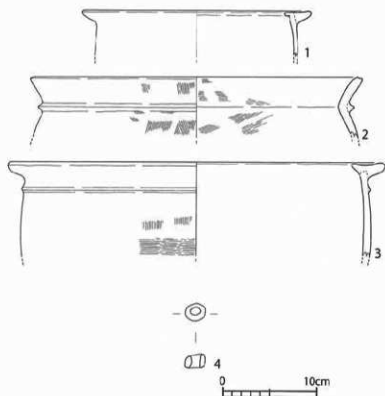
調査区北側で検出された竪穴建物跡であり、長辺約5m、短辺約3mの長方形の平面形をしている。東西方向に長辺を持ち、建物跡東壁に沿ってベッド状遺構を有する。建物跡中央には戸跡の可能性のある土坑があり、その土坑の東西両側で主柱穴の可能性のあるピット2基が検出されていることから、主柱穴は2本である可能性が考えられる。また、建物跡南壁中央部に土坑1基がある。出土遺物は少なく、図化できたものは1点のみであった。第101図1はSB58出土の甕形土器底部である。

SB58もやや時期の決め手に欠けるが、出土土器から弥生時代後期前後の時期が想定される。



第102図 二反田遺跡 SB59 実測図 (S=1/80)

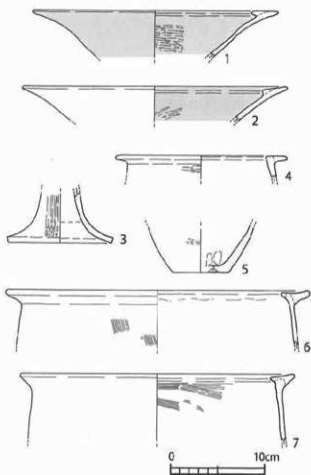
調査区北側で検出された竪穴建物跡であり、前述のSB58の北側で検出された。南東～北西方向に長軸を持ち、長辺約5m、短辺



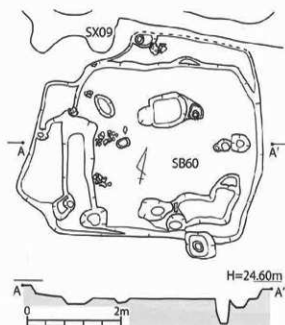
第 103 図 二反田遺跡 SB59 出土遺物 (S=1/4)

約 4 m の長方形の建物跡である。建物跡東壁に沿ってベッド状遺構を有している。建物跡中央に炉跡の可能性のある土坑を有しており、その土坑の東側で柱穴の可能性のあるピットが検出されていることから、主柱穴は 2 本であった可能性が考えられる。また、住居跡南壁中央付近に土坑が 1 基存在する。

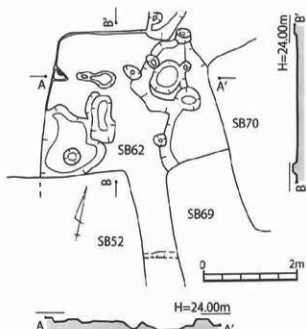
出土遺物を第 103 図に示す。1～3 は甕形土器であり 1 と 3 は鋤先状口縁であり、2 は断面「く」字形の口縁部であることから、1・3 は弥生時代中期、2 は弥生時代後期に属するものと思われる。また、2・3 は頸部の下位に 1 条の突帯を添付している。4 はガラス玉で青色をしている。以下は推測でしかないが、SB59 の下位には土坑 (SK112) が



第 105 図 二反田遺跡 SB60 出土遺物 (S=1/4)



第 104 図 二反田遺跡 SB60 実測図 (S=1/80)

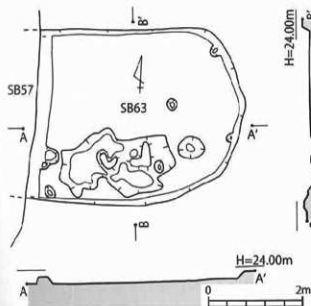


第106図 二反田遺跡 SB62 実測図 (S=1/80)

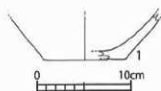
るが、別の建物跡が存在する可能性も否定できず、SB60に伴うものであるか判然としなかった。出土遺物を第105図に示すが、土器は建物跡の北側と西側でまとまりをもって出土している状況が、調査時図面から確認される。1～3は高環形土器であり、1・2は坏部片、3は脚部片であり、赤彩がなされている。4～7は甕形土器である。4と5は、胎土や調整手法の特徴が類似することから接点を持たないが同一個体である可能性が非常に高い。高環型土器も甕形土器も、口縁部は断面鑷先状になっており、土器は弥生時代中期に属するものと思われ、SB60の時期も弥生時代中期と思われる。

SB62 (第106・107図)

調査区中央付近で検出された竪穴建物跡であり、SB52・SB69・SB70と切合い関係にあり、調査時の図面ではSB62がSB52・SB69・SB70に切られており、建物跡は北西部が残存している状況が読み取れ



第108図 二反田遺跡 SB63 実測図 (S=1/80)

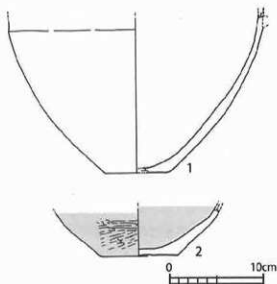


第107図 二反田遺跡 SB62 出土遺物 (S=1/4)

あり、その規模や形状から甕形墓の土坑の可能性も考えられることから、SB59出土のガラス玉はもともとSK112に伴っていた可能性も否定できないと思われる。

SB60 (第104・105図)

調査区北端部で検出された竪穴建物跡である。建物跡北側はSX09による攪乱等でやや形状が乱れているが、一辺約4mのほぼ正方形の平面形をしている。調査時の図面では住居跡西側に張り出し部分が確認され

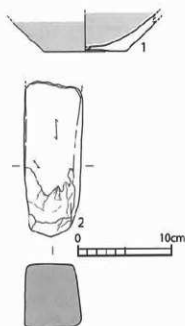


第109図 二反田遺跡 SB63 出土遺物 1 (S=1/4)

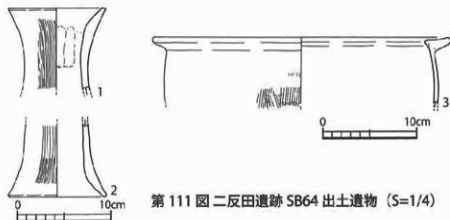
る。そのため、平面形はやや不確定な部分もあるが、南北約5m、東西約4m程度の方形の平面形であったものと思われる。また、SB62は土坑等も複数重なっているため、炉跡等の火処や支柱穴、ベッド状遺構の有無等は、はっきりとしない点も多い。出土遺物は確認された土器のうち図化可能であるものは甕形土器の底部片のみである(第107図1)。よって遺構の時期はやや不明ではあるが、調査時の状況を重視すればSB52・SB69・SB70からは弥生時代中期の土器が出土していることから、それに先行するSB62も弥生時代中期に属する可能性が高いものと思われる。

SB63 (第108～110図)

調査区中央やや北寄りで検出された竪穴建物跡であり、西側でSB57に切られている。東西の残存部で約4m、南北約4mの、やや丸みを帯びた方形をしているが、検出されているピットの配置からは南東―北西方向に長辺をもつ平面長方形で2本支柱の建物跡である可能性が考えられる。



第110図 二反田遺跡 SB63
出土遺物 2 (S=1/4)



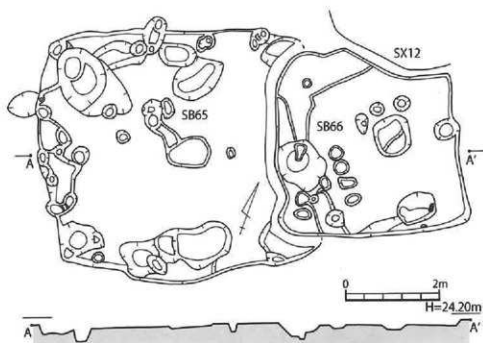
第111図 二反田遺跡 SB64 出土遺物 (S=1/4)

出土遺物を109図・110図に示す。109図1・2および110図1は甕形土器の底部および下半部である。109図1・110図1は赤彩が施されており、109図2の土器は外面にミガキ調整が施されている。これらの土器はその特徴から弥生時代中期に属するものと思われる。110図2は石英長石斑岩製の砥石片であり、表面の一部で使用による摩耗痕跡が確認される。

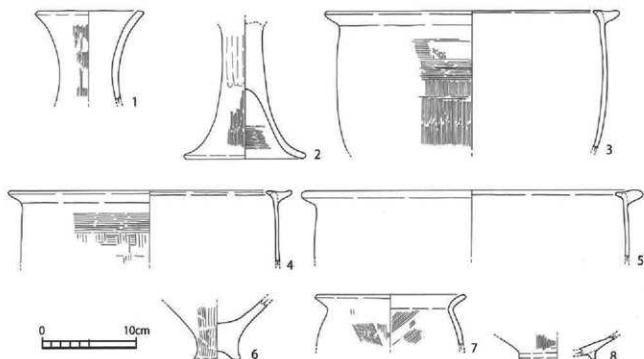
SB64 (第111図)

SB64は、調査時図面の中で記載箇所を見つけないことができず、検討したがどの遺構であるか判別することができなかったものである。よって詳細は不明と言わざるを得ないが、出土遺物は存在するため、出土遺物のみを報告する。

第111図1・2は、筒形器台であり、接合はしないが胎土や調整等から同一個体の可能性が高いと思われる。3は甕形土器の上半部片である。口縁部の断面は鋸先状となっており、弥生時代中期に属するものと思われる。



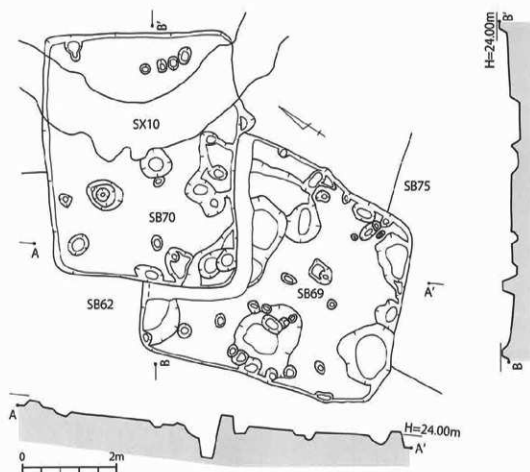
第 112 図 二反田遺跡 SB65 実測図 (S=1/80)



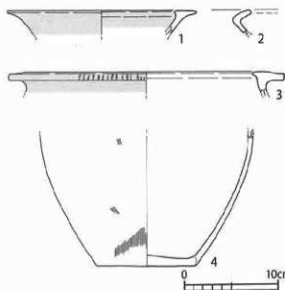
第 113 図 二反田遺跡 SB67 出土遺物 (S=1/4)

SB65・66 (第 112 図)

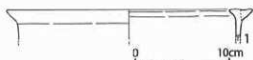
調査区中央やや東寄りで見出された竪穴建物跡であり、調査時の図面では SB66 が SB65 を切っている。SB65 は一辺 6 m の正方形、SB66 は一辺約 4 m の正方形の平面形である。ともに建物跡中央に土坑を有し、炉跡である可能性がある。検出されているピットや土坑の位置等からは、柱穴は必ずしも明確でなく主柱穴数は判然としない。出土遺物は今回の整理作業では確認されなかったため、時期を確定することが困難であるが、二反田遺跡での遺構の検出状況や住居跡平面形の類似点等を考慮すると、SB65・SB66 ともに弥生時代中期に位置づけられる可能性が高いのではないと思われる。



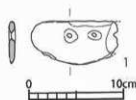
第 114 図 二反田遺跡 SB69・70 実測図 (S=1/80)



第 115 図 二反田遺跡 SB69 出土遺物 (S=1/4)



第 116 図 二反田遺跡 SB70 出土遺物 1 (S=1/4)

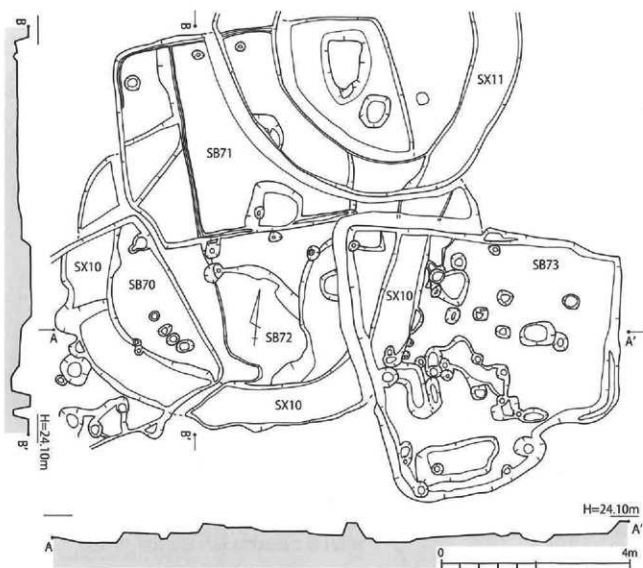


第 117 図 二反田遺跡 SB70 出土遺物 2 (S=1/4)

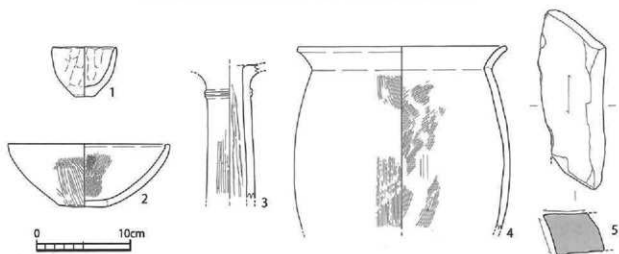
SB67 (第 113 図)

SB67 は掘立柱建物である。

出土遺物を第 113 図に示す。1 は筒形器台、2 は高環型土器の脚部である。3～7 は甕形土器であり、口縁部は断面鋤先状のもの(4・5)と、断面「く」字状のもの(7)とがある。8 は土師器の高台付坏であり、古代に属する。SB67 出土土器は 7・8 を除けば弥生時代中期に位置づけられる。



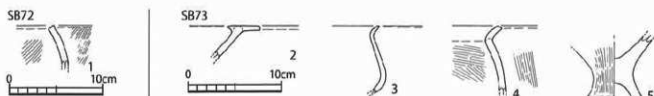
第118図 二反田遺跡 SB71・72・73 実測図 (S=1/80)



第119図 二反田遺跡 SB71 出土遺物 1 (S=1/4)

SB69・70 (第114・117図)

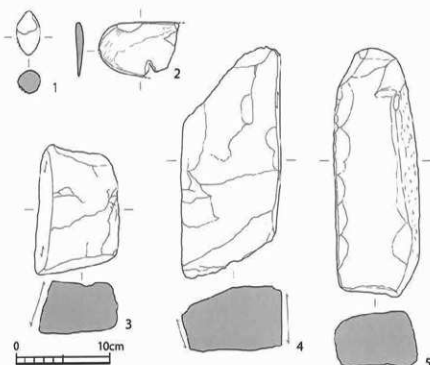
調査区中央付近で検出された竪穴建物跡であり、調査区の中でも竪穴建物跡が多く重複している箇所のひとつである。調査時の図面によれば、SB70がSB69とSB72を切っており、SB69はSB75を切ってい



第120図 二反田遺跡SB72・73 出土遺物 (S=1/4)

る。また、SB70は東側でSX06と重複している。SB69は長辺約5m、短辺約4mの方形の平面形であり、SB70は長辺6m、短辺4mの長方形の平面形をしている。柱穴はSB69・SB70ともに2本主柱である可能性が考えられる。また、SB70では建物跡中央に土坑があり、炉跡の可能性もある。

SB69の出土遺物を第115図に示す。1は高坏型土器の坏部であり赤彩がなされている。2は甕形土器ないし鉢形土器の口縁部片、3・4は甕形土器で、3は赤彩および口縁端部に刻目が施されている。これら出土遺物の諸特徴から、SB69は弥生時代中期の建物跡であると思われる。



第121図 二反田遺跡SB73 出土遺物 (S=1/4)

SB70の出土遺物を第116図・第117図に示す。116図1は甕形土器で口縁部断面は鋤先状であり、弥生時代中期に属するものと思われる。117図1は石包丁であり、一部を欠損している。

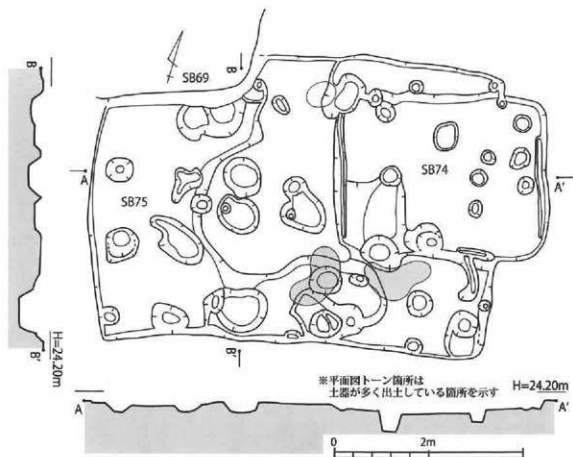
SB71・72・73 (第118～121図)

調査区中央やや北東寄りで検出された竪穴建物跡である。その他にも周溝状遺構(SX)も重なって検出されており、前後関係等にはやや不明な箇所も存在する。調査時の記録からは、SB71とSB72の前後関係ははっきりとせず、SB72はSB70・SB73に切られている状況が確認できる。

SB71は、長辺約6m、短辺約4mの長方形の平面形であり、SX11に切られていて判然としないが建物跡中央に炉跡の可能性のある土坑が存在する。主柱穴は検出されているピットからは判然としないが、2本主柱である可能性が考えられる。出土遺物を第119図に示す。1は手捏ねの鉢形土器、2は鉢形土器、3は高坏型土器の脚部、4は甕形土器、5は砥石の破片である。

SB72は土坑や周溝状遺構(SX10)、SB70・SB73などと重なって不明瞭な箇所も存在するため、平面形や規模は判然としないが、平面形は長方形のようである。主柱穴・炉跡等は判然としない。SB72出土遺物を第120図に示す。

SB73はやや不整形な台形状の平面形であり、一辺約6～7mの規模である。南側に張り出すような形状にも見えるが、別の土坑が重なって存在している可能性もある。出土遺物を第120・121図に示す。



第 122 図 二反田遺跡 SB74・75 実測図 (S=1/80)

120 図 2 は高環形土器の坏部片、120 図 3 は鉢形土器、120 図 4・5 は甕形土器である。121 図 1 は投弾と思われる。2 は石包丁で半分欠損している。3～5 は砥石の破片である。

SB74・75 (第 122～127 図)

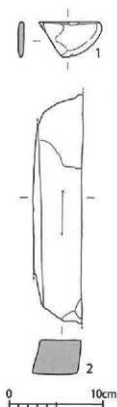
調査区中央やや東寄りで検出された竪穴建物跡であり、重なった状態で検出されている。

SB74 は一辺約 4 m の方形の平面形であり、主柱穴は 2 本主柱・4 本主柱の両方の可能性があり、検出されているピットからは判然としない。

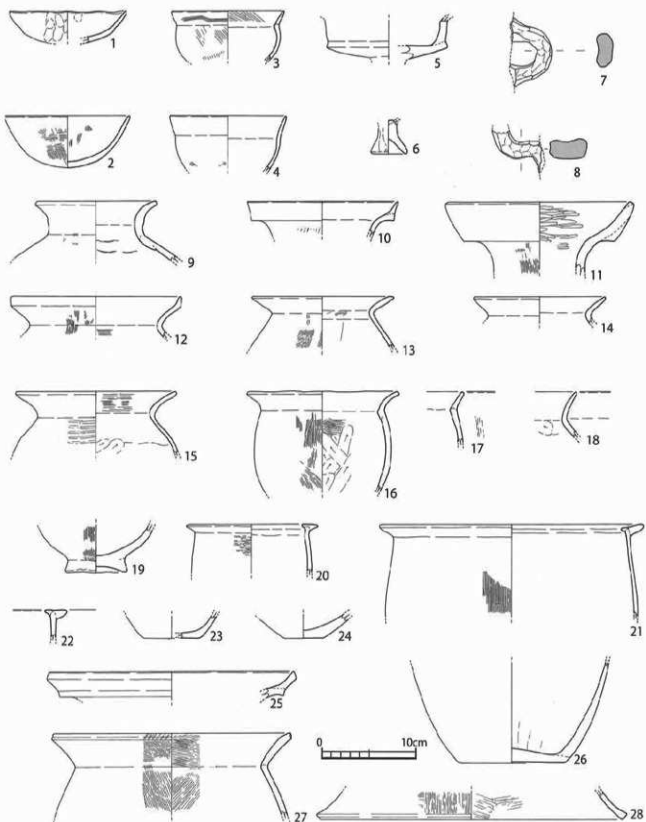
SB75 は長辺約 8 m、短辺約 6 m の長方形の平面形であり、北西を SB69 により切られている。土坑等も含め遺構が多く重なっていて、不明瞭な点も多いが、建物跡中央付近に炉跡の可能性のある土坑も検出されている。主柱穴数は検出されているピットも多く、図面上では 2 本・4 本の判断は困難で明確ではないが、位置関係等から 2 本主柱の可能性が強いのではないかとと思われる。遺物は建物跡北側および南東側でまとまって出土している状況が確認された。

SB74 出土遺物を第 123 図・第 124 図に示す。123 図 1 は石包丁の破片、2 は粘板岩製の砥石である。

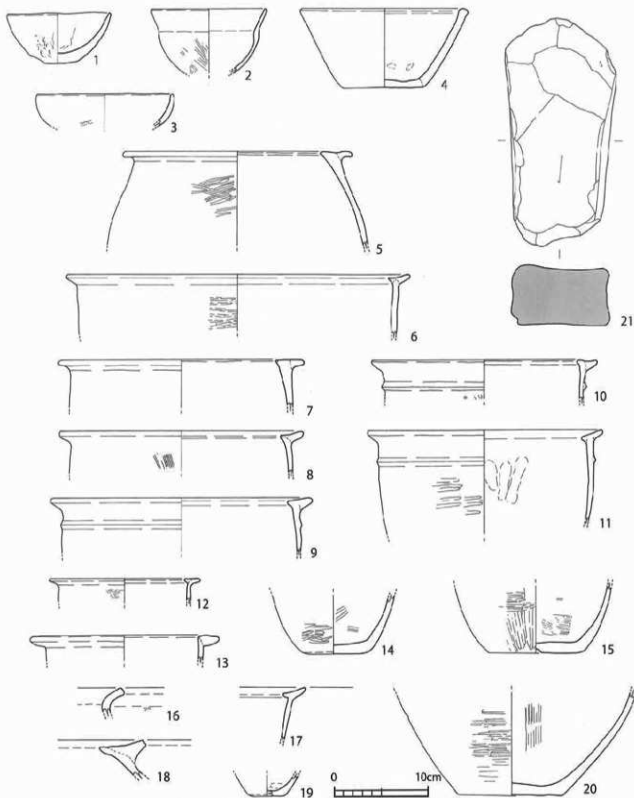
124 図 1～4 は古式土師器の鉢形土器、5 は高環型土器の坏部、6 はミニチュア土器の脚部である。7・8 は把手であるが、一見甕形土器の把手



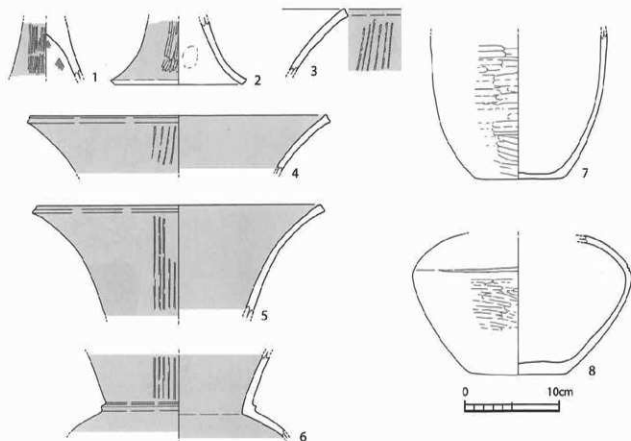
第 123 図 二反田遺跡
SB74 出土遺物 1
(S=1/4)



第 124 図 二反田遺跡 SB74 出土遺物 2 (S=1/4)



第 125 図 二反田遺跡 SB75 出土遺物 1 (S=1/4)

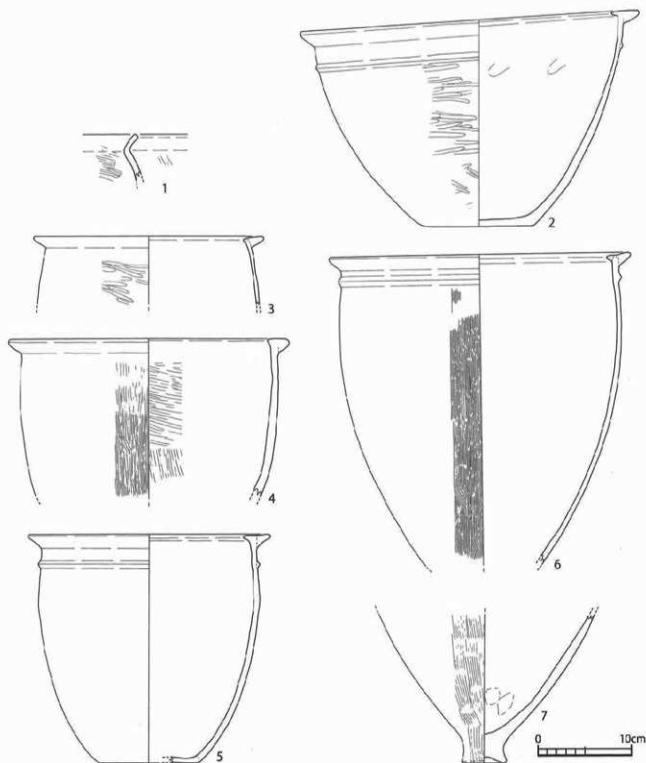


第126図 二反田遺跡 SB75 出土遺物2 (S=1/4)

に近い断面形状をしているが、土器本体と2箇所で接合面を持ち、輪っか上の把手になる点で異なっている。124図7の把手の接合箇所粘土剥離面を観察すると、土器の正位置から水平方向ではなく垂直方向に添付されていた可能性が高いと思われる。形態の類例としては、いわゆる「山陰系甔形土器」と共通する作りであり、器形としてはこの形である可能性が高いものと思われる。124図9～11は壺形土器である。124図9は広口の壺形土器、124図10・11は二重口縁壺の口縁部である。

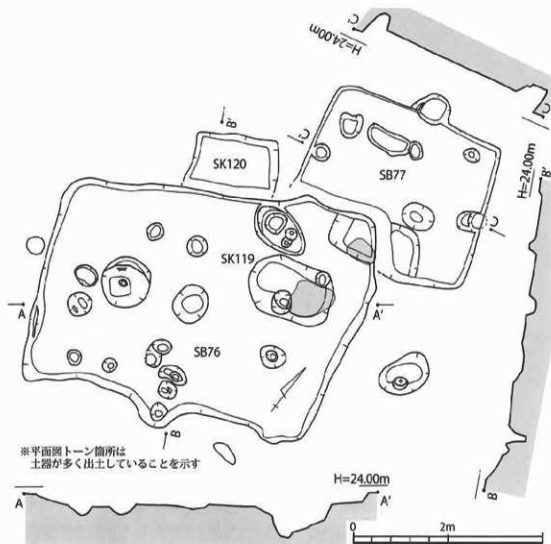
124図12～18は甔形土器である。124図12は口縁部が受口状になっている。124図13・14はタテ方向のハケ目調整の後頸部付近をナデ調整により整形している土器である。124図15は外面に水平方向に近い右上がりのタキ調整が施されており、内面下半部にはケズリ調整が確認できる。近畿第5様式変容系の土器との共通性がみられる土器である。124図16は九州在来系の甔形土器であるが、内面にはケズリ調整が施される。124図17・18は甔形土器の小片である。124図19は底部片であるが、底部は上げ底気味の平底になっている。124図20～24は弥生時代中期に属する第11図に出土遺物を示す。1～5は鉢形土器であり、4は脚台を有している。いずれも弥生後期土器と比して小型化している特徴がみられる。6・7は高坏形土器であり、6の外面には横方向のミガキ、7は脚台に4箇所の穿孔がなされている。8～14は甔形土器である。8は口縁部がやや長く、布留式と思われる甔形土器である。口縁部断面は鋤先状になっており、底部は平底である状況が確認できる。124図25は二重口縁壺の口縁部、124図26は甔形土器の下半部である。124図27は弥生時代後期の甔形土器で、口縁端部に刻目を有する。

SB75出土土器を第125図～第127図に示す。125図1～4は鉢形土器で、1～3は古式土師器である。125図5～20は甔形土器である。うち、口縁部が確認できるものは125図16を除き断面は鋤先状であり、底部は平底である。また、125図18は、小片であるが器壁が厚く大きいなどの特徴から、甔形の破片である可能性がある。126図1・2は高坏の脚部片、126図3～6は壺形土器の口縁部及びその付



第 127 図 二反田遺跡 SB75 出土遺物 3 (S=1/4)

近であり、外面にはミガキにより暗文状に施文され、赤彩がなされている。126 図 7 は壺形土器ないし甕形土器の下半部、126 図 8 は壺形土器の胴部～底部であり、胴部最大径付近に 2 条の沈線文が施される。127 図 1～7 は甕形土器であり、127 図 1 は口縁部断面が「く」字形、127 図 2～6 は口縁部断面が鋤先状となるが、127 図 3・4 はあまり内面に肥厚しない形態である。また、127 図 2・5・6 は口縁部下位の胴部に 1 条の突帯を有している。127 図 7 は底部片であり、底部は上げ底状の突出平底となっている。SB75 から出土した遺物の大半は弥生時代中期に属することから、SB75 は弥生時代中期に属する可能性が高いものと思われる。また、SB74 では弥生時代の遺物とともに古墳時代前期の古式土師器が多く出土し



第128図 二反田遺跡 SB76・77 実測図 (S=1/80)

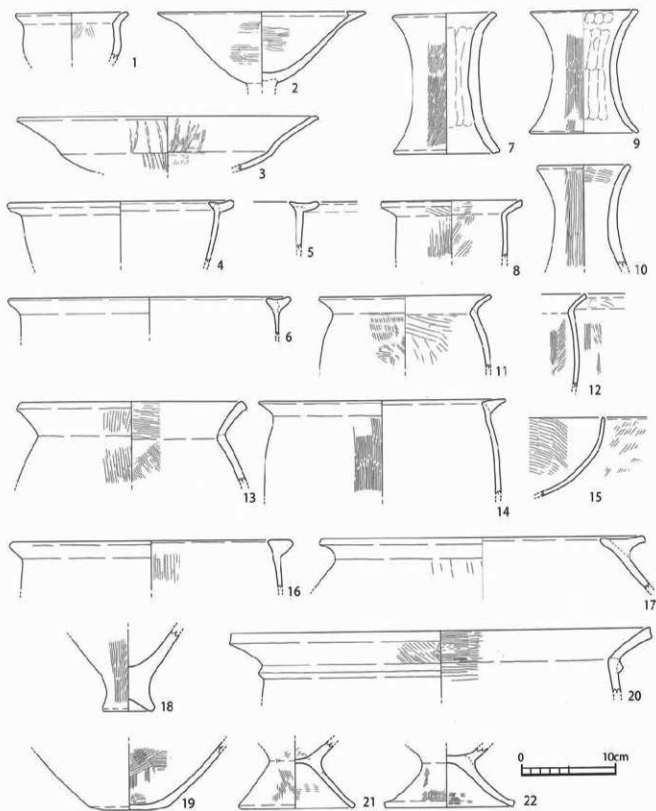
ていることから、SB74 は古墳時代前期に属する可能性が高い。また建物跡が重なっているため、SB75 で出土している古式土師器は SB74 で出土している古式土師器と同一廃棄である可能性も考えられる。

SB76・77 (第128～130図)

調査区北端部で検出された竪穴建物跡であり、調査時図面では SB76 が SB77 を切っている。SB76 は北東―南西方向に長軸をとり、長辺約 7 m 短辺約 4 m の長方形の平面形をしている。

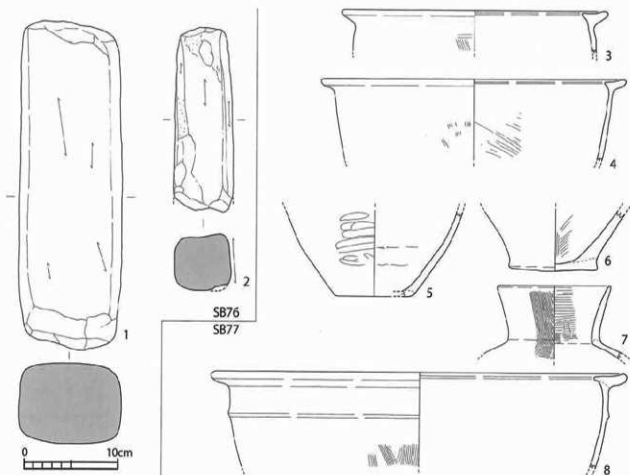
SB77 は、長辺約 4 m、短辺約 3.5 m の正方形に近い平面形をしている。検出されている土坑・ピット等からは、SB76 の支柱穴数や炉跡等の特定は困難であった。

SB76 出土土器を第129および130図1・2に示す。129図1は鉢形土器片、129図2・3は高環型土器の坏部片、129図4～6は口縁部断面が鋤先状の甕形土器、129図7・9・10は筒形器台、129図8・11～13は口縁部断面が「く」字形の甕形土器、129図14・16は口縁部断面が「く」字形に変化しようとしている甕形土器、129図15は鉢形土器の小片、129図17は甕棺の破片の可能性のある小片、129図18は上げ底風の突出平底となる甕形土器の底部、129図19はレンズ状底の底部片、129図21・22は脚台付甕形土器の脚部である。130図1は石英長石斑岩の石材であり、一部欠損している。SB76 と SB77 が重なる部分付近で出土しているようである。かなりの大型品であるが、表面は長方形に成形され



第 129 図 二反田遺跡 SB76 出土遺物 1 (S=1/4)

て、滑らかに仕上げられているものの、砥石として使用されて磨滅した痕跡は確認できず、むしろ、直方体の形状を整えるために調整がなされたような印象を受ける。このことから、未使用状態の砥石か、何らかの使用目的のある立方体形状の石（例えば、標柱など）、もしくは石材として持ち込まれた可能性も考えられる。石英長石斑岩は、八女市では砥石として出土することが多い石材のひとつであるが、近年では青銅器鋳型の材料として使用されている可能性が指摘され始めている。このことから、青銅器鋳型の材料

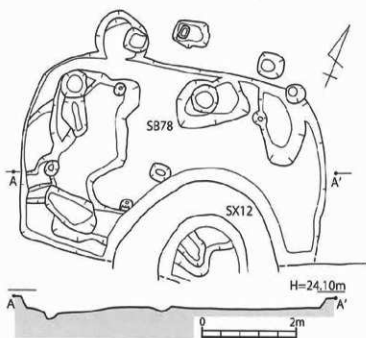


第130図 二反田遺跡 SB76・77 出土遺物2 (S=1/4)

である可能性もある。130図2は砥石である

SB77出土土器を第130図3～8および第132図15に示す。130図3～6は甕形土器であり、口縁部は断面鋤先状、底部は平底である。130図7は古式土師器の広口壺形土器の口縁部、130図8は大型の甕形土器口縁部である。132図15は安山岩製の敲石であり、敲打痕が確認できる。

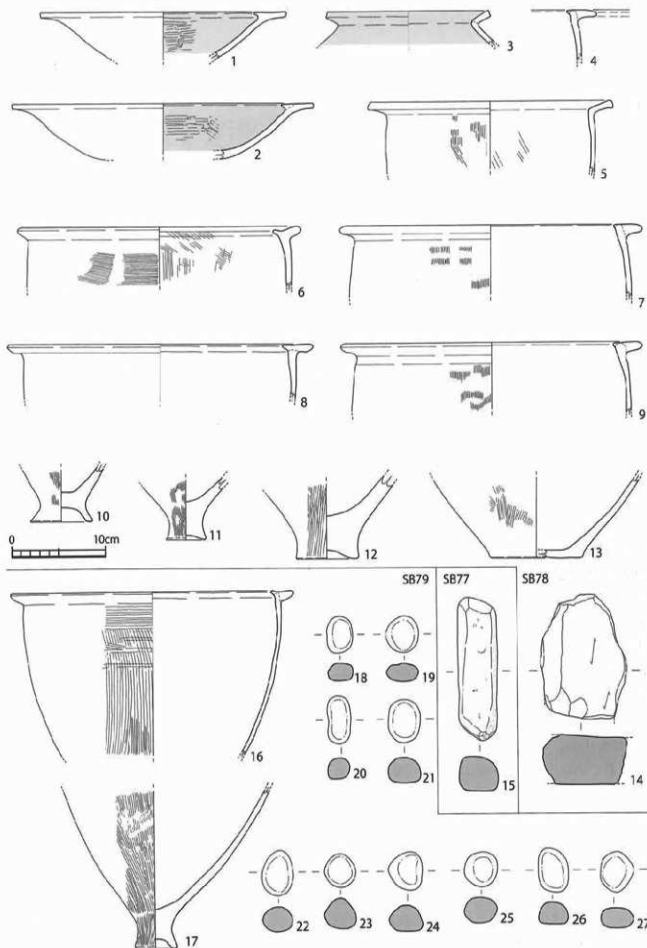
SB76・SB77ともに弥生時代から古墳時代前期にかけての遺物がみられるが、住居跡の形状等も考慮するとSB77は正方形の平面形がSB36やSB74等と共通する点で古墳時代前期に位置づけられる可能性があり、SB76は弥生時代後期～終末期に位置づけられる可能性がある。



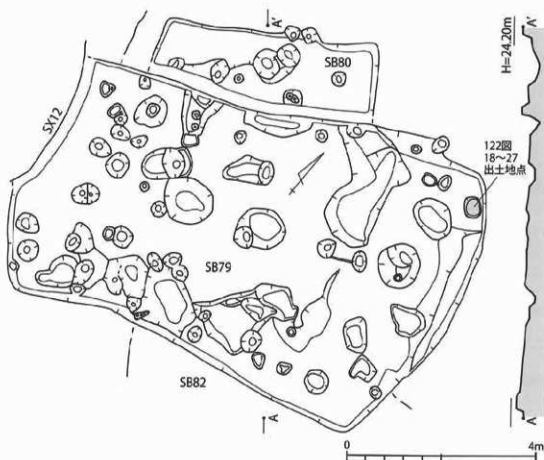
第131図 二反田遺跡 SB78 実測図 (S=1/80)

SB78 (第131・132図)

調査区北東で検出された竪穴建物跡であり、東西方向に長軸を取る、長辺約6m、短辺約4mの長方形



第 132 圖 二反田遺跡 SB78 出土遺物 (S=1/4)



第133図 二反田遺跡 SB79・80 実測図 (S=1/80)

の建物跡である。SX12や土坑等が重なっており、柱穴や炉跡等の火処は不明な箇所も多い。

出土遺物を第132図に示す。1・2は高環形土器、3は広口の壺形土器であり、ミガキ調整がなされ、赤彩がなされている。4～13は甕形土器であり、口縁部はほとんどが断面鋤先状口縁であるが、5は断面「く」字形の口縁部である。10～12は脚部であり、13は平底の底部である。14は石英長石斑岩製の砥石片である。

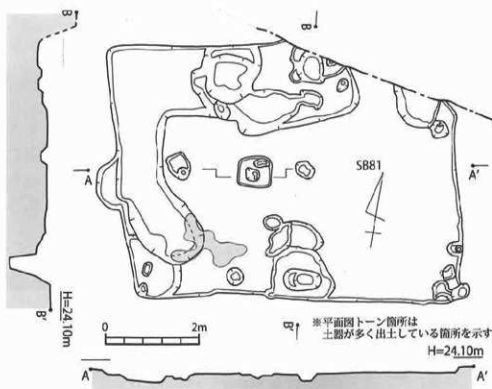


第134図 二反田遺跡
SB80 出土遺物 (S=1/4)

SB79・80 (第133・134図)

調査区北東で検出された竪穴建物跡であり、調査時の記録によればSB79がSB80を切っている。SB79は長辺約10m、短辺約6mの長方形の平面形であり、北東-南西方向に長軸を持つ。北西部分をSX12に切られている。建物跡中央に炉跡の可能性のある土坑を有する。SB79ではピットが多く検出されており、ピットの位置関係では2本主柱・4本主柱ともに成り立つ可能性があるが、2本主柱である可能性が高いものと思われる。出土遺物を第132図16～27に示す。16・17は甕形土器であり接点はないが、同一個体である可能性が高いと思われる。18～27は円礫であるが、住居跡北東隅のピット内から出土した47点のうち、10点を掲載した。ピット内に意図的に集められたような状況で出土している。

SB80はSB79の北側で検出された竪穴建物である。東西は約4.5mであるが、SB79に切られているため、南北方向の規模は不明である。SB79内で検出されているピットも合わせて検討すると、2本主柱であった可能性が高いものと思われる。出土遺物は手捏ね風の小型の鉢型土器が1点出土している(第134図1)。



第135図 二反田遺跡 SB81 実測図 (S=1/80)

SB81 (第135・136図)

調査区北東端部で検出された竪穴建物跡であり、北東部分が調査区外にのびている。

東西方向に長軸を持ち、長辺約7m、短辺約5mの長方形の平面形である。建物跡中央やや西寄りに土坑があり、炉跡があるとすればこの土坑が炉跡である可能性がある。この土坑の東西にピットが1基ずつ確認され、柱穴の可能性がある。

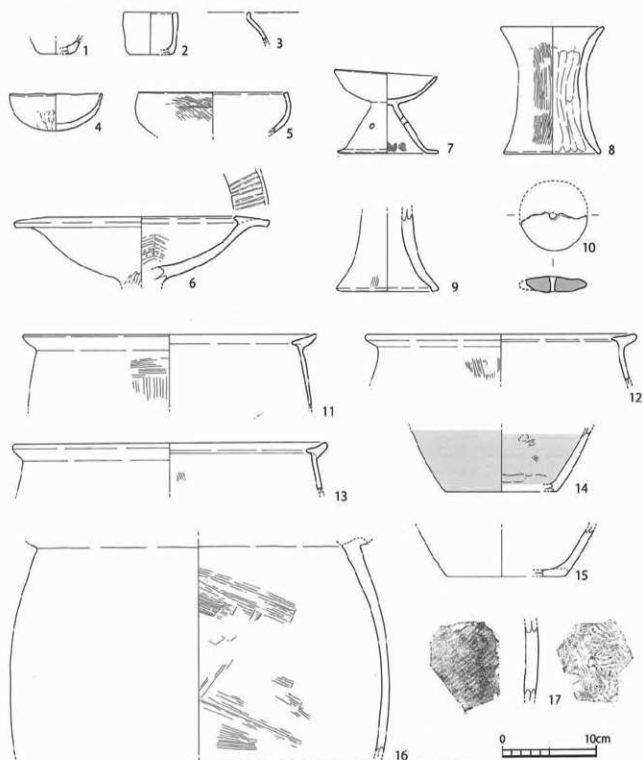
出土遺物を第136図に示す。1～5は鉢形土器である。小型である点を考慮すれば古式土師器である可能性が高い。6は高坏形土器で口縁部断面が鋤先状になっていることから、弥生時代中期に属するものと思われる。7は小型器台で脚部に円形の穿孔が3箇所施されている。古墳時代前期の古式土師器である。8・9は筒形器台で弥生時代に属する。10は土製紡錘車である。11～16は甕形土器であり、口縁部が確認できるものは断面鋤先状であり、底部は平底である。17は須恵器甕の胴部片である。

SB81は、建物跡の形状と出土遺物より、弥生時代中期もしくは古墳時代前期に属するものと思われる。

SB82・83 (第137～139図)

調査区北東部で検出された竪穴建物跡であり、調査時図面ではSB83がSB82を切っており、さらにSB82は北側をSB79に切られている。そのためSB82はやや不明瞭な点も残るが、東西約6mの方形の平面形をしているものと思われる。SB83は東西方向に長軸をとり、長辺約5m、短辺約4mの長方形の平面形をしている。住居跡の中央に土坑があり、炉跡の可能性がある。また、この土坑の東西にピットがあり、主柱穴の可能性が考えられることから、SB83は2本主柱である可能性が高いと思われる。

SB82の出土遺物を第138図に示す。1・2は支脚であり、胎土や調整手法から同一個体の可能性が高いと思われるものである。3は筒型器台、4は広口の壺形土器である。5～10は甕形土器の口縁部片、9は口縁部断面が「く」字状であり、それ以外は断面鋤先状となっている。また、10は頸部の下位に1

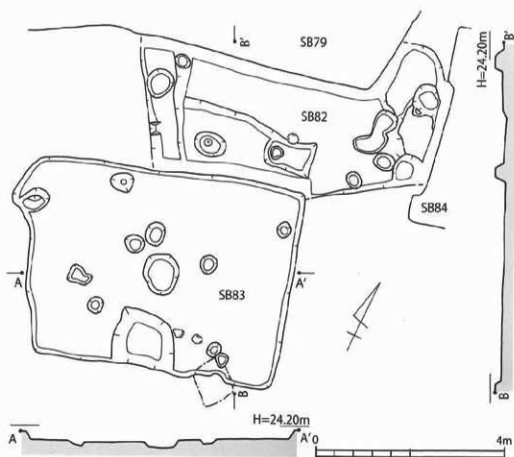


第136図 二反田遺跡 SB81 出土遺物 (S=1/4)

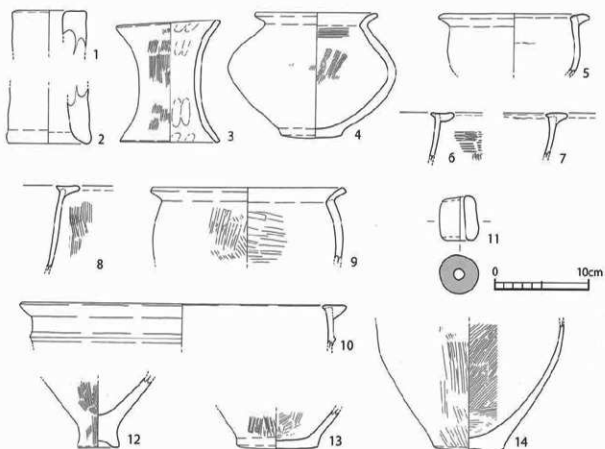
条の突帯を有している。11は土鍾である。12から14は甕形土器の底部である。

SB82は、弥生時代中期と思われる遺物（5～8、10・12）と弥生時代後期と思われる遺物（9・13・14）が存在し、弥生時代に属する可能性が高いと思われるが詳細は決め手に欠ける。

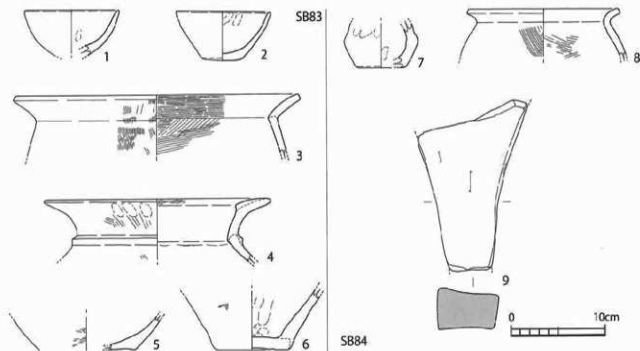
SB83出土土器を第139図1～6に示す。1・2は小型の鉢型土器、3は甕形土器の口縁部で口縁部断面は「く」字状になっている。4は壺形土器、5・6は底部片で平底である。SB83は出土土器から弥生時代後期に属する可能性が考えられる。



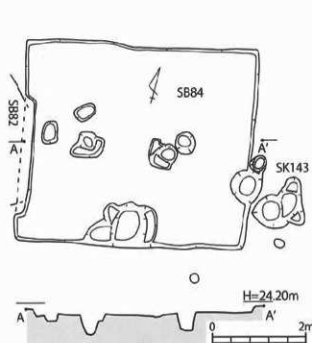
第 137 図 二反田遺跡 SB82・83 実測図 (S=1/80)



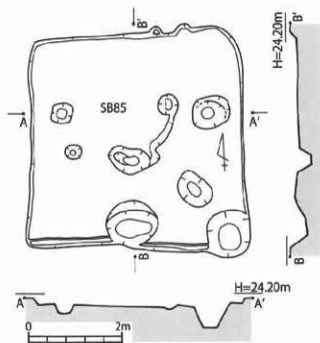
第 138 図 二反田遺跡 SB82 出土遺物 (S=1/4)



第139図 二反田遺跡 SB83・84 出土遺物 (S=1/4)



第140図 二反田遺跡 SB84 実測図 (S=1/80)



第141図 二反田遺跡 SB85 実測図 (S=1/80)

SB84 (第140図)

前述のSB83の東側で検出された竪穴建物跡であり、西側でSB82と重なる。一辺約4.5mの正方形に近い平面形をしている。炉跡等の火処となりそうな土坑等ははっきりとしないが、東西方向に柱穴が2箇所存在し、2本主柱の可能性ある。建物跡南側に炉跡を有している。出土遺物を第136図7～9に示す。7は小型の壺形土器で、内外面に指押さえ痕が顕著にみられる。8は甕形土器の口縁部片であり、口縁部は断面「く」字状になっているが、頸部の屈曲はやや丸みを帯びている。9は砥石であり、かなり使い込まれて摩耗している。

SB84 は出土遺物も少ないが、建物跡形状の特徴や出土遺物等から、弥生時代終末期～古墳時代初頭前後に位置付けられるものと思われる。

SB85 (第 141・142 図)

調査区北東部で検出された竪穴建物跡であり、一辺約 4 m の正方形に近い平面形をしている。建物跡中央に土坑があり、炉跡の可能性もある、ピットは建物内で複数確認されているが、位置関係等からは支柱穴数は判然としない。

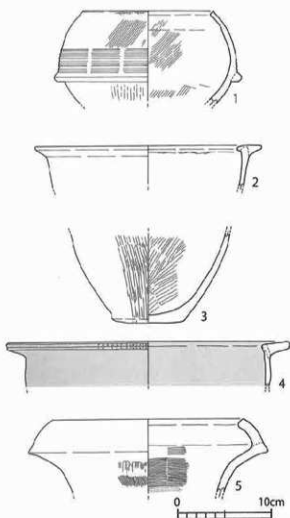
SB85 出土遺物を第 142 図に示す。1 は鉢形土器で胴部に 1 条の突帯を持ち、その上位に水平方向の沈線を有する。2～4 は甕形土器であり、口縁部は断面鋤先状であり、底部は平底である。5 は腹と状口縁の壺形土器である。出土土器には弥生時代中期と思われるものと弥生時代後期と思われるものが存在しているが、弥生時代後期の遺物が多いことから、SB85 の時期は弥生時代後期の可能性が高いと思われる。

SB86 (第 143・144 図)

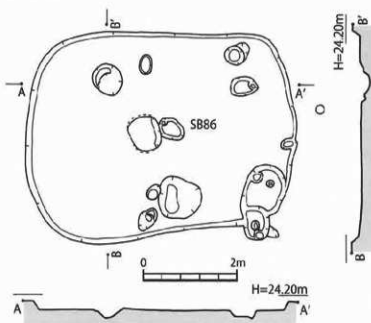
調査区北東部で検出された竪穴建物跡であり、長辺は最大部で約 6 m、短辺約 4 m の、やや西側が隅丸な正方形に近い平面形で検出されている。建物跡中央に炉跡の可能性もある土坑があり、検出されているピットより、4 本支柱である可能性が考えられる。

出土遺物は建物跡南東側で多く検出されている。出土遺物を第 144 図に示す。1 は鉢形土器、2・3 は高環形土器で口縁部断面は鋤先状になっており、赤彩がなされて 4・5 は甕形土器の口縁部であり口縁部断面は鋤先状になっている。6～8 は甕形土器の底部片で、6 は突出気味の上げ底、7・8 は平底である。9～11 は石包丁、12 は磨製石斧である。

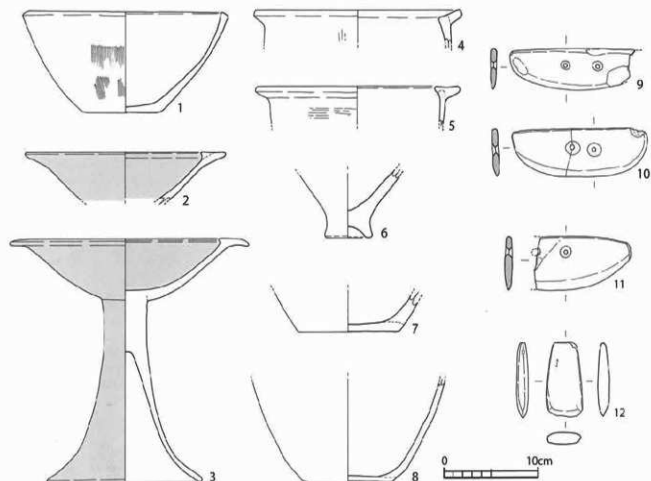
出土遺物は土器の特徴等から弥生時代中期に位置づけられることから、SB86 は弥生時代中期の建物跡であると思われる。



第 142 図 二反田遺跡 SB85 出土遺物 (S=1/4)



第 143 図 二反田遺跡 SB86 実測図 (S=1/80)



第 144 図 二反田遺跡 SB86 出土遺物 (S=1/4)

SB87・88 (第 145～147 図)

調査区北東端で重なる形で検出された竪穴建物跡であり、東側は調査区外に延びている。

調査時図面では SB88 が SB87 に切られている状況が確認できる。

SB87 は長辺 6 m 以上、短辺は 4 m の長方形の平面形である。建物跡中央に炉跡の可能性のある土坑が 1 基確認できる。また、ピットも数基検出されているが、配置等からは主柱穴数は判然としない。

SB87 の出土遺物を第 146 図に示す。1・2 は小型の鉢形土器、3 は器台の上半部片と思われる。4 は支脚の上半部、5・6 は甕形土器の口縁部であり、5 の口縁部断面は鋤先状、6 は口縁部断面が「く」字状である。7・8 は甕形土器の脚部片である。SB87 出土遺物は弥生時代中期に属すると思われるもの (3・5) と弥生時代後期に属するもの (6～8) があるが、後述する SB88 との関係等も考慮すると、弥生時代後期に属する可能性が高いものと思われ、SB87 出土の弥生時代中期遺物は SB88 に伴う可能性も考えられる。

SB88 は北西側部分のみが確認できたのみであるため、方形の平面形であるが詳細な平面形は不明である。土坑等も重なっており、柱穴や炉跡等の火処は不明である。

SB88 出土遺物を第 147 図 1・4～7 に示す。全て甕形土器の口縁部であり、口縁部は断面鋤先状になっている。このことから、SB88 出土土器は弥生時代中期に属するものと思われ、SB88 の時期も弥生時代中期に位置付けられるものと思われる。

SB89 (第147図3)

SB89は発掘調査時の図面での記載がなく、整理作業時に遺構の位置を特定することができなかった遺構であり、遺構の詳細は不明である。可能性としては前述のSB87・88ないし後述するSB90の一部がSB89であった可能性もあるが、確証はない。出土遺物(第147図3)は、安山岩性の石匙であり、横匙でつまみ部を有する。

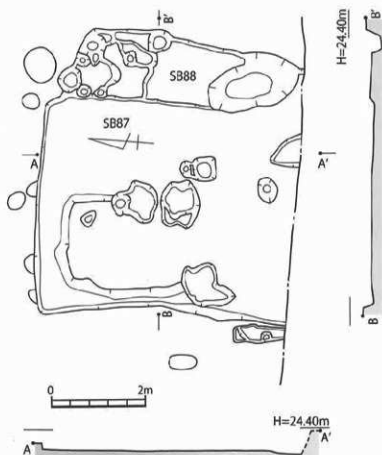
SB90・91・92 (第147～149図)

調査区東端中央部付近で検出された竪穴建物跡であり、後述するSB93も含めて4軒がまとまった場所で検出されている。SB92とSB90の間で切られる形でSB91が存在している状況であり、SB92の南側に隣接してSB93が存在するという位置関係である。

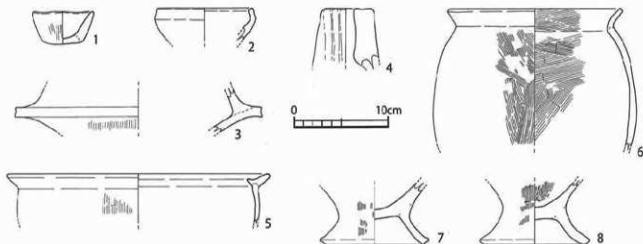
SB90は南北方向に細長い不整形な長方形の形状であり、規模は長辺約8m、短辺約4mである。土坑やピットは多数発見されているが、炉跡等の火処や支柱穴等是不明である。

SB90より出土した遺物で確認できた図化可能であるものは甕形土器の底部片のみであった(第147図2)。

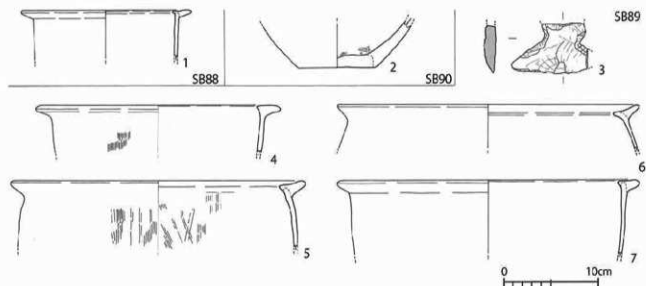
SB91はSB90とSB92の間で検出された遺構で、両端が残存している南北は幅約4mである。平面形は不整形であり、炉跡等の火処や支柱穴も不明確であるため、建物跡となるのかは不明と言わざるを得ない。出土遺物も確認されないため、時期も不明であるが、調査時図面の判断からは、両端で重なっているSB90やSB92に先行する遺構となる。



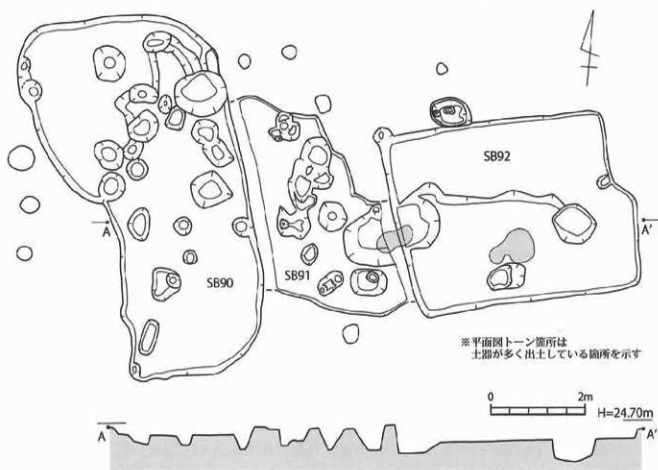
第145図 二反田遺跡SB87・88実測図 (S=1/80)



第146図 二反田遺跡SB87出土遺物 (S=1/4)

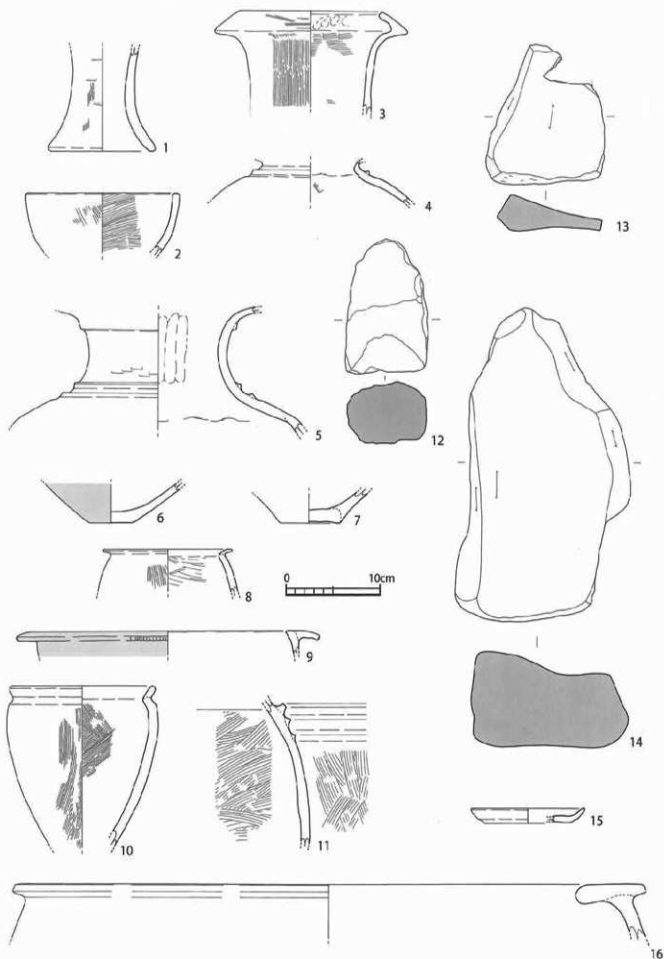


第 147 図 二反田遺跡 SB88・89・90 出土遺物 (S=1/4)



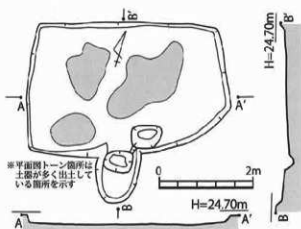
第 148 図 二反田遺跡 SB90・91・92 実測図 (S=1/80)

SB92 は、長辺約 5 m、短辺約 4 m の正方形に近い方形の平面形をしている。調査時図面では炉跡等の火処や柱穴は不明であり、主柱穴数等は判然としない。遺物は建物跡中央よりやや南側の位置でまとまりをもって出土している。SB92 出土遺物を第 149 図に示す。1 は筒形器台の下半部、2 は鉢形土器、3・4 は壺形土器で袋状口縁壺である。3 と 4 は接点を有していないが、胎土や調整等から同一個体の可能性が高いと思われる。5 は壺形土器の頸部であり、頸部上位に 1 条、頸部と体部の境目付近に 2 条の突帯を

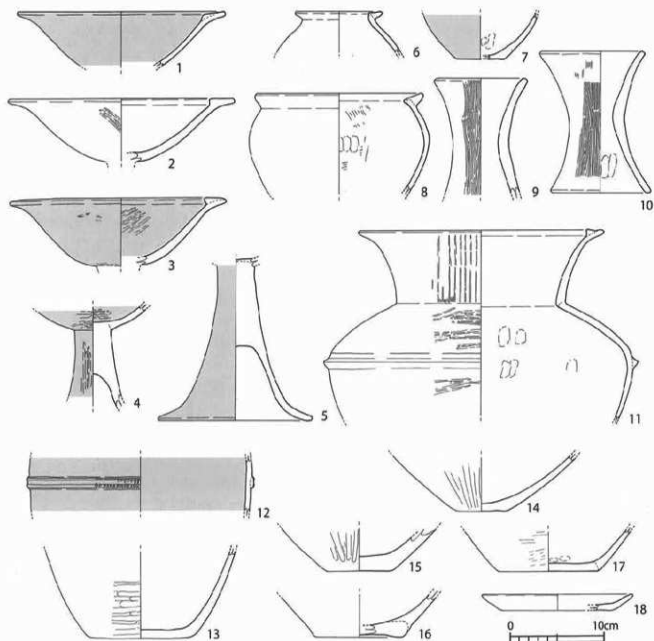


第 149 図 二反田遺跡 SB92 出土遺物 (S=1/4)

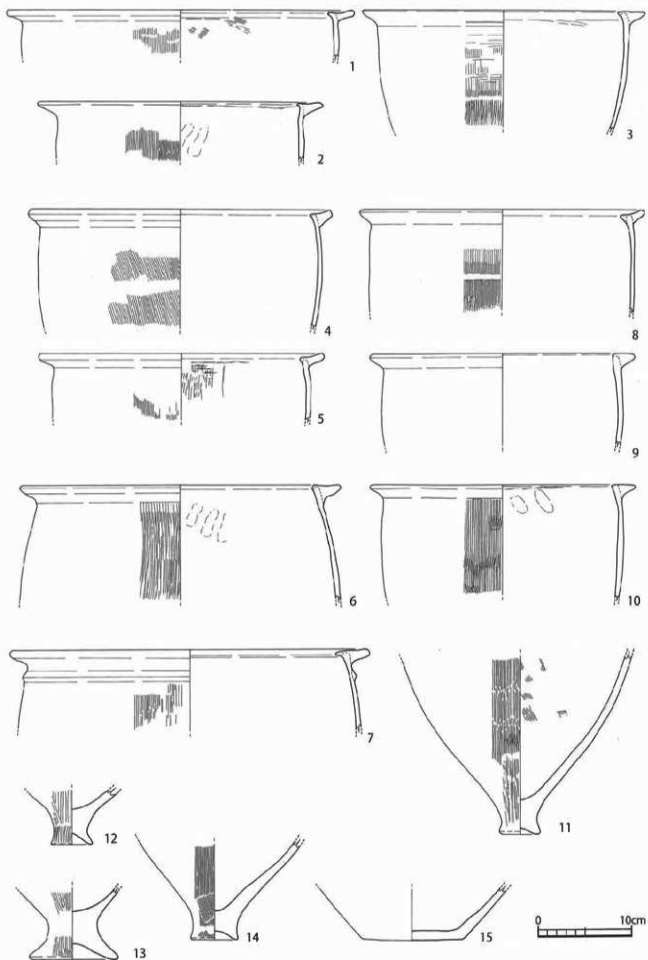
有する。6・7は底部片であり、ともに平底である。6は赤彩が施されている。8は小型の甕形土器であり、口縁部断面は「く」字状である。9は甕形土器の口縁部片であり、口縁端部に刻目を有し、内外面共に赤彩が施されている。10は甕形土器で口縁部断面は「く」字状になっているが、通例の甕形土器と比して口縁部はやや短くなっている。11は甕形土器の胴部片であるが、かなり大型の土器であり、胴部に2条の突帯を有している。大きさを考慮すると、甕棺の破片である可能性が高いものと思われる。12は石英長石斑岩の石材であるが、残存している部分では特に加工の痕跡は見られなかった。砥石等の石器の破片は、もしくは可



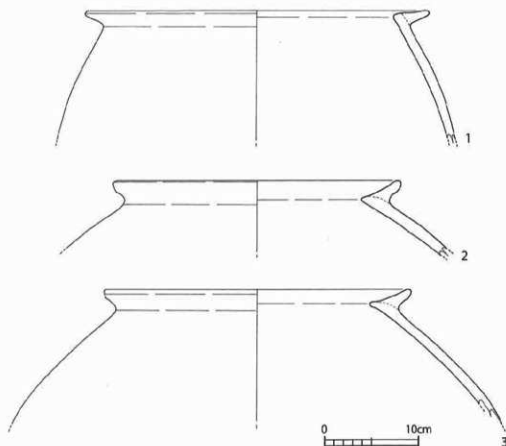
第150図 二反田遺跡 SB93 実測図 (S=1/80)



第151図 二反田遺跡 SB93 出土遺物1 (S=1/4)



第 152 図 二反田遺跡 SB93 出土遺物 2 (S=1/4)



第153図 二反田遺跡SB93出土遺物3 (S=1/4)

能用に持ち込まれた石材である可能性が考えられる。13は砥石の破片であり、表面が残存している箇所ではすべての面で研磨等に使用した痕跡が確認され、使用によりかなり摩耗している。14は石英長石斑岩製の砥石であるがかなり大型である。一部にくぼみを有していることから、明確ではないが当初は石皿として使用され、砥石として転用された可能性がある。部分的に砥石として使用された研磨痕があり、一部に刃物等を研いだ可能性がある沈線状の研磨痕が確認される。

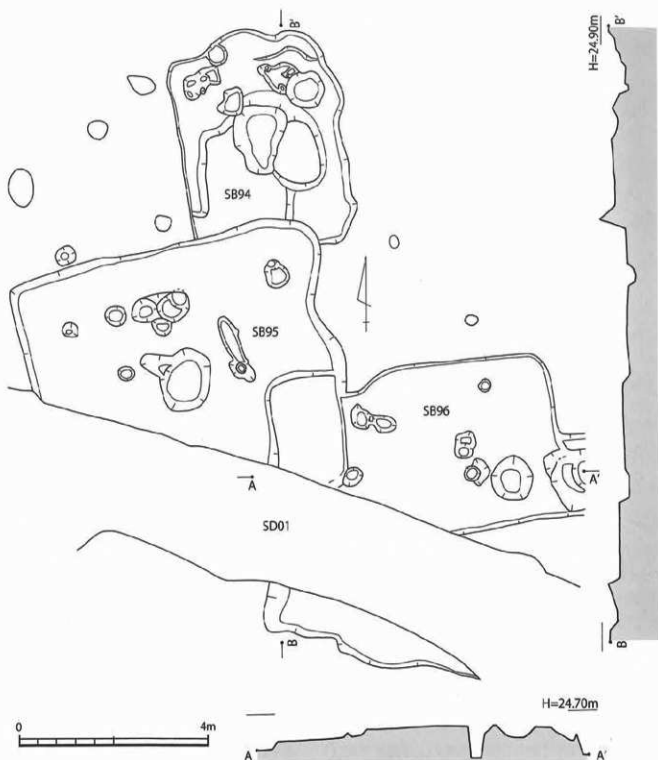
15は土師器の小皿であり、底部糸切りで、後世の混入と考えられる。

SB92では出土遺物のほとんどが弥生時代後期に属することから、SB92も弥生時代後期の遺構である可能性が高いものと思われる。なお、SB92では西壁付近で土坑が1基確認されているが、11や15のような土器も出土していることから、SB92西端の土坑はもともと甕棺墓の土坑であった可能性も考えられる。

SB93 (第150～153図)

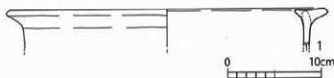
調査区東端部、前述のSB92の下部で検出された竪穴建物跡であり、長辺約4m、短辺約3mの、やや小型の長方形の平面形である。調査時図面からは主柱穴や炉跡等は不明である。

SB93では多くの遺物が出土しており、特に建物跡中央付近や南西部付近で集中して出土している状況が調査時図面からうかがえる。出土遺物を第151～153図に示した。151図1～5は高坏型土器であり、1～3は坏部片で口縁部端は内面に肥厚し、ミガキ調整や赤彩により仕上げられている。151図4は坏部および脚注部片であり、ミガキ調整や赤彩で丁寧に仕上げられている。151図5は高坏の脚部片である。151図6は広口の小型壺、151図7は鉢形土器の底部片と思われるが、甕形土器や壺形土器の底部の可能性もある平底の土器片である。151図8は鉢形土器、151図9・10は筒形器台である。151図11は壺形

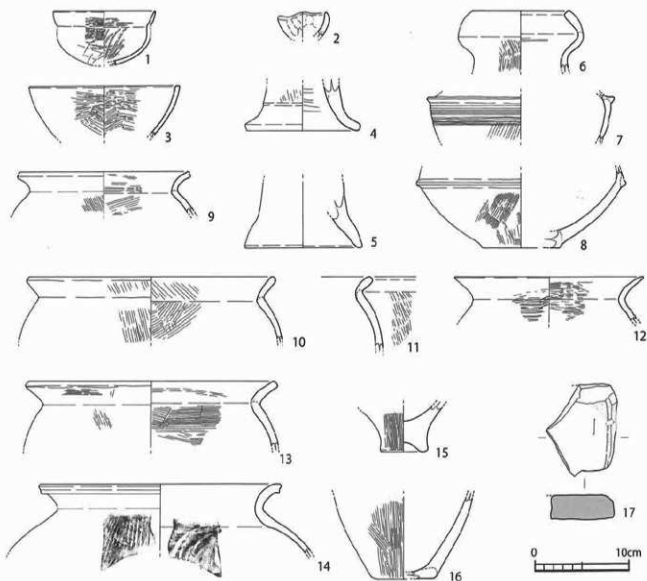


第154図 二反田遺跡 SB94・95・96 実測図 (S=1/80)

土器で、外面はミガキ調整により丁寧に仕上げられた後、口縁部外面にミガキ調整により縦方向の暗文が施文される。151図12は赤彩された甕形土器の胴部片であり、1条の刻み目を有する突帯が添付されている。151図13～17は底部片であり、すべて平底である。151図14は、151図11の底部である可能性がある。151図18は土師器の皿で



第155図 二反田遺跡 SB94 出土遺物 (S=1/4)



第156図 二反田遺跡 SB95 出土遺物 (S=1/4)

あり、SB93 出土遺物ではその他の遺物がすべて弥生時代に属すると思われることから、後世の混入と思われる。

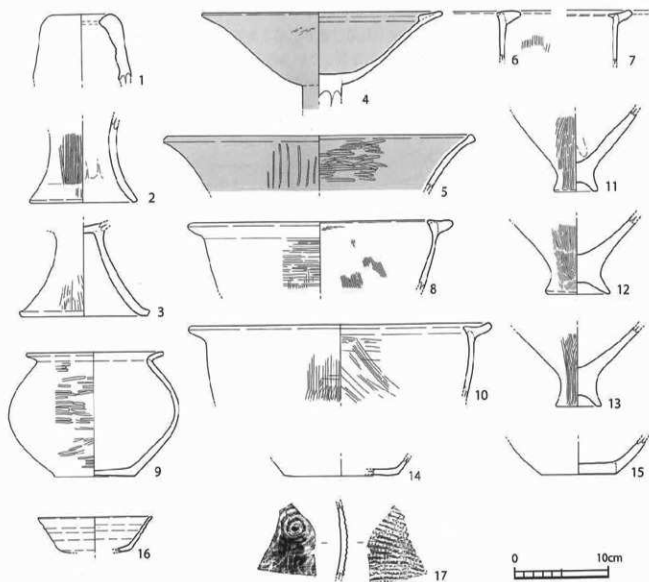
152 図 1～10 は甕形土器の口縁部である。口縁部の形状は、断面鉤先状の口縁部（1～5・7・8）と、断面鉤先状口縁の内面があまり肥厚しないもの（6・9・10）の二者が確認できる。152 図 11～15 は甕形土器の底部片であり、突出気味の上げ底状平底（11・12・14）と、脚台になっているもの（13）と、平底（15）が確認される。

153 図 1～3 はやや大型の甕形土器の口縁部である。いずれも口縁部の断面は鉤先状口縁の名残はあるが、断面「く」字になっているものである。

以上の出土土器より、SB93 は弥生時代中期後半から弥生時代後期初頭の時期に位置付けられるものと思われる。

SB94・95・96（第154～157図）

調査区東側で検出された竪穴建物跡であり、重なる形で検出されている。調査時の図面によれば、SB94 が SB95 に切られている状況が確認されるが、SB95 と SB96 の前後関係は不明である。また、SB95



第 157 図 二反田遺跡 SB96 出土遺物 (S=1/4)

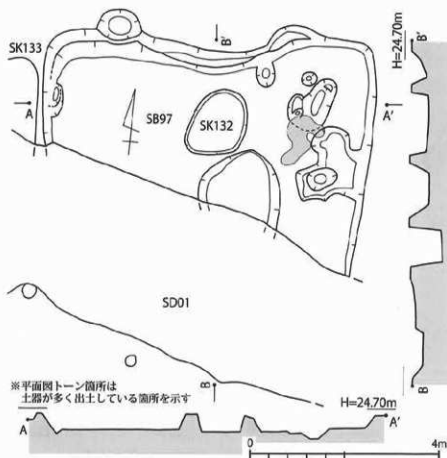
と SB96 は SD01 に切られている。

SB94 は長辺約 4 m、短辺約 3.5 m の正方形に近い平面形をしている。土坑等が複数重なり、炉跡等の火処の有無や主柱穴数等は不明確である。出土遺物は甕形土器の口縁部片 1 点のみであり（第 155 図 1）、この土器は弥生時代中期に属する可能性が高い。

SB95 は東西約 6 m、南北約 5 m の正方形に近い平面形であり、南東隅にベッド状遺構を有しているようである。建物跡中央部に炉跡の可能性のある土坑を有し、柱穴は明瞭ではなく、検出されているピットの位置等を考慮しても 2 本主柱。4 本主柱両方の可能性が考えられる。

出土遺物を第 156 図に示す。1 は古式土師器の小型丸底土器であり、内外面共にミガキ調整により丁寧仕上げられており、内面には放射状に暗文風のミガキ調整がなされる。2 はミニチュア土器であり内外面共に指押さえ痕が明瞭に残る。3 は鉢形土器である。4・5 は器台の下半部である。6～8 は壺形土器である。6 は袋状口縁壺の口縁部片であり、屈曲部はかなり丸みを帯びている状況が確認できる。7 は胴部片であるが胴部最大径部位付近で水平方向に突帯が 1 条貼付されており、その下位に水平方向の沈線文が施文されている。8 は壺形土器の下半部であり、胴部に一条の突帯が添付されており、底部は平底で

ある。10～13は甕形土器の口縁部片である。全て口縁部断面は「く」字状であり、9～11・13は口縁端部が角張っている点などから、九州在来系の甕形土器であると考えられる。12は口縁部が途中に変化点を持って外反する点や、口縁端部が丸みを帯びている点、外面のタキ調整は水平方向に近いものの若干図上右上がり方向である点などから、近畿第V様式変容系統の影響を受けていると考えられる。14は須恵器甕の口縁部片である。15は甕形土器の底部片であるが、底部は突出気味の上げ底である。16は



第158図 二反田遺跡 SB97 実測図 (S=1/80)

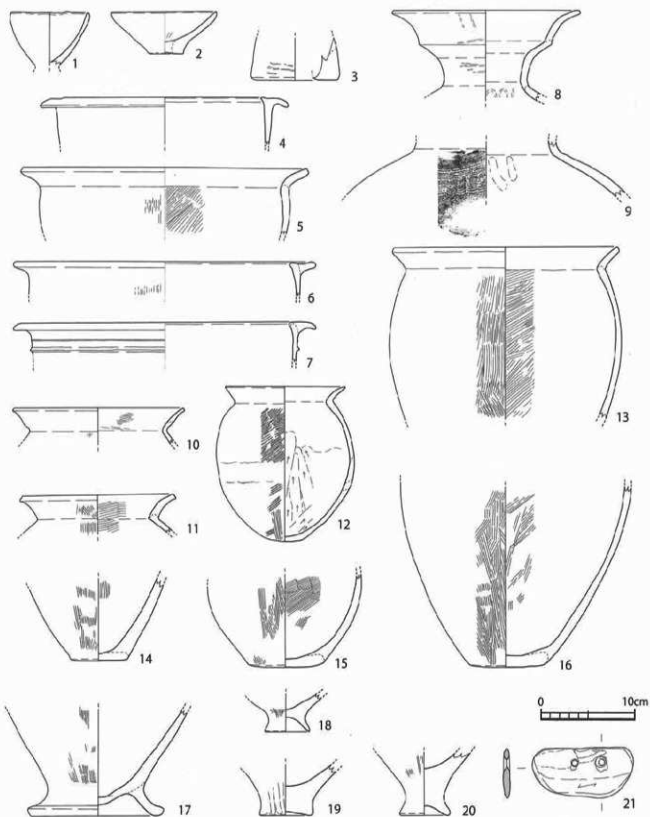
平底の甕形土器底部である。17は砂岩製の砥石の破片である。

SB95では、14の須恵器を除くと、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺物が多い点と、二反田遺跡での竪穴建物の平面形態の類似等を考慮すると、SB95は弥生時代終末期～古墳時代前期に位置づけられる可能性が高いと思われる。

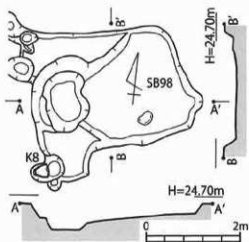
SB96は東西方向に長軸をもち、長辺約6m短辺約4mの長方形の平面形である。調査時区画からは炉跡や支柱穴はあまり明確ではない。

SB96出土遺物を第157図に示す。1は支脚の上半部、2は筒形器台の下半部である。3・4は高環形土器である。5は壺形土器の口縁部で、ミガキ調整の後ミガキによる縦方向の暗文が施されている。6・7・10は甕形土器の口縁部で、ともに口縁部断面は鋤先状である。8は鉢形土器、9はやや小型の壺形土器である。11～13は甕形土器の底部で、突出気味の上げ底になっている。15は底部片で鉢形土器の可能性が高いと思われる。14・16は坏であり、17は須恵器甕の胴部片であるが、これらの土器は建物跡廃絶後の混入の可能性が高いと思われる。

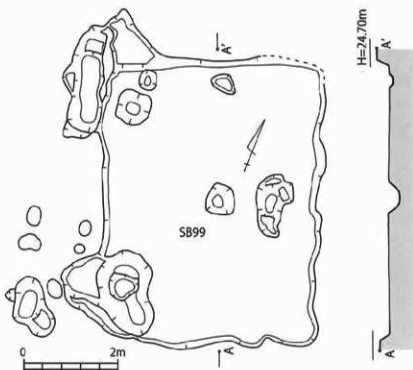
SB96出土土器は弥生時代中期に属する遺物が多いことから、SB96の時期も弥生時代中期に属する可能



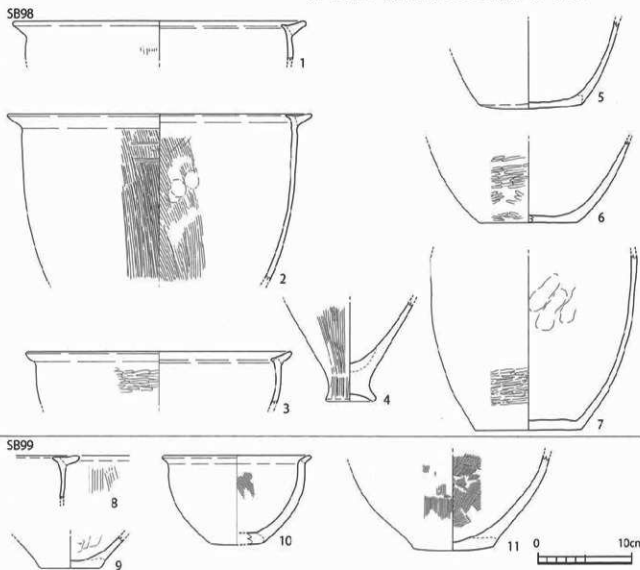
第 159 図 二反田遺跡 SB97 出土遺物 (S=1/4)



第 160 図 二反田遺跡 SB98
実測図 (S=1/80)



第 161 図 二反田遺跡 SB99 実測図 (S=1/80)



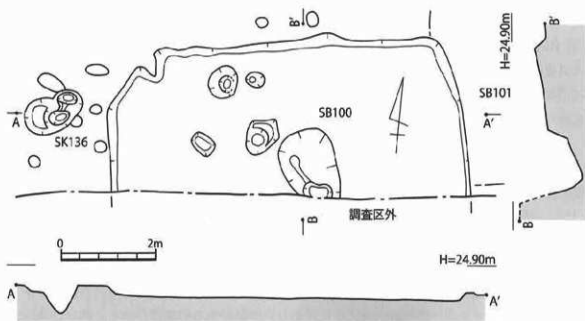
第 162 図 二反田遺跡 SB98・99 出土遺物 (S=1/4)

性が高いものと思われる。

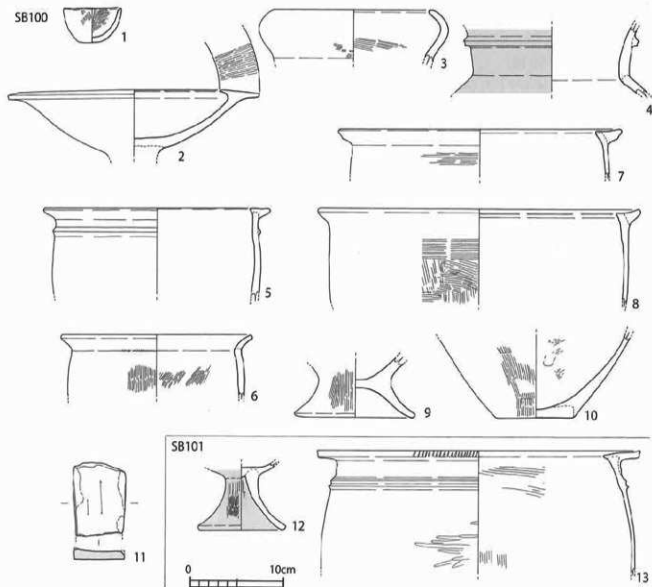
SB97 (第 158・159 図)

調査区南東部で検出された竪穴建物跡である。一辺約 7 m 四方の、ややいびつな方形をした建物跡である。溝跡や土坑等が重なり合っていることもあり、炉跡等の火処や主柱穴は明確ではない。調査時図面からは、遺物は建物跡の北半部で多く出土している状況が確認される。

SB97 出土遺物を第 159 図に示す。1 は平底ないし脚付の鉢形土器、2 は平底の鉢形土器であるが、製作技法が近畿第 V 様式変容系統の甕形土器底部と共通している。3 は支脚もしくは器台の下半部である。4～7 は甕形土器の口縁部であり、口縁部断面は鋤先状のものと断面「く」字状のものがある。8～12 は古墳時代前期の古式土師器である。8・9 は壺形土器である。8 は二重口縁壺の口縁部で、丁寧なナデ調整の後にミガキ調整が施される。9 は壺形土器の胴部片であり、頸部の下位に水平方向の櫛書状の沈線文が施され、その下位に波状文が施されている。10～12 は古式土師器の甕形土器である。10・11 は甕形土器の口縁部片で口縁部断面は「く」字状に外反し、口縁端部は角張る形をしている等、弥生時代の土器と共通する傾向がみられるが、外面調整や器形では布留式土器と共通する要素も見られる。12 の口縁部は途中に変化点を持って外反し、口縁端部は丸みを帯びており、外面調整は右上がり方向のタタキ調整の後ハケ整形がなされ、底部はかなり丸底化しているが平底の名残があり、底部製作には輪台充填技法が採用されている点など、近畿第 V 様式変容系の甕形土器との共通性がみられる。13～16 は在来系の甕形土器である。口縁部は断面「く」字状であり、底部は平底である。16 は 13 と胎土や調整等が類似することから、同一個体の可能性が高い。17～20 は甕形土器の底部片であり、17 は脚付の甕形土器であるが、底部内面の形状をみると、底部平底の甕形土器に脚台を接合したような形状をしている。18～20 は甕形土器の底部片であり、上げ底状のものと脚台状のものとの双方がある。21 は石包丁である。SB97 では弥生時代中期～後期および古墳時代前期の遺物が出土していることから、時期を特定することは困難であるが、建物跡の形状等も考慮すると古墳時代前期に属する可能性が高いと思われる。



第 163 図 二反田遺跡 SB100 実測図 (S=1/80)



第 164 図 二反田遺跡 SB100 出土遺物 (S=1/4)

SB98 (第 160・162 図)

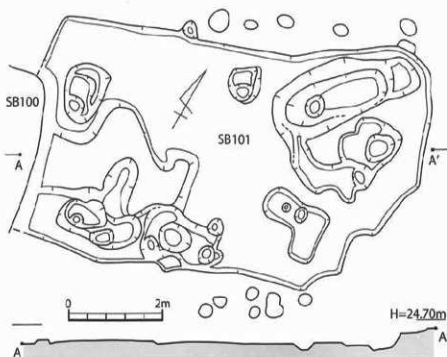
調査区南東部で検出された竪穴建物跡であり、南西隅は K-8 壜棺墓と接している。東西方向に長軸をもち、長辺約 3 m、短辺約 2 m の長方形の平面形をしている。小型で、主柱穴や炉跡等の火処は不明であることもあり、建物跡であるかやや不安が残る。

SB98 出土遺物を第 162 図 1～7 に示す。1～3 は甕形土器の口縁部であり、口縁部断面は断面鋤先状である。4～7 は甕形土器の底部片である。4 は突出気味の平底で上げ底、5～7 は平底であり、丁寧なナデ調整の後ミガキ調整が施されている。

SB98 は出土遺物より、弥生時代中期に属する遺構であると思われる。

SB99 (第 161・162 図)

調査区南東部で検出された竪穴建物跡であり、北北西-南南東方向に長軸をもち、長辺約 6 m、短辺約 4 m の長方形の平面形である。建物跡中央に土坑があり、炉跡である可能性がある。終結は検出されているピットからは明確ではなく、主柱穴数は不確定である。



第165図 二反田遺跡 SB101 実測図 (S=1/80)

SB99 出土遺物を第162図8～11に示す。8は甕形土器の口縁部片で、口縁部断面は鋤先状、9は甕形土器の底部片で底部は平底である。10は鉢形土器、11は底部片で平底である。

SB99は出土遺物より、弥生時代中期に属する可能性が高いと思われる。

SB100 (第163・164図)

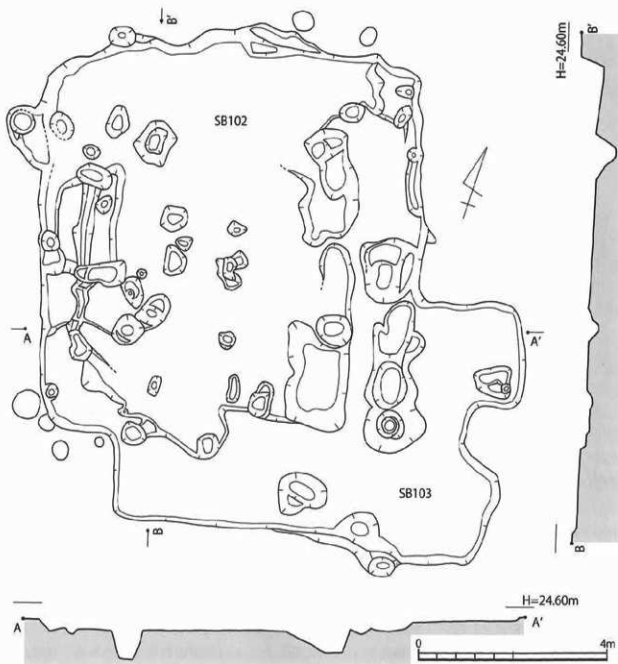
調査区南東部で検出された竪穴建物跡であり、調査区東側部分でSB101を切っている。南側は調査区外にのびるため南北方向の規模には不明な点もあるが、東西幅は約8mである。遺構内ではピットや土坑等も検出されているが、遺構の半分以上が調査区外にのびていると思われるため、炉跡等の火処の有無や、主柱穴数等は判然としない。土器等の遺物は、調査がなされた建物跡北半部でも、西半部で多く出土している状況が確認できる。出土遺物を第164図に示した。1は小型の鉢形土器である。2は高環形土器の坏部であり丁寧なミガキ調整で仕上げられている。3は壺形土器の口縁部片で、断面は緩やかなカーブを描く袋状口縁となっている。4は壺形土器の頸部付近の破片であり、1条の突帯を有している。5～8は甕形土器の口縁部であり、口縁部断面は鋤先状になるもの(5・7・8)と、断面「く」字状になるもの(6)の2者が確認できる。9は脚台になる甕形土器片であり、10は甕形土器の底部で平底である。11は砥石の破片であり、両面に使用による研磨痕が確認できる。

SB100では、弥生時代中期と思われる遺物(2・5・7・8・13)と、弥生時代後期と思われる遺物(3・6・9・10)が出土しているが、遺物の出土状況より弥生時代中期に位置づけられるものと思われる。

SB101 (第165図)

調査区南東端で検出された竪穴建物跡であり、西側でSB100に切られているほか、東側も土坑等に切られている。そのため、やや形状はいびつであるが、長辺約8m、短辺約4.5mの長方形の平面形をしている。炉跡等の火処や主柱穴数、ベッド状遺構等は不明である。

出土遺物は図化できたものが2点あり、第164図12・13に示す。12は高環形土器の脚部片であり、



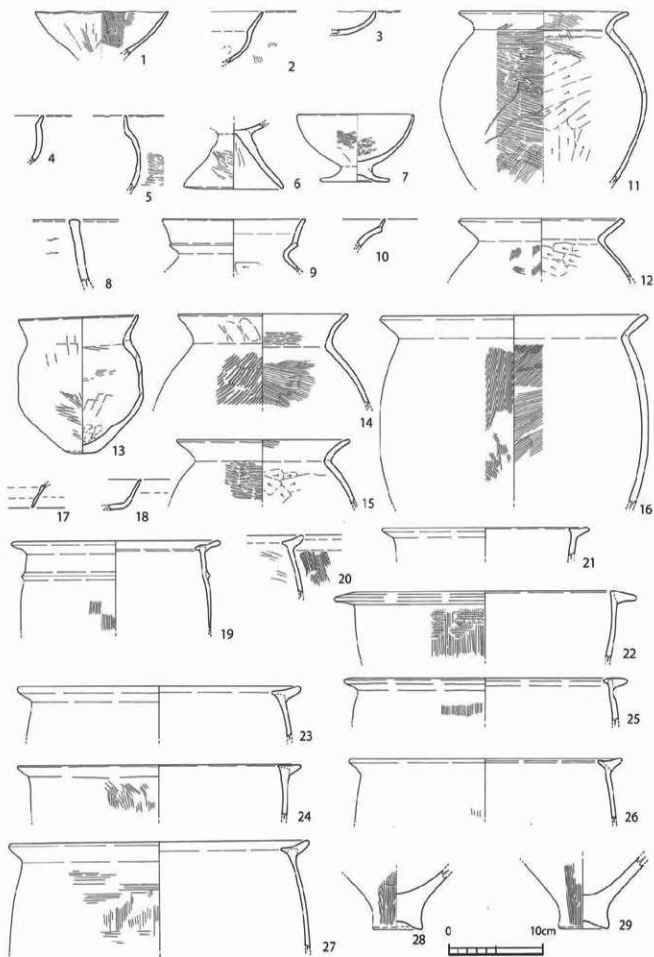
第166図 二反田遺跡 SB102・103 実測図 (S=1/80)

外面にはミガキ調整がなされ、赤彩がなされている。13は甕形土器であり、口縁部断面は鋤先状になっている。口縁端部には刻目が施されており、頸部の下位には1条の突帯が添付されている。

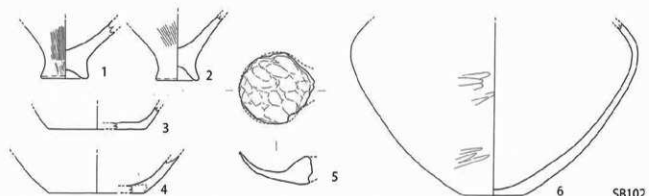
改めてSB101の遺構を検討すると、SB101の西側には長方形の形状をした土坑が存在し、その形状からは甕棺墓等の墓が存在していた可能性もある。また、その土坑の南側にも土坑が重なって存在している。推測の域を出ないが、その土坑部分にあたる東半部分を外すと、SB101の西半部分は長方形の平面形をした4本支柱の建物跡になる可能性もある。これらを考慮すると、SB101は出土遺物より、弥生時代後期の建物跡である可能性が考えられる。

SB102・103 (第166・167・168図)

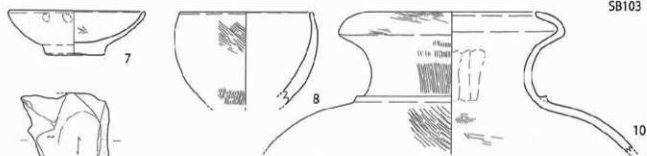
調査区南端部東寄りで検出された竪穴建物跡であり、2軒の建物跡が重なって発見されている。



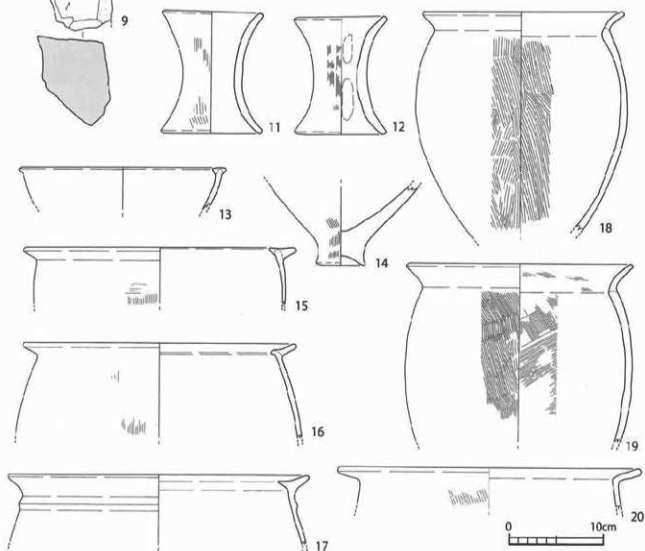
第 167 図 二反田遺跡 SB100 出土遺物 (S=1/4)



SB102



SB103



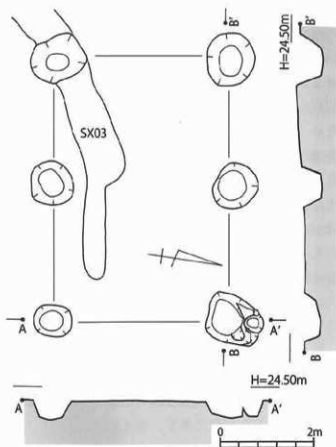
第168図 二反田遺跡 SB102・103 出土遺物 (S=1/4)

SB102 は一辺約 8 m の正方形の平面形をしている。検出されたピット等の位置関係から、4 本主柱である可能性が高いものと思われる。炉跡等の火処は明確ではない。

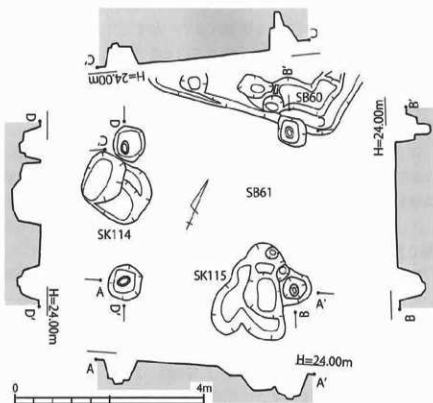
SB103 は、東西方向に長辺をもち、長辺約 8 m、短辺約 5 m の長方形の平面形をしているが、東側部分はややびつな形状をしている。

SB102 出土遺物を第 167・168 図に示す。167 図 1～3 は古式土師器の鉢形土器片である。167 図 4・5 は古式土師器の鉢形土器ないし小型の甕形土器である。167 図 6 は高杯形土器の脚部片であり、167 図 7 は古式土師器の低脚杯である。167 図 8 は小片のため器形は不明な点もあるが、鉢形土器の口縁部片と思われる。167 図 9・10 は壺形土器であり、9 は山陰系の影響を受けた古式土師器の二重口縁部であり、9 は小片であるが口縁部が受け口状になっている。167 図 11～16 は、古式土師器と思われる甕形土器である。167 図 11 は甕形土器であるが、外面には細筋のタタキ目を有し、下半部には縦方向のハケ目調整でタタキ目を消している。内面はケズリ調整が施されている。器形の特徴からは近畿第 V 様式変容系統と共通する要素も見られるが、調整の諸要素は庄内式土器と共通する要素を有している。167 図 12

は外面のタタキ目をハケ目調整ないしナデ調整で消しており、布留式土器と共通する要素を持っている。167 図 13 はやや粗いつくりの甕形土器であるが、底部は突出気味の平底であり、器形や製作技法の諸要素から近畿第 V 様式変容系土器群と共通する要素がみられる。167 図 14 はやや口縁部が他の甕形土器と比して長くなっている特徴がある。167 図 15 は外面に細筋のタタキ目を有し、外面にはケズリ調整が施される。167 図 16 は九州在来系の甕形土器であ



第 169 図 二反田遺跡 SB27 実測図 (S=1/80)



第 170 図 二反田遺跡 SB61 実測図 (S=1/80)

るが、残存している上半部のみでは内面のケズリ調整は確認できないため、弥生時代後期に属する可能性もあるが、SB101では確実に弥生時代後期に属する土器が他に存在しないため、土師器に伴うものとして報告する。ただし、SB101はSB100と重なっており、SB100からは弥生時代後期の遺物も出土しているため、SB100の弥生時代後期遺物と同時期のものである可能性も残っていることを付記しておく。

167図17・18は土師器の坏の破片であり、古代に属するものである。

167図19～26は甕形土器の口縁部片である。口縁部断面はいずれも鋤先状口縁ないし鋤先状口縁の内面がやや退化した形態であり、弥生時代中期前後に位置付けられる土器である。167図28・29および168図1・

2は甕形土器の底部片であり、突出気味の平底の形態であり、弥生時代中期に位置づけられるものと思われる。168図3・4は甕形土器の底部片で平底である。168図5は手捏ねで製作された柄杓形の土器であり、柄の部分に欠いている。168図6は壺形土器の体部で、底部は平底である。

SB103から出土した遺物を第168図7～20に示す。7は平底の鉢形土器、168図4は鉢形土器である。168図9は砥石の破片である。10は壺形土器で袋状口縁壺の上半部である。11・12は筒形器台である。13～20は甕形土器であり、13は器形がやや浅いことから、鉢形土器の可能性もある。口縁部形態は断面が鋤先状のもの（13・15～17）と、断面「く」字状のもの（18～20）があり、前者は弥生時代中期・後者は弥生時代後期に位置付けられる。

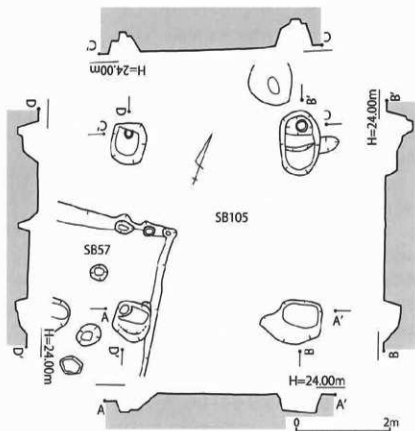
SB102は出土遺物や建物跡の形態の特徴から、古墳時代前期に位置づけられるものと思われ、SB103は弥生時代後期に位置づけられる可能性が高いものと思われるが、SB102・SB103からは弥生時代中期の遺物も出土しており、明確ではないが弥生時代中期の遺構が重なっている可能性もある。

掘立柱建物跡 (SB)

発掘調査時の現地説明会資料および発掘調査時の記録を見ると、掘立柱建物跡は5棟確認されており、いずれも弥生時代に属するとされている。以下に、各建物跡の概要を記す。

SB27 (第169図)

調査区中央やや南寄りで発見された建物跡である。東西方向に長軸をとり、2間×1間の長辺約6m、短辺約4mの建物跡である。出土遺物は明確なものを確認することができなかったため、詳細な時期は不明である。



第171図 二反田遺跡 SB105 実測図 (S=1/80)

SB61 (第170図)

調査区北端部付近で発見された建物跡である。4 m × 3 m の1間 × 1間の建物跡である。調査図面では柱穴は全て2段掘りになっており、柱の位置も推定できる状況である。出土遺物はSB61に明確に伴うものは確認できなかった。

SB105 (第171図)

調査区北端部付近で発見された建物跡である。1間 × 1間の長辺約6 m、短辺約4 mの建物跡である。柱穴があったと推定される土坑はやや大きいサイズであるが、2段掘りになっている箇所も確認される。

SB105も、明確に伴うと思われる遺物は今回確認できなかった。

溝状遺構 (SD)

溝状遺構は8条検出されているが、SD01は重なり合う溝が2条検出されているが、ともに調査時図面ではSD01としての記載があることと、出土遺物も存在することから、SD01は1つの遺構として報告する。以下、概要と出土遺物について記す。

SD01 (第172・178図)

調査区南東部で検出された溝状遺構であり、東西方向にのびているが、2条の溝状遺構が重なったものと思われる。

SD01出土遺物を第178図1～4に示す。1・2は甕形土器であり、弥生時代後期に属するものと思われる。3は縄文式土器の鉢の破片であり、縄文時代後期に属するものと思われる。4・5は、甕形土器であり、弥生時代中期に属する。

SD01からの出土遺物は少なく小片であり、SD01に混入したものと思われるため、SD01の時期は弥生時代後期以降であると思われる。

SD02 (第173図)

調査区南西側で検出された溝状遺構であり、東西方向にのびる浅い溝である。

図化できる出土遺物は確認されなかったが、SD01と並走していることから、SD01と同時期の可能性も考えられる。

SD03 (第174・178図)

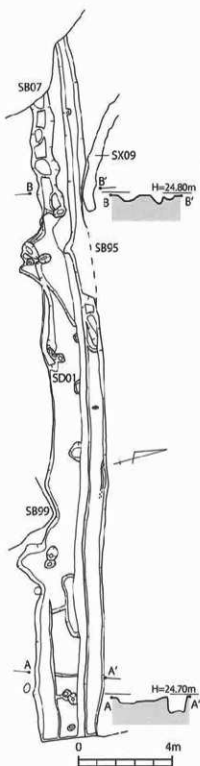
調査区南西端部で検出された溝状遺構であり、SD02の南側で並走するような状況で検出されている浅い溝状遺構である。SD03出土遺物のうち図化できたものは、甕形土器の底部片が1点のみであり、弥生時代後期に属するものと思われる(第178図5)。

SD03の時期は、出土遺物も少ないことから、明確ではない。

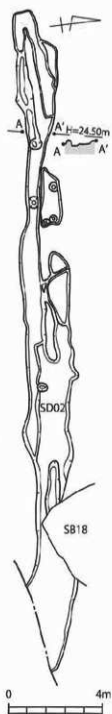
SD05 (第4・178図)

SD05は調査区中央やや西寄り、調査区を南北に縦断する形で検出された溝状遺構であり、調査区外にのびる。

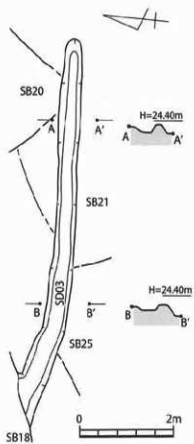
出土遺物を第178図に示す。6は縄文式土器の小片であり、外面に列点文を有する。7・8は土師器の小皿、9・10は土師器の坏である。11は須恵器の壺の上半部である。12は土師器の高台付杯、13は



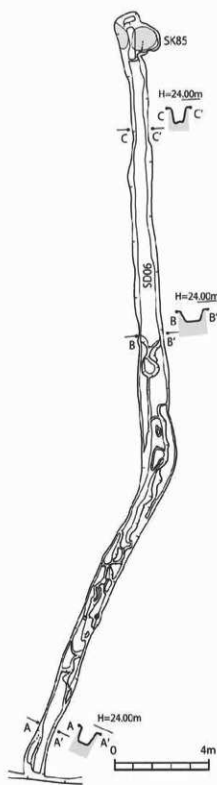
第 172 図 二反田遺跡 SD01
実測図 (S=1/160)



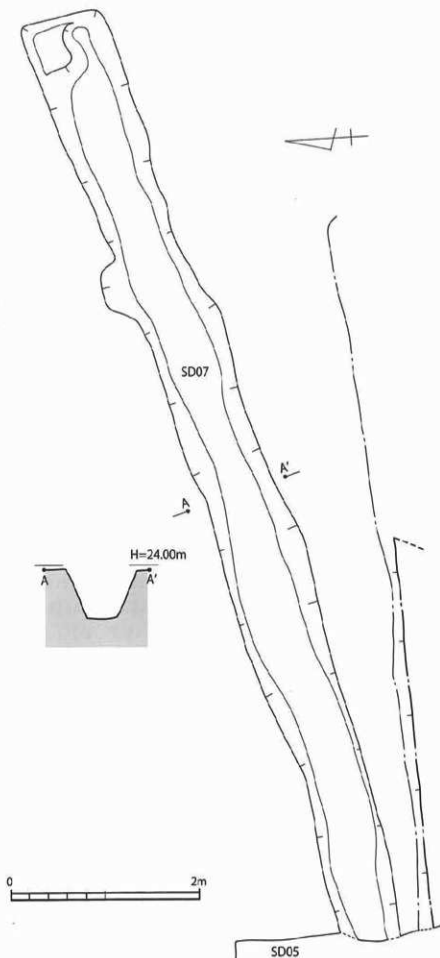
第 173 図 二反田遺跡 SD02
実測図 (S=1/160)



第 174 図 二反田遺跡 SD03
実測図 (S=1/80)



第 175 図 二反田遺跡 SD06
実測図 (S=1/160)



第 176 図 二反田遺跡 SD07 実測図 (S=1/40)

黒色土器である。縄文時代から古代にかけての遺物が出土していることから、SD05は古代以降に属すると思われる、二反田遺跡の中でも新しい時期の遺構であると思われる。

SD06 (第175・178図)

SD06は、調査区西端で検出された溝状遺構であり、途中で「く」字に折れ曲がる形状をしている。南側は隣接の宮の前遺跡調査区に延びている。

SD06出土土器を第178図14～22に示す。14は筒形器台の下半部、15は甕形土器の口縁部で断面は鋤先状になっている。弥生時代中期か。16は甕形土器の口縁部で断面は「く」字状になっている。17は須恵器の坏、18は瓦質土器の鉢で、ともに古代に属する。19は甕形土器の口縁部片で、口縁部断面は鋤先状であり、頸部の下位に突帯を1条巡らせている。20は甕形土器の底部片で平底である。21は甕形土器の底部で突出気味の上げ底である。22は青磁碗の底部片である。

出土遺物は弥生時代中期から中世にかけての遺物が出土していることから、二反田遺跡の中でもやや新しい時期の溝状遺構であったものと思われる。掘削時期は明確ではないが、埋没時期は中世以降か。

SD07 (第176・178図)

SD07は調査区西側でSD05に直行して検出された溝状遺構である。

SD07出土土器を第178図23～31に示す。23は須恵器であるが器形が不明である(蓋か)。24～26は高台付坏の底部片、27は甕形土器の把手、28は鉢形土器の口縁部小片で外面に丹塗が施される。29は土師器の口縁部片である。30は甕形土器の口縁部片、31は甕形土器の底部片である。SD07からは弥生時代・古墳時代前期、古代とさまざまな時期の遺物が出土していることから、二反田遺跡の中でも最も新しい時期の遺構である可能性が高いものと思われる。また、溝状遺構の位置関係や形状、幅等を考慮すると、SD07とSD05は同時期の区画等に伴う溝ではないかと思われる。

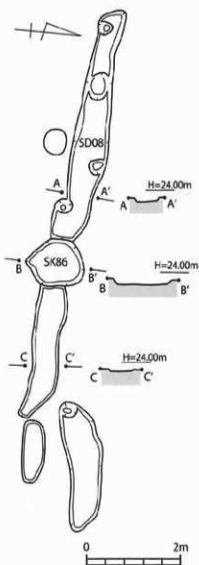
SD08 (第177図)

調査区西端部分で、SD05とSD06の間に挟まれるような形で発見された溝状遺構である。

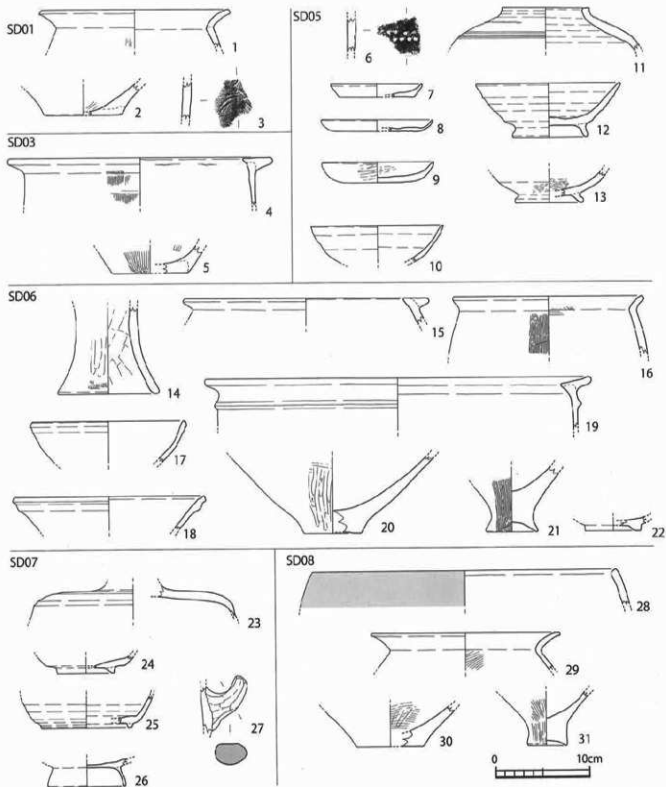
SD08では、今回の整理作業では図化できる遺物は確認できなかった。

甕棺墓 (K)

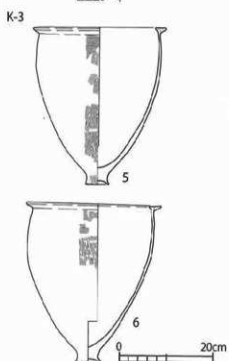
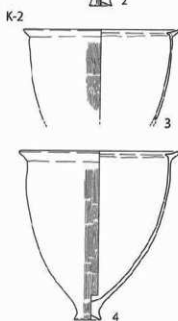
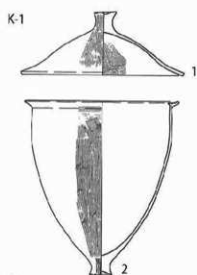
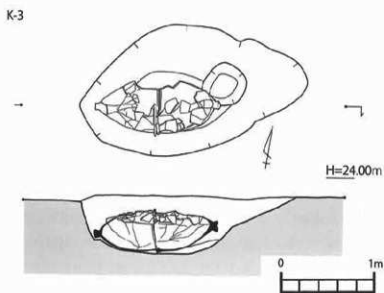
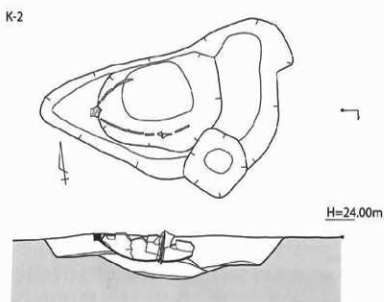
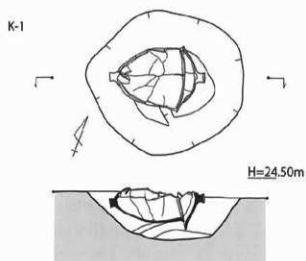
甕棺墓は発掘調査時に8基が確認されている。いずれも住居跡等から発見される甕形土器と同サイズであり、棺の規模から小児棺である可能性が高い。また、甕棺墓はいずれも口縁部は断面鋤先状であることから、弥生時代中期に属するものと思われる。なお、発見された甕棺には煤の付着等の火を受けた痕跡等は確認されないことから、甕形土器の転用等ではなく、埋葬専用に製作・使用された甕形土器である可能性が高いと考えられる。



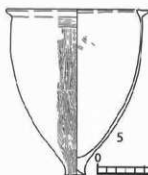
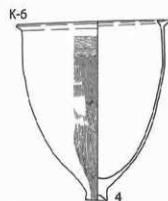
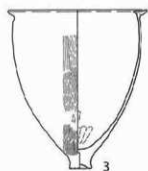
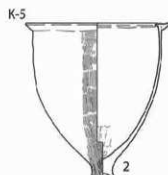
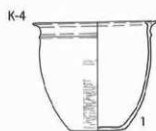
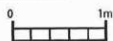
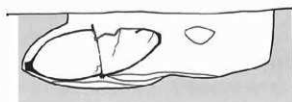
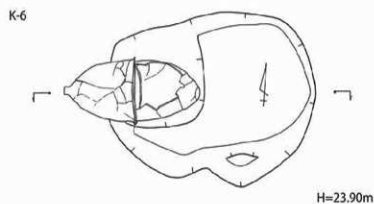
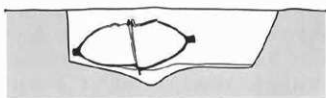
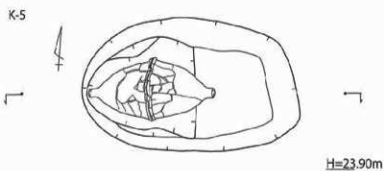
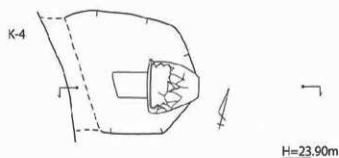
第177図 二反田遺跡 SD08
実測図 (S=1/80)



第 178 図 二反田遺跡溝状遺構 (SD) 出土遺物 (S=1/4)

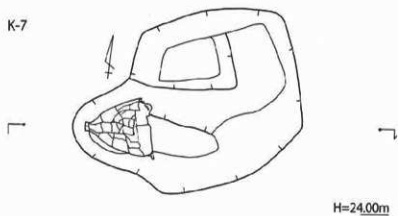


第 179 図 二反田遺跡 K 1・K 2・K 3 実測図 (遺構 : S = 1/20 土器 : S = 1/8)



第 180 図 二反田遺跡 K 4・K 5・K 6 実測図 (遺構 : S = 1/20 土器 : S = 1/8)

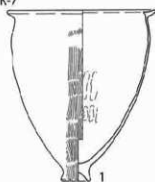
K-7



H=24.00m

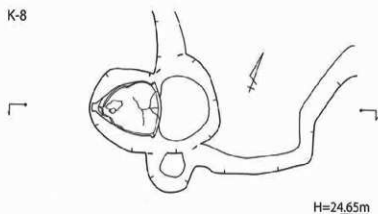


K-7

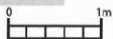


1

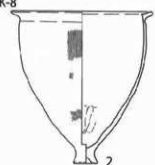
K-8



H=24.65m



K-8



2



第 181 図 二反田遺跡 K 7・K 8 実測図 (遺構 : S = 1/20 土器 : S = 1/8)

その他、前述したが、竪穴式住居跡（SB）内からも成人甕棺の破片は多数出土しており、土坑の中にも甕棺墓の土坑と形状や規模が類似するものも確認されることから、調査区内に成人棺も含めた甕棺墓群が形成されていた状況が読み取れる。以下に、調査で発見された甕棺墓の概要を記す。

K-1（第179図）

調査区南端部中央付近の発見された甕棺墓であり、主軸を東北東-西南西方向にとる。土坑は約170～150cmの円形であり、甕棺はやや下甕が下がるが、ほぼ横位に近い形で埋設された状況で検出されている。上面の一部は割れた状況で発見されているが、残存状況は良好である。下甕は甕形土器、上甕は鉢形土器（蓋形土器）が使用されている。K-1からは出土遺物や人骨等は確認されていない。弥生時代中期に属するものと思われる。

K-2（第179図）

調査区北側のSB58の西側で発見された甕棺墓であり、主軸を東西方向にとる。土坑は長辺約260cm、短辺が平均130cm程度の土坑であり、甕棺はほぼ横位に近い形で埋設された状況で検出されている。上面の一部は割れ、東側部分残存しない状況で発見されている（K-2内埋設後の土坑等による攪乱のためか）。甕棺は上下ともに甕形土器が使用されている。K-2からは出土遺物や人骨等は確認されていない。弥生時代中期に属するものと思われる。

K-3（第179図）

調査区北側で発見された甕棺墓であり、主軸を東北東-西南西方向にとる。土坑は約長辺約120cm、短辺約70cmであり、甕棺は横位で埋設された状況で検出され、若干東側が高くなっている。割れた状況ではあるがほぼ完形に近い状況で発見されており、残存状況は良好である。甕棺は上下ともに甕形土器が使用されている。K-3からは出土遺物や人骨等は確認されていない。弥生時代中期に属するものと思われる。

K-4（第180図）

調査区北側中央で発見された甕棺墓であり、主軸を南南東-北北東方向にとる。土坑は西半部分をSB59に切られている。残存している土坑の範囲は約60cm×約60cmである。甕棺は西側がやや高い横位で埋設された状況で検出されている。上面の一部は割れた状況で発見されているが、残存状況は良好である。甕棺は上下ともに甕形土器が使用されている。K-4からは出土遺物や人骨等は確認されていない。甕棺の形状から、K-4は弥生時代中期に属するものと思われる。

K-5（第180図）

調査区北端部中央付近で発見された甕棺墓であり、主軸をほぼ東西方向にとる。土坑は長辺約130cm、短辺約70cm、甕棺は土坑の西側に寄ってやや東側が高い横位に埋設された状況で検出されている。上面の一部は割れた状況で発見されているが、残存状況は良好である。甕棺は上下ともに甕形土器が使用されている。K-5からは出土遺物や人骨等は確認されていない。

K-5の時期は弥生時代中期に属するものと思われる。

K-6 (第180図)

調査区北端部中央付近で発見された甕棺墓でありK-5の北隣に位置する。主軸をほぼ東西方向にとる。土坑は長辺約110cm、短辺約90cmであり、土坑に西側に横穴を掘り込み、甕棺は東側に寄せて埋設された状況で検出されている。上面の一部は割れた状況で発見されているが、残存状況は良好である。甕棺は上下ともに甕形土器が使用されている。K-6からは出土遺物や人骨等は確認されていない。

K-6の時期は甕棺の形状から、弥生時代中期に位置づけられると思われる。

K-7 (第181図)

調査区中央やや北側で発見された甕棺墓であり、K-5・K-6の約7m南側で発見された甕棺墓である。主軸をほぼ東西方向にとる。土坑は長辺約130cm、短辺約100cmであり、甕棺は横位に埋設された状況で検出されているが、東側の甕は検出されていない。上面の一部は割れた状況で発見されているが、残存状況は良好である。甕棺は上下ともに甕形土器が使用されている。K-7からは出土遺物や人骨等は確認されていない。

K-7の時期は甕棺の形状から、弥生時代中期に位置づけられると思われる。

K-8 (第181図)

調査区南東付近で発見された甕棺墓であり、主軸を東北東-西南西方向にとる。土坑は一部をSB98と重なっているが、長辺約70cm、短辺約50cmの楕円形の平面形であり、甕棺はやや東側が上がるほぼ横位で、埋設された状況で検出されている。上面の一部は割れた状況で発見されているが、残存状況は良好である。甕棺は上下ともに甕形土器が使用されている。K-8からは出土遺物や人骨等は確認されていない。

K-8の時期は甕棺の形状から、弥生時代中期に位置づけられると思われる。

周溝状遺構・不明遺構 (SX)

二反田遺跡発掘調査でSXとされている遺構はSX01～SX12が存在するようである。そのうち、不明の不整形な溝状遺構を外した周溝状遺構は、調査図面を確認すると形が明確で確実なものは8基存在しているようである。なお、調査時の現地説明会資料によれば周溝状遺構は10基となっている。

以下に、周溝状遺構の概要を記す。

SX01 (第182・186図)

調査区の南端部で検出された、直径約7mの円形周溝である。

出土遺物は実測できるものが1点のみであり(第186図4)、青磁碗の底部片である。

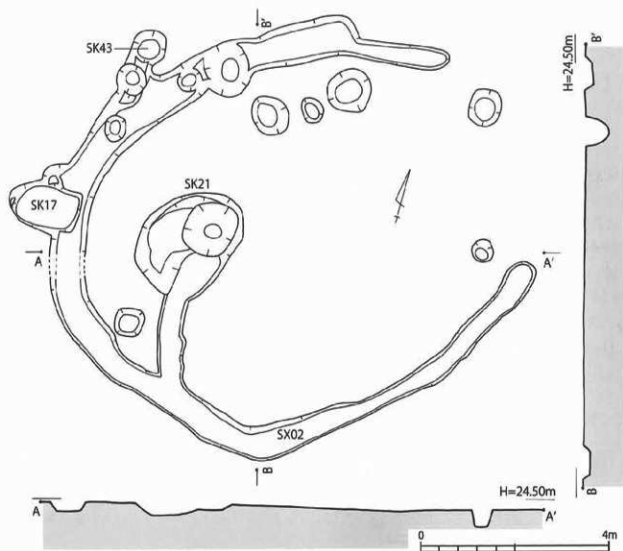
SX02 (第183・186図)

調査区中央やや西寄りで検出された北西側が途切れる形の円形周溝であり、直径約9mである。

出土遺物のうち実測できたものが3点あり(第186図1～3)、1は甕形土器の口縁部片で、口縁部は断面鋤先状であるので弥生時代中期に属するものと思われる。2は無頸の壺形土器で、胴部に1条の突帯を有している。3は壺形土器の下半部と思われ、平底である。これらの土器は器形等の特徴から弥生時代中期に属するものと思われる。



第 182 図 二反田遺跡 SX01 実測図 (S=1/80)



第 183 図 二反田遺跡 SX02 実測図 (S=1/80)

SX03 (第 184 図)

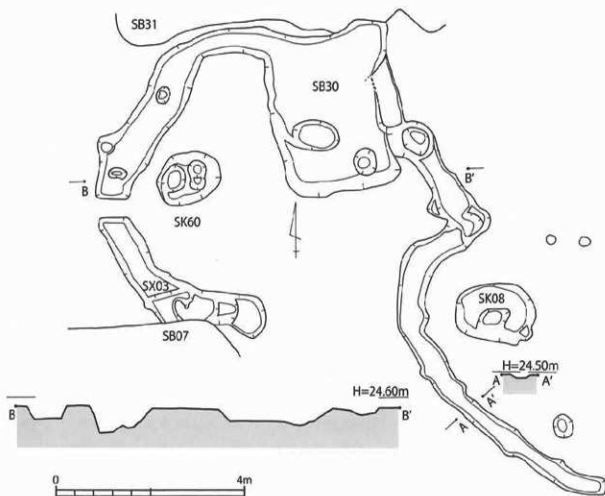
調査区中央やや東寄りで検出された、ややいびつな形の円形周溝であり、径約 6.5 m である。
出土遺物は今回の整理時には確認できなかった。

SX03 (第 4 図)

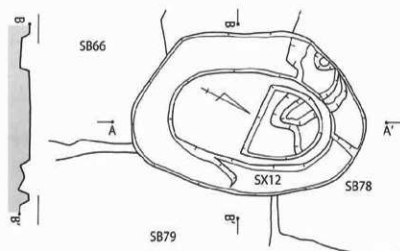
調査区南西部で検出された、ややいびつな形の円形周溝であり、半分以上は調査区外にのびる。
出土遺物は今回の整理時には確認できなかった。

SX05 (第 4 図)

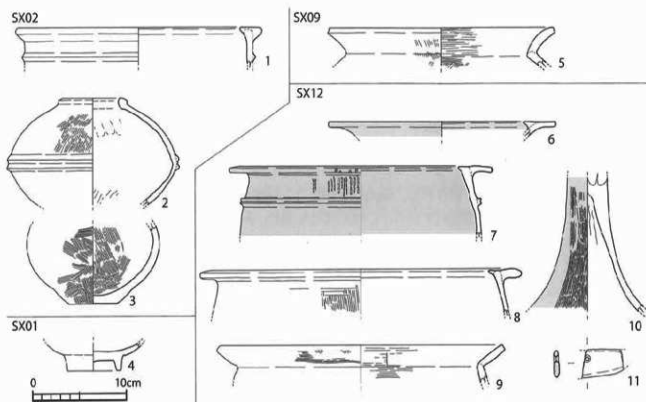
調査区西側で検出された円形周溝である。直径約 5 m である。
出土遺物は今回の整理時には確認できなかった。



第 184 図 二反田遺跡 SX03 実測図 (S=1/80)



第 185 図 二反田遺跡 SX12 実測図 (S=1/80)



第 186 図 二反田遺跡周溝遺構 (SX) 出土遺物 (S=1/4)

SX06 (第4図)

調査区西端部で検出された円形周溝であり、半分は調査区外にのびるが、直径は約5mであると思われる。出土遺物は今回の整理時には確認できなかった。

SX07・SX08 (第4図)

調査区北西側で検出された、不正形な溝である。ともに形状や性格等も不明である。出土遺物は今回の整理時には確認できなかった。

SX09 (第4・186図)

調査区北側中央で検出された不正形な溝である。ともに形状や性格等も不明である。遺物は1点のみ確認され(第186図5)、甕形土器の口縁部片で、口縁部断面は「く」字状である。器形や調整の特徴から、この甕形土器は弥生時代後期に属するものと思われる。

SX10 (第4図)

調査区中央からやや北西の場所で検出された円形周溝である。一部がSX11と重なるが、直径約7mである。出土遺物は今回の整理時には確認できなかった。

SX11 (第4図)

調査区中央からやや北西の場所で検出された円形周溝である。直径約6mである。出土遺物は今回の整理時には確認できなかった。

SX12 (第185・186図)

調査区北西側で検出された円形周溝である。直径約3.5～5mの楕円形の平面形である。

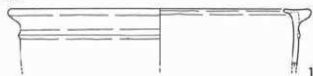
出土遺物のうち図化できたものを第186図に示す。6は高環形土器の坏部小片で弥生時代中期に属するものと思われる。7は赤彩された甕形土器の口縁部片で、外面はミガキ調整で仕上げられた後、タテ方向のミガキ調整による暗文が施されている。口縁端部には刻目、胴部には突帯1条が確認できる。口縁部の断面形態等より、弥生時代中期に属するものと思われる。8は甕形土器の口縁部片で、断面形態から弥生時代中期に属するものと思われる。9は甕形土器で、断面形態が「く」字状であることから、弥生時代後期に属するものと思われる。10は高環形土器の脚部片で、外面は赤彩されている。弥生時代中期か。11は石包丁の破片である。

土坑 (SK)

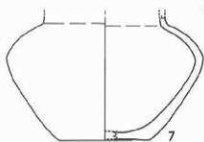
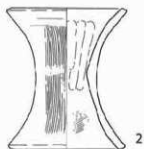
土坑は多数検出されているが(第4図参照)、ここで報告する出土遺物のある土坑を考慮すると、その大多数が弥生時代、中でも弥生時代中期に属する可能性が高いと思われる。特に、SK10・SK67・SK116からは大量に弥生時代を中心とした土器が出土している(写真図版参照)。特に、土器の出土状況から、SK67・SK116は廃棄土坑であった可能性が高いと思われる。また、上記以外の土坑は不明な点もあるが、前述の通り竪穴式住居跡からも甕棺の破片は多く出土していることから、一部の土坑は甕棺墓の土坑の一部残存である可能性が考えられる。

以下、遺物が出土している土坑を中心に報告する。土坑出土遺物を第187～205図に示し、遺物の詳細は紙幅の関係上、観察表(第1表)に示したので参照されたい。

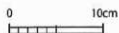
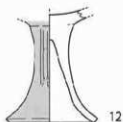
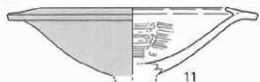
SK01



SK02



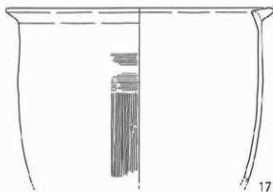
SK03



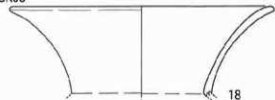
SK06



SK07



SK08



第 187 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 1 (S=1/4)

SK01 (第4・187図)

調査区南端部中央付近で発見された土坑であり、南側が調査区外にのびるが南北約4m、東西約2mの楕円形の平面形をしている。出土遺物は甕形土器の口縁部片(第187図1)のみであり、子の土器は弥生時代中期に属する。

SK02 (第4・187図)

調査区南端部中央で検出された土坑であり、調査時図面によると、西側でSK10に切られている。長辺約2.5m、短辺約1.5mの長方形に近い形状をしている。

出土遺物を第187図2～10に示す。2は筒形器台である。3は大型の甕の口縁部片で甕棺の破片の可能性がある。4は甕形土器の胴部片で胴部に刻目突帯を有する。5・6・9・10は甕形土器片、7は壺形土器の体部、8は鉢形土器である。出土遺物は弥生時代中期に属するものと思われる。

SK03 (第4・187図)

調査区中央やや南寄りで発見された土坑で、東西約1.6m、南北約1.2mの円形の土坑である。

出土土器は高坏形土器(第187図11・12)と甕形土器(同13～15)があり、ともに弥生時代中期に属するものと思われる。

SK06 (第4・187図)

調査区中央やや南寄りで発見された土坑で、半分はSD01内に位置している。長軸を北西-南東方向にとり、長辺約1.5m、短辺約1mの楕円形の土坑である。出土土器は甕形土器片1点(第187図16)のみであるが、口縁部に刻目を有し、口縁部断面は鋤先状になっていることから、弥生時代中期に属するものと思われる。

SK07 (第4・187図)

調査区南端部の、SK01の西側で発見された土坑で、南北方向に長軸をとる、長辺約1.5m、短辺約0.6mの楕円形の土坑である。出土遺物には甕形土器があり(第187図17)、弥生時代中期～後期初頭に位置付けられると思われる。

SK08 (第4・187図)

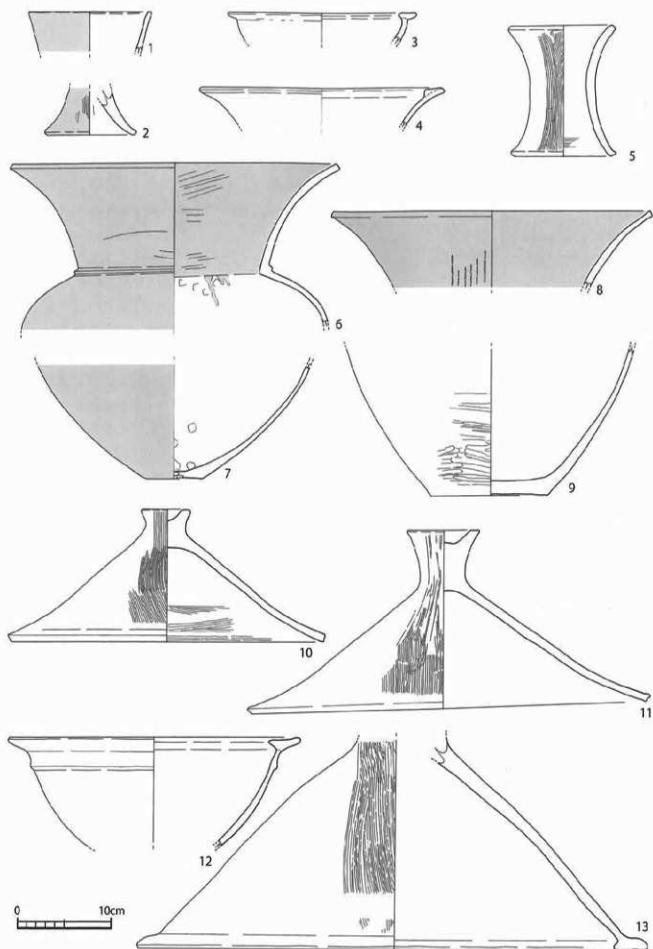
調査区中央からやや南東の位置で発見された土坑で、長辺約1.7m、短辺約1.2mの楕円形の平面形をしている。出土遺物は10cm大の円礫とともに土器が数点出土している。

出土遺物には壺形土器の口縁部と底部の小片があり(第187図18・19)、弥生時代中期に属するものと思われる。

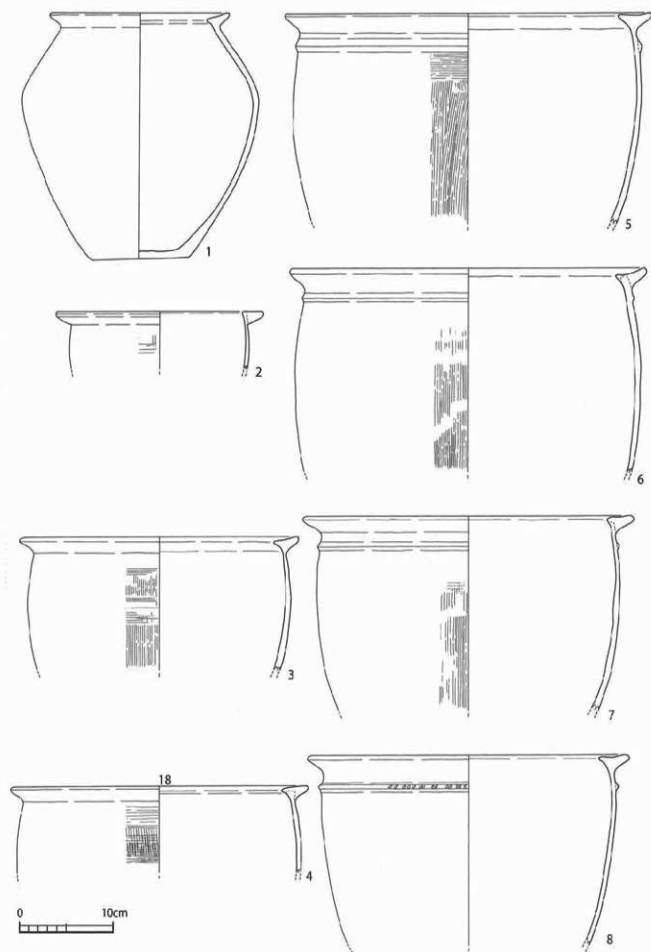
SK10 (第4・188～190図)

調査区南側中央で発見された土坑であり、この土坑からは土器が大量に出土していることから、廃棄土坑等であった可能性が高いものと思われる(出土状況は写真図版参照)。長辺約4.8m、短辺約2.1mの土坑であり、検出面からの深さは約20cmである。遺物は東側で集中的に出土しているほか、西側にもやや集中する箇所があり、まとまりを持って出土している。

出土遺物を第188～190図に示す。188図1は壺形土器ないし鉢形土器の口縁部片、188図2は高坏

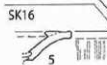
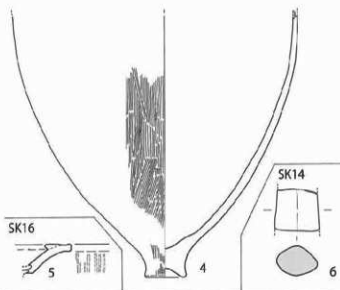
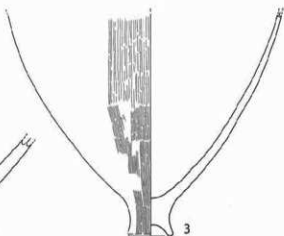
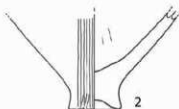
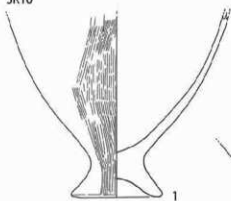


第 188 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 2 (S=1/4)

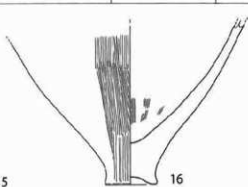
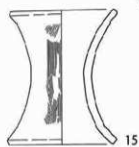


第 189 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 3 (S=1/4)

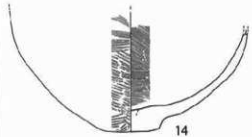
SK10



SK17



SK12



SK18



第 190 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 4 (S=1/4)

形土器の脚部、188 図 3・4 は高環形土器の坏部、188 図 5 は筒形器台である。188 図 6～8 は丹塗が施された壺形土器である。188 図 9 は壺形土器ないし甕形土器の底部で、平底で外面にはミガキ調整が施されている。188 図 10・11・13 は蓋としたが、甕形土器 SK10 の出土土器中でも対応する容器は存在しないことから、逆置にして鉢形土器として使用されていた可能性もある。甕棺等で上甕として使用されることもある形態の土器である。188 図 12 は鉢形土器である。189 図 1～8 および 199 図 1～4 は甕形土器である。口縁部は断面式先状になるもので占められており、頸部下位に 1 条の突帯を有するものもある。第 190 図 1～4 は甕形土器の下半部であるが、底部は突出気味の平底のものが多く、中には脚台化したものも確認される。SK10 出土土器は弥生時代中期に位置づけられるものと思われる。

SK12 (第 4・190 図)

調査区南西部の SB08 の北西隅で発見された土坑で、南北方向に長軸をとり、長辺約 2.3m、短辺約 1.3m の楕円形の平面形をしている。

出土遺物を第 190 図 7～14 に示す。7・8 は小型の鉢形土器、9 は低脚の高環の坏部、10 は低脚の高環ないし鉢形土器の脚部片、11 は小片で器形が不明であるが焼成前穿孔が 1 箇所確認される。12 は甕形土器の底部と思われるが、底部成形に輪充技法が採用されている状況が確認されることや、その器形から、近畿第 V 様式変容系統の古式土器器であると思われる。13 は甕形土器の上半部、14 は壺の底部であり、同じく近畿第 V 様式変容系統の古式土器器であると思われる。これらの SK12 出土遺物のほとんどは古式土器器であり、古墳時代前期に位置づけられる。

SK14 (第 4・190 図)

調査区南西部の SB08 南西に隣接して発見された土坑で、南北方向に長軸をとり、長辺約 2.5 m、短辺約 1.9m の楕円形の平面形をした土坑である。出土遺物は石器の破片 1 (第 190 図 6) のみである。

SK16 (第 4・190 図 5)

調査区中央から南西方向の、SB11 内で検出された土坑である。出土遺物のうち図化できたものは高環坏部の小片 (第 190 図 5) のみであり、弥生時代中期に属する。

SK17 (第 4・190 図)

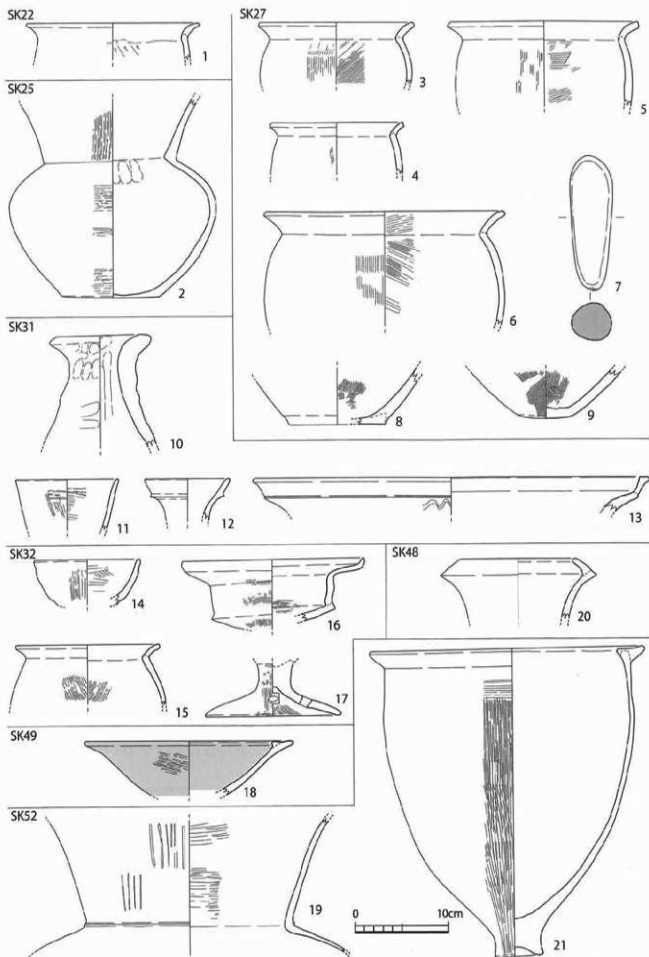
調査区中央やや南西の SX02 の西側で検出された土坑で、東西方向に長軸をとり、長辺約 1.5m、短辺約 0.9m の楕円形の平面形をした土坑である。出土遺物のうち図化できた 2 点を第 190 図 15・16 に示す。15 は筒形器台、16 が甕形土器の下半部であり、弥生時代中期に属するものと思われる。

SK18 (第 4・190 図)

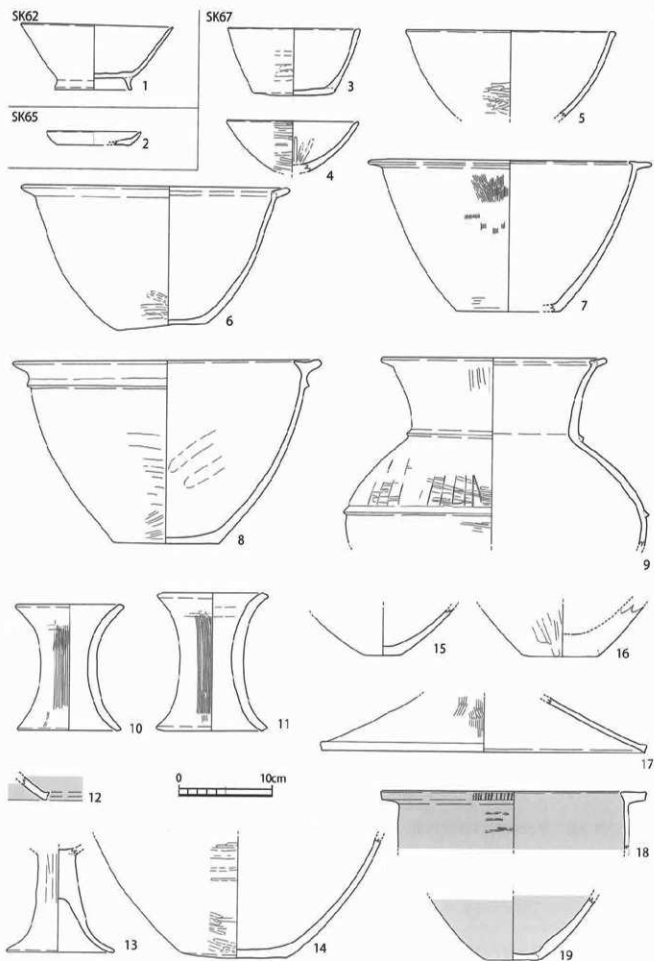
調査区中央より西側の、SB15 の北東隅で検出された土坑で、東西方向に長軸をとり、長辺約 2.2 m、短辺約 1.6m の楕円形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものは 3 点あり、第 190 図 17・18 は甕形土器の口縁部片、19 は底部片である。全て弥生時代中期に属するものと思われる。

SK22 (第 4・191 図)

調査区中央から南西方向の、SB11 の北側で検出された土坑で、北東-南西方向に長軸をとり、長辺約 3 m、短辺約 1.4 m の土坑である。出土遺物は図化できたものは 1 点のみであり、第 191 図 1 は甕形土器



第 191 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 5 (S=1/4)



第 192 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 6 (S=1/4)

の口縁部片である。形態や調整の特徴から、古代に属するものと思われる。

SK25 (第4・191図)

調査区中央から南西方向の、SB11とSX02の間で発見された土坑で、長辺約2m、短辺約1.2mの楕円形をした土坑である。出土遺物は図化できたものが1点のみであり(第191図2)、は壺形土器で口縁部を欠く。外面にはミガキが施され、口縁部外面にはミガキ調整により縦方向の暗文が施される。

SK27 (第4・191図)

調査区南西部の、SB11の東側で検出された土坑で、ほぼ東西方向に長軸をとり、長辺約2.5m、短辺約1.1mの、やや角張った楕円形の平面形である。

出土遺物を第191図3～9に示す。3～6は甕形土器の口縁部片であり、断面は「く」字形をしている。7は敲石と思われる石器で、敲打痕が確認できる。8・9は甕形土器の底部で平底である。

SK31 (第4・191図10～13)

調査区南西部で発見された土坑で、一辺2.5mの隅丸方形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものを第191図10～13に示す。10は粗い筒形器台であり、指圧痕が顕著に残る。11は壺形土器の口縁部片、12は甕の口縁部片である。13は甕の口縁部片であり、外面に波状文が施される。SK31では、弥生時代の土器とともに古代に属すると思われる土器が出土している。

SK32 (第4・191図)

調査区南西部のSB13北側で検出された土坑で、SX04と重なっている。

出土遺物のうち図化できたものを第191図14～17に示す。14は鉢形土器、15は甕形土器、16・17は高環形土器である。出土土器の時期は古墳時代前期に属すると思われる。

SK48 (第4・191図)

調査区中央やや南寄りで見えられた土坑で、SK49と重なっている。出土遺物のうち図化できたものには、袋状口縁の壺形土器片(第191図20)があり、弥生時代後期に属する。

SK49 (第4・191図)

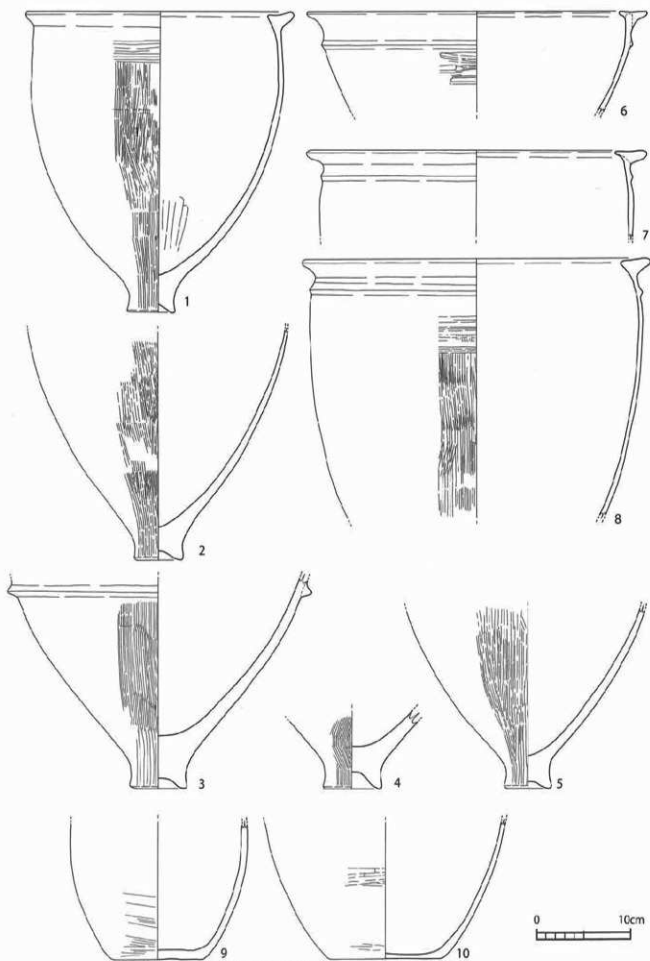
調査区中央やや南寄りで見えられた土坑で、SK48と重なっている。出土遺物には高環形土器の坏部片(第191図18)があり、弥生時代中期に属する。

SK52 (第4・191図)

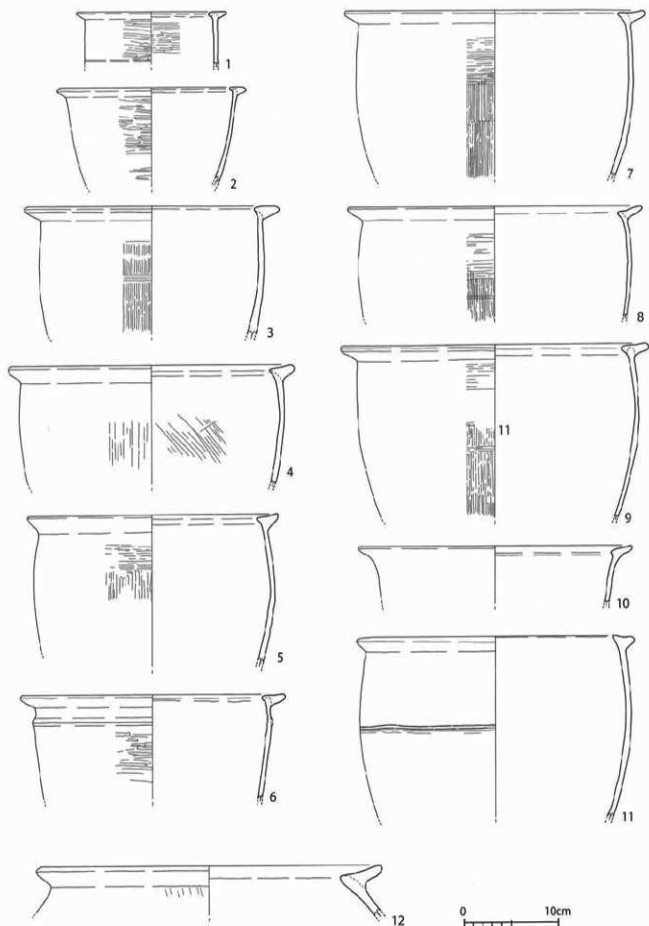
調査区中央に近い個所の、SB32の南側で発見された土坑で、南北方向に長軸をとり、長辺約2.5m、短辺約1.5mの長方形に近い楕円形の平面形をしている。出土土器には壺形土器と甕形土器があり(第191図19・21)、弥生時代中期に属する。

SK62 (第4・192図)

調査区中央から西側の箇所で見えられた土坑である。平面形は1辺約3mのやや角張った円形をしている。出土遺物は土師器の高台付坏のみであり、古代に属する(第192図1)。

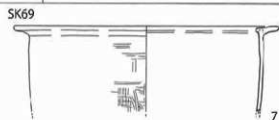
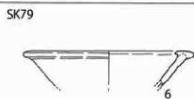
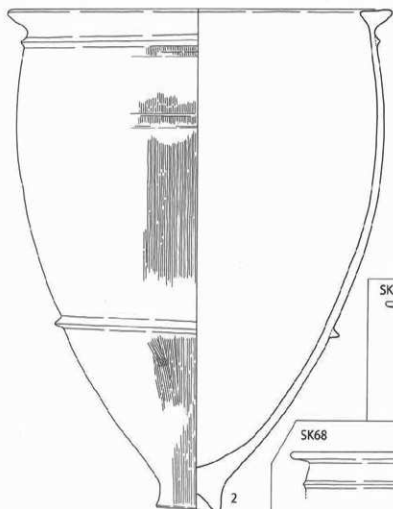
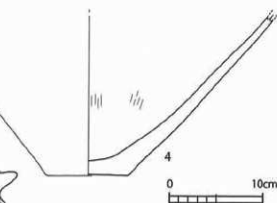
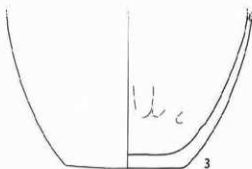
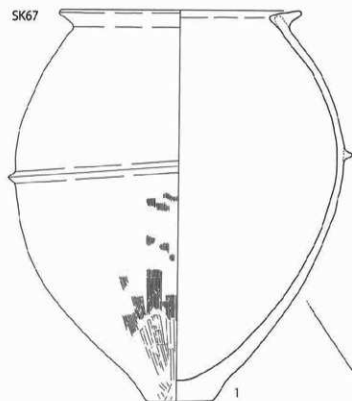


第 193 図 二反田遺跡 5K 出土遺物 7 (S=1/4)



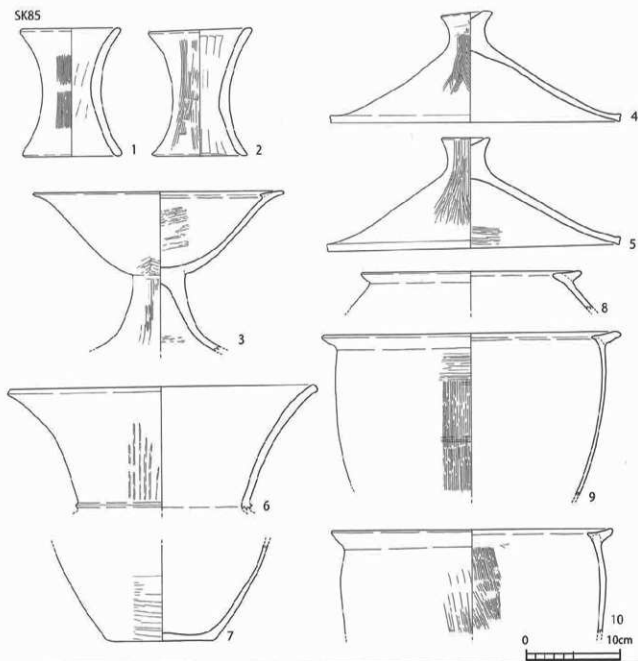
第 194 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 8 (S=1/4)

SK67



第 195 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 9 (S=1/4)

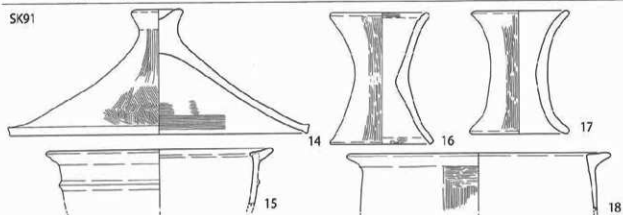
SK85



SK90

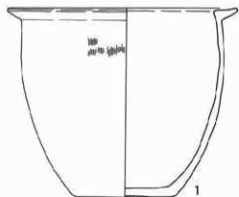


SK91

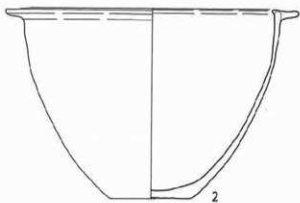


第 196 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 10 (S=1/4)

SK91



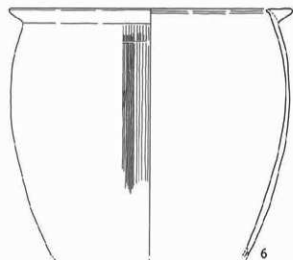
1



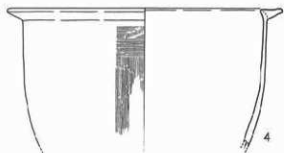
2



3



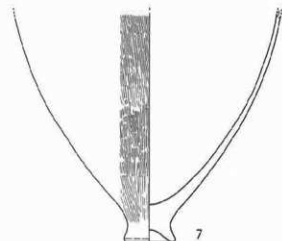
6



4

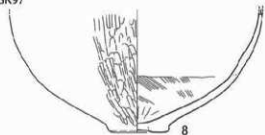


5



7

SK97



8



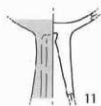
SK98



9



10



11

第 197 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 11 (S=1/4)

SK65 (第4・192図)

調査区西端南側で発見された土坑で、半分は調査区外にのびる。出土遺物は土師器の小皿がある(第192図2)。

SK67 (第4・192図3～19・第193図1～195図4)

調査区北西側で発見された土坑で、南北方向に長軸をとり、長辺約3m、短辺約2mの楕円形の平面形である。土器が大量に出土していることから、廃棄土坑等の性格を有する土坑であると思われる。

出土遺物のうち、図化できたものの一部を第192図3～195図4に示す。なお、実測可能な土器のうち、同様の器形の土器の一部を外して掲載している。甕形土器・壺形土器・高環形土器ともに大半のものが口縁部は断面鋤先状となっており、矢追時代中期に属すると思われるもので占められている。

SK68 (第4・195図)

調査区西側のSB38の南側で検出された土坑である。東西方向に長軸をとり、長辺約2m、短辺約1.5mの楕円形をしている。出土遺物のうち、図化できたものは甕形土器の口縁部片(第195図8)のみで、弥生時代中期に属するものと思われる。

SK69 (第4・195図)

調査区西側で発見された土坑で、径約1mの土坑である。出土遺物のうち、図化できたものは甕形土器の口縁部片(第195図7)のみで、弥生時代中期に属するものと思われる。

SK79 (第4・195図)

調査区南東端付近で発見された土坑で、一部がSD06と重なっている。1辺約1.4mの円形の土坑である。出土遺物のうち、図化できたものは高環形土器の坏部片(第195図6)で、弥生時代中期に属するものと思われる。

SK80 (第4・195図)

調査区南東部で発見された土坑で、SK81を切っている。

出土遺物のうち、図化できたものは甕形土器の口縁部片(第195図5)のみであり、形態の特徴から弥生時代中期に属する遺物と思われる。

SK85 (第4・196図)

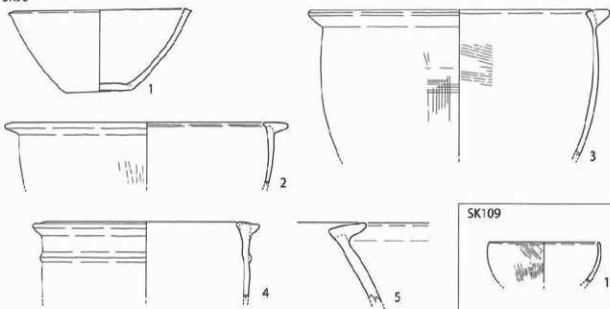
調査区南端部で発見された土坑であり、SD06と重なっている。長辺約2.2m、短辺約1.8mの楕円形の土坑であり、土器は土坑内でまとまって出土している状況である。

出土遺物のうち図化できたものを第196図1～10に示す。1・2は筒形器台。3は高環形土器で坏部内外面はミガキ調整が施されている。4・5は蓋としたが、上下反転して鉢形土器になる可能性もある。6・7は壺形土器である。外面はミガキ調整により丁寧に仕上げられ、口縁部外面にはミガキ調整により縦方向の暗文が施される。8～10は甕形土器の口縁部である。

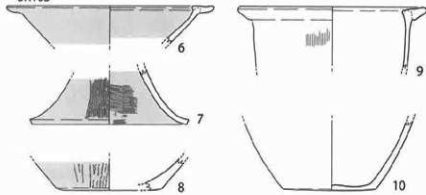
SK90 (第4・196図)

調査区南側中央付近で発見された土坑で、長辺約1m、短辺約0.6mの楕円形をした土坑である。

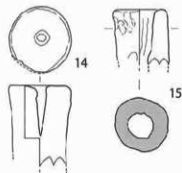
SK98



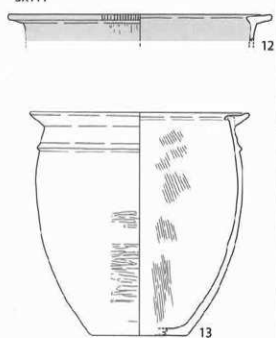
SK103



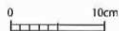
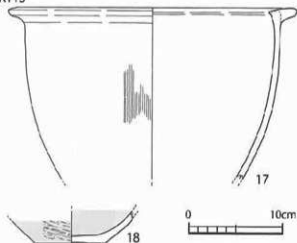
SK112



SK111



SK113



第198図 二反田遺跡 SK 出土遺物 12 (S=1/4)

出土遺物のうち図化できたものを第196図11～13に示す。11・12は鉢形土器、13は高坏形土器の坏部である。出土遺物は弥生時代中期に属するものと思われる。

SK91 (第4・196図・197図)

調査区南西部で発見された土坑で、北西―南東方向に長軸をもち、長辺約3m、短辺約1mの楕円形をした土坑である。内部からはやや南側に寄る形で土器が多数出土している。

出土遺物を第196・197図に示す。196図1は蓋ないし鉢形土器である。196図16・17は筒形器台、196図15・18は甕形土器で口縁部断面は鋤先状のものと内面肥厚が退化したものの二者がある。197図1は甕形土器、197図2・3は鉢形土器である。197図4～7は甕形土器で、口縁部は断面鋤先状、底部は突出気味の平底である。これらのSK91出土遺物は弥生時代中期に位置づけられる。

SK97 (第4・197図)

調査区北西部で発見された土坑で、長辺約1.5m、短辺約1mの楕円形の平面形である。

出土遺物のうち図化できたものは壺形土器の下半部(197図8)のみであり、平底で底部の成形には輪台充填技法が用いられていることや器形の特徴から、近畿第V様式変容系統の古式土師器であるものと思われる。古墳時代前期に属するものと思われる。

SK98 (第4・197・198図)

調査区西側のSD05に北側に隣接して検出された土坑であり、東西方向に長軸をもち、長辺約1.4m、短辺約1mの楕円形をした土坑である。

SK98出土遺物のうち図化できたものを第197図9～198図5に示す。197図9～11は高坏形土器であり、口縁部は断面鋤先状になっており、赤彩が施されている。198図1は鉢形土器、198図2～5は甕形土器である。これらの遺物は弥生時代中期に位置付けられるものと思われる。

SK103 (第4・198図)

調査区中央から西側のSB54の西側付近で検出された土坑で、北東―南西方向に長軸を持つ、長辺約4.5m、短辺約1.0mの長方形の形状をしている。土器は土坑の中央付近でまとまって出土している状況がみられる。

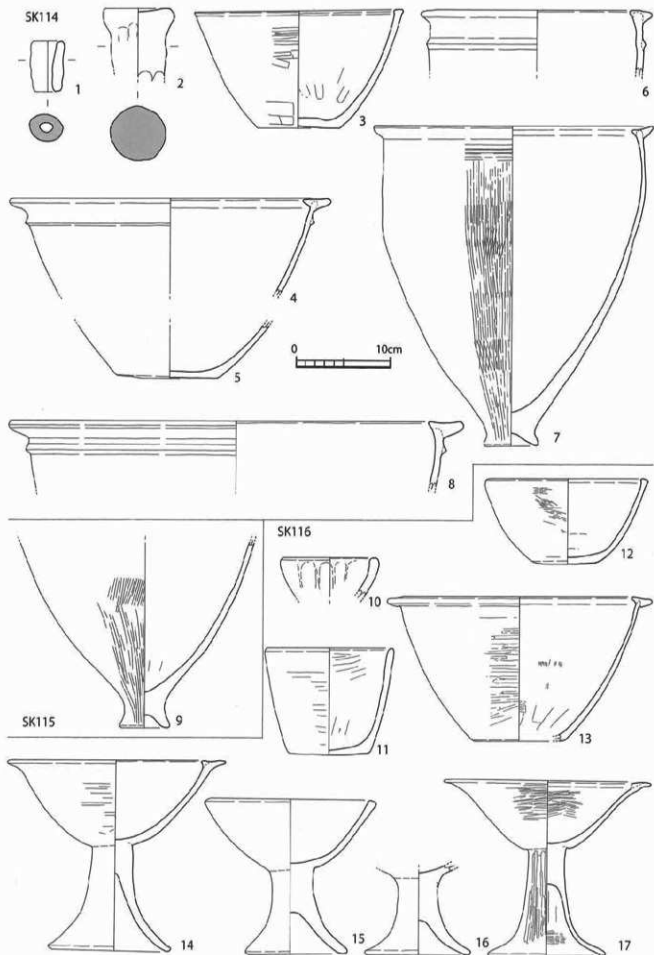
出土遺物のうち図化できたものを第198図6～10に示す。6・7は高坏形土器で赤彩が施されている。8は壺形土器の底部片であり、外面には縦方向のミガキ調整による暗文が施されている。9・10は甕形土器である。これらの出土遺物は弥生時代中期に位置付けられるものと思われる。

SK109 (第4・198図)

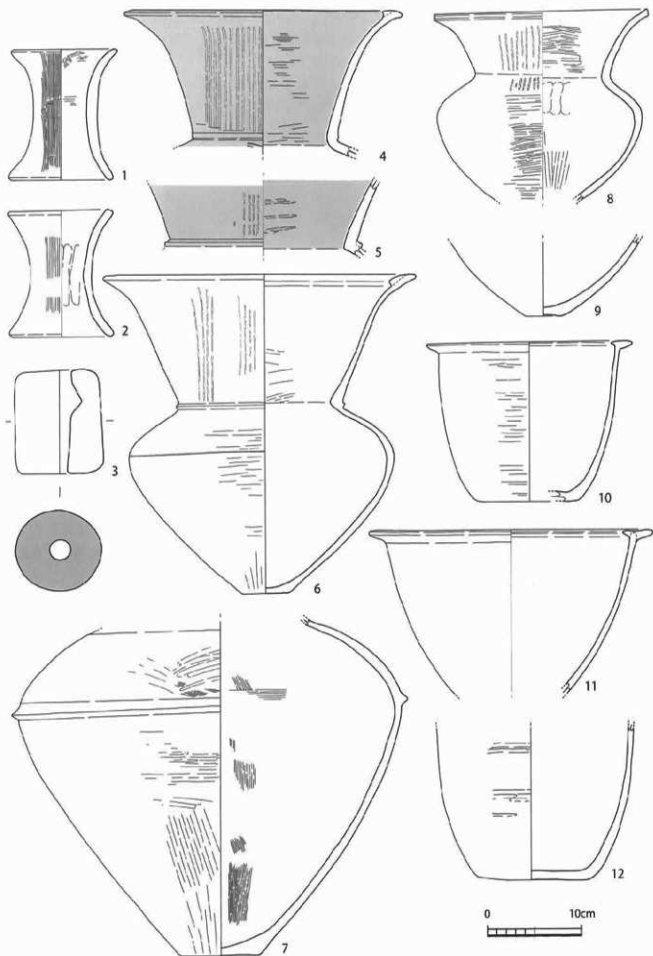
調査区中央やや北西で検出された土坑であるが、現場図面ではSK109となっている土坑が2基あり、SB53の南側とSB57の西側に存在するが、検討した結果どちらが本来のSK109であるか不明であるため、番号を変更せずに調査図面のまま報告する。出土遺物のうち図化できたものは鉢形土器の小片(第198図11)のみである。

SK111 (第4・198図)

調査区北西側の、SB59の南側で発見された土坑で、SK110と重なっている。南北方向に長軸をとる、

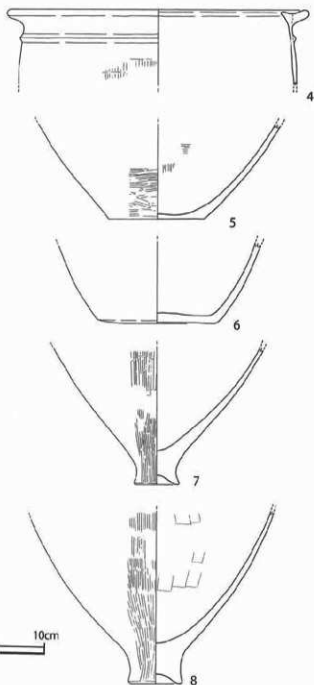
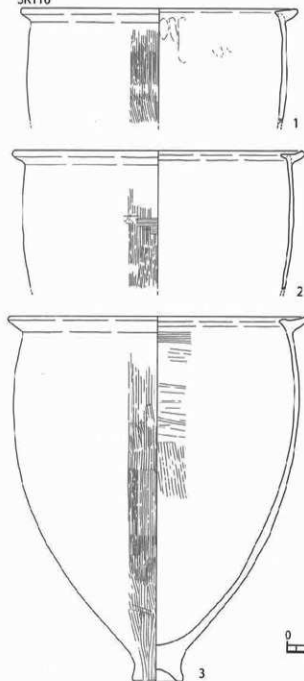


第 199 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 13 (S=1/4)

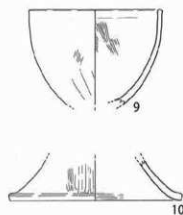


第 200 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 14 (S=1/4)

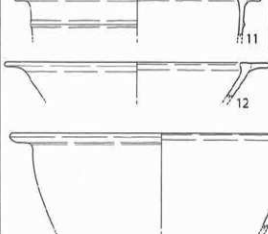
SK116



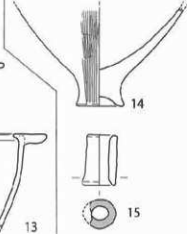
SK117



SK118



SK119



第 201 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 15 (S=1/4)

長辺約 1.7m、短辺約 1.0m の楕円形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものは甕形土器 2 点 (198 図 12・13) のみであり、12 には口縁端部に刻目が施され、赤彩されている。

SK112 (第 4・198 図)

調査区北西側の、SB59 の南側で検出された土坑で、東西方向に長軸をもち、長辺約 2.2m、短辺約 1.5m の楕円形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものを第 198 図 14～16 に示す。14・15 は支脚で、16 は壺形土器の底部と思われる、厚手の平底である。これらの遺物は弥生時代後期に位置付けられるものと思われる。

SK113 (第 4・198 図 17・18)

調査区北西側の、SB59 の北側で検出された土坑で、やや南北方向に長い長辺約 2.8m、短辺約 2.4m の方形の平面形をしている。出土遺物は甕形土器片が 2 点あり (198 図 17・18)、口縁部はやや退化した断面鋤先状、底部は平底である。これらの遺物は弥生時代中期に属するものと思われる。

SK114 (第 4・199 図)

調査区北西側の、SB58 と SB60 の間で検出された土坑で、SB61 掘立柱建物跡の範囲と重なる。1.5m × 2.0m 程の円形の土坑である。

出土遺物のうち図化できたものを 199 図 1～8 に示す。1 は土鍾、2 は支脚の上半部と思われる。

3～5 は鉢形土器、6・7 は甕形土器であり、口縁部は断面鋤先状で、底部は突出気味の平底である。これらの遺物は弥生時代中期に属するものと思われる。

SK115 (第 4・199 図)

調査区北西側で検出された土坑で、SB61 掘立柱建物跡の柱穴の 1 本と重なる。南北方向に長い 2m × 1m 程の大きさの土坑である。出土遺物のうち図化できたものは甕形土器の下半部 1 点のみであり (第 199 図 9)、底部は突出気味の平底である。この甕形土器は弥生時代中期に属するものと思われる。

SK116 (第 4・199 図 10～201 図 8)

調査区北側中央付近で発見された土坑で、すぐ南に甕棺墓 2 基 (K-5・K-6) が存在している。径 3m 程度の円形の土坑であり、土坑内からは土器が大量に出土している。

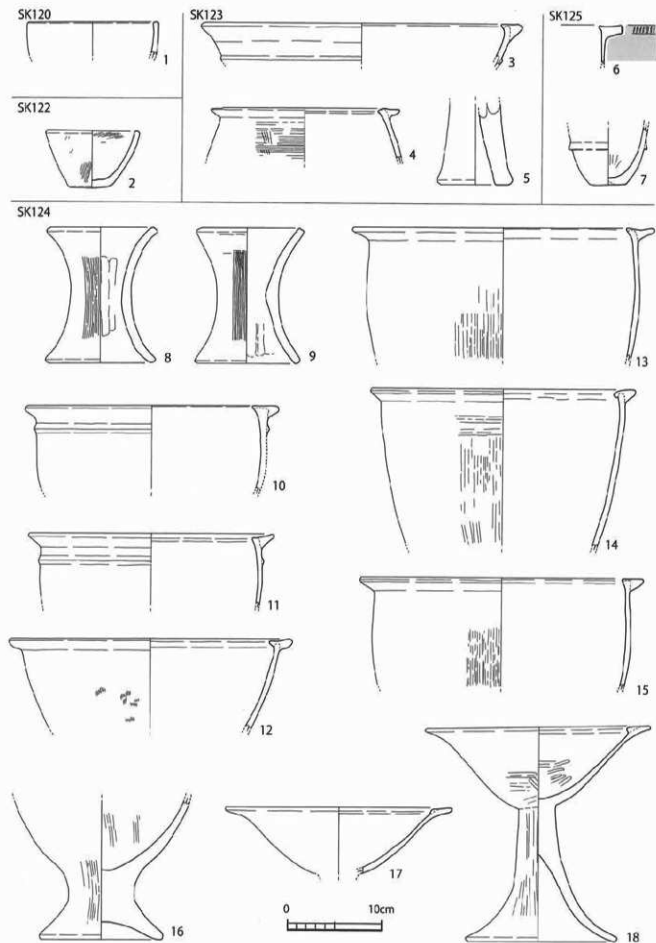
図化できた出土遺物の一部を第 199～201 図に示す。なお、SK116 出土土器については個数に意味はないと判断し、器形が細部まで同じ形のものを外して掲載している。土器は各器形のものが出土しているが、口縁部や底部の形状など、各器形の諸特徴より弥生時代中期に属する可能性が高いものと思われる。また、大型の甕の破片も出土していることから、甕棺墓の破片等も入っているものと思われる。

SK117 (第 4・201 図)

調査区中央付近の SB69 内で検出された土坑である。出土遺物のうち図化できたものは 2 点あった (第 201 図 9・10)。9 は鉢形土器であり、10 は高環形土器の脚部片である。

SK118 (第 4・201 図)

調査区北側の、SX11 円形周溝の西側で検出された土坑で、形状は切り合いにより不明な点もあるが径



第 202 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 16 (S=1/4)

3 m程度の円形の土坑である。

出土遺物のうち図化できたものは甕形土器が3点ある(第201図11~13)。これらの土器は口縁部の特徴から、弥生時代中期に属するものと思われる。

SK119 (第4・201図)

調査区北側のSB76内で検出された土坑である。長辺約2.0m、短辺約1.5mの楕円形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものは2点あり(第201図14・15)、14は甕形土器の下半部、15は土鍾である。甕形土器の特徴から、これらの遺物は弥生時代中期に属するものと思われる。

SK120 (第4・202図)

調査区北端部中央付近のSB76の北側に切り合う形で検出された土坑で、1.8m×1.2m程度の方形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものは1点のみであり、第202図1は鉢形土器の口縁部片である。

SK122 (第4・202図)

調査時図面ではどの土坑が特定できなかったが、周囲の番号の付し方等より、調査区北側で発見された土坑であると思われる。出土遺物のうち図化できたものは1点のみであり、第202図2は小型の鉢形土器である。

SK123 (第4・202図)

調査区北端部中央付近で検出された土坑で、東西方向に長軸をとり、長辺約1.6m、短辺約0.7mの楕円形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものは3点あった(第202図3~5)。3・4は甕形土器であり、5は支脚の下半部である。

SK124 (第4・202図)

調査区北端部中央付近で検出された土坑で、東西方向に長軸をとり、長辺約2.5m、短辺約1.5mの隅丸長方形の平面形をしている。出土遺物のうち図化できたものを第202図8~18に示す。

8・9は筒形器台である。10~15は甕形土器の口縁部片、16は甕形土器の下半部、17・18は高坏形土器である。これらの土器は器形の特徴から弥生時代中期に属するものと思われる。

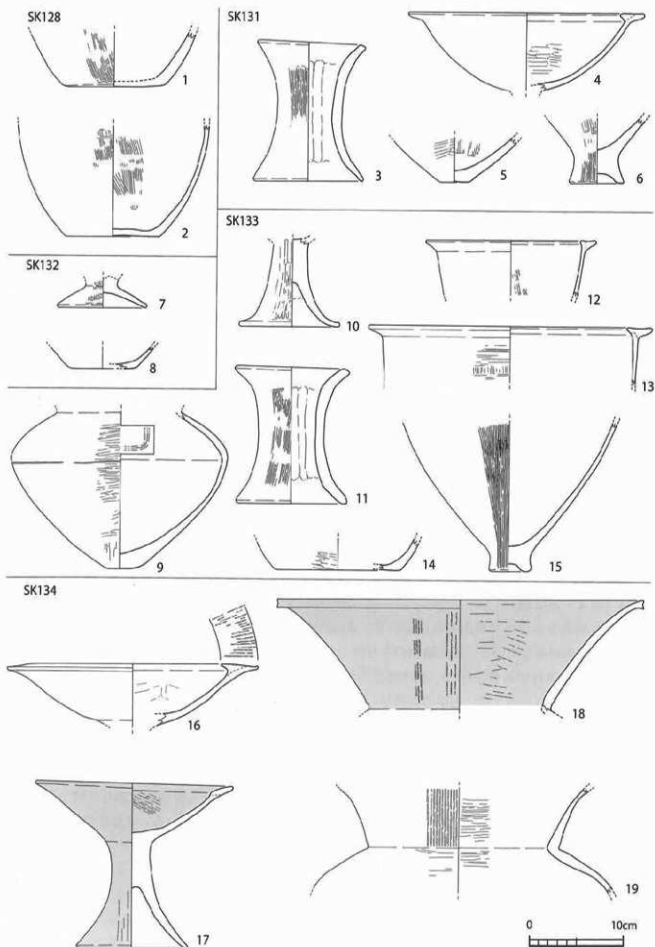
SK125 (第4・202図)

調査区北端部中央付近の、SK124の南側で検出された土坑であり、北西-南東方向に長軸をとり、長辺約1m、短辺約0.5mの小さな土坑である。出土遺物のうち図化できたものは2点あり(第202図6・7)、6は甕形土器の口縁部小片で口縁端部に刻目を有し、赤彩がなされている。7は小型の鉢形土器であり、胴部中位に突帯を有している。

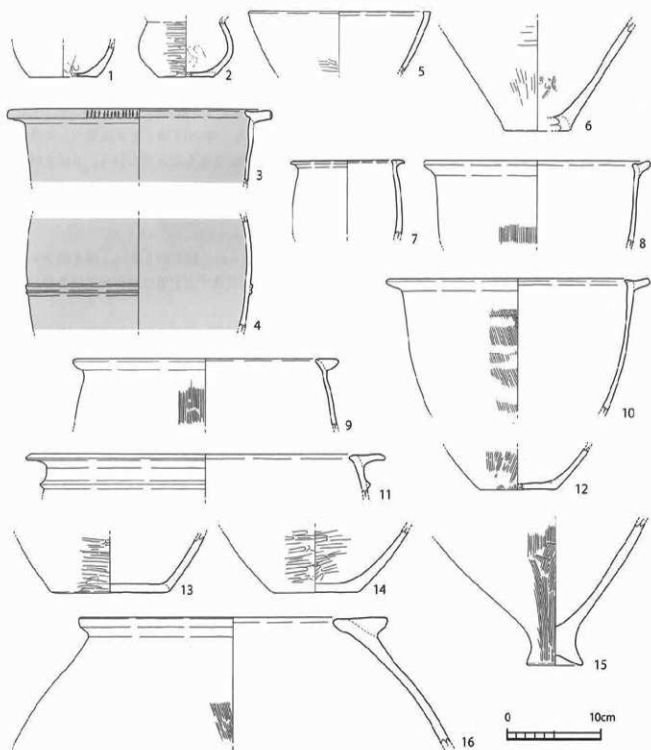
SK128 (第4・203図)

調査区南東端付近で発見された土坑であり、長辺約1.2m、短辺約1mの、茶の実のような形状で2つの土坑が重なったような平面形をしている。

出土遺物のうち図化できたものは2点あり、第203図1・2は甕形土器の底部片で平底あり、土坑の



第 203 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 17 (S=1/4)



第204図 二反田遺跡SK出土遺物18 (S=1/4)

北側で重なるようにして出土したものである。底部のみの残存でありやや不明瞭であるが、弥生時代中期に属するものと思われる。

SK131 (第4・203図)

調査区東端部中央付近で検出された土坑で、SB91・SB92内で発見されている。東西方向に長軸をとり、長辺約2.5m 短辺約1.4mの楕円形をしている。

出土遺物のうち図化できたものは4点あり、第203図3～6に示す。3は筒形器台、4は高環形土器

の坏部、5は壺形土器の底部、6は甕形土器の底部片である。それぞれの器形の特徴から、これらの出土遺物は弥生時代中期に属するものと思われる。

SK132 (第4・203図)

調査区南東端付近で検出された土坑で、北東-南西方向に長軸をとり、長辺約1.5m、短辺約0.5mの楕円形の平面形である。出土遺物のうち図化できたものは2点あり、第203図7・8に示す。7は低脚の脚台片であり、土師器である可能性が高い。高坏ないし鉢形土器になるものと思われる。8は土師器の坏である。

SK133 (第4・203図)

調査区南東端付近、SD01の北側で発見された土坑で、長辺約1.4m、短辺約1.2m、深さ約20cmの楕円形をした土坑であり、南側が深くなっている。遺物は土坑の北側でまとまりを持っているが、やや浮いた状態で、土坑全体に散在するような状況で出土している。

出土遺物のうち図化できたものを第203図9～15に示す。9は壺形土器であり、外面はミガキ調整により丁寧に仕上げられ、胴部最大径付近に沈線が1条めぐり、胴部上位に突帯が1条貼付されている。10は高坏の脚部、11は筒形器台である。12～15は甕形土器である。口縁部は断面鋤先状であり、底部は平底のものと突出気味の平底のものがあり、形状の特徴から、弥生時代中期に位置づけられるものと思われる。

SK134 (第4・203・204図)

調査区南東端付近、SD01の北側で発見された土坑で、長辺約6.2m×短辺約1.3mの細長い形をしている。深さは最深部で約40cmである。土器は西半部でまとまって出土している。

出土遺物のうち図化できたものを第203・204図に示す。203図16・17は高坏形土器、18・19は壺形土器であり、赤彩やミガキ調整による暗文等が確認される。204図1・2は小型の鉢形土器である。203図3・4は赤彩が施された甕形土器で同一個体の可能性が高い。内外面ともに赤彩が施され、口縁端部には刻目、胴部中位には1条の突帯が添付されている。5は鉢形土器である。

6は壺形土器の底部片であり、厚手の平底である。7～11は甕形土器の口縁部であり口縁部断面は鋤先状となる。12～14は甕形土器の底部片であり平底で外面にミガキ調整が施されているものもある。15は甕形土器の下半部で突出気味の平底となっている。16は大型の甕形土器の破片であり、甕棺の破片の可能性がある。

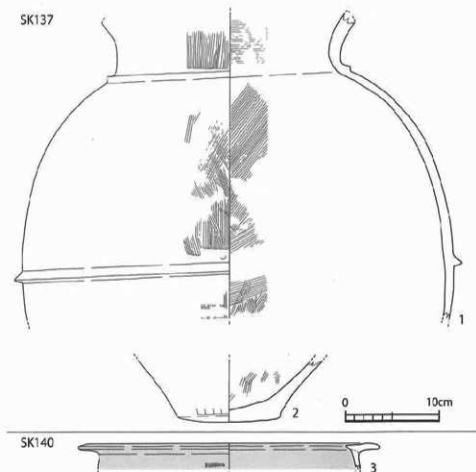
SK137 (第4・205図)

調査区南端部中央付近のSB02の南側で検出された土坑であり、径約1.2mの円形の土坑である。

出土遺物のうち図化できたものは2点のみであり、第205図に示す。1は壺形土器であり、口縁部と下半部を欠く。胴部中位と頸部に突帯を1条ずつ有する。2は壺形土器の底部片であり、平底である。

SK140 (第4・205図)

調査区中央より東側の箇所検出された土坑であり、SB29の東側に位置する。径約1mの円形の土坑である。出土遺物のうち図化できたものは壺形土器の口縁部小片1点のみであり(第205図3)、袋状口縁壺である。口縁部の形状から弥生時代中期に属するものと思われる。



第 205 図 二反田遺跡 SK 出土遺物 19 (S=1/4)

D 二反田遺跡発掘調査の総括

以上、本報告では、八女南部地区圃場整備事業に伴い実施された発掘調査のうち、酒井田地区に所在する二反田遺跡の発掘調査に関し報告した。まず、二反田遺跡と南隣接の宮ノ前遺跡は同一時期の集落遺跡である可能性が高いものと思われ、集落の考察では2遺跡を併せた考察をすべきことを付記しておく（宮ノ前遺跡は平成28年度に報告予定）。以下、二反田遺跡について概要と注目される点を2・3点述べて、本報告の結びとしたい。

二反田遺跡では建物跡は100棟以上が発見され、時期は弥生時代中期・弥生時代後期・古墳時代前期、および古代が存在した。また、遺構は存在しないが縄文時代後期の遺物も発見されている。このことより、二反田遺跡では継続的に集落が存在していた状況が明らかとなった。それとともに、二反田遺跡では建物跡は弥生時代中期の遺構・遺物の比率が高い。すぐ北に所在する京田遺跡・深田遺跡が弥生時代では、古墳時代前期および古代を中心とすることから（『八女市文化財調査報告書第71集』参照）、二反田遺跡集落は京田・深田遺跡集落に先行する集落跡と捉えられる。

また、甕棺墓も、原位置で発見された8基の他、建物跡や土坑から成人棺の破片と思われる土器も出土している。確証の無い推察であるが、土坑（SK）の一部はこれらの甕棺が埋設された土坑の痕跡の可能性もある。二反田遺跡で出土した甕棺はほとんどが弥生時代中期のものであり、弥生時代中期には二反田遺跡調査地内に墓地も存在していた状況が明らかとなった。二反田遺跡調査区内でも、集落と墓地が両方発見されている形である。なお、墓地は弥生時代後期を中心とする甕棺墓で鉛鍔の出土で知られる野田遺跡が北西に隣接している。集落のみならず墓地の構成等も、二反田遺跡南隣接の宮ノ前遺跡の整理を待つて

検討すべき課題である。

次に、二反田遺跡の出土遺物で特に注目されるものについて、最後に2・3点の指摘をしておきたい。まず、SB74 出土の把手(第124図7・8)である。把手のみで全景を知り得る資料ではないが、その形状から、「いわゆる、山陰系甕形土器」である可能性が高い。この土器は、近隣の熊本県北部でも玉東町稲佐津留遺跡(熊本県教育委員会調査、熊本県文化財調査報告書第263集)等での出土が知られているが、南筑後でも類例が少ない土器である。山陰系土器群は八女市周辺でも古墳時代前期に布留式系土器の影響を受ける頃(京田3b~4期頃)から出現する状況が窺えることが、京田遺跡・深田遺跡(八女市文化財調査報告書第71集所収)の事例や南筑後地区および周辺の調査例から明らかとなりつつある。弥生時代終末期から古墳時代前期の古式土師器の伝播や筑後地域での土師器の受容にあたっては、八女市域も他地域と密接な交流を持っていたことの証左と言えるのかもしれない。

次に、SB76 建物跡から出土した石英長石斑岩製の石器ないし石材(第130図1・2)である。石英長石斑岩は八女市域では砥石として使用されたものが出土することが多く、多くの八女市の弥生時代遺跡から石英長石斑岩製の砥石が出土している。ここで注目するSB76出土のものは、使用痕跡が少なく、砥石としての利用がなされようとしていた可能性も否定できない。ただし、砥石にしてはやや大型である点が気になる点である。近年指摘があっているように、石英長石斑岩は福岡平野等で青銅器の鋳型としても利用されており、鋳型用に準備・加工された可能性も十分考えられる。その他、四角柱状の石であるので、標柱等として製作された可能性もあるが、仕上げ加工まではなされていないため、確たることは言えない。まだ現状では類例に乏しいため、確たることは言えないが、可能性のひとつとして、鋳型の材料としての可能性にも注目しておきたい。

以上、二反田遺跡資料の整理時に気付いた点を数点述べた。冒頭の繰り返しであるが、本報告で示した二反田遺跡は、北側に隣接する京田遺跡・深田遺跡(前述)や、南側隣接の宮ノ前遺跡(平成28年度報告書刊行予定)と非常に近い距離であり、同一の平野内微高地上に存在している可能性が高い。これらの各遺跡は相互に関連を持っている可能性が高いと思われることから、両遺跡と合わせた考察がなされることで、弥生時代の酒井田一緒玉地域の集落の復元に繋がるものが期待される。

その他の各時代も、八女南部圃場整備事業地内で発見された数多くの遺跡を総括することにより、八女市西南部の状況はより明らかになってくるであろう。今後、八女市教育委員会では八女南部地区圃場整備事業関連発掘調査に関して整理作業を行い、継続して随時報告書を刊行していく予定となっているが、本報告以外の遺跡でも、特に弥生時代・古墳時代・古代に関しては多くの遺構・遺物が相当数発見されており、今回の報告書作成作業を通して、徐々にその実態が明瞭になりつつある。今後整理作業に当たっては調査成果の公表とともに、八女地域の歴史の復元に一歩でも貢献できるよう、作業を進めていきたい。

第1表 二反田遺跡出土土器観察表①

図録番号	出土 地点	器種	形状 (色別・文様)	土質	成形・整形手法等	寸法	備考(修理・現在等)	実測 番号
第5図1	SB01	弥生土器 鉢付鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	8.4 (5.3)	口縁一部欠損。	R02
第5図2	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	9.4	底面に黒痕あり。残存 3/4。	R01
第5図3	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	11.1 (3.4)	口縁一部欠損。	R16
第5図4	SB01	弥生土器 鉢	軟質 淡黄 にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	13.8	口縁部小片。	R08
第5図5	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	13.6	口縁部片(小片)。	R07
第5図6	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。ハケ目。内面ナデ。	12.2	口縁部片(小片)。	R11
第5図7	SB01	弥生土器 鉢付鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。ハケ目。内面ハケ目。	11.6	胴部片。	R09
第5図8	SB01	弥生土器 鉢	軟質 明赤褐色 明赤褐色	a	外面ナデ後ミガキ。内面ナデのちミガキ。	28.0	口縁部片。	R562
第5図9	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	20.0	口縁部片。	R14
第5図10	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	18.0	弥生後期。外面スス付着。 口縁部片。	R03
第5図11	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	24.4	口縁部片。	R13
第5図12	SB01	弥生土器 鉢	軟質 灰黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	38.0	底部片。底部外面にスス付着。	R05
第5図13	SB01	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	38.0	底部片。	R06
第5図14	SB01	弥生土器 鉢	軟質 黄褐色 にぶい黄褐色	b	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	38.0	底部片。断面は明赤褐色。 内面にコゲ付着。	R04
第5図15	SB01	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	内外面共にヨコナデ。	42.2	口縁部片。	R15
第5図16	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	14.0 (4.8)	残存 1/4。	R07
第5図17	SB02	弥生土器 鉢	軟質 明赤褐色 明赤褐色	a	外面工具ナデ後ナデ。内面ナデ。	14.4	口縁部片。	R102
第5図18	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ後ミガキ。内面ナデ。	25.8 (7.9)	残存 1/4。外面中に一部残存。	R101
第5図19	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ヘラナデ。内面ナデ。ナデ。	—	口縁部を欠く。	R119
第5図20	SB02	弥生土器 鉢付鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ヨコナデ。	12.4	口縁部片。	R114
第5図21	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。ヨコナデ。内面ナデ。ヨコナデ。	16.2	胴部片。	R13
第5図22	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ナデ。内面ヨコナデ。	26.9	口縁部片。	R111
第5図23	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ハケ目後ナデ。内面ミガキ。	27.6	口縁部片。	R110
第5図24	SB02	弥生土器 鉢	軟質 明赤褐色 明赤褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ミガキ。	22.0	唇部片。丹塗。	R98
第5図25	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面タテ方向ナデ。	16.4	胴部片。表面黒痕のため 断面は不明。	R115
第5図26	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面タテ方向ミガキ。内面シボリ痕有。	16.3	胴部片。	R179
第5図27	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面タテ方向のミガキ。内面ヨコナデ。	37.6	胴部片。	R112
第5図28	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ナデ。ハケ目。内面ハケ目。	40.0	口縁部片。	R109
第5図29	SB02	弥生土器 鉢	軟質 淡黄 にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	14.2	口縁部片。	R103
第5図30	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面丁寧ナデ。内面ナデ。	26.0	口縁部片。	R107
第5図31	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ヨコナデ。	30.2	口縁部片。	R105
第5図32	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ナデ。	28.2	口縁部片。	R106
第5図33	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	35.6	口縁部片。	R108
第5図34	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	30.8	口縁部片。	R120
第5図35	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	66.2	底部は平いびつな形。	R116
第5図36	SB02	弥生土器 鉢	軟質 灰黄褐色 灰黄褐色	a	内面ナデ。	13.0	底部片。外面スス付着。	R118
第5図37	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	66.0	底部片。	R117
第5図38	SB02	弥生土器 鉢	軟質 明赤褐色 明赤褐色	a	外面ハケ目。ヨコナデ。ハケ目。内面ヨコナデ。 ナデ。	44.2	口縁部片。	R104
第5図39	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	b	外面ヨコナデ。	38.4	口縁部片。	R121
第5図40	SB02	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ナデ。	7.0	底部片。黒痕あり。	R122
第5図41	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。	32.0	口縁部片。丹塗。	R565
第5図42	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ミガキ。	18.0	底部片。丹塗。	R566
第5図43	SB02	弥生土器 鉢	軟質 明赤褐色 明赤褐色	b	外面ミガキ。内面ナデ。	—	胴部片。丹塗。	R573
第5図44	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	b	外面ミガキ。内面ナデ。	—	胴部片。方形透かし孔あり。	R570
第5図45	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	—	胴部片。丹塗。	R564
第5図46	SB02	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	内外面共に丁寧ナデ	55.4	底部片。段込みに磨き痕 あり。	R506
第5図47	SB03	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	9.0	口縁部片。外面底部に黒痕 あり。	R128
第5図48	SB03	弥生土器 鉢	軟質 淡黄褐色 淡黄褐色	a	内外面共にナデ。	4.8	口縁部片。	R129
第5図49	SB03	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	内外面共にハケ目。	11	残存 3/4。スス付着。底部 黒痕あり。	R123
第5図50	SB03	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	外面ハケ目。内面ナデ。	11.4 (6.0)	残存 2/3。	R17
第5図51	SB03	弥生土器 鉢	軟質 粗 / 粗	a	内外面共にハケ目後ナデ	11.0	口縁部片。	R130
第5図52	SB03	弥生土器 鉢	軟質 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	a	外面丁寧ナデミガキ。内面工具ナデ後丁寧ナ デ。	10.4	胴部片。	R127

第1表 二反田遺跡出土土器観察表②

調査番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外・内)	胎土	成形・整形手法等	寸法	備考(種類・保存等)	実測 番号
第11期7	S803	土師器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目、内面ナデ。	9.0 9.9	断面片。外面に黒線あり。	R124
第11期8	S803	土師器 甕	軟質	緑 / 緑	a	外面ハケ目ヨコナデ。内面ハケ目、ハケ目ナデ。	16.2 5.0	口縁部片。外面にスス付着。	R131
第11期9	S803	土師器 甕	軟質	緑 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目、タタキ後ハケ目。内面へう割り。	14.5 15.0	残存2/3。	R67
第11期10	S803	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ。内面ハケ目、へう割り。	15.4 8.8	口縁部片。	R132
第11期11	S803	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ後ハケ目。内面ハケ目。	—	0.6 底面片。	R126
第11期12	S803	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ。内面ハケ目調整のナデ。	14.0 2.5	底面片。	R125
第11期13	S803	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	9.0 2.6	断面片。底部黒線あり。	R133
第11期14	S803	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂降	内外面共にナデ。	—	5.0 底面片。	R134
第13期1	S804	土師器 鉢	硬質	緑 / 緑	a	外面ハケ目後ヨコナデ。内面ハケ目後丁寧ナデ。	11.5 7.2	ほぼ完形。底部黒線あり。	R21
第13期2	S804	土師器 鉢付付	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ。内面ハケ目。	9.0 4.8	底面片。	R18
第13期3	S804	土師器 甕	軟質	緑 / 緑	a	外面ハケ目後ヨコナデ。内面ヨコナデ。	19.9 8.0	口縁外面ヨコナデ後黒線描状。	R19
第13期4	S804	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ後下半部ハケ。内面ハケ目。	18.8 9.7	外面にスス付着。	R22
第13期5	S804	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面丁寧ナデヨコナデ。内面ヨコナデ。	—	5.7 外面にスス付着。	R20
第13期6	S804	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	30 3.3	口縁部片。外面にスス付着。	R135
第17期1	S805	土師器 甕	軟質	緑 / 緑	a	外面ハケ目ナデ。内面黒線後ナデ。	11.1 6.0	高円筒部片。	R139
第17期2	S805	土師器 鉢	軟質	緑 / 緑	a	内外面共に黒線のため不明。	12.0 6.8	口縁部片。	R147
第17期3	S805	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	19.6 9.0	口縁部片。	R141
第17期4	S805	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面黒線後工具によるナデ。内面ナデ。	10.3 (4.5)	7.5 残存完形。	R137
第17期5	S805	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ。内面へう調整ナデ。	11.4 1.7	断面片。	R136
第17期6	S805	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ、ナデ。	20.0 7.3	口縁部片。外面の一部に丹塗り。	R166
第17期7	S805	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面平行タタキ目後部分ハケ。内面ハケ目。	18.0 7.3	口縁部片。	R145
第17期8	S805	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ベズリ。	17.0 11.6	口縁部片。	R144
第17期9	S805	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	20.6 6.5	口縁部片。	R142
第17期10	S805	甕主土器 甕	軟質	緑 / 緑	a	外面ヨコナデ。内面ハケ目。	9.4 2.5	底面片。	R138
第17期11	S805	甕主土器 甕	硬質	緑 / 緑	a	内外面共にヨコナデ。	8.0 3.9	口縁部片。	R148
第17期12	S805	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ。内面ヨコナデ。	28.2 4.5	口縁部片。	R140
第18期1	S807	甕主土器 高杯	軟質	緑 / にぶい黄褐色	b	内外面共にヨコナデ。	23.0 4.2	口縁部片。	R24
第18期2	S807	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	—	6.5 つまみ径 5.7cm。	R33
第18期3	S807	甕主土器 鉢付付	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。内面ヨコナデ、ナデ。	10.5 (11.7)	15.1 残存3/4。	R34
第18期4	S807	甕主土器 甕	軟質	明赤褐色 / 緑	a	外面ヘラミガキ。内面ナデ。	9.2 4.0	底面片。	R32
第18期5	S807	甕主土器 鉢	軟質	緑 / 灰褐色	b	外面黒線。内面ナデ(黒線欠有)。	—	2.9 底面片。黒線あり。底部に丹塗り。	R688
第18期6	S807	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 緑	b	内外面共にヨコナデ。	—	4.5 口縁部片。	R26
第18期7	S807	甕主土器 甕	軟質	明赤褐色 / 緑	a	内外面共にヨコナデ。	25.0 4.3	口縁部片。外面にスス付着。	R24
第18期8	S807	甕主土器 甕	軟質	緑 / 緑	a	内外面共にヨコナデ。	32.0 6.8	口縁部片。	R27
第18期9	S807	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	36.0 6.7	口縁部片。	R29
第18期10	S807	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ目。	35.6 8.4	口縁部片。	R28
第18期11	S807	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目。ナデ。内面ハケ目、ハケ目後ナデ。	12.0 (7.0)	15.0 残存1/2。底部付近に黒線あり。	R23
第18期12	S807	甕主土器 甕	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ヨコナデ。	36.7 7.9	口縁部片。黒線に破片。	R30
第18期13	S807	甕主土器 甕	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ヨコナデ。	49.0 6.2	口縁部片。	R31
第21期1	S808	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。	27.2 4.8	口縁部片。	R205
第21期2	S808	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰	a	外面丁寧ナデ。内面ヨコナデ一部黒線直有。	15.2 4.2	口縁部片(小片)。	R206
第21期3	S808	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰白	a	ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。内面ハケ目。	—	7.3 口縁部片。外面スス付着。内面ヨコナデ付着。	R38
第21期4	S808	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。内面ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。	25.6 5.9	口縁部片。外面スス付着。	R202
第21期5	S808	甕主土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	28.0 3.3	口縁部片。外面スス付着。	R207
第21期6	S808	甕主土器 甕	軟質	灰褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ後ナデ。	27.6 14.5	口縁部片。外面スス付着。	R36
第21期7	S808	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ目。内面へう割り。	17.8 4.4	口縁部片。	R204
第21期8	S808	甕主土器 甕	軟質	灰褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	9.8 4.7	底面片。	R37
第21期9	S808	甕主土器 甕	軟質	灰褐色 / 灰白	a	外面ハケ目。内面ナデ。	9.0 5.1	底面片7/3。外面スス付着。	R35
第21期10	S808	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ後ナデ。ナデ。内面ナデ。	—	4.2 底面片。	R39
第21期11	S808	甕主土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰褐色	a	外面ハケ目。内面不定方向の工具によるナデ。	5.0 7.8	胴下部片。	R203
第21期12	S808	土師器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面不定方向へう割り。	14.0 6.6	底面片。	R201
第24期1	SB10	土師器 高杯	軟質	緑 / 緑	a	内外共にへうヨコナデ。	12.6 3.7	ほぼ完形。黒線あり。	R210

第1表 二反田遺跡出土土器観察表③

調査番号	出土 地点	器形	地蔵	色調 (外側)	胎土	成形・整形手法等	寸 法	備考 (補綴・保存等)	実測図 番 号
第24図2	S810	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	14.8 7.5	口縁部、外面にスス付着。	R40
第24図3	S810	弥生土器 甕	軟質	灰黄 / 灰黄	b	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	32.6 5.0	口縁部片。	R45
第26図1	S811	弥生土器 甕	軟質	明赤褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目後ミガキ。内面ナデ。	21.9 7.5	口縁部片。	R209
第26図2	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ヨコナデ。	24.2 4.0	口縁部片。	R71
第26図3	S811	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面厚底のため不明。	26.2 8.0	口縁部片。小片。外面スス付着。	R70
第26図4	S811	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ミガキ。内面ナデ。	25.2 5.5	口縁部片。	R225
第26図5	S811	弥生土器 甕	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ヨコナデ。内面ハケ目。	21.4 7.5	口縁部片。	R53
第26図6	S811	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ目後ミガキ。	25.4 5.1	口縁部片。	R226
第26図7	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ヨコナデ。内面ヨコナデ。ナデ。	26.0 5.0	口縁部片。黒黒あり。	R54
第26図8	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目後ミガキ。内面ヨコナデ。	26.0 3.7	口縁部片。	R80
第26図9	S811	弥生土器 甕	硬質	黄 / 黄	b	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ナデ。	26.0 11.5	口縁部片。外面スス付着。	R49
第26図10	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 明赤褐色	b	内外面共にヨコナデ。ハケ目。	37.0 19.3	口縁部中央部片。	R229
第26図11	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	12.6 (12.7)	ほぼ完整。	R151
第26図12	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。ヨコナデ。内面ナデ。ハケ目。	11.2(10.7)	底面片。	R50
第26図13	S811	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面へうミガキ。内面ハケ目。ナデ。	40.0 5.4	底面片。	R48
第26図14	S811	弥生土器 甕	軟質	灰黄 / にぶい黄褐色	a	外面へうミガキ。内面ナデ。	(8.8)	底面片。	R47
第26図15	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目後ミガキ。ハケ目。内面ナデ。	45.6 9.7	口縁部片。	R55
第26図16	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にナデ。	(11.6)	底面片。外面黒黒あり。	R69
第26図17	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(10.4)	底面片。脚部にスス付着。	R57
第26図18	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.5)	底面片。外面スス付着。	R52
第26図19	S811	土師器 甕	軟質	灰白 / 灰白	砂礫少	内外面共にヨコナデ。	12.0 (11.4)	口縁部片。	R75
第27図1	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にへうミガキ。	24.2 7.0	底部片。	R68
第27図2	S811	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 明赤褐色	a	外面ハケ目後ミガキ。内面ナデ。	26.2 5.9	口縁部片。	R82
第27図3	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目後ミガキ。内面ナデ。	30.6 7.8	口縁部片。	R209
第27図4	S811	弥生土器 甕	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ヨコナデ後ミガキ。内面ヨコナデ。	— 4.5	口縁部片。外面は暗文状ミガキ。	R76
第27図5	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ヨコナデ後ミガキ。内面ナデ。	(2.4)	底面片。	R26
第27図6	S811	弥生土器 甕	軟質	赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	28.9 12.8	口縁部片。片。片。	R58①
第27図7	S811	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄	a	外面洗滌。不定向内のミガキ。内面ナデ。	23.2 (4.6)	残存4/5。外面に黒黒あり。外面スス付着。	R79・223
第27図8	S811	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	b	外面へうミガキ。内面ハケ目。ナデ。	(5.0)	底面片。黒黒あり。	R51
第27図9	S811	弥生土器 甕	軟質	灰黄褐色 / 鈍い黄褐色	a	外面ハケ目。ナデ。内面ハケ目後ミガキ。	(4.3)	脚中央部片。	R74
第27図10	S811	弥生土器 甕	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ヨコナデ。底部ミガキ。ヨコナデ。内面ナデ。	(4.9)	底面片。片。片。	R58②
第30図1	S812	土師器 甕	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にハケ目後ミガキ。	30.0 4.0	口縁部片。	R73
第32図1	S813	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	砂礫少	外面へうミガキ。内面ヨコナデ。	(35.8)	底面片。一部黒黒あり。	R65①
第33図1	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。ハケ目。	10.5 (9.0)	残存4/5。外面に黒黒あり。	R78
第33図2	S813	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にハケ目。	12.4 (7.0)	ほぼ完整。	R150
第33図3	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ミガキ。ハケ目。内面ナデ。	16 (7.8)	残存1/5。黒黒あり。	R59
第33図4	S813	弥生土器 甕	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ハケ目後ミガキ。内面ハケ目後ミガキ。ハケ目。	12.4 (9.3)	瓶元片。黒黒あり。	R228
第33図5	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ハケ目。ナデ。	14.3 (9.2)	ほぼ完整。外面黒黒あり。	R183
第33図6	S813	弥生土器 甕	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面丁寧ナデ。内面ナデ。	(8.7)	底面片。	R153
第33図7	S813	弥生土器 甕	軟質	赤褐色 / 赤褐色	a	外面ハケ目。工具ナデ。ナデ。内面ハケ目。	19.9 15.3	底面。脚部片。	R152
第33図8	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。ヨコナデ。内面ハケ目。	17.6 13.0	口縁部片。	R77
第33図9	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ハケ目。	18.0 5.0	口縁部片。	R60
第33図10	S813	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にハケ目。	(7.7)	底面片。黒黒あり。	R61
第33図11	S813	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にハケ目。	18.0 12.8	口縁部片。	R156
第33図12	S813	弥生土器 甕	軟質	灰黄 / 灰黄	a	内外面共にハケ目。	16.9 (7.2)	ほぼ完整。	R230
第33図13	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄	a	内外面共にハケ目。	22.3 25.7	口縁部中央部片。	R224
第33図14	S813	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	28.0 5.4	口縁部片。口縁部外面黒黒により変色化。	R227
第33図15	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ目。	(9.9)	底部部片。スス付着。底部に黒黒あり。	R62
第33図16	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タテハ後ミガキ。内面ハケ目。	17.1 (10.5)	残存1/3。黒黒あり。底部に黒黒あり。	R154
第33図17	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄褐色	a	外面ナデ。片。内面ハケ目。ナデ。	(9.2)	底面片。外面スス付着。	R149
第33図18	S813	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。不定向内のナデ。外面ハケ目。ナデ。	22.0 (12.1)	残存1/2。外面上平にスス付着。	R155
第35図1	S815	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	27.4 4.5	口縁部片。外面スス付着。	R216

第1表 二反田遺跡出土土器観察表④

博物館番号	出土 地点	器形	地蔵	色澤 (外見)	断面	成形・整形手法等	寸法	備考(種類・現存等)	実測 番号
第35回2	SB15	弥生土器 蓋	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	b	外周ヨコナデ、ハケ目、内面ナデ。	30.0 5.7	口縁部片。	R42
第35回3	SB15	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内面ナデ。	31.0 7.0	口縁部片。	R43
第35回4	SB15	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外周ヨコナデ。内面ナデ。	36.0 4.5	口縁部片。	R217
第35回5	SB15	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外周ヨコナデ。内面ナデ。	32.0 3.3	口縁部片。	R215
第35回6	SB15	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	外周ハケ目後ヨコナデ、ハケ目、内面ナデ。	34.4 8.5	口縁部片。	R211
第35回7	SB15	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	外周ハケ目。内面ナデ。	33.6 8.0	口縁部片。	R213
第35回8	SB15	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外周ハケ目。内面ナデ。	(4.6) 13.5	底部。底部内面ヨコナデ付着。	R41
第35回9	SB15	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外周ハケ目。内面ナデ。	(5.1) 12.5	底部片。内面底部にコナデ付着。外面黄褐色により着色化。	R40
第35回10	SB15	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外周ハケ目。内面ヨコナデ。	23.6 4.2	口縁部片。	R44
第35回11	SB15	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	外周ハケ目後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	24.2 6.5	口縁部片。	R212
第35回12	SB15	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にナデ。	22.2 6.3	口縁部片。	R214
第38回1	SB18	弥生土器 蓋	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	外周ヘラミガキ。内面ナデ(動揺欠有)。	(3.2) 5.8	底部片。	R63
第38回2	SB18	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目、ヨコナデ。	(18.0) 7.8	底部片。	R64
第38回3	SB18	弥生土器 蓋	硬質	灰青 / 灰青	砂曜沙	内外面共に凹輪ナデ。	(1.4) 5.8	底部片。	R234
第38回4	SB21	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ目。	(3.1) 4.5	底部片。	R61
第41回1	SB24	弥生土器 蓋	硬質	黄 / 黄	a	外周ヨコナデ。内面ナデ。	26.2 4.2	口縁部片。	R63
第41回2	SB24	弥生土器 蓋	硬質	黄 / 黄	a	内外面共にヨコナデ。	30.0 4.6	口縁部片。	R66
第41回3	SB24	弥生土器 蓋	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	b	外周ヨコナデ。内面ナデ、ハケ目後ナデ。	34.0 4.2	口縁部片。	R221
第41回4	SB24	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.1) 5.0	底部片。	R218
第41回5	SB24	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(7.8) 3.4	底部片。一部黄褐色あり。	R220
第41回6	SB24	弥生土器 蓋	軟質	灰青 / 灰青	a	外面ハケ目。内面ナデ、ハケ目。	(5.2) 4.5	底部片。	R219
第41回7	SB24	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	外面ミガキ。内面シボリ面。	—	7.0 底部片。円底。	R568
第41回8	SB24	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	砂曜沙	内外面ともに丁寧なナデ、外面ミガキ有。	—	18.6 底部片。	R55 ㊟
第41回9	SB24	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂曜沙	内外面共にヨコナデ。	7.6 (6.2) 1.3	現存 1/5。	R252
第41回10	SB24	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	10.4 (9.0) 1.3	現存 1/10。	R233
第41回11	SB24	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	砂曜沙	内外面共に動揺欠有。	16.6 (14.9) 6.5	現存 1/2。	R231
第44回1	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	14.6 6.6	口縁部片。	R85
第44回2	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ、ハケ目。内面ハケ目。	—	7.4 底部片。	R89
第44回3	SB26	弥生土器 蓋	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	内外面共にハケ目後ヨコナデ、不定方向ハケ目。	10.2 (7.4) 22.2	現存 3/4。	R237
第44回4	SB26	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	外面ミガキ。内面ナデ。	24.6 5.1	上半のみ約 1/6。円底。	R569
第44回5	SB26	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	砂曜沙	外面ミガキ。内面ナデ。	—	24.5 底部片。	R574
第44回6	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ハケ目後ナデ。	25.4 4.8	口縁部片。	R240
第44回7	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	b	内外面共にハケ目。	25.4 14.5	口縁部片。外面にスス付着。	R235
第44回8	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に不定方向ハケ目。	23.0 14.7	口縁部片。外面にスス付着。	R238
第44回9	SB26	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にハケ目。外面一部ハケ目。	(11.4) 20.0	底部片。	R236
第44回10	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	8.9 (7.1) 21.0	現存 2/3。	R164
第44回11	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ナデ。内面ハケ目。	(8.0) 5.2	底部片。	R84
第44回12	SB26	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面にスス付着。	(9.1) 26.3	底部片。	R163
第48回1	SB28	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にハケ目。	13.0 0.4	口縁部片。	R157
第48回2	SB29	弥生土器 蓋	硬質	黄 / 黄	a	外面ミガキ。内面ナデ。	—	9.6 底部片。	R573
第48回3	SB29	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	30.0 4.2	口縁部片。外面スス付着。	R159
第48回4	SB29	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にハケ目。	(8.3) 5.3	底部片。	R158
第48回5	SB30	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。	25.0 4.3	口縁部片。	R244
第48回6	SB30	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にナデ。	29.0 4.6	口縁部片。	R243
第48回7	SB30	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / 明黄褐色	a	外面ハケ目後ヨコナデ。内面ナデ。	30.0 8.3	口縁部片。	R242
第48回8	SB30	弥生土器 蓋	軟質	明黄褐色 / 灰青	a	外面ミガキが分かる。内面ナデ。	(11.6) 6.3	底部片。外面赤褐色。	R245
第48回9	SB30	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / 明黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.7) 12.0	底部片。	R241
第51回1	SB31	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ、ヘラ削り。内面ナデ。	12.0 7.9	現存 1/4。	R170
第51回2	SB31	弥生土器 蓋	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にナデ。	—	0.7 黄環状部片。	R90
第51回3	SB31	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	12.2 3.2	口縁部片。	R174
第51回4	SB31	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂曜沙	内外面共にヨコナデ。	(1.4) 2.9	底部片。	R91
第51回5	SB31	弥生土器 蓋	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂曜沙	外面ナデ。内面ナデ。工具ナデ。	6.7 (4.3) 4.3	現存 2/3。	R173

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑤

調査番号	出土 地点	器形	施文 (外観)	胎土	成形・整形手法等	寸法	備考(器種・保存等)	実測 番号
第51回9	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂漉す	8.0 (5.2)	1.9 残存 1/5.	R172
第51回7	SB31	土師器 土器	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂漉す	7.4 (2.7)	4.4 完整.	R246
第51回8	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	(4.4)	3.3 断面付底面片.	R169
第51回9	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / 黒色	a	(2.2)	2.0 底面片.	R171
第51回10	SB31	土師器 底片	硬質	にぶい黄褐色 / 黒色	b	(4.7)	3.8 底面片.	R92
第51回11	SB31	土師器 底片	軟質	浅黄褐色 / 浅黄褐色	a	18.0	6.1 口縁部片.	R248
第51回12	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	18.4	11.4 口縁部. 断面片.	R100
第51回13	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	12.2	7.3 口縁部片.	R177
第51回14	SB31	土師器? 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	12.6	5.1 口縁部片.	R247
第51回15	SB31	土師器 底片	軟質	灰白 / 灰白	a	—	5.3 口縁部小片.	R257
第51回16	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	23.0	5.5 口縁部片.	R252
第51回17	SB31	弥生土器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	21.0	1.9 口縁部片.	R254
第51回18	SB31	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	22.0	4.3 口縁部片.	R86
第51回19	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	14.6	3.4 口縁部片.	R176
第51回20	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	7.0	3.2 口縁部片. (横小片)	R175
第51回21	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	15.6	3.8 口縁部片.	R167
第51回22	SB31	土師器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	18.4	6.8 口縁部片.	R178
第51回23	SB31	土師器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	16.0	6.3 口縁部片.	R250
第51回24	SB31	土師器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	17.0	5.0 口縁部片. スス付着.	R256
第51回25	SB31	土師器 底片	軟質	灰黄褐色 / 灰黄褐色	a	21.5	6.6 口縁部片.	R168
第51回26	SB31	土師器 底片	硬質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	17.4	11.0 口縁部片.	R166
第51回27	SB31	土師器 底片	軟質	浅黄褐色 / 底片	a	(5.0)	3.5 底面片. 内面コグ付着.	R93
第51回28	SB31	土師器 底片	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	b	(6.2)	4.5 底面片.	R88
第51回29	SB31	土師器? 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	22.7	23.0 残存 4/5. 外側スス付着.	R180
第51回30	SB31	弥生土器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	—	2.2 口縁部断面片. 口縁部断面片.	R94
第51回31	SB31	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	—	3.4 口縁部断面片.	R258
第51回32	SB31	弥生土器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	—	5.8 口縁部断面片. 黄褐色.	R96
第51回33	SB31	弥生土器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	21.4	2.5 口縁部片.	R255
第51回34	SB31	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	34.0	2.9 口縁部片.	R249
第51回35	SB31	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	35.8	6.2 口縁部片.	R95
第51回36	SB31	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	—	3.7 口縁部小片.	R253
第51回37	SB31	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	(12.0)	5.3 底面片.	R87
第51回38	SB31	弥生土器 底片	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	(16.0)	7.6 断面片.	R251
第53回1	SB32	弥生土器 底片	軟質	明褐色 / 明褐色	a	13.9 (9.5)	6.6 残存 1/3.	R256
第53回2	SB32	弥生土器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	14.8 (7.2)	8.8 残存 1/5.	R257
第53回3	SB32	弥生土器 底片	軟質	明褐色 / 明褐色	a	28.0	5.7 底面片. 内面ミガキ.	R250
第53回4	SB32	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	—	5.3 口縁部小片.	R201
第53回5	SB32	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	(5.3)	8.7 底面片.	R286
第53回6	SB32	弥生土器 底片	軟質	明褐色 / 明褐色	a	21.1 (20.3)	7.1 残存 4/5.	R181
第53回7	SB32	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	14.0	5.0 口縁部片.	R100
第56回2	SB33	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄褐色	a	14.7 (4.9)	8.9 残存 1/2.	R267
第56回3	SB33	弥生土器 底片	軟質	明褐色 / 明褐色	a	20.0	5.5 口縁部片. 黒色あり.	R301
第56回4	SB33	弥生土器 底片	軟質	明褐色 / 浅黄褐色	a	20.0	5.0 口縁部片.	R265
第56回5	SB33	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄褐色	b	(8.1)	7.6 底面片. 内面コグ付着.	R99
第56回6	SB33	弥生土器 底片	軟質	灰黄褐色 / 黄褐色	a	(4.4)	4.6 底面片.	R264
第56回7	SB33	弥生土器 底片	軟質	浅黄褐色 / 浅黄褐色	a	(7.6)	4.7 底面片.	R266
第56回8	SB33	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / 底片	a	—	6.5 中央部片.	R203
第56回9	SB33	弥生土器 底片	軟質	にぶい黄褐色 / 底片	a	—	2.1 口縁部小片.	R567
第56回10	SB33	弥生土器 底片	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	—	7.7 口縁部片. 粘土色.	R262
第58回1	SB34	土師器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	10.0	2.2 上半 1/4片.	R310
第58回2	SB34	土師器 底片	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	12.8	4.6 口縁部片.	R268
第58回3	SB34	土師器 底片	軟質	灰黄褐色 / 底片	a	13.0	5.9 口縁部片.	R309

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑥

標記番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法	備考(複製・残存等)	実測図 番号
第58図4	SE34	土師器 碗	—	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面タタキ焼ハケ目。内面ハケ目。	13.4 10.5	残存1/2。	R271
第58図5	SE34	土師器 碗	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ヨコナデ、ハケ目。内面ヘラケズリ。	22.0 5.2	口縁部片。外面スス付着。	R311
第58図6	SE34	土師器 碗	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ焼ハケ目。内面ハケ目。	16.5 7.5	口縁部片。	R299
第58図7	SE34	土師器 碗	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面不定方向のヘラケズリ。	16.6 11.0	口縁部片。外面下半部スス付着。	R184
第58図8	SE34	土師器 碗	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ヘラケズリ。	12.6 15.5	ほぼ完成形。	R184
第58図9	SE34	土師器 碗	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ハケ目。	(4.3) 6.3	底部片。	R337
第58図10	SE34	赤土土器 高坏	軟質	にぶい赤褐色 / にぶい赤褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.3) 4.9	底部片。	R338
第59図1	SE34	土師器 碗	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ハケ目。ヘラケズリ一部ハケ目。	10.8 10.7	残存1/4。外面スス付着。	R270
第60図1	SE35	土師器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂礫少	内外面共にナデ。	(12.4) 1.7	残存1/8。底部は丁寧ナデ。	R286
第62図1	SE36	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ナデ。ミガキ。内面ナデ。	(5.6) 3.0	胴下部片。	R293
第62図2	SE36	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面不定方向のハケ目。内面ナデ調整。	(11.2) 5.0	残存2/5。	R289
第62図3	SE36	土師器 鉢	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	b	外面ハケ目。内面磨擦し底。	10.6 (2.6) 5.4	口縁部片。	R273-1
第62図4	SE36	土師器 鉢	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	b	外面ハケ目。内面ヘラケズリ。	— 4.2	底部片。	R273-2
第62図5	SE36	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ヘラケズリ。	18.0 4.4	口縁部片。	R291
第62図6	SE36	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面不定方向のハケ目。内面ナデ。ハケ目。	14.6 10.3	口縁部片。	R290
第62図7	SE36	赤土土器 高坏	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	内外面ともに丁寧ナデ。	28.0 1.4	口縁部片。丹塗り。	R568
第62図8	SE36	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目後ヨコナデ。内面ナデ。	— 5.1	口縁部小片。	R292
第62図9	SE36	陶文土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面洗滌による文様有。内面ナデ。	— 4.0	口縁部小片。	R955
第64図1	SE37	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に磨擦スナデ。	11.8 4.7	口縁部片。	R304
第64図2	SE37	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	左上多少平方方向のハケ目。内面不定方向のヘラケズリ。	12.5 14.4	残存2/3。	R274
第64図3	SE37	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ焼ナデ。ナデ。内面ナデ。	13.0 7.1	口縁部片。	R302
第64図4	SE37	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	b	外面ハケ目後ヘラケズリ。内面ハケ目後ナデ。	— 6.4	底部片。底面黒染あり。	R303
第64図5	SE37	赤土土器 高坏	軟質	灰黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ナデ。	30.0 5.0	口縁部片。	R305
第64図6	SE37	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。ヨコ方向のハケ目。内面ヨコナデ。	(32.0) 3.7	胴底部片。	R306
第64図7	SE37	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共に丁寧ナデ。	13.2 (5.5) 13.1	残存1/2。	R275
第64図8	SE37	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にハケ目。	25.0 30.9	口縁部~胴部片。	R294-1
第64図9	SE37	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にハケ目。	(7.6) 23.3	胴部~底部片。外面スス付着。	R294-2
第65図1	SE38	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	32.0 6.5	口縁部片。外面にスス付着。	R298
第65図2	SE38	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面ともに丁寧ナデ。	31.0 3.7	口縁部片。	R297
第65図3	SE38	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	29.0 21.0	胴上部片。外面にスス付着。	R276
第65図4	SE38	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ナデ。内面ハケ目後ナデ。	21.0 5.0	口縁部片。	R296
第65図5	SE38	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ハケ目後ナデ。	42.0 14.0	口縁部片。外面に黒染あり。	R295
第66図1	SE39	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナデ。	32.0 3.6	口縁部片。やや厚みしている。	R284
第66図2	SE39	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナデ。	32.0 4.0	口縁部片。小片。外面スス付着。	R278
第66図3	SE39	赤土土器 高坏	軟質	灰黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にナデ。	— 2.4	口縁部片。	R283
第66図4	SE39	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にナデ。	23.0 4.8	口縁部片。	R282
第66図5	SE39	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。ヨコナデ。	— 7.2	胴中央部片。	R285
第66図6	SE39	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面不明(磨滅)内面ナデ。	(9.7) 6.6	底部片。外面に黒染あり。	R279
第66図7	SE39	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。ハケ後ナデ。内面ハケ目。	(4.7) 15.2	胴中央部片。胴部中央に黒染あり。	R277
第66図8	SE39	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ナデ後縦方向ミガキ。	— 10.6	外面内腔。	R569
第66図9	SE39	赤土土器 高坏	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	b	外面ハケ目。丁寧ナデ。内面ナデ。	(4.8) 6.7	下部片。外面スス付着。	R281
第66図10	SE39	赤土土器 高坏	軟質	灰黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	(4.0) 4.9	胴下部片。	R280
第66図11	SE39	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にハケ目。	14.7 (7.3) 17.6	ほぼ完成形。黒染あり。	R182
第66図12	SE39	黒色土器 高坏	軟質	暗灰 / 灰	砂礫少	回転ナデ(厚肌により調整詳細不明)。	(6.0) 3.8	底部片。表面は磨削している。	R312
第66図13	SE39	黒色土器 高坏	軟質	暗灰 / 灰	砂礫少	回転ナデ(厚肌により調整詳細不明)。	(6.0) 2.9	底部片。	R313
第68図1	SE40	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ナデ。	(11.0) 4.9	底部片。	R300
第68図2	SE40	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面タタキ焼ミガキ。内面ナデ調整。	(14.2) 12.5	胴部片。	R503
第68図3	SE40	赤土土器 高坏	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	砂礫少	外面ミガキ。内面ナデ。	— 11.3	胴部片。	R572
第68図4	SE40	赤土土器 高坏	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ヨコナデ磨殺。内面ミガキ。	(23.0) 6.0	胴部片。	R571
第68図5	SE40	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / 灰黄褐色	砂礫少	外面ナデ後ミガキ。内面ヨコナデ。	15.2 4.4	口縁部片。	R501
第68図6	SE40	赤土土器 高坏	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	28.0 4.0	口縁部片。	R504
第68図7	SE40	赤土土器 高坏	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ヨコナデ。内面ナデ。	33.0 4.5	口縁部片。外面にスス付着。	R502

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑦

調査番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面)	胎土	成形・整形手法等	寸 法	備考(通称・残存等)	実測簡 番号
第 68 図 8	S840	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / 黒褐色	a	内外面共にハケ目。	21.0 5.2	口縁部片。	R299
第 68 図 9	S840	赤生土器 高杯	軟質	明赤褐色 / 赤褐色	a	外面丁寧なナデ。ハケ目。	(7.7) 10.3	残存 1/2。上半部に黒褐色あり。	R505
第 70 図 1	S841	赤生土器 高杯	軟質	明赤褐色 / 赤褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	24.4 5.6	面片部片。	R059
第 70 図 2	S841	赤生土器 高杯	軟質	赤生土器 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目後丁寧なナデ。	24.0 2.1	口縁部片。	R508
第 70 図 3	S841	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	11.1 (10.8)	残存 4/5。	R506
第 70 図 4	S841	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にナデ。	25.0 4.7	口縁部片。	R509
第 70 図 5	S841	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	a	外面ミガキ。内面ナデ。	20.0 3.0	口縁部片。	R507
第 70 図 6	S841	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / 黒褐色	b	内外面共にナデ。	(8.6) 4.5	底部片。	R511
第 70 図 7	S841	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / 赤褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(8.0) 6.1	小片。内面コグ付着。	R510
第 70 図 8	S841	赤生土器 高杯	軟質	赤褐色 / 黒	a	外面ナデ後ミガキ。内面ナデ。	— 8.1	胴中央部片。丹塗。	R092
第 72 図 1	S842	赤生土器 高杯	硬質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面平明。内面ナデ。	(10.0)	底部片。	R314
第 73 図 1	S843	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	b	外面ハケ目。内面ヨコナデ後ハケ目。ハケ目。ナデ。	17.2 (12.0)	残存 1/2。	R515
第 73 図 2	S843	赤生土器 高杯	軟質	黒褐色 / 黒褐色	a	外面ハケ目ナデ。内面ハケ目。	14.0 6.6	口縁部片。	R513
第 73 図 3	S843	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / 明赤褐色	a	内外面共にハケ目。	20.2 (7.7)	残存 5/6。	R512
第 73 図 4	S843	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。内面ヨコナデ。ハケ目。ナデ。	16.2 (10.2)	残存 3/4。外面上半部スス付着。	R317
第 73 図 5	S843	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / 黒褐色	a	外面ハケ目。内面不定方向のハケ目。	7.7 (7.7)	残存 2/3。上半部黒褐色あり。	R562
第 73 図 6	S843	赤生土器 高杯	軟質	黒褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目。ヨコナデ。ハケ目後ナデ。内面ナデ。	(7.1) 25.5	底部。胴部一割部(一部欠損) 黒褐色あり	R316
第 73 図 7	S843	赤生土器 高杯	硬質	黒褐色 / にぶい黄褐色	砂礫少	内外面共に粗かかなる。	— 3.5	口縁部片。黒褐色。	R523
第 73 図 8	S843	赤生土器 高杯	硬質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂礫少	内外面共にヨコナデ。	10.0 (8.4)	残存 1/8。黒褐色。	R514
第 74 図 1	S843	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。黒褐色。内面ハケ目後ヨコナデ。	15.6 (8.6)	残存 1/2。	R886
第 77 図 1	S844	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	22.2 4.9	口縁部片。外面スス付着。	R524
第 77 図 2	S844	赤生土器 高杯	軟質	灰褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にナデ。	25.2 4.3	小片。外面スス付着。	R525
第 77 図 3	S844	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面へヨコナデ。内面ヨコナデ。	3.4 (8.0)	ほぼ完整。	R515
第 78 図 1	S845	赤生土器 高杯	軟質	灰褐色 / 黒	a	内外面共にヨコナデ。	24.0 3.5	口縁部片。小片。	R321
第 78 図 2	S845	赤生土器 高杯	軟質	灰褐色 / 黒	a	外面ハケ目。内面ナデ。	36.0 4.0	口縁部片。	R320
第 78 図 3	S845	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	81.0 5.1	底部片。底部内面コグ付着。	R318
第 78 図 4	S845	赤生土器 高杯	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ハケ目。ヨコナデ。内面ミガキかかなる。	— 5.6	胴部片。内外面とも丹塗り。	R093
第 78 図 5	S845	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	a	外面ナデ。	5.8 8.9	上部 1/3 以内。上からの形は 円形でなく四角形?	R319
第 80 図 1	S846	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ミガキ。	— 2.4	口縁部小片。	R516
第 80 図 2	S846	赤生土器 高杯	軟質	黒 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.5) 3.0	底部。底部外面黒褐色により 着色。	R517
第 82 図 1	S847	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / 灰褐色	a	内外面共にナデ。	69.5 1.5	底部。小片。	R521
第 82 図 2	S847	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	a	外面タテ方ミガキ。内面ヨコナデ。	(7.1) 0.5	胴部。	R520
第 82 図 3	S847	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	a	内外面ともに丁寧なナデ。	28.0 2.8	口縁部片。小片。	R519
第 82 図 4	S847	赤生土器 高杯	軟質	黒褐色 / 灰褐色	b	内外面共にハケ目。	35.6 5.3	口縁部片。	R522
第 82 図 5	S847	赤生土器 高杯	硬質	灰 / 灰	砂礫少	外面格子目タテ。内面ナデ。	— 10.3	胴部小片。形本有。	R518
第 84 図 1	S848	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	27.8 5.0	口縁部片。	R322
第 84 図 2	S848	赤生土器 高杯	軟質	黒 / にぶい黄褐色	b	外面平明。内面ナデ。	34.0 7.4	口縁部片。底部外側に黒褐色あり。	R323
第 84 図 3	S848	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.6) 8.0	底部片。底部外側にスス付着。	R330
第 84 図 4	S848	赤生土器 高杯	硬質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	9.4 (7.6)	残存 1/5。	R331
第 84 図 5	S848	赤生土器 高杯	硬質	灰白 / 灰白	砂礫少	内外面共に粗かかなる。	(8.0) 1.7	残存 1/8。	R332
第 84 図 6	S849	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	b	外面ハケ目後ナデ。内面ハケ目。	14.4 (4.6)	残存 2/3。	R324
第 84 図 7	S849	赤生土器 高杯	硬質	明赤褐色 / 黒褐色	砂礫少	内外面共にナデ。	13.8 4.3	残存 1/5。古代か?	R325
第 84 図 8	S849	赤生土器 高杯	硬質	黒 / 黒	a	外面ナデ調整。内面ナデ。	12.2 6.4	残存 1/4。古墳時代か?	R326
第 84 図 9	S849	赤生土器 高杯	硬質	にぶい黄褐色 / 黒褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	11.4 5.4	残存 1/4。	R327
第 84 図 10	S849	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ目。	20.0 8.6	黒褐色あり。	R328
第 84 図 11	S849	赤生土器 高杯	硬質	黒 / 黒	砂礫少	内外面共に平明。	8.9 (7.6)	残存 2/5。	R329
第 88 図 1	S851	赤生土器 高杯	軟質	黒褐色 / 黒褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	29.0 8.3	口縁部片。	R526
第 90 図 1	S852	赤生土器 高杯	軟質	灰褐色 / 灰褐色	a	内外面共にナデ。	20.0 3.2	口縁部片。	R532
第 90 図 2	S852	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	a	外面ナデ後周文状ミガキ。内面ナデ。	25.0 5.6	口縁部片。	R529
第 90 図 3	S852	赤生土器 高杯	軟質	灰 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	19.0 2.8	口縁部片。	R531
第 90 図 4	S852	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(6.4) 4.0	底部片。丹塗りあり。	R527
第 90 図 5	S852	赤生土器 高杯	軟質	黒 / 黒	b	内外面共にナデ。	37.8 4.8	口縁部片。底部の破片?	R528

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑥

調査番号	出土 地点	器形	焼成	色澤 (外観)	胎土	成形・修飾手法等	寸 法	備考 (複製・残存等)	実測 番号
第 90 図 6	S852	土師器 高杯	軟質	橙 / に近い黄	a	内外面共にミガキがかかる。	21.2 7.6	杯底片。	R534
第 90 図 7	S852	土師器 高杯	軟質	に近い黄 / に近い黄緑	a	外面方平目、轡轡状文。ハケ目後ナズ。内面ナズ。	— 9.3	胴上平部片。	R889
第 90 図 8	S852	土師器 支脚	軟質	明赤褐色 / に近い黄緑	a	外面タタキ。内面ヨコナズ。ナズ。	8.9 (10.0)	胴部一部欠損。	R333
第 92 図 1	S853	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ヘラ調整。内面ナズ。	(5.3)	底面片。	R555
第 94 図 1	S854	土師器 高杯	軟質	明赤褐色 / に近い赤褐色	砂礫少	外面ナズ・ミガキ。内面シボリ痕。	—	底面片。穿孔は上下二段に 4ヶ所ずつ。	R336
第 94 図 2	S854	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / に近い黄	b	外面ハケ目。内面ヨコナズ。	— 5.8	胴部片。	R335
第 94 図 3	S854	土師器 支脚	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にナズ。	(7.2)	底面片。	R539
第 94 図 4	S854	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 橙	a	外面ハケ目。内面ヨコナズ。ナズ。ヨコナズ。	9.3 (9.4)	ほぼ完整。	R334
第 94 図 5	S854	弥生土師 器	軟質	橙 / 橙	a	外面ナズ。ミガキ。内面ナズ。ハケ目。	— 10.1	胴中央部片。濃塗り有。	R911
第 94 図 6	S854	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 橙	a	外面ミガキがかかる。内面ナズ。	23.8 17.8	口縁胴中央部片。内外両面 部付近にスス状のもの付着。	R554
第 94 図 7	S854	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	内外面共にナズ。	(2.3)	底面片。外面に黒墨あり。	R341
第 94 図 8	S854	弥生土師 器	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナズ。	(5.2)	底面片。外面スス付着。	R538
第 94 図 9	S854	弥生土師 器	軟質	橙 / 黄緑	a	外面ハケ目。内面ナズ。	(5.1)	6.6 底面片。	R537
第 94 図 10	S854	弥生土師 器	軟質	灰黄 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ナズ。	(4.3)	6.2 底面片。外面スス付着。	R536
第 94 図 11	S854	弥生土師 器	軟質	明赤褐色 / 黄緑	a	外面ハケ目後ナズ。内面ナズ。	(4.8)	3.85 底面片。	R540
第 94 図 12	S854	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 橙	a	外面ナズ。内面ナズ。ハケ目。	(4.0)	7.4 底面片。外面スス付着。	R161
第 94 図 13	S854	弥生土師 器	軟質	橙 / に近い黄	a	内外面共にナズ。	(10.4)	9.2 底面片。外面底部に黒墨あり。	R162
第 94 図 14	S854	青磁 土師器	硬質	白灰 / オリーブ灰	砂礫少	回転ナズ成形。内面輪がかかる	(5.1)	2.5 底面片。	R956
第 96 図 1	S855	土師器 鉢	軟質	に近い黄 / に近い黄	a	内外面共にナズ。	7.9 2.8	底面片。	R341
第 96 図 2	S855	弥生土師 高杯	軟質	橙 / 橙	a	外面平明。内面ミガキ。	22.6 5.8	高杯杯底片。	R542
第 96 図 3	S855	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 黄緑	a	外面ハケ目。内面ナズ。	20.0 4.65	口縁部片。小片。	R340
第 96 図 4	S855	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 明赤褐色	a	外面ヨコナズ。内面ナズ。	24.0 4.3	口縁部片。	R339
第 96 図 5	S855	弥生土師 器	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナズ。	31.8 10.6	口縁部片。	R338
第 96 図 6	S855	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ナズ。	(4.7)	6.1 底面片。外面にスス付着。	R337
第 97 図 1	S866	土師器 鉢	軟質	橙 / 橙	a	外面ヨコナズ一部轡轡状文。内面ヨコナズ。	7.4 (5.1)	4.4 ほぼ完整。	R343
第 97 図 2	S866	弥生土師 器	軟質	橙 / に近い黄緑	b	外面ヨコナズ。内面ナズ。	25.0 3.5	口縁部片。	R546
第 97 図 3	S866	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	内外面共にハケ目。	— 8.6	口縁部小片。	R545
第 97 図 4	S866	弥生土師 器	軟質	橙 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。ヨコナズ。内面ナズ。	(13.2)	4.3 底面片。	R544
第 98 図 1	S857	土師器 鉢	軟質	黄緑 / に近い黄	b	外面難いナズ。内面ハケ目。	8.0 (5.0)	3.3 残存 1/3 片。手掘土器。	R547
第 98 図 2	S857	土師器 鉢	軟質	黄緑 / に近い黄	b	内外面共にナズ。	— 3.7	口縁部小片。	R553
第 99 図 3	S337	土師器 鉢	軟質	橙 / 橙	a	外面ナズ。内面ハケ目。	14.4 3.1	口縁部片。小片。	R548
第 99 図 4	S337	弥生土師 器	軟質	黄緑 / 黄緑	a	外面ヨコナズ。ハケ目。内面ヨコナズ。	20.6 7.4	口縁部片。	R552
第 99 図 5	S337	弥生土師 器	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にナズ。	26.0 9.2	口縁部片。外面スス付着。 赤化。	R342
第 99 図 6	S337	弥生土師 器	軟質	黄緑 / 黄緑	a	内外面共にナズ。	29.2 6.0	口縁部片。	R551
第 99 図 7	S337	弥生土師 器	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目後ヨコナズ。内面ナズ。	28.0 3.9	口縁部片。	R550
第 99 図 8	S337	弥生土師 器	軟質	明赤褐色 / 橙	a	内外面共にナズ。	(9.3)	4.0 底面片。黒墨あり。	R343
第 99 図 9	S337	弥生土師 器	軟質	橙 / に近い黄緑	a	内外面共にハケ目。	7.2 3.5	底面片。	R549
第 101 図 1	S358	弥生土師 器	軟質	黄緑 / 黄緑	a	外面平明 (厚底) 内面ハケ目。	(7.5)	8.3 底面片。	R352
第 103 図 1	S869	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 橙	a	外面ヨコナズ。内面ナズ。	24.2 4.8	口縁部片。小片。	R344
第 103 図 2	S869	弥生土師 器	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ目。	35.2 6.3	口縁部片。	R345
第 103 図 3	S869	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ナズ。	40.0 10.0	口縁部片。赤赤有 (口縁部 外面)。	R345
第 105 図 1	S860	弥生土師 高杯	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	外面ナズ。内面ヨコナズ後ミガキ。	26.0 5.0	口縁部片。丹塗り。	R556
第 105 図 2	S860	弥生土師 高杯	軟質	黄緑 / 黄緑	a	外面平明。内面ヨコナズ。	28.0 3.6	杯底片。丹塗り。	R557
第 105 図 3	S860	弥生土師 高杯	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	砂礫少	底面タテ方ミガキ。内面ナズ。	(10.8)	5.5 杯底片。	R349
第 105 図 4	S860	弥生土師 高杯	硬質	橙 / 橙	砂礫少	内面共にナズ。	18.0 2.4	口縁部片。	R348
第 105 図 5	S860	弥生土師 高杯	硬質	橙 / 橙	砂礫少	外面平明 (ナズ後ミガキ)・内面平明。	(5.8)	5.0 底面片。	R347
第 105 図 6	S860	弥生土師 高杯	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ナズ。	32.2 5.6	口縁部片。	R555
第 105 図 7	S860	弥生土師 高杯	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ヨコナズ。内面ハケ目。	29.0 7.1	口縁部片。	R354
第 107 図 1	S862	弥生土師 器	軟質	黄緑 / に近い黄緑	a	外面平明 (ハケ後ナズ)・内面ナズ。	(8.6)	4.8 底面片。底部に黒墨あり。	R253
第 109 図 1	S863	弥生土師 器	軟質	明赤褐色 / に近い黄緑	a	内外面共にナズ。	(5.8)	16.4 胴下底面片。外面にスス付 着。	R256
第 109 図 2	S863	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 橙	a	外面ミガキがかかる。内面ナズ。	(8.2)	5.0 底面片。丹塗りあり。	R255
第 110 図 1	S863	弥生土師 器	軟質	に近い黄緑 / 黄緑	a	外面平明 (ナズ後ミガキ)・内面ナズ。	(8.6)	4.0 底面片。丹塗りあり。	R300

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑨

調査番号	出土 地点	器形	構成	色調 (外面)	素土	底面・腹部手法等	寸 法	備考(備註・保存等)	実測図 番 号
第111図1	S864	弥生土器 器台	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	10.3 8.7	口縁部。	R559
第111図2	S864	弥生土器 器台	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(10.4) 7.7	底面片。	R560
第111図3	S864	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄 / にぶい黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	21.6 7.0	口縁部片。	R558
第113図1	S867	弥生土器 器台	軟質	明黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	11.5 9.4	口縁部。	R360
第113図2	S867	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面へラ調整。ハケ目。内面ナデ。ヨコ方向のハ ケ目。	(12.9) 14.4	胴部片。	R361
第113図3	S867	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	31.2 14.5	口縁部片(底面)。外面スス 付着。(口縁部)	R362
第113図4	S867	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	30.0 7.6	口縁部片。	R364
第113図5	S867	弥生土器 器台	軟質	橙 / 橙	a	外面不明(ヨコナデ)。内面ナデ。	36.2 7.2	口縁部片。	R363
第113図6	S867	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.0) 6.4	底面片。外面黄褐色により赤 化。	R358
第113図7	S867	弥生土器 器台	軟質	橙 / 橙	b	内外面共にハケ目。	16.0 3.5	口縁部片。外面黄褐色により赤 化。	R357
第113図8	S867	土師器 高付円環	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面不明(厚底)。	(8.2) 2.7	底面片。	R559
第119図1	S870	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / 暗黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	20.0 3.1	口縁部片。	R623
第115図1	S869	弥生土器 器台	軟質	明赤褐色 / 橙	a	内外面共にヨコナデ。	20.0 2.5	口縁部片。丹塗りあり。	R894
第115図2	S869	弥生土器 器台	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にヨコナデ。	— 2.5	口縁部片。丹塗りあり。	R895
第115図3	S869	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	29.0 2.2	口縁部片。	R366
第115図4	S869	弥生土器 器台	軟質	明赤褐色 / 鈍い赤褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	(6.5) 13.9	胴下底面片。外面にスス付 着。	R365
第119図1	S871	ミニチュア 土師器	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にナデ。	8.6 (1.8) 5.2	胴中1/2。	R718
第119図2	S871	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ目。	17.1 (5.7) 6.5	胴中1/2。	R743
第119図3	S871	弥生土器 器台	軟質	橙 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面シボリ肌。	— 14.0	胴部片。	R719
第119図4	S871	弥生土器 器台	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	b	内外面共にハケ目。	22.2 10.0	胴中上部片。外面スス付着。 黄褐色により赤化。	R563
第120図1	S872	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	— 4.3	口縁部片。	R371
第120図2	S873	弥生土器 器台	軟質	橙 / 橙	a	内外面共に不明。	— 3.5	口縁部小片。	R370
第120図3	S873	弥生土器 器台	硬質	橙 / 橙	a	外面不明。内面ナデ。	— 7.1	口縁部小片。	R368
第120図4	S873	弥生土器 器台	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ目。	(5.0) 7.0	口縁部小片。	R369
第120図5	S873	弥生土器 器台	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.8) 5.8	底面片。	R367
第121図1	S873	器台	軟質	暗黄褐色	a	ナデ調整。	4.6 2.5	—	R957
第124図1	S374	土師器 鉢	硬質	黄褐色 / 鈍い黄褐色	b	内外面共に指押えナデ。	12.4 3.4	胴中1/4。手づくね風のつ つ。	R838
第124図2	S374	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ハケ目後ナデ。	13.3 5.4	胴中2/3。	R613
第124図3	S374	土師器 鉢	硬質	黄褐色 / 鈍い黄褐色	磨面少	外面ハケ目若干。ハケ目。内面ヨコナデ。	12.0 5.2	口縁部片。	R839
第124図4	S374	土師器 鉢	硬質	鈍い黄 褐色	a	外面ハケ目後ヨコナデ。内面ナデ。	12.4 5.7	口縁部片(底面)。	R829
第124図5	S374	土師器 器台	軟質	橙 / 橙	a	外面不明。内面ナデ。ヨコナデ。	— 4.3	—	R563
第124図6	S874	手捏土器	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(3.9) 3.5	高付円環片。	R828
第124図7	S874	器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	指押えによる整形。	— 7.5	器手部分片。「止端系像形 土器」	R854
第124図8	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	ナデ調整。指押え。	— —	器手部分片。「止端系像形 土器」	R853
第124図9	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ヘラナデ。内面ナデ(輪郭線)。	12.6 6.3	口縁部片。	R825
第124図10	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ヨコナデ。内面ナデ。	16.0 3.7	口縁部片。	R836
第124図11	S874	土師器 器台	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ミガキ。	20.0 7.4	口縁部片。	R824
第124図12	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	17.8 4.3	口縁部片。胎土少々入り。	R831
第124図13	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ヘラ調子。	14.2 5.4	口縁部片。	R835
第124図14	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に不明。	13.8 2.85	口縁部片。	R844
第124図15	S874	土師器 器台	軟質	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	外面タタキ。内面ナデ。ケズリ。	16.6 6.5	口縁部片。	R830
第124図16	S874	土師器 器台	軟質	橙 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ハケ目後ヘラケズリ。	15.6 10.5	口縁部中央部片。	R832
第124図17	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目。内面ハケ目調整。	— 5.3	口縁部小片。	R946
第124図18	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	— 4.9	口縁部小片。	R845
第124図19	S874	土師器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(6.4) 4.9	底面片。	R827
第124図20	S874	弥生土器 器台	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ヨコナデ(磨きがかかる)。内面ヨコナデ。	14.0 5.1	口縁部片。	R837
第124図21	S874	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面ナデ。	28.0 9.7	口縁部片。外面スス付着。	R834
第124図22	S874	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	— 3.0	口縁部片。	R843
第124図23	S874	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ナデ。ヨコナデ。内面ナデ。	(5.8) 2.4	底面片。底面に内コグ付着。	R841
第124図24	S874	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / 橙	a	外面ナデ(磨きがかかる)。内面ナデ。	(4.0) 2.6	底面片。外面黄褐色あり。	R840
第124図25	S874	弥生土器 器台	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	25.8 2.9	口縁部片。	R842
第124図26	S874	弥生土器 器台	軟質	にぶい黄褐色 / 橙	a	外面不明(厚底)。内面ナデ。	(11.4) 10.5	底面片。外面スス付着。	R826

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑩

調査番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外色)	胎土	成形・整形手法等	寸 法	備考(破損・残存等)	実測 番号
第124図27	SB74	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	25.2	8.7 口縁部全。	R833
第124図28	SB74	弥生土器 甕	軟質	橙 / 黄褐色	a	外面ハケ目後縁文状ミガキ。内面ミガキ。	(32.6)	2.9 底部片。	R890
第125図1	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ナデ。内面ハケ目ナデ。	10.8 (8.5)	5.3 残存 3/5。黒斑あり。	R722
第125図2	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	12.0	7.7 胴口縁部全。	R724
第125図3	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目ナデ。内面ナデ。	14.2	3.5 口縁部片。	R735
第125図4	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	17.8 (9.7)	8.3 残存 3/4。	R190
第125図5	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面磨きがかかる。内面ナデ。	24.2	9.9 口縁部片。	R721
第125図6	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ後ミガキ。外面ナデ。	36.6	6.25 口縁部片。	R725
第125図7	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ方向にナデ。内面ナデ。	26.0	5.0 口縁部片。	R729
第125図8	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / 灰黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	25.7	4.4 口縁部片。	R750
第125図9	SB75	弥生土器 甕	軟質	黄褐色 / 灰黄	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	27.8	5.7 口縁部片。	R194
第125図10	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ヨコナデ。ハケ目。内面不明。	24.0	4.1 口縁部片。	R720
第125図11	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / 灰黄褐色	a	外面ヘラ調整。内面ナデ。	25.0	9.4 口縁部片。	R193
第125図12	SB75	弥生土器 甕	軟質	黄褐色 / 灰黄	a	外近縁きがかかる。内面ナデ。	16.0	2.4 口縁部片。	R727
第125図13	SB75	弥生土器 甕	軟質	黄褐色 / 灰黄	a	外近ヨコナデ。内面ナデ。	20.0	2.7 口縁部片。	R731
第125図14	SB75	弥生土器 甕	軟質	灰黄 / 灰黄	b	外面磨きがかかる。内面ハケ目。	(5.2)	6.2 底部片。	R723
第125図15	SB75	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 黄	a	外面ヘラミガキ。内面ナデハケ目。	(10.0)	7.0 底部片。	R191
第125図16	SB75	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 黄	a	内外面共にハケ目。	—	2.7 口縁部片。外面スス付着。	R733
第125図17	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面不明。内面ナデ。	—	5.9 口縁部小片。	R732
第125図18	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ミガキ後ナデ。	—	3.7 口縁部小片。外面スス付着。	R726
第125図19	SB75	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内面ナデ。	(9.6)	2.1 底部片。外面スス付着。	R734
第125図20	SB75	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヘラミガキ。内面ハケ目後ナデ。	(11.1)	10.5 底部片。外面スス付着。	R192
第126図1	SB75	弥生土器 高杯	軟質	赤褐色 / 橙	a	外面ハケ目後ミガキ。内面ハケ目。	—	5.7 胴部片。片持。	R578
第126図2	SB75	弥生土器 高杯	軟質	明黄褐色 / 橙	a	外面ハケ目後ミガキ。内面ナデ。	(14.4)	6.6 高杯胴部片。一部黒斑あり。	R575
第126図3	SB75	弥生土器 高杯	軟質	明黄褐色 / 明赤褐色	a	外面ヨコナデ(暗紋)。内面ナデ。	—	5.6 口縁部小片。丹塗り。	R577
第126図4	SB75	弥生土器 高杯	軟質	明赤褐色 / にぶい赤褐色	b	外面ヨコナデ(暗紋)。内面ナデ。	31.2	5.0 口縁部片。丹塗り。	R576
第126図5	SB75	弥生土器 高杯	軟質	赤褐色 / 明赤褐色	b	内外面共にヨコナデ。	31.0	11.5 口縁部片。丹塗り。	R501-1
第126図6	SB75	弥生土器 高杯	軟質	赤褐色 / 橙	a	内外面共にヨコナデ。ナデ。	—	8.7 胴部片。丹塗り。	R501-2
第126図7	SB75	弥生土器 高杯	硬質	明黄褐色 / 橙	砂礫少	外面ミガキ。内面ナデ。	(8.2)	15.2 胴下部底部片。	R564
第126図8	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ヘラミガキ。内面ナデ調整。	14.5	(10.3) 胴中央底部片。	R508
第127図1	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ目。	—	4.9 口縁部小片。	R728
第127図2	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ヘラミガキ。内面ナデ。	34.0 (11.7)	21.6 胴中央部一帯欠損。黒斑あり。	R721
第127図3	SB75	弥生土器 高杯	軟質	灰黄褐色 / 灰黄	a	外面ミガキ。内面ナデ。	24.4	7.2 口縁部片。黒斑あり。	R563
第127図4	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ目。	29.7	16.7 胴部片。	R567
第127図5	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 暗灰黄	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	25.8	24.0 残存 1/3。	R610
第127図6	SB75	弥生土器 高杯	軟質	明黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	32.0	32.5 口縁部中下部片。	R609
第127図7	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.8)	15.5 底部片。	R572
第129図1	SB75	弥生土器 高杯	軟質	灰黄 / 灰黄	a	外面不明。内面ハケ目。	12.0	5.0 口縁部片。	R741
第129図2	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ後ミガキ。	21.8	7.9 胴部片。	R636
第129図3	SB75	弥生土器 高杯	硬質	橙 / 橙	砂礫少	外面ヨコナデ。ナデ。内面ハケ目。	32.0	5.7 胴部片。	R373
第129図4	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 橙	a	外面不明。内面ナデ。	24.0	6.5 口縁部片。	R850
第129図5	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	—	5.0 口縁部小片。	R739
第129図6	SB75	弥生土器 高杯	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	内外面共に不明。	30.0	4.0 口縁部片。	R851
第129図7	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	11.1 (11.2)	14.7 残存 3/4。	R383
第129図8	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 灰黄	a	内外面共にハケ目。	15.0	6.0 口縁部片。	R737
第129図9	SB75	弥生土器 高杯	軟質	明黄褐色 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	11.4 (11.3)	12.9 口縁部。一部欠損。	R384
第129図10	SB75	弥生土器 高杯	軟質	黄褐色 / 黄	b	外面ハケ目。内面ナデ。	10.5	10.5 残存 2/3。	R566
第129図11	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	17.8	7.7 口縁部片。外面スス付着。	R849
第129図12	SB75	弥生土器 高杯	軟質	灰黄 / 灰黄	a	内外面共にハケ目。	—	0.8 口縁部小片。	R361
第129図13	SB75	弥生土器 高杯	軟質	灰黄 / 灰黄	a	内外面共にハケ目。	23.4	6.4 口縁部片。	R742
第129図14	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	26.0	9.9 口縁部片。	R385
第129図15	SB75	弥生土器 高杯	軟質	橙 / 明黄	b	内外面共にハケ目。	—	8.2 胴中央部小片。	R740

第1表 二反田遺跡出土土器観察表①

観測番号	出土地点	器形	焼成	色調(外観)	胎土	底形・型形手法等	寸法	備考(修理・現在等)	収蔵館番号
第129図10	S876	弥生土器 甕	軟質	黄褐色 / 灰白	a	外面平明(厚底)。内面ハケ目。	30.0 5.1	口縁部は、外面は厚底。	R738
第129図17	S876	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面へう調整。内面ナデ調整。	34.0 5.7	口縁部は、	R852
第129図18	S876	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	15.6 8.6	底部は、外面スス付着。	R382
第129図19	S876	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面へう調整。内面ハケ目。	18.2 7.0	底部は、外面スス付着。	R380
第129図20	S876	弥生土器 甕	軟質	灰黄 / 浅黄	a	外面平明。内面ハケ目。	44.2 6.8	口縁部は、	R736
第129図21	S876	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄	a	内外面共にハケ目。	(11.6) 7.1	底部は、	R848
第129図22	S876	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄	a	内外面共にハケ目後ナデ。	(13.5) 6.15	底部は、	R847
第130図3	S877	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	28.2 4.4	口縁部は、	R572
第130図4	S877	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目後ヨコナデ。内面ハケ目。	32.2 8.6	口縁部は、	R571
第130図5	S877	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面へう調整面きかなる。内面ナデ。	(8.4) 6.1	底部は、	R573
第130図6	S877	弥生土器 甕	軟質	橙 / 灰黄	a	外面平明。内面ハケ目。	(9.4) 6.45	底部は、外面焼熱により赤色化。スス付着。	R566
第130図7	S877	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	12.0 7.7	口縁部は、	R568
第130図8	S877	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄	b	外面ハケ目。内面ナデ。	44.2 10.1	口縁部は、	R570
第132図1	S878	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面平明。内面ミガキ。	26.0 5.0	口縁部は、丹塗りあり。	R579
第132図2	S878	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面平明(厚底)。内面ナデ後ミガキ。	32.0 5.8	底部は、丹塗りあり。	R306
第132図3	S878	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にヨコナデ。	17.0 3.5	口縁部は、丹塗りあり。	R580
第132図4	S878	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ。内面ヨコナデ。	— 5.4	口縁部は、	R391
第132図5	S878	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ目後ナデ。	25.5 7.6	口縁部は、	R394
第132図6	S878	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコ方向のハケ目。内面ハケ目。	30.0 6.2	口縁部は、	R393
第132図7	S878	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。内面ナデ。	32.2 7.6	口縁部は、	R395
第132図8	S878	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	32.4 5.6	口縁部は、	R397
第132図9	S878	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目後ヨコナデ。ハケ目。内面ヨコナデ。	31.6 7.4	口縁部は、	R392
第132図10	S878	弥生土器 甕	軟質	橙 / 黄褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(6.6) 5.8	底部は、	R390
第132図11	S878	弥生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面平明。	(4.2) 6.7	底部は、	R389
第132図12	S878	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(6.5) 6.8	底部は、	R386
第132図13	S878	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 黄褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(10.0) 8.4	底部は、	R397
第132図16	S879	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	30.0 17.2	口縁部は、	R574
第132図17	S879	弥生土器 甕	軟質	灰黄 / 灰黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.5) 16.5	口縁部は、	R575
第134図1	S880	ミナモト 土器	軟質	灰黄 / 浅黄	a	内外面共にナデ。	5.9 (9.0) 4.6	口縁部は、	R576
第136図1	S881	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	(3.0) 1.5	底部は、	R590
第136図2	S881	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面平明。内面ナデ。	5.8 (4.4) 4.4	口縁部は、	R588
第136図3	S881	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 橙	a	内外面共にへう調整。	— 3.1	口縁部は、	R589
第136図4	S881	土師器 鉢	軟質	明黄褐色 / 黄褐色	a	外面へう調整。内面ナデ。	9.6 (1.0) 3.9	口縁部は、	R578
第136図5	S881	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ後ハケ目。ヨコナデ。内面ナデ。	15.8 4.3	口縁部は、外面にスス付着。	R579
第136図6	S881	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ハケ目。	31.0 6.8	口縁部は、	R577
第136図7	S881	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にナデ。	(10.9) (10.7) 8.4	口縁部は、	R585
第136図8	S881	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	11 (10.2) 13.3	口縁部は、	R582
第136図9	S881	弥生土器 甕	軟質	浅黄褐色 / 浅黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	(10.8) 8.2	口縁部は、(上下逆かも)	R580
第136図10	S881	土師器 鉢	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナデ。	6.8 1.5	口縁部は、	R910
第136図11	S881	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	31.2 7.6	口縁部は、	R585
第136図12	S881	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	28.8 5.0	口縁部は、	R584
第136図13	S881	弥生土器 甕	軟質	橙 / 明黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ハケ目。	34.0 5.1	口縁部は、	R586
第136図14	S881	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	b	外面平明(ナデ)。内面ハケ目調整後ナデ。	(11.8) 5.5	口縁部は、内外面共に丹塗り。	R895
第136図15	S881	弥生土器 甕	軟質	黄褐色 / 浅黄褐色	a	外面平明(厚底)。内面ナデ。	(13.6) 4.9	口縁部は、	R583
第136図16	S881	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ナデ。内面不定方向のハケ目。	35.8 22.6	口縁部は、	R581
第136図17	S881	弥生土器 甕	軟質	灰 / 灰	a	外面横目ナデ。内面黄褐色状ナデ。	— 7.3	口縁部は、	R587
第138図1	S382	弥生土器 甕	軟質	橙 / 明黄褐色	a	内外面共にナデ。	7.6 4.3	口縁部は、	R605
第138図2	S382	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 橙	a	内外面共にナデ。	(10.0) 5.9	口縁部は、	R606
第138図3	S382	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(11.0) (11.4) 12.5	口縁部は、	R400
第138図4	S382	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面横目ハケ目。内面ハケ目。	12.9 (6.3) 13.1	口縁部は、一部黒色あり。	R899
第138図5	S382	弥生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	16.0 6.1	口縁部は、	R601
第138図6	S382	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	— 4.9	口縁部は、	R603

第1表 二反田遺跡出土土器観察表 ⑫

検出番号	出土 地点	器形	構成	色澤 (外側)	胎土	成形・整形手法等	寸 法	備考 (種類・保存等)	実測図 番 号	
第138図7	S882	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にヨコナデ。	—	4.4	口縁部片。極小片。	R002
第138図8	S882	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	—	8.65	口縁部片。	R004
第138図9	S882	弥生土器 甕	軟質	灰黄緑 / に近い黄緑	b	外面ハケ目。内面ナデ。	20.0	7.8	口縁部片。外面スス付着。	R592
第138図10	S882	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にヨコナデ。	34.2	4.3	口縁部片。	R374
第138図11	S882	土器	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にナデ。	4.1	4.6	残存2/3。	R398
第138図12	S882	弥生土器 甕	軟質	にに近い黄緑 / 灰黄緑	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.2)	7.5	底面片。外面スス。内面ヨコナデ付着。	R390
第138図13	S882	弥生土器 甕	軟質	明黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面不定方向にハケ目。	(8.5)	4.0	底面片。外面スス付着。赤色化。	R591
第138図14	S882	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ目。	(7.4)	13.4	胴下部片。一部黒焦あり。	R593
第139図1	S883	弥生土器 甕	軟質	灰黄緑 / 灰黄緑	a	内外面共にナデ。	10.0	4.8	残存1/4。	R600
第139図2	S883	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面不明(摩滅)。内面ヨコナデ。ナデ。	9.0 (3.7)	5.2	残存1/2。	R607
第139図3	S883	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	内外面共にハケ目。	29.8	6.2	口縁部片。外面スス付着。	R611
第139図4	S883	弥生土器 甕	軟質	黄緑 / 黄緑	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	24	6.7	口縁部片。	R610
第139図5	S883	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面不明。ナデ後ミガキ。内面ナデ。	(10.0)	3.6	底面片?	R608
第139図6	S883	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ナデ。	7.4	6.4	底面片。外面被熱により赤色化。	R375
第139図7	S884	弥生土器 甕	軟質	灰黄緑 / に近い黄緑	a	内外面共に不明。	(4.8)	4.7	中央部片。	R595
第139図8	S884	弥生土器 甕	軟質	橙 / に近い黄緑	a	内外面共にハケ目。	15.8	5.0	口縁部片。	R594
第142図1	S885	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。浅緑。ヨコナデ。ハケ目。内面ハケ目。	13.8	9.8	口縁から中央部片。	R377
第142図2	S885	弥生土器 甕	軟質	明黄緑 / 橙	a	内外面共に不明。	24.0	4.5	口縁部片。	R376
第142図3	S885	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	b	内外面共にハケ目。	(7.8)	9.4	底面片。底面に黒焦あり。	R596
第142図4	S885	弥生土器 甕	軟質	橙 / 明黄緑	a	内外面共にヨコナデ。	30.0	4.7	口縁部片。丹塗あり。	R897
第142図5	S885	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	内外面共にハケ目。	20.2	7.7	口縁部片。	R597
第144図1	S886	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ナデ。	21.7 (8.3)	10.0	残存2/3。黒焦あり。	R614
第144図2	S886	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / 黄緑	a	内外面共にナデ。	21.2	5.0	杯部片。内外丹塗。	R898
第144図3	S886	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面不明。内面ナデ。	23.3 (16.4)	25.7	杯元完形。丹塗あり。	R896
第144図4	S886	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / 明黄緑	a	外面ハケ目。内面ナデ。	21.6	3.6	口縁部片。外面スス付着。	R378
第144図5	S886	弥生土器 甕	軟質	橙 / 黄緑	a	外面ハケ目。内面ナデ。	21.8	4.0	口縁部片。	R379
第144図6	S886	弥生土器 甕	軟質	橙 / 灰黄緑	a	外面不明。内面ナデ。	(5.0)	7.2	底面片。外置被熱により赤色化。内面ヨコナデあり。	R515
第144図7	S886	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にナデ。	(10.0)	4.3	底面片。底面に打ち欠いたようの赤色化。	R312
第144図8	S886	弥生土器 甕	軟質	赤黄緑 / 赤	a	内外面共に不明。	(9.2)	10.5	底面片。外置スス。内面ヨコナデあり。被熱による赤色化。	R561
第146図1	S887	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	6.2 (4.0)	3.4	残存1/4。	R188
第146図2	S887	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	内外面共にナデ。	10.2	3.6	口縁部片。小片(手づかぬ)。	R621
第146図3	S887	弥生土器 甕	軟質	明黄緑 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	—	4.7	胴部片。	R520
第146図4	S887	弥生土器 甕	軟質	赤黄 / 赤黄	a	外面ハケ目後ヨコナデ。	—	0.3	上部片。	R617
第146図5	S887	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / 黄緑	a	外面ハケ目。内面ナデ。	27.8	5.15	口縁部片。	R622
第146図6	S887	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ目。	18.4	14.5	口縁部片。外面スス付着。	R618
第146図7	S887	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(10.0)	6.5	底面片。	R619
第146図8	S887	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ目。	(11.0)	6.6	底面片。	R616
第147図1	S888	弥生土器 甕	軟質	黒 / に近い黄緑	a	内外面共にナデ。	18.0	5.2	口縁部片。	R187
第147図2	S888	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目調整。内面ハケ目。	88.0	4.9	底面片。	R193
第147図4	S889	弥生土器 甕	軟質	明黄緑 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	25.8	5.0	口縁部片。摩滅著しい。	R189
第147図5	S889	弥生土器 甕	軟質	橙 / に近い黄緑	a	内外面共にハケ目。	7.0	31.2	口縁部片。	R191
第147図6	S889	弥生土器 甕	軟質	黄緑 / に近い黄緑	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	31.8	4.8	口縁部片。外面スス付着。	R190
第147図7	S399	弥生土器 甕	軟質	黄緑 / に近い黄緑	a	内外面共に不明。	32.2	7.8	口縁部片。摩滅著しい。	R192
第149図1	S392	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	(1.14)	10.6	胴中央部下半部片。	R185
第149図2	S392	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	b	外面ハケ目後ナデ。内面ハケ目。	10.2	6.3	口縁部片。外面スス付着。	R599
第149図3	S392	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ハケ目後ナデ。	15.0	10.5	口縁部片。	R194
第149図4	S392	弥生土器 甕	軟質	明黄緑 / に近い黄緑	a	外面ナデ。内面ハケ目調整。	—	4.5	胴上半部片。	R197
第149図5	S392	弥生土器 甕	軟質	明黄緑 / 明黄緑	a	内外面共にハケ目調整後ナデ。	—	12.2	胴上半部片。	R198
第149図6	S392	弥生土器 甕	軟質	黄緑 / 明黄緑	a	外面不明。内面ナデ。	(4.4)	4.2	底面片。外面丹塗あり。	R581
第149図7	S392	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ナデ。内面ナデナデ。	(3.2)	3.2	底面片。	R598
第149図8	S392	弥生土器 甕	軟質	明黄緑 / 明黄緑	a	外面ハケ目後ナデ。内面ハケ目。	13.6	4.5	口縁部片。	R200
第149図9	S392	弥生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面不明(摩滅)。内面ヨコナデ。	32.0	2.5	口縁部片。内外共に丹塗あり。	R582

第1表 二反田遺跡出土土器観察表③

調査番号	出土 地点	器形	地味	色調 (外色)	胎土	成形・整形手法等	寸法	備考(種類・残存等)	実測図 番 号
第149図10	S582	赤生土器 甕	軟質	橙 / 灰黄	a	内外面共にハケ目。	15.4 16.8	口縁部下底片。	R812
第149図11	S582	赤生土器 甕	軟質	橙 / 明黄	a	内外面共にハケ目。	— 15.0	小片。	R623
第149図13	S582	土師器 杯	軟質	灰黄 / 灰黄	a	内外面共に割れず。	12.0 8.9	残存 1/4。	R199
第149図16	S582	赤生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にヨコナデ。	66.4 5.7	口縁部片。裏側の破片か?	R200
第151図1	S583	赤生土器 高杯	軟質	橙 / 赤黄	a	外面不明。内面ナデ。	22.0 5.7	杯部片。	R583
第151図2	S583	赤生土器 高杯	軟質	橙 / 橙	b	外面ナデ後ミカテ。内面ナデ。	24.0 5.8	杯口縁部片。	R710
第151図3	S583	赤生土器 高杯	軟質	橙 / 明赤黄	a	外面不明(厚減)。内面へう調整。	22.2 7.0	杯部片。内外共に丹塗。	R905
第151図4	S583	赤生土器 高杯	軟質	明赤黄 / 明赤黄	a	外面ナデ後ミカテ。内面へう調整。	— 10.6	杯部中央部片。	R904
第151図5	S583	赤生土器 高杯	軟質	にぶい黄橙 / 明赤黄	a	外面不明(厚減)。内面ナデ。	116.4 16.95	胴部片。外面に丹塗あり。	R709
第151図6	S583	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	内外面共にナデ。	4.2 9.2	口縁部片。小片。	R715
第151図7	S583	赤生土器 鉢	軟質	赤黄 / 明赤黄	a	内外面共にナデ。	15.0 4.3	底部片。丹塗あり。	R584
第151図8	S583	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	外面不明。内面不定方向のハケ目。	17.8 10.5	口縁部片。	R714
第151図9	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / 明赤黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	9.8 12.0	残存 3/4。	R705
第151図10	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	11.3 10.6	残存 5/6。	R634
第151図11	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄 / 橙	a	外面へう調整。内面ナデ。	26.0 19.7	口縁部中央部片。	R629
第151図12	S583	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 明赤黄	a	外面ヨコナデ。ナデ。内面ナデ。	— 6.0	胴中央部片。内外とも丹塗あり。	R888
第151図13	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / 橙	a	外面へう調整。内面ナデ。	11.0 9.2	底部片。	R712
第151図14	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / 明赤黄	a	外面へう調整。内面ナデ。	15.5 5.9	底部片。一部黒黄あり。	R702
第151図15	S583	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 明赤黄	a	外面磨きがかかる。内面ナデ。	6.6 4.3	底部片。	R754
第151図16	S583	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 明赤黄	a	内外面共にナデ。	19.6 4.5	底部片。	R711
第151図17	S583	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 橙	a	内外面共にナデ。	11.0 4.3	底部片。	R708
第151図18	S583	土師器 杯	軟質	黄橙 / 明赤黄	砂減少	内外面共にナデ。	16.0 2.0	残存 1/10。	R713
第152図1	S583	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 明赤黄	a	内外面共にハケ目。	36.8 5.9	口縁部片。	R815
第152図2	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	30.2 6.0	口縁部片。	R628
第152図3	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄 / にぶい黄橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	30.0 12.4	口縁部片。	R180
第152図4	S583	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / にぶい黄	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	31.6 12.4	口縁部片。外面黄黒により剥落。	R858
第152図5	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	内外面共にハケ目後ナデ。	30.2 7.0	口縁部片。	R815
第152図6	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / 橙	b	外面ハケ目。内面ハケ目後ナデ。	34.4 12.0	口縁部片。外面スス付着。	R701
第152図7	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	36.2 8.5	口縁部片。外面スス付着。内面ヨコナデ付着。	R632
第152図8	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面不明。	30.2 10.8	口縁部片。	R630
第152図9	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面共に不明(厚減)。	28.0 9.7	口縁部片。厚減著しい。	R750
第152図10	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	28.0 11.9	口縁部片。	R859
第152図11	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ハケ目後ナデ。	44.3 18.7	胴下部底部片。	R860
第152図12	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / 明赤黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	9.4 5.85	底部片。内面ヨコナデ付着。	R753
第152図13	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	44.1 7.4	底部片。胴内面に赤色土。	R755
第152図14	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	15.1 10.3	底部片。外面スス付着。黒斑あり。	R633
第152図15	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	外面丁寧ナデ。内面不明。	11.0 5.5	底部片。	R195
第153図1	S583	赤生土器 甕	軟質	橙 / にぶい黄	a	外面ヨコナデ。内面不明。	36.4 13.6	口縁部片。	R818
第153図2	S583	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄 / にぶい黄	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	30.4 7.9	口縁部片。裏側の破片。	R819
第153図3	S583	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 明赤黄	a	外面ナデ(磨きかかる)。内面丁寧ナデ。	32.4 14.4	口縁部片。	R887
第154図1	S584	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / 橙	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	34.0 4.0	口縁部片。	R857
第156図1	S585	土師器 杯	軟質	明赤黄 / 砂減少	砂減少	外面ヨコナデ調整(磨きかかる)。内面ヨコナデ(磨減)。	10.8 5.5	残存 1/3。	R861
第156図2	S585	土師器 杯	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にナデ。	4.9 2.5	残存 2/3。ミニチュア土器。	R862
第156図3	S585	土師器 杯	軟質	明赤黄 / 黄橙	a	内外面共にナデ後磨きがかかる。	16.0 5.5	胴口縁部片。	R764
第156図4	S585	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / 灰黄	a	内外面共にハケ目。ヨコナデ。	12.2 4.8	底部片。	R767
第156図5	S585	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 灰黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	12.2 6.3	底部片。外面黒黄あり。	R766
第156図6	S585	土師器?	軟質	にぶい黄橙 / 明赤黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	10.2 6.1	口縁部片。	R758
第156図7	S585	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	— 4.8	胴部に黄帯16条の文様あり。	R757
第156図8	S585	赤生土器 甕	軟質	明赤黄 / 灰黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	38.2 8.0	底部片。	R863
第156図9	S585	赤生土器 甕	軟質	灰黄 / にぶい黄橙	a	内外面共にハケ目。	17.8 4.4	口縁部片。外面スス付着。	R760
第156図10	S585	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄橙 / にぶい黄橙	a	内外面共にハケ目。	26.2 6.7	口縁部片。外面スス付着。	R759
第156図11	S585	赤生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	外面ハケ目。内面ナデ。	— 7.7	口縁部小片。	R765

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑭

探検番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法	備考(補綴・残存等)	実測 番号	
第156層12	S805	土師器 甕	軟灰	黄/橙	a	外面タタキ。内面ハケ目。	20.0	4.7	口縁部片。内面コケ付着。	R763
第156層13	S805	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 灰黄緑	a	内外面共にハケ目。	26.0	6.9	口縁部片。	R804
第156層14	S805	甕生土器 / 底面片	硬灰	黄/橙 / 灰黄緑	砂漉少	外面タタキ。内面タタキ(青海波状文)。	25.6	7.3	口縁部片。	R768
第156層15	S805	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(5.0)	4.9	底面片。	R762
第156層16	S805	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄緑 / 灰黄緑	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(6.0)	8.7	底面片。底部外面に黒染あり。	R761
第157層1	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	明黄緑 / 黄緑	a	外底ナシ。内面不明。	6.0	7.1	上縁片。	R769
第157層2	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	明黄緑 / 明赤黄	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(11.4)	8.7	底面片。	R642
第157層3	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底不明。ハケ目。内面ナシ。	(13.7)	9.8	底面片。	R771
第157層4	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄 / 赤黒	b	外底ナシ後ミガキ(磨滅)。内面ナシ。	25.5	10.2	底面片。丹塗りあり。	R802
第157層5	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	赤黒 / 赤黒	a	外底ヨコナデ(磨滅)。内面へう調整(ミガキ)。	33.0	5.7	口縁部片。丹塗りあり。	R803
第157層6	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙	a	外底ハケ目。内面ナシ。	—	5.0	口縁部小片。	R866
第157層7	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄緑 / 明黄緑	a	内外面共にミコナナシ。	—	5.5	口縁部小片。	R640
第157層8	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄緑 / 黄/橙	a	外底ヨコ方向のハケ目。ハケ目。内面ハケ目。	28.0	7.3	口縁部片。	R639
第157層9	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	明黄緑 / 赤黄緑	a	外底へう調整(磨きがかかる)。内面ナシ。	14.2 (6.3)	13.0	残存2/3。	R637
第157層10	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙	a	内外面共にハケ目。	32	7.9	口縁部片。	R770
第157層11	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(4.6)	8.5	底面片。	R638
第157層12	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 灰黄緑	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(6.8)	8.2	底面片。内面スス付着。	R865
第157層13	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(4.8)	8.4	底面片。外底スス付着。	R643
第157層14	S806	土師器 / 底面片	軟灰	灰白 / 灰白	砂漉少	外底ヨコナデ。内面ナシ。	(12.0)	1.8	底面片。	R809
第157層15	S806	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底不明。内面ナシ。	(7.8)	3.5	底面片。	R641
第157層16	S806	土師器 / 底面片	軟灰	灰白 / 灰白	a	内外面共に磨滅ナシ。	12.0 (7.4)	3.8	残存1/8。	R607
第157層17	S806	甕生土器 / 底面片	硬灰	灰黄緑 / 灰黄緑	砂漉少	外底磨子目タタキ。内面青海波状文。	—	7.4	底面片。	R868
第158層1	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	内外面共にナシ。	8.2	5.7	底面欠損。	R870
第158層2	S807	土師器 / 底面片	軟灰	明黄緑 / 灰白	b	外底ナシ。内面ハケ調整。	11.0 (3.5)	4.5	残存3/4。	R672
第158層3	S807	土師器 / 底面片	硬灰	黄/橙	a	外底タタキ後ナシ。	(9.2)	4.5	底面片。	R874
第158層4	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙	a	外底ヨコナデ。内面ナシ。	26.2	4.9	口縁部片。	R644
第158層5	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄緑 / 黄/橙	a	内外面共にハケ目。	29.8	7.0	口縁部片。小片。	R884
第158層6	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ハケ目。内面ナシ。	32.0	3.6	口縁部片。小片。	R882
第158層7	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	明黄緑 / 赤黒	a	外底ヨコナデ。内面ナシ。	32.0	4.2	口縁部片。小片。やや鋭い 破片。	R883
第158層8	S807	土師器 / 底面片	軟灰	黄/橙	b	外底ヨコナデ後部分ミガキ。内面へう調整。	19.6	9.5	二重口縁部片。内面に黒染 あり。	R879
第158層9	S807	土師器 / 底面片	軟灰	黄 / 黄緑	a	外底カキ目。磨滅状文。へう調整。内面ヨコナデ。	—	6.0	腹上平部片。外底拓本あり。	R885
第158層10	S807	土師器 / 底面片	硬灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ハケ目後ヨコナデ。内面ヨコナデ。	17.8	3.8	口縁部片。小片。外底スス 付着。	R878
第158層11	S807	土師器 / 底面片	硬灰	黄/橙 / 明黄緑	a	内外面共にハケ目。	15.8	4.1	口縁部片。小片。	R880
第158層12	S807	土師器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底タタキ後ハケ目。内面ナシ。	12.7 (3.8)	10.3	残存4/5。外底にスス付着。	R822
第158層13	S807	土師器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	内外面共にハケ目。	24.0	17.9	腹上縁部片。外底スス付着。	R772
第158層14	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙	b	外底ハケ目。内面ナシ。	5.0	8.7	底面片。	R821
第158層15	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	内外面共にハケ目。	(6.0)	9.8	底面片。黒染あり。	R875
第158層16	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	b	内外面共にハケ目。	(7.8)	19.0	腹中央部片。内面コケ付着。 外底スス付着。	R820
第158層17	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄緑 / 黄/橙	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(14.3)	11.1	腹下半部片。外底黒染により 劣化。	R871
第158層18	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	内外面共にハケ目。	(4.7)	4.0	底面片。	R873
第158層19	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	明黄緑 / 黄/橙	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(5.7)	5.4	底面片。	R876
第158層20	S807	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(5.3)	6.5	底面片。	R877
第162層1	S808	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ハケ目。内面ハケ後ナシ。	31.0	4.1	口縁部片。	R774
第162層2	S808	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ハケ目。内面ハケ目後ナシ調整。磨滅あり。	32.2	17.6	口縁部片。外底スス付着。 内面コケ付着。	R773
第162層3	S808	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ミガキ。内面ハケ目後ナシ。	28.0	5.8	口縁部片。	R775
第162層4	S808	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄緑 / 明黄緑	a	外底ハケ目。内面ナシ。	(4.7)	10.5	底面片。外底黒染により劣 化。	R187
第162層5	S808	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底ナシ。内面ハケ目。ナシ。	(10.8)	8.6	底面片。外底スス付着。	R188
第162層6	S808	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	外底へうミガキ。内面ナシ。	(10.2)	8.6	底面片。外底黒染あり。	R189
第162層7	S809	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄緑 / 黄緑	a	外底へう調整。へうミガキ。内面粒面ナシ。	(11.0)	18.5	底面。外底スス付着。内面 コケ付着。	R186
第162層8	S809	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / オリーブ緑	a	外底ハケ目。内面ナシ。	—	4.6	口縁部小片。	R845
第162層9	S809	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	内外面共にナシ。	(6.2)	3.5	底面片。	R776
第162層10	S809	甕生土器 / 底面片	軟灰	黄/橙 / 明黄緑	a	内面不明。内面ハケ目。	15.4 (5.8)	9.5	残存1/2。内外とも磨滅に よる劣化。	R646

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑬

図録番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面)	胎土	成形・修飾手法等	寸 法		備考(種類・残存等)	実測図 番 号
第162図11	S809	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	(8.6)	10.1	底部片。底部スス、コゲ付着。	R647
第164図1	S8100	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	6.0 (6.4)	3.6	残存2/3。ミニチュア土器。	R657
第164図2	S8100	赤生土器 高杯	軟質	黄 / 黄	a	外面平滑。内面ナデ。	20.6	6.1	残存約3/4。	R649
第164図3	S8100	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にヨコナデ後ハケ目。	16.8	5.5	口縁部片。	R655
第164図4	S8100	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	—	7.0	底部片。	R656
第164図5	S8100	赤生土器 甕	軟質	明黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	24.0	9.5	口縁部。	R652
第164図6	S8100	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 明黄褐色	a	内外面共にハケ目。	19.8	6.5	口縁部片。外面スス付着。	R653
第164図7	S8100	赤生土器 甕	軟質	黄い黄褐色 / 黄い黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	30.0	4.8	口縁部片。外面スス付着。	R654
第164図8	S8100	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	34.2	10.0	口縁部片。	R650
第164図9	S8100	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(12.7)	6.4	底部片。外面スス付着。内面コゲ付着。	R651
第164図10	S8100	赤生土器 高杯	軟質	黄 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目。内面ハケ目後ナデ。	(8.3)	8.9	底部片。外面スス内面コゲ付着。	R658
第164図12	S8101	赤生土器 高杯	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	(8.9)	7.0	底部片。片僅。	R660
第164図13	S8101	赤生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	外面ミガキ。内面ハケ目後ナデ。	34.0	13.0	口縁部片。	R659
第167図1	S8102	土師器 高杯	軟質	にぶい黄褐色 / 黄	a	内外面共にハケ目。	14.0	4.7	口縁部片。	R685
第167図2	S8102	土師器 甕	硬質	明黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	—	5.5	口縁部片。	R672
第167図3	S8102	土師器 鉢	硬質	黄 / 黄	a	内外面共にナデ。	—	2.5	ミニチュア土器。口縁部片。	R681
第167図4	S8102	土師器 鉢	軟質	明黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	—	4.7	口縁部小片。	R680
第167図5	S8102	土師器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	—	7.7	口縁部小片。外面スス付着。	R683
第167図6	S8102	土師器 高杯	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面シボリ痕。ヨコナデ。	(10.6)	6.9	底部片。	R671
第167図7	S8102	土師器 低脚鉢	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	砂焼	外面へラミガキ。内面へラ調整。	12.3 (7.3)	7.2	残存1/2。山崎系?	R677
第167図8	S8102	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にナデ。	—	6.6	口縁部小片。	R681
第167図9	S8102	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面へラケズリ。	15.2	5.3	口縁部片。外面スス付着。山崎系。	R666
第167図10	S8102	土師器 甕	軟質	灰黄褐色 / 灰黄	a	外面へラナデ。内面ヨコナデ。	—	3.0	口縁部小片。	R687
第167図11	S8102	土師器 甕	硬質	黄 / 黄	a	外面タタキ。内面へラケズリ。	17.6	18.2	口縁部中央部片。	R679
第167図12	S8102	土師器 甕	硬質	暗灰黄 / 暗灰黄	砂焼	外面タタキ後ハケ目。内面へラケズリ。	10.8	6.3	口縁部片。外面スス付着。	R665
第167図13	S8102	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ調整。ハケ目。内面ハケ目。ハケ調整後ナデ。	12.5 (13.0)	14.3	残存3/4。水を受けた痕跡はない。黒黒あり。	R661
第167図14	S8102	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面右タタキ。内面ハケ目。	18.0	9.6	口縁部片。外面黒黒ありスス付着。	R678
第167図15	S8102	土師器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面左タタキ。内面へラケズリ。	16.2	6.7	口縁部片。	R676
第167図16	S8102	土師器 甕	軟質	黄 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ目。	27.6	10.9	口縁部中央部。外面スス内面コゲ付着。	R648
第167図17	S8102	土師器 甕	硬質	灰黄 / 灰黄	砂焼	内外面共にヨコナデ。	—	2.4	蓋小片。生焼け風。	R686
第167図18	S8102	土師器 鉢	軟質	黄 / 黄	砂焼	内外面共に不明。	—	3.2	残存1/7。	R682
第167図19	S8102	赤生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 灰黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	22.0	9.5	口縁部片。	R670
第167図20	S8102	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ目。	—	6.2	口縁部小片。	R688
第167図21	S8102	赤生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	22.0	3.1	口縁部小片。小片。	R662
第167図22	S8102	赤生土器 甕	軟質	黄褐色 / 明黄褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	32.0	7.1	口縁部片。	R673
第167図23	S8102	赤生土器 甕	軟質	黄 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	20.0	5.5	口縁部片。	R668
第167図24	S8102	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	30.0	5.5	口縁部片。外面スス内面コゲ付着。	R689
第167図25	S8102	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	30.0	4.6	口縁部片。	R674
第167図26	S8102	赤生土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目後ナデ。内面ヨコナデ。	28.8	6.2	口縁部片。	R669
第167図27	S8102	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	31.8	11.4	口縁部片。	R690
第167図28	S8102	赤生土器 甕	軟質	黄 / 黄褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.3)	6.4	底部片。内面コゲ付着。外面赤色化。	R693
第167図29	S8102	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.0)	7.8	底部片。	R694
第168図1	S8102	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.1)	6.2	底部片。内面コゲ付着。	R694
第168図2	S8102	赤生土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(4.3)	7.0	底部片。外面スス付着。赤色化。	R693
第168図3	S8102	赤生土器 甕	軟質	黄 / にぶい黄褐色	b	内外面共にナデ。	(10.2)	2.5	底部片。	R697
第168図4	S8102	赤生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面不明(厚減)。内面ハケ目後ナデ。	(10.0)	4.0	底部片。	R695
第168図5	S8102	赤生土器 土師器	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	内外面共にナデ。細網文あり。	—	3.3	把手欠く。	R692
第168図6	S8102	赤生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	内外面共にナデ。	(5.2)	18.3	胴中央部片。底部にスス付着。	R675
第168図7	S8103	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 灰黄褐色	a	内外面共にヨコナデ。	14.3 (15.2)	4.7	口縁部一部欠損。内面黒黒あり。	R696
第168図8	S8103	赤生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	14.0	9.7	口縁部中央部片。	R695
第168図10	S8103	赤生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	a	内外面共にハケ目。	17.8	14.9	口縁部上沿い。	R697
第168図11	S8103	赤生土器 甕	軟質	黄 / 黄	a	外面ハケ目。内面ナデ。	10.8 (10.8)	12.9	ほぼ完形(口縁部一部欠損)。	R692

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑬

調査番号	出土 地点	器形	焼成	色 澤 (外観)	胎土	成形・整形手法等	寸 法		備考(簡説・残存等)	実測 番 号
第168回 12	SBI03	赤生土器 深鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 緑	a	外面ハケ目後ナデ。内面ナデ。	39.9 (39.7)	12.4	ほぼ完形(底部一部欠損)。	R699
第168回 13	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にヨコナデ。	22.0	4.5	口縁部凸。	R806
第168回 14	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 緑	a	外面ハケ目。内面ナデ。	(5.1)	8.4	底部片。外面焦熱により赤化。	R700
第168回 15	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面ハケ目。内面ナデ。	28.6	6.0	口縁部凸。	R803
第168回 16	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	外面ハケ目。内面ナデ。	29.0	10.0	口縁部凸。	R804
第168回 17	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ヨコナデ。内面ナデ。	32.2	7.3	口縁部凸。	R801
第168回 18	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	灰黄褐色 / 灰黄褐色	a	内外面共にハケ目。	21.1	25.3	口縁部中央部片。外面焦熱により赤化。	R185
第168回 19	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	灰黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にハケ目。	24.0	18.8	口縁部片。外面覆付着。	R808
第168回 20	SBI03	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ハケ目。内面ヨコナデ。	32.0	4.4	口縁部凸。外面覆付着。	R807
第178回 1	SD01	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	19.7	4.1	外面覆付着。	R352
第178回 2	SD01	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	(8.2)	3.3		R351
第178回 3	SD01	須恵器 鉢	硬質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	砂漉少	外面ともにタタキ	—	3.8		R913
第178回 4	SD01	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	28.0	4.9	外面覆付着。	R421
第178回 5	SD01	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	外面ともにハケ後ナデ。	(8.0)	3.0		R420
第178回 6	SD05	縄文土器 深鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	表面調整後ナデ	—	3.6		R913
第178回 7	SD05	土師器 小皿	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂漉少	回転ナデ。	9.6 (9.6)	1.4	底部は赤切り。	R427
第178回 8	SD05	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂漉少	回転ナデ。	11.8 (11.8)	1.2	底部は赤切り。	R424
第178回 9	SD05	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂漉少	回転ナデのミガキ整形。	11.5 (11.5)	2.2	黒色土器B類?	R425
第178回 10	SD05	土師器 高台付鉢	軟質	灰白 / 灰白	砂漉少	内外面ヨコナデ(顔熱により不明瞭)	14.0	3.9	外面焦熱有。	R426
第178回 11	SD05	土師器 高台付鉢	硬質	灰白 / 灰白	砂漉少	ヨコナデ。	—	3.8	外面自然剥離から。	R422
第178回 12	SD05	土師器 高台付鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	砂漉少	回転ナデ後底部へう切り。高台部付。	15.2 (17.7)	5.7		R423
第178回 13	SD05	土師器 高台付鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂漉少	回転ナデ後不定方向ミガキ。	(7.0)	3.3	黒色土器B類	R428
第178回 14	SD06	赤生土器 鉢	軟質	灰黄褐色 / 黄褐色	a	ハケ後ナデ。内面工具面整る。	(10.7)	9.1		R437
第178回 15	SD06	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共にハケ後ナデ	26.0	2.8		R433
第178回 16	SD06	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	b	内外面共にハケ後ナデ	20.0	6.2		R436
第178回 17	SD06	須恵器 高台付鉢	硬質	灰 / 黄褐色	砂漉少	内外面回転ナデ。	16.0	4.4		R429
第178回 18	SD06	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂漉少	丁寧なナデ仕上げ。	20.0	3.5		R434
第178回 19	SD06	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	40.8	5.6		R432
第178回 20	SD06	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	b	ナデ後外面ミガキ。	(6.0)	8.0		R431
第178回 21	SD06	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	(5.5)	6.9		R430
第178回 22	SD06	赤生土器 鉢	硬質	灰白 / 灰白	砂漉少	丁寧なナデ仕上げ。	(6.0)	1.5	能登系?	R435
第178回 23	SD07	須恵器 高台付鉢	硬質	灰白 / 灰白	砂漉少	ヨコナデ。	9.2	4.5		R281
第178回 24	SD07	土師器 高台付鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	砂漉少	内外面回転ナデ後底部回転へう切り。	(9.0)	1.8		R283
第178回 25	SD07	土師器 高台付鉢	硬質	灰 / 灰白	砂漉少	内外面回転ナデ後底部回転へう切り。	(9.0)	3.3		R282
第178回 26	SD07	土師器 高台付鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂漉少	内外面回転ナデ後底部回転へう切り。	(8.0)	1.9		R438
第178回 27	SD07	土師器 高台付鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂漉少	内外面ともにハケ後ナデ。	—	4.8		R439
第178回 28	SD08	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共に丁寧ナデ。	32.2	3.7	外面丹塗有。	R279
第178回 29	SD08	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	19.8	4.0		R277
第178回 30	SD08	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面ともにハケ後ナデ。	(7.0)	4.0	外面焦熱により赤化。	R280
第178回 31	SD08	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	(4.0)	5.7	外面覆付着。	R278
第179回 1	K-1	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	11.6 (34.9)	13.1		R293
第179回 2	K-1	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 黄褐色	b	内外面ともにハケ後ナデ。	32.4 (4.7)	36.4	外面わずかに面付着。	R440
第179回 3	K-2	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	32.5	18.8		R-1D1
第179回 4	K-2	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	35.2 (5.2)	35.2		R-1D2
第179回 5	K-3	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	24.2 (5.0)	33.1		R4D7
第179回 6	K-3	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	28.0 (5.2)	32.7		R4D5
第180回 1	K-4	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ナデ後外面ミガキ。	26.3 (1.7)	22.8		R357
第180回 2	K-5	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	36.2 (4.6)	32.3		R4D6
第180回 3	K-5	赤生土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	25.0 (4.5)	33.4		R4D4
第180回 4	K-6	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	25.0 (4.5)	34.5		R441
第180回 5	K-6	赤生土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	30.2 (4.3)	34.8		R294
第181回 1	K-7	赤生土器 鉢	軟質	明黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナデ。	28.5 (5.7)	35.8		R4D8

第1表 二反田遺跡出土土器観察表①

探検番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面)	胎土	成形・整型手法等	寸 法	備考 (種類・残存等)	実測 番 号
第181図2	K-8	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	a	内外面ともにハケ後ナシ。	30.0 (5.0)	32.0	R103
第186図1	SX02	赤土土器 甕	炊飯	明黄褐色 / 浅黄褐色	a	内外面ともにヨコナシ。	26.0	28.0	R285
第186図2	SX02	赤土土器 甕	炊飯	黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面ともにヨコナシ。	6.2	11.2	R286
第186図3	SX02	赤土土器 甕	炊飯	黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面共にハケ。	15.0	8.2	R284
第186図4	SX03	青磁 甕	焼飯	灰白 / 青-黄	砂礫少	回転ナシ。	7.0	2.0	R288
第186図5	SX09	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	a	内外面ともにハケ後ナシ。	23.8	4.0	R287
第186図6	SX09	赤土土器 高杯	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	24.0	1.6	第186図10と同一個体か。 R292
第186図7	SX12	赤土土器 甕	炊飯	赤 / 黒	砂礫少	内外面ともにハケ後ナシ。外面ミガキ。	27.8	7.3	外面付着。 R289 R290
第186図8	SX12	赤土土器 甕	炊飯	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	33.8	4.7	R355
第186図9	SX12	赤土土器 高杯	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	29.8	4.0	R356
第186図10	SX12	赤土土器 高杯	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	—	14.0	外面付着。第186図6と 同一個体か。 R291
第187図1	SK01	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面ともにヨコナシ。	32.0	6.1	1条突有。 R101
第187図2	SK02	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	12.6 (12.3)	14.5	R03
第187図3	SK02	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	a	内外面共に丁寧ナシ。	—	3.0	恐らく裏面片。 R105
第187図4	SK02	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	a	内外面共に丁寧ナシ。	—	5.0	突即に割目有。 R104
第187図5	SK02	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	30.0	3.5	外面付着。 R103
第187図6	SK02	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	a	内外面共に丁寧ナシ。	36.0	3.6	恐らく裏面片。 R102
第187図7	SK02	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。	15.4	13.1	底面に黒面有。 R02
第187図8	SK02	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	24.4 (10.5)	14.5	R04
第187図9	SK02	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ナシ。外面ミガキ。	11.6	5.0	底面黒面有。 R106
第187図10	SK02	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ナシ。外面ミガキ。	12.2	8.6	外面付着。 R01
第187図11	SK03	赤土土器 高杯	炊飯	赤褐色 / 赤褐色	a	内外面ナシ。外面ミガキ。	26.5	7.1	R107
第187図12	SK03	赤土土器 高杯	炊飯	明赤褐色 / 浅黄褐色	a	内外面ナシ。外面ミガキ。	15.0	11.8	外面付着。 R08
第187図13	SK03	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	a	内外面ともにハケ後ナシ。	34.0	5.4	外面付着。 R07
第187図14	SK03	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / 浅黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	16.0	6.0	外面付着。内面付着。 R06
第187図15	SK03	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / 明黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	7.8	3.7	R05
第187図16	SK06	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	b	内外面ともにハケ後ナシ。	36.0	3.4	口縁部割目有。 R12
第187図17	SK07	赤土土器 甕	炊飯	浅黄褐色 / 浅黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	28.2	18.4	R09
第187図18	SK08	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / 明褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。	27.6	9.4	R27
第187図19	SK08	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。	15.0	3.4	底面黒面有。 R13
第188図1	SK10	赤土土器 甕	炊飯	赤 / 黒	a	内外面共に丁寧ナシ。	12.8	4.2	外面付着。 R300
第188図2	SK10	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ナシ。外面ミガキ。	10.7	4.8	内面付着。 R15
第188図3	SK10	赤土土器 高杯	炊飯	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	20.0	3.1	R112
第188図4	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。	26.0	4.0	外面付着。 R17
第188図5	SK10	赤土土器 甕	炊飯	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	11.4 (11.0)	13.8	R20
第188図6	SK10	赤土土器 甕	炊飯	赤褐色 / 赤褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。	34.0	17.6	内外面付着。188図7と同一 個体か。 R25-1
第188図7	SK10	赤土土器 甕	炊飯	赤褐色 / 赤褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。	16.0	12.0	外面付着。188図6と同一 個体か。 R25-2
第188図8	SK10	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / 明赤褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	33.6	8.0	内外面付着。 R299
第188図9	SK10	赤土土器 甕	炊飯	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	11.2	15.4	R125
第188図10	SK10	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / 明赤褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	32.0 (5.2)	14.0	R29
第188図11	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	42.7 (7.7)	18.7	内面付着。 R11
第188図12	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。	31.0	11.5	R26
第188図13	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	55.8	22.5	R127
第189図1	SK10	赤土土器 甕	炊飯	明赤褐色 / 明赤褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	19.0 (10.2)	25.8	外面黒面有。 R121
第189図2	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	22.0	6.0	黒面有。 R118
第189図3	SK10	赤土土器 甕	炊飯	黒 / 黒	a	内外面ともにハケ後ナシ。	29.4	14.0	R23
第189図4	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	31.6	9.1	R122
第189図5	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	38.9	22.1	R120
第189図6	SK10	赤土土器 甕	炊飯	浅黄褐色 / 浅黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	37.6	21.4	R124
第189図7	SK10	赤土土器 甕	炊飯	浅黄褐色 / 浅黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	35.0	20.5	R123
第189図8	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	33.4	20.1	割目突有。外面付着。 R24
第190図1	SK10	赤土土器 甕	炊飯	にぶい黄褐色 / 明赤褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	19.0	19.0	外面黒面有。 R129

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑬

調査番号	出土 地点	器形	洗成	色調 (外面)	取土	底面・器形手法等	寸 法	備考(種類・残存等)	実測値 番 号
第190図2	SK10	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 明褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(5.7) 10.2	外面埋付前。	R19
第190図3	SK10	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(4.8) 23.2	外面埋付前。	R126
第190図4	SK10	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(4.2) 27.5	外面埋。内面付。付着。	R21
第190図5	SK16	赤土土器 高坪	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	—	外面にミガキ暗文有。	R136
第190図7	SK12	土師器 鉢	軟質	にぶい黄 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナシ。	10.1 4.4	底面埋有。底面は平底成化。	R133
第190図8	SK12	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 黒	a	内外面ともにナシ。	11.6 (3.6) 6.4	埋有。	R132
第190図9	SK12	土師器 高坪	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	b	内外面ともにハケ後ナシ。	(15.7) 5.3	4箇所穿孔有。	R134
第190図10	SK12	土師器 鉢	軟質	にぶい黄 / にぶい黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。	10.8 3.0	—	R131
第190図11	SK12	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナシ。	— 3.0	埋有。器形不明。	R707
第190図12	SK12	土師器 鉢	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(4.4) 2.2	底面埋有。	R135
第190図13	SK12	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。ハケ後ナシ。	16.0 6.6	外面埋付前。	R130
第190図14	SK12	土師器 鉢	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	b	外面タタキハケ。内面ハケ。	(6.2) 10.4	底面埋有。	R30
第190図15	SK17	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナシ。	11.4 (11.6) 14.0	埋有。	R31
第190図16	SK17	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(5.5) 18.8	底面埋有。	R60
第190図17	SK18	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	37.8 5.1	—	R137
第190図18	SK18	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	40.0 7.7	—	R138
第190図19	SK18	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(5.5) 10.0	外面埋付前。	R139
第191図1	SK22	土師器 鉢	軟質	橙 / 赤褐色	a	外面ナシ。内面ケズリ。	19.8 3.7	—	R32
第191図2	SK23	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。外面ミガキ。	(10.6) 20.8	口縁部黒色化(腐?)	R73
第191図3	SK27	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	16.0 6.5	外面埋付前。	R38
第191図4	SK27	赤土土器 甕	軟質	橙 / 赤褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	13.8 5.4	古式土師器?	R37
第191図5	SK27	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	19.8 9.0	埋有。	R35
第191図6	SK27	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / 暗赤褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	25.0 12.0	外面埋付前。	R36
第191図8	SK27	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(10.0) 6.0	外面埋付前。	R33
第191図9	SK27	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(6.2) 5.1	底面埋有。	R34
第191図10	SK31	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	10.7 11.7	やや粗い。つくり。	R140
第191図11	SK31	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。一部外面ミガキ。	10.6 5.3	—	R144
第191図12	SK31	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	8.8 4.5	赤褐色。口縁部。	R141
第191図13	SK31	赤土土器 甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。外面ミガキ。	42.0 3.7	外面に黄褐色文有。	R143
第191図14	SK32	土師器 鉢	軟質	明褐色 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナシ。	11.0 4.8	—	R146
第191図15	SK32	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	15.0 6.3	外面埋付前。	R147
第191図16	SK32	土師器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	19.1 6.6	有底高坪。	R148
第191図17	SK32	土師器 高坪	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	(14.4) 5.8	穿孔4箇所有。	R145
第191図18	SK40	赤土土器 高坪	軟質	明赤褐色 / 明赤褐色	a	内外面ともに丁寧ナシ。ミガキ。	22.0 5.8	内外面埋付。	R151
第191図19	SK52	赤土土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともに丁寧ナシ。ミガキ。	— 13.8	外面略定ミガキ有。	R152
第191図20	SK48	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄 / にぶい黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。	12.0 6.3	—	R150
第191図21	SK52	赤土土器 甕	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面ともにハケ後ナシ。	28.7 (5.0) 32.5	外面埋付前。埋有。	R189
第192図1	SK62	土師器 高坪付鉢	軟質	灰白 / 灰白	a	内外面共に丁寧ナシ。	10.0 (8.0) 6.8	底面埋付前。へら切り。	R153
第192図2	SK65	土師器 小鉢	軟質	橙 / 橙	a	内外面共に丁寧ナシ。	9.8 (7.8) 1.5	底面は赤褐色。	R155
第192図3	SK67	赤土土器 鉢	軟質	橙 / 橙	a	内外面共に丁寧ナシ。外面ミガキ。	14.0 (3.4) 7.1	—	R163
第192図4	SK67	土師器 鉢	軟質	にぶい黄 / 橙	a	内外面共に丁寧ナシ。ミガキ。	18.8 5.3	内面に黄褐色文ミガキ有。	R168
第192図5	SK67	赤土土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。外面ミガキ。	22.0 5.2	—	R204
第192図6	SK67	赤土土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。外面ミガキ。	25.0 (9.2) 14.5	—	R46
第192図7	SK67	赤土土器 鉢	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ後ナシ。	30.0 (11.0) 15.9	—	R57
第192図8	SK67	赤土土器 鉢	軟質	明赤褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。外面ミガキ。	32.6 (11.2) 19.0	—	R53
第192図9	SK67	赤土土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。外面ミガキ。	23.8 10.7	外面埋付。外面ミガキ暗文有。	R166
第192図10	SK67	赤土土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / 橙	a	内外面共にハケ後ナシ。	11.5 (11.0) 13.2	—	R64
第192図11	SK67	赤土土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共にハケ後ナシ。	11.7 (11.7) 14.5	—	R63
第192図12	SK67	赤土土器 鉢	軟質	にぶい黄褐色 / にぶい黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。外面ミガキ。	— 2.5	内外面埋付。	R256
第192図13	SK67	赤土土器 鉢	軟質	橙 / 橙	a	内外面共にハケ後ナシ。	(11.3) 11.0	—	R196
第192図14	SK67	赤土土器 鉢	軟質	黄褐色 / 黄褐色	a	内外面共に丁寧ナシ。外面ミガキ。	(11.1) 12.5	底面埋有。	R196
第192図15	SK67	赤土土器 鉢	軟質	明赤褐色 / 黄	a	内外面ともに丁寧ナシ。	(3.8) 6.0	—	R61

第1表 二反田遺跡出土土器観察表⑨

検出番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (内面)	胎土	成形・整面手法等	寸 法	備考 (経年・残存等)	実測図 番 号	
第192図16	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / 黄	■	内外面共に丁寧なナデ。ミガキ。	34.0 6.0		R205	
第192図17	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	34.0 5.7	跡の可能性有。	R44	
第192図18	SK67	弥生土器 甕	軟質	赤褐色 / 赤褐色	■	内外面共に丁寧なナデ。ミガキ。	28.0 6.1	内外面内底。口縁部刻目有。	R202	
第192図19	SK67	弥生土器 甕	軟質	赤褐色 / 赤褐色	■	内外面共に丁寧なナデ。ミガキ。	(5.2) 6.8	内外面内底。	R201	
第193図1	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / 浅黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	28.8 5.5	外面縦。内面27°付着。	R174	
第193図2	SK67	弥生土器 甕	軟質	にに近い黄緑 / 浅黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	(5.0) 24.0	内面に横筋有。	R172	
第193図3	SK67	弥生土器 甕	軟質	にに近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	(6.0) 21.8	外面縦筋有。	R55	
第193図4	SK67	弥生土器 甕	軟質	にに近い黄緑 / 黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	(6.0) 8.3	底面縦筋有。	R47	
第193図5	SK67	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	(5.0) 18.7	外面縦付着。	R161	
第193図6	SK67	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面共に丁寧なナデ。外面ミガキ。	36.0 10.5	縦筋有。	R155	
第193図7	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / 浅黄	■	内外面共に丁寧なナデ。	36.0 9.1		R65	
第193図8	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	39.8 27.2		R171	
第193図9	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / 黄	■	内外面共に丁寧なナデ。外面ミガキ。	(9.6) 14.3		R39	
第193図10	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / に近い黄緑	■	内外面共に丁寧なナデ。外面ミガキ。	(11.0) 14.4		R50	
第194図1	SK67	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	■	内外面共に丁寧なナデ。ミガキ。	15.8 5.6	胴面に突付有。	R167	
第194図2	SK67	弥生土器 甕	軟質	にに近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	20.0 10.3		R178	
第194図3	SK67	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	27.0 13.5	外面縦付着。	R58	
第194図4	SK67	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	30.2 12.3	R158・R159も同一個体の可能性大。	R59	
第194図5	SK67	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	26.5 15.9		R155	
第194図6	SK67	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面共に丁寧なナデ。外面ミガキ。	28.0 10.9		R163	
第194図7	SK67	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	35.8 17.5		R170	
第194図8	SK67	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	31.2 11.4		R157	
第194図9	SK67	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	32.6 18.3		R160	
第194図10	SK67	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	29.0 6.0		R177	
第194図11	SK67	弥生土器 甕	軟質	に近い黄 / 黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	29.4 19.0	外面縦付着。	R200	
第194図12	SK67	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	36.2 5.3		R51	
第195図1	SK67	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / に近い黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	25.6 (7.2)	4.1	R173	
第195図2	SK67	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / 黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	41.0 (8.7)	5.4	外面縦付着。	R66
第195図3	SK67	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	(12.0) 15.7		R54	
第195図4	SK67	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	(8.6) 16.3		R56	
第195図5	SK80	弥生土器 甕	軟質	灰黄褐色 / に近い黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	18.0 2.8	外面縦付着。	R68	
第195図6	SK78	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	18.0 3.6		R67	
第195図7	SK69	弥生土器 甕	軟質	赤褐色 / 暗灰黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	28.0 9.0		R180	
第195図8	SK68	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	38.0 4.3		R179	
第196図1	SK85	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	10.6 (10.5)	13.5	R75	
第196図2	SK85	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	10.8 (10.1)	13.3	R188	
第196図3	SK85	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / 浅黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。杯部にミガキ。	26.2 19.6		R76	
第196図4	SK85	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / に近い黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	30.6 (5.5)	11.5	跡の可能性有。	R74
第196図5	SK85	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	33.8 (5.2)	11.5	跡の可能性有。	R190
第196図6	SK85	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	(5.2) 12.1		外面縦方向の暗文状ミガキ有。	R72
第196図7	SK85	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。外面ミガキ。	(11.1) 10.1		R185	
第196図8	SK85	弥生土器 甕	軟質	に近い黄 / に近い黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	53.2 4.1		R70	
第196図9	SK85	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / に近い黄緑	■	内外面ともにハケ後ナデ。	31.6 17.2	外面縦付着。	R191	
第196図10	SK85	弥生土器 甕	軟質	浅黄 / 浅黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	29.7 11.0	外面縦付着。	R207	
第196図11	SK90	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともに丁寧なナデ。	8.0 4.5	手付ね肌。	R192	
第196図12	SK90	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / 黄	■	内外面ともに丁寧なナデ。	16.0 3.3		R194	
第196図13	SK90	弥生土器 甕	軟質	明黄褐色 / 明黄褐色	■	内外面ともに丁寧なナデ。	26.0 3.3		R193	
第196図14	SK91	弥生土器 甕	軟質	黄 / 明黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	31.5 (5.5)	13.2	R78	
第196図15	SK91	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / に近い黄緑	■	内外面ともに丁寧なナデ。	24.0 6.1		R87	
第196図16	SK91	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	10.5 (10.9)	13.0	R89	
第196図17	SK91	弥生土器 甕	軟質	黄 / 黄	■	内外面ともにハケ後ナデ。	10.4 (10.5)	13.9	R88	
第196図18	SK91	弥生土器 甕	軟質	に近い黄緑 / 明黄褐色	■	内外面ともにハケ後ナデ。	28.0 6.2		R79	

第1表 二反田遺跡出土土器観察表

調査番号	出土 地点	器形	作成 色調 (外色)	胎土	成形・整形手法等	寸 法	備考 (複製・残存等)	実測順 番 号
第197図1	SK91	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 緑	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	24.4 (10.5)	19.9 外面黒褐色。	R91
第197図2	SK91	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	31.0 (5.4)	20.0	R90
第197図3	SK91	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 緑	α	内外面ともに丁寧ナシ。	32.8 (9.4)	17.6	R212
第197図4	SK91	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	26.0	14.6 外面黒褐色。	R95
第197図5	SK91	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 緑	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	26.2	15.9	R211
第197図6	SK91	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 緑	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	30.0	26.0 外面黒褐色。	R94
第197図7	SK91	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 緑	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	(4.9)	24.2 外面黒褐色。赤土。	R208
第197図8	SK97	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	(5.3)	12.6	R195
第197図9	SK98	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	24.0	5.3	R214
第197図10	SK98	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	22.4	5.3 内外面丹塗。	R93
第197図11	SK98	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	—	9.2 外面丹塗。	R701
第198図1	SK98	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	18.4 (7.0)	8.5	R92
第198図2	SK98	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	30.0	6.5	R217
第198図3	SK98	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	32.0	15.6 外面黒褐色。	R213
第198図4	SK98	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	24.0	8.0	R215
第198図5	SK98	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	—	8.5 裏面の破片か。	R216
第198図6	SK103	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	22.0	4.3 内外面丹塗。	R702
第198図7	SK103	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	(16.8)	5.4 内外面丹塗。	R94
第198図8	SK103	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	(3.6)	3.8 外面丹塗。	R703
第198図9	SK103	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	26.0	6.4 外面黒褐色。	R96
第198図10	SK103	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	(3.6)	7.3	R95
第198図11	SK109	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	11.8	4.3	R218
第198図12	SK111	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	27.8	2.8 内外面丹塗。口縁部黒目。	R360
第198図13	SK111	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	23.2 (9.8)	23.7	R97
第198図14	SK112	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 明褐色	α	指押入ナシ。	6.6	8.5	R220
第198図15	SK112	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / にいり黄褐色	α	指押入ナシ。	5.0	5.8	R219
第198図16	SK112	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	(8.4)	11.8	R100
第198図17	SK113	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	30.6	18.1	R99
第198図18	SK113	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	(7.4)	3.5 内外面丹塗。	R98
第199図1	SK114	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / にいり黄褐色	α	指押入ナシ。	3.0	6.3 黒泥片。	R297
第199図2	SK114	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 明褐色	α	指押入ナシ。	6.7	7.1	R296
第199図3	SK114	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	12.1 (8.5)	12.3 黒泥片。	R221
第199図4	SK114	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	33.0	10.0	R302
第199図5	SK114	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	(10.6)	5.3 黒泥片黒目。	R223
第199図6	SK114	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / にいり黄褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	24.4	6.5 裏面ミガキ。	R301
第199図7	SK114	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 明褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	29.8	33.6 外面黒褐色。内面コゲ付。	R224
第199図8	SK114	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 明褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	48.0	7.2 裏面ミガキ。	R222
第199図9	SK115	弥生土器 鉢	軟質 にいり黄褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	(4.9)	19.4 外面黒褐色。	R231
第199図10	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	指押入ナシ。	9.8	4.1 平型土器。	R322
第199図11	SK115	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 明褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	13.6 (8.5)	11.3 黒泥片黒目。	R317
第199図12	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	17.2 (6.5)	9.0	R320
第199図13	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	(9.8)	15.2	R230
第199図14	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	23.1 (13.0)	20.1	R313
第199図15	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	18.1 (10.7)	16.4	R304
第199図16	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	(10.7)	9.3	R324
第199図17	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	21.9 (12.3)	18.5	R226
第200図1	SK115	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 明褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	11.3 (1.1)	13.8	R305
第200図2	SK115	弥生土器 鉢	軟質 明褐色 / 明褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	11.1 (1.1)	13.3	R402
第200図3	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。	8.0 (9.0)	10.9	R310
第200図4	SK115	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	29.4	15.3 外面ミガキ黒目黒目。	R303
第200図5	SK115	弥生土器 鉢	軟質 赤褐色 / 赤褐色	α	内外面ともに丁寧ナシ。内外面ミガキ。	—	7.7 内外ともに丹塗。外面に明土痕ミガキ。	R361
第200図6	SK115	弥生土器 鉢	軟質 褐色 / 褐色	α	内外面ともにハケ痕ナシ。	33.0 (5.0)	33.6 下半部黒目。洗滌片。	R345

第1表 二反田遺跡出土土器観察表①

発掘番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外側)	胎土	成形・装飾手法等	寸 法		備考 (材質・保存等)	実測図 番 号
第200図7	SK16	赤生土器 壺	軟質	卑奈陶 / 明赤陶	a	内外面ともにハケ残ナシ。外面ミガキ。	(8.4)	35.4		R126
第200図8	SK16	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	22.4	20.2	外面に暗文ミガキ有。	R128
第200図9	SK16	赤生土器 壺	軟質	椀 / にんい・黄	a	内外面ともに丁寧ナシ。	(3.7)	7.8	黒陶有。	R132
第200図10	SK16	赤生土器 壺	軟質	浅黄 / 明赤陶	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	21.7 (10.0)	16.0	外面、内面に黒付着。	R131
第200図11	SK16	赤生土器 壺	軟質	浅黄 / 明赤陶	a	内外面ともに丁寧ナシ。	30.0	17.3		R134
第200図12	SK16	赤生土器 壺	軟質	黄緑 / 明赤陶	a	内外面ともに丁寧ナシ。外面ミガキ。	11.3	16.0		R138
第201図1	SK16	赤生土器 壺	軟質	卑奈陶 / 明赤陶	a	内外面ともにハケ残ナシ。	26.4	12.0		R220
第201図2	SK16	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄緑 / 浅黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。	31.0 (15.0)	14.5		R238
第201図3	SK16	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄緑 / にんい・黄緑	a	内外面ともにハケ残ナシ。	31.8 (5.0)	38.3	内面コゲ付着。	R227
第201図4	SK16	赤生土器 壺	軟質	明赤陶 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。	32.0	7.9	変部1条有。	R136
第201図5	SK16	赤生土器 壺	軟質	浅黄 / 浅黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。外面ミガキ。	(10.0)	9.8	底部黒陶有。	R233
第201図6	SK16	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともに丁寧ナシ。	(12.4)	8.5	底部黒陶有。	R139
第201図7	SK16	赤生土器 壺	軟質	椀 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(4.6)	14.5	外面輪跡により赤化。	R234
第201図8	SK16	赤生土器 壺	軟質	浅黄 / 浅黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(5.1)	18.0	外面輪跡により赤化。	R237
第201図9	SK17	土師器 土師器	軟質	にんい・黄緑 / にんい・黄緑	a	内外面ともにハケ残ナシ。	14.2	10.0		R327
第201図10	SK17	土師器 土師器	軟質	にんい・黄緑 / 明赤陶	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(8.8)	4.2		R706
第201図11	SK18	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともに丁寧ナシ。	26.0	4.2		R241
第201図12	SK18	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともに丁寧ナシ。	28.0	3.8		R240
第201図13	SK18	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともに丁寧ナシ。	32.0	10.0	外面やや平直。	R230
第201図14	SK19	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄緑 / にんい・黄緑	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(5.0)	10.4	外面黒付着。	R328
第201図15	SK19	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄緑 / にんい・黄緑	a	内外面ともにハケ残ナシ。	3.1	5.3		R329
第202図1	SK120	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄緑 / 浅黄	a	内外面ともに丁寧ナシ。	14.0	3.4		R330
第202図2	SK122	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄緑 / にんい・黄緑	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(10.0 (4.1)	6.0	底部黒陶有。	R442
第202図3	SK123	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄緑 / 浅黄	a	内外面ともに丁寧ナシ。	34.0	4.3	変部1条有。	R407
第202図4	SK123	赤生土器 壺	軟質	卑奈陶 / 明赤陶	a	内外面ともにハケ残ナシ。	20.0	5.3		R408
第202図5	SK123	赤生土器 壺	軟質	卑奈陶 / 明赤陶	a	内外面ともに丁寧ナシ。	(8.0)	9.5		R406
第202図6	SK125	赤生土器 壺	軟質	明赤陶 / 明赤陶	a	内外面ともに丁寧ナシ。	—	4.3	口縁部割目有。	R337
第202図7	SK125	赤生土器 壺	軟質	浅黄 / にんい・黄	a	内外面ともに丁寧ナシ。	(3.8)	6.2	外面黒付着。黒陶有。	R336
第202図8	SK124	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	11.7 (1.0)	14.3		R244
第202図9	SK124	赤生土器 壺	軟質	卑奈陶 / 明赤陶	a	内外面ともにハケ残ナシ。	11.4 (1.2)	14.2		R332
第202図10	SK124	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄 / 浅黄	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。	27.0	9.0	外面黒付着。	R335
第202図11	SK124	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。	26.0	12.1	変部1条有。	R250
第202図12	SK124	赤生土器 壺	軟質	明赤陶 / 目録目	a	内外面ともにハケ残ナシ。	30.0	9.5		R333
第202図13	SK124	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。	32.0	13.7		R247
第202図14	SK124	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	28.0	16.6	外面黒付着。	R248
第202図15	SK124	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	30.0	11.3	外面黒付着。	R251
第202図16	SK124	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(12.8)	14.5		R245
第202図17	SK124	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともに丁寧ナシ。	24.0	7.0		R246
第202図18	SK124	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。内外面ミガキ。	23.9 (15.0)	22.8		R242
第203図1	SK128	赤生土器 壺	軟質	明赤陶 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(10.0)	5.5		R256
第203図2	SK128	赤生土器 壺	軟質	椀 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。	39.8	11.7	底部黒陶有。	R255
第203図3	SK131	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	11.4 (1.0)	14.8		R261
第203図4	SK131	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。内外面ミガキ。	25.0	8.1		R259
第203図5	SK131	赤生土器 壺	軟質	浅黄 / 椀	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。	(2.9)	4.7	底部黒陶有。	R258
第203図6	SK131	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(5.5)	6.0		R260
第203図7	SK132	土師器 土師器	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	(9.2)	3.0	黒陶有。	R338
第203図8	SK132	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。	(7.2)	2.3	外面黒付着。	R339
第203図9	SK133	赤生土器 壺	軟質	明赤陶 / 明赤陶	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。外面ミガキ。	(2.6)	16.6	外面に粘土帯あり。外面黒付着。	R269
第203図10	SK133	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。外面ミガキ。	(10.0)	9.2		R267
第203図11	SK133	赤生土器 壺	軟質	椀 / 椀	a	内外面ともにハケ残ナシ。	12.1 (1.7)	14.4		R268
第203図12	SK133	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。	18.0	5.8		R264
第203図13	SK133	赤生土器 壺	軟質	にんい・黄 / にんい・黄	a	内外面ともにハケ残丁寧ナシ。	30.0	5.9		R265

第1表 二反田遺跡出土土器観察表②

発掘番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外底)	胎土	成形・整形手法等	寸法	量考(種類・現存等)	実測 番号
第203回14	SK133	甕生土器 甕	軟質	橙 / 灰黄褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。外面ミガキ。	12.8 3.3		R265
第203回15	SK133	甕生土器 甕	軟質	にぶい黄褐 / 黄灰	a	内外面ともにハケ後ナデ。	14.0 15.4	内面コゲ、外面附付。底面ミガキ。	R240
第203回16	SK134	甕生土器 鉢	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	26.5 6.5	口縁部に暗文状ミガキ有。	R341
第203回17	SK134	甕生土器 鉢	軟質	赤 / 赤	a	内外面ともにハケ後ナデ。内面ミガキ。	20.9 (1.8)	内外面ともに丹塗。	R345
第203回18	SK134	甕生土器 甕	軟質	赤 / 赤	a	内外面ともにハケ後ナデ。外面ミガキ。	38.6 11.9	内外面ともに丹塗。	R343
第203回19	SK134	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / 明赤褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。内外面ミガキ。	— 11.3	内外面ともに丹塗。外面暗 文状ミガキ有。	R349
第204回1	SK134	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / 黄灰	a	内外面ともにハケ後ナデ。	17.0 3.4		R270
第204回2	SK134	甕生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	15.3 3.9		R272
第204回3	SK134	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / 明赤褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。	27.8 7.6	内外面ともに丹塗。口縁部 部目有。糸口と同一部目。	R344
第204回4	SK134	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	— 11.4	R344と同一部目。	R705
第204回5	SK134	甕生土器 鉢	軟質	黄灰 / 黄灰	a	内外面ともにハケ後ナデ。	19.0 6.4		R276
第204回6	SK134	甕生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	17.0 10.0		R342
第204回7	SK134	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / 明赤褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。	12.0 7.8		R417
第204回8	SK134	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / 明赤褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。	24.0 8.7		R414
第204回9	SK134	甕生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	28.0 7.1		R415
第204回10	SK134	甕生土器 甕	軟質	橙 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	28.0 14.0		R413
第204回11	SK134	甕生土器 甕	軟質	にぶい橙 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	38.0 4.1	外面に突目1条有。	R411
第204回12	SK134	甕生土器 甕	軟質	黄灰 / 黄灰	a	内外面ともにハケ後ナデ。	17.0 4.5	底面肌有。	R274
第204回13	SK134	甕生土器 甕	軟質	にぶい黄褐 / にぶい黄褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。外面ミガキ。外 面ミガキ。	12.4 5.9	底面肌有。	R273
第204回14	SK134	甕生土器 甕	軟質	にぶい黄褐 / 黄灰	a	内外面ともにハケ後ナデ。	18.0 6.5		R275
第204回15	SK134	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / にぶい黄褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。	15.0 14.0	外面に突目1条有。	R347
第204回16	SK134	甕生土器 甕	軟質	にぶい黄褐 / 橙	a	内外面ともにハケ後ナデ。	32.6 13.3	黄灰の破片か。	R418
第205回1	SK137	甕生土器 甕	軟質	にぶい黄褐 / にぶい黄褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。	— 32.6	黄灰の破片か。	R419-1
第205回2	SK137	甕生土器 甕	軟質	にぶい黄褐 / にぶい黄褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。	10.9 6.6	黄灰の破片か。	R419-2
第205回3	SK140	甕生土器 甕	軟質	明赤褐 / 明赤褐	a	内外面ともにハケ後ナデ。	32.0 2.7	内外共に丹塗有。	R350

※ 胎土欄の記号は、含まれる砂礫の一部に着目したものであり、下記の通りである。

a: 片岩 + 石英 (矢部川流域に特徴的な胎土) b: 角閃石 + 石英多数 (片岩が確認できないもの)

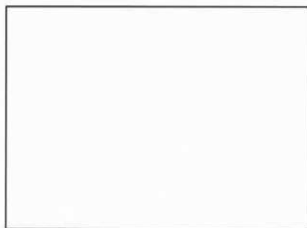
第2表 二反田遺跡出土石器観察表

図番	出土 地点	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	残存度	石材	備 考	実測図 番 号
第10図6	S802	石包丁	5.7	8.0	0.75	約 1/2	片岩	両刃	R503
第10図7	S802	石斧	1.6	6.5	1.6	刃部欠く	粘板岩		R551
第10図8	S802	砥石	28.4	16.1	7.6	約 1/2 ?	砂岩		R574
第15図1	S806	砥石	6.4	4.6	3.1	小片	石英長石混岩	磨滅著しい。	R561
第15図2	S806	砥石	2.3	4. 8	2.3	小片	石英長石混岩	磨滅著しい。	R562
第16図1	S807	砥石	14.3	6.1	4.5	約 1/4 ?	石英長石混岩	磨滅著しい。	R550
第16図2	S807	砥石	16.2	7.4	3.0	約 1/2 ?	石英長石混岩	磨滅著しい。	R549
第20図1	S808	砥石	12.8	6.0	6.3	小片	石英長石混岩		R533
第28図1	SB11	石皿	14.0	18.2	6.2	ほぼ完形	砂岩	明確な使用面無	R522
第31図1	SB13	磨石	6.3	7.0	3.0	約 1/2	安山岩	表面研磨痕有	R567
第37図1	SB18	砥石?	7.8	8.2	2.1	小片	石英長石混岩	明確な使用面無	R563
第37図2	SB18	砥石	27.5	17.2	5.6	破片	石英長石混岩	二面使用痕有	R575
第42図1	SB25	石匙	2.8	5.5	0.9	完形	安山岩	磨滅	R558
第46図1	SB29	砥石	17.4	12.8	3.7	破片	砂岩	一面のみ使用	R524
第50図1	SB31	砥石	2.4	10.6	2.4	破片	粘板岩	石皿の転用か	R525
第55図1	SB33	砥石	13.7	6.8	4.3	破片	砂岩	一面のみ使用痕有	R555
第55図3	SB33	砥石	13.6	6.8	4.0	破片	石英長石混岩	小片	R555
第56図14	SB39	石斧	9.1	6.2	3.0	破片	片岩?	太型船刀石斧	R559
第58図10	SB40	磨石	9.1	7.8	4.5	小片	安山岩	一面のみ研磨痕有	R516
第58図11	SB40	石皿	9.7	4.1	4.3	小片	安山岩	全形は不明	R517
第58図12	SB40	磨石	5.3	6.5	3.0	小片	石英長石混岩?	使用面は表裏二面	R518
第70図9	SB41	砥石	13.7	7.3	5.6	小片	石英長石混岩	四直とも使用痕有	R523
第77図4	SB44	紡錘石?	1.5	2.9	10.5	完形	片岩		R512
第77図5	SB44	磨石	6.4	6.4	0.6	完形	片岩	未製品か。	R511
第77図6	SB44	石皿	4.2	13.0	4.2	破片	片岩?	表裏両面を使用	R528
第84図12	SB48	石皿	2.0	1.8	0.2	完形	黒曜石		R506
第84図13	SB48	石包丁	3.9	5.6	0.6	約 1/2	粘板岩		R505
第96図7	S855	石包丁	5.9	7.7	0.6	約 1/2	片岩	片刃	R507
第103図4	S859	小玉	0.45	0.5	0.35	完形	ガラス	青色	R351
第110図2	S863	砥石	6.7	6.0	6.7	小片	石英長石混岩	表裏二面を使用	R554
第117図1	S870	石包丁	4.5	9.0	0.65	ほぼ完形	片岩	両刃	R504
第119図5	S871	砥石	16.1	7.1	4.3	破片	砂岩	二直使用痕有	R556
第121図2	S873	石包丁	5.7	8.0	0.8	約 1/2	片岩	刃は両刃	R553
第121図3	S873	石皿片	13.4	8.7	5.5	破片	石英長石混岩		R571
第121図4	S873	石皿	21.3	10.5	6.8	破片	石英長石混岩	二直使用痕有	R573
第121図5	S873		25.8	8.7	5.9	破片	石英長石混岩	両側面に磨石痕有	R572
第123図1	S874	石包丁	6.4	3.7	0.65	約 1/3	片岩		R508
第123図2	S874	砥石	24.1	5.1	3.6	破片	粘板岩	四直とも研磨痕有	R513
第125図21	S875	砥石	23.3	11.6	6.3	破片	石英長石混岩	全直使用	R569
第130図1	S876	石材として何用?	8.5	10.8	8.5	一部欠	石英長石混岩	四直とも研磨痕有	R538
第130図2	S876	砥石	19.1	6.3	5.8	破片	砂岩		R566
第132図14	S878	石皿	13.0	9.1	5.2	破片	石英長石混岩	使用面は一面	R513
第132図15	S877	砥石?	14.7	4.2	3.7	完形	安山岩		R529
第132図18	S879	内磨	3.8	2.7	1.9	完形	砂岩	投擲?	R546
第132図19	S879	内磨	3.8	3.5	2.0	完形	砂岩	投擲?	R545
第132図20	S879	内磨	5.0	2.4	2.2	完形	砂岩	投擲?	R539
第132図21	S879	内磨	4.5	3.5	2.7	完形	砂岩	投擲?	R541
第132図22	S879	内磨	4.7	3.3	2.6	完形	砂岩	投擲?	R543
第132図23	S879	内磨	3.5	3.3	3.2	完形	砂岩	投擲?	R548
第132図24	S879	内磨	4.0	3.6	2.7	完形	砂岩	投擲?	R547
第132図25	S879	内磨	3.6	3.5	2.7	完形	砂岩	投擲?	R544
第132図26	S879	内磨	4.3	3.1	2.3	完形	砂岩	投擲?	R540
第132図27	S879	内磨	4.2	3.5	2.2	完形	砂岩	投擲?	R542
第139図9	S884	砥石	16.3	10.5	4.3	破片	砂岩		R557
第144図9	S886	石包丁	13.0	4.4	0.7	一部欠	粘板岩	両刃	R501
第144図10	S886	石包丁	14.3	5.0	0.7	完形	片岩	両刃	R510
第144図11	S886	石包丁	5.7	10.0	0.8	約 1/2	粘板岩	両刃	R502
第144図12	S886	石斧	7.8	3.7	1.35	完形	粘板岩	小型	R530
第147図3	S889	石匙	5.2	8.0	1.3	一部欠	安山岩		R509
第149図12	S892		13.8	8.6	6.4	破片	石英長石混岩	使用痕はない	R527
第149図13	S892	砥石	14.6	12.5	3.8	破片	砂岩	石皿の砥石転用? 三面に使用痕有	R526
第149図14	S892	砥石	32.8	16.8	10.1	完形	砂岩		R568
第156図17	S895	砥石	9.1	7.4	2.7	破片	砂岩	使用面は一面	R514
第159図21	S897	石包丁	10.7	5.3	0.7	完形	片岩	刃部擦過痕著	R532
第164図11	SB100	砥石	7.6	5.5	1.1	破片	石英長石混岩	線刻状研磨痕有	R515
第168図9	SB103	砥石	11.6	8.5	8.8	破片	石英長石混岩		R560
第186図11	SK12	石包丁	4.4	3.2	0.6	破片	片岩	両刃	R521
第190図5	SK14	磨製石器	4.4	4.8	3.2	破片	安山岩	破片の為不明	R520
第191図7	SK27	砥石	14.0	4.4	4.0	完形	砂岩	砥打痕有	R536

図版 P L A T E S

〈凡例〉

遺物写真のキャプションは、以下の通りである。



遺構名

図番号



(1) 二反田遺跡調査前風景



(2) 調査区 中央部 西より



(3) SB01 南より



(4) SB02・03 北より



(5) SB04 西より



(6) SB05・06・07 東より



(7) SB09 北より



(8) SB10 北より

図版 2



(1) SB11 北より



(2) SB12・13 東より



(3) SB14 西より



(4) SB18 北より



(5) SB20 西より



(6) SB21 西より



(7) SB24 西より



(8) SB25・26 南西より



(1) SB28・29 東より



(2) SB31 北より



(3) SB32 西より



(4) SB33 北より



(5) SB34・54 北より



(6) SB36 東より



(7) SB39 付近 南より



(8) SB40・41・SD06 北より

図版 4



(1) SB42・43・SX06 北より



(2) SB44 北より



(3) SB45 北より



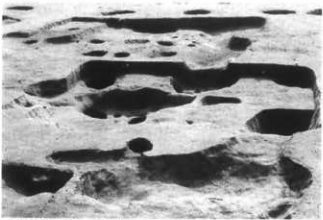
(4) SB46 北より



(5) SB47 北より



(6) SB49 東より



(7) SB50 北より



(8) SB52 南より



(1) SB53 東より



(2) SB55・56 東より



(3) SB57 付近 西より



(4) SB58 東より



(5) SB59 西より



(6) SB60 東より



(7) SB61 東より



(8) SB63 北より

図版 6



(1) SB65 南より



(2) SB70・69 南より



(3) SB74・75 南より



(4) SB76 南より



(5) SB78・SX12 西より



(6) SB78 北より



(7) SB79 北より



(8) SB81 西より



(1) SB83 南より



(2) SB84 東より



(3) SB86 附近 北より



(4) SB87・88 南より



(5) SB90 東より



(6) SB91 北より



(7) SB92・93 東より



(8) SB95 北より

図版 8



(1) SB99・101 東より



(2) SB100 西より



(3) SB102・103 北より



(4) SB105 東より



(5) SK02・10 北より



(6) SK67 北東より



(7) SK116 北より



(8) SX02・SB27 北より



(1) K3 西上方より



(2) K5・6 東より



(3) K8 北より



(4) 作業風景



(5) SB01

第6図2・3



(6) SB02

第8図9



(7) SB03

第11図3・4



(8) SB03

第11図7

図版 10



(1) SB03

第 11 図 9



(2) SB03

第 11 図 9 部分



(3) SB04

第 13 図 1



(4) SB04

第 13 図 3



(5) SB11

第 26 図 10



(6) SB11

第 26 図 11・17



(7) SB11

第 27 図 7



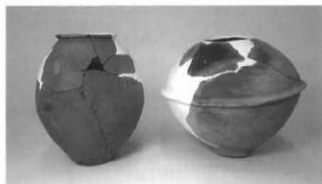
(8) SB13

第 33 図 16・18



(1) SB13

第 33 図 2・5



(2) SB26

第 44 図 3・10



(3) SB26

第 44 図 1・4・5



(4) SB43

第 73 図 1・3・4



(5) SB43

第 73 図 5・6



(6) SB43

第 74 図 1



(7) SB43

第 73 図 5・6



(8) SB52

第 90 図 7

図版 12



(1) SB54

第 94 図 1・4



(2) SB54

第 94 図 6



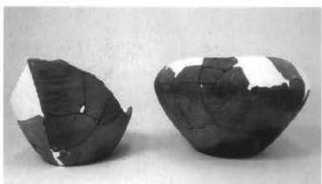
(3) SB74

第 124 図 7・8



(4) SB74

第 124 図 5・10・11



(5) SB75

第 126 図 7・8



(6) SB75

第 127 図 2



(7) SB75

第 127 図 4



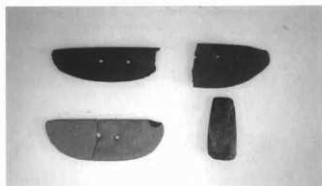
(8) SB76

第 130 図 1・2



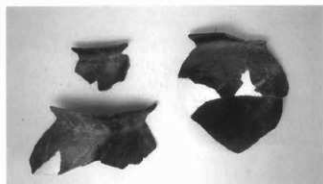
(1) SB86

第 144 図 1・3



(2) SB86

第 144 図 9~12



(3) SB102

第 167 図 11・14・15



(4) SB102

第 167 図 13



(5) 13-5 SB102

第 168 図 5



(6) SB103

第 168 図 11・12



(7) 13-7 SB103

第 168 図 10



(8) SB103

第 168 図 7・8

図版 14



(1) SB103

第168図18



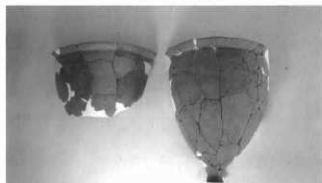
(2) K-1

第179図1



(3) K-1

第179図2



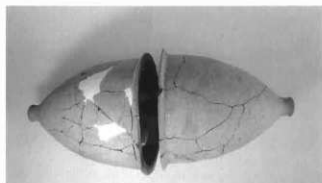
(4) K-2

第179図3・4



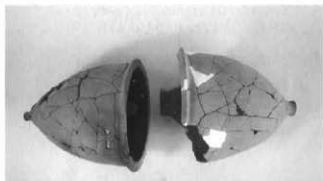
(6) K-4

第180図1



(6) K-5

第180図2・3



(7) K-6

第180図4・5



(8) SB79

第132図18~27

報告書抄録

ふりがな	やめしなないせきぐん 9							
書名	八女市内遺跡群 9							
副書名	福岡県八女市酒井田所在 二反田遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第113集							
編著者名	檀 佳克 (だん よしかつ)							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	〒834-8585 福岡県八女市本町6 4 7 TEL. 0943-23-1982 FAX. 0943-24-4331							
発行年月日	西暦 2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
にんじんせいせき 二反田遺跡 (酒井田遺跡群)	ふくおきたんせき 福岡県八女市 酒井田字 二反田	402109	406005 -18	33°11'46"	130°33'10"	1990.08.17 ～ 1990.12.28	約6,000㎡	園場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
二反田遺跡	集落跡	弥生時代・ 古墳時代 奈良・平安時代 鎌倉時代		竪穴建物跡・ 掘立柱建物跡 溝跡・土坑 等		縄文式土器・ 弥生式土器・ 土師器・須恵器・石器 鉄器 等		多重深遺構
八女南部地区園場整備事業に伴い発掘調査された遺跡のうち、二反田遺跡に関する報告である。 二反田遺跡発掘調査では、弥生時代中期を中心とした竪穴建物・掘立柱建物跡が発見され、弥生時代中期の集落跡が確認された。また、甕棺墓も確実なもので小児甕棺8基が確認されたが、出土土器にも甕棺の破片と思われるものがあり、土坑の中にも甕棺墓の可能性がありそうなものが存在することから、甕棺墓群が形成されていた状況が推察される。 その他、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構や古代・中世の遺構・遺物も確認されており、周辺の京田・深田遺跡等も合わせると、二反田遺跡周辺では弥生時代中期から古墳時代前期にかけて、および古代の集落跡が確認される状況が明らかとなってきた。 出土遺物で注目されるのは、南筑後地域ではまだ出土例の少ない、いわゆる「山陰系龜形土器」と思われる土器の把手が確認された。また、青銅器鋳型の材料である可能性もある石英長石斑岩製の砥石ないし石材の出土も確認された。 二反田遺跡は、南筑後の宮ノ前遺跡とともに集落域・墓域を構成する、一連の遺跡であると思われるため、考察の際には宮ノ前遺跡(平成29年度刊行予定)と併せた検討が必要と思われる。								

要 約

八女市内遺跡群9
八女市文化財調査報告書
第113集

平成28年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (株) 東 兄 弟
八女市祈禱院563